ISSN 2435-3469

星槎道都大学研究紀要

The Bulletin of Seisa Dohto University

創刊号

2020年3月

星槎道都大学
Seisa Dohto University Hokkaido,Japan

星槎道都大学研究紀要

創 刊 号

星 槎 道 都 大 学

2020 年 3 月

目　　次

〈経営学部〉

宮澤賢治と日蓮聖人…… 遠　藤　　均… 1
宮澤賢治と妹・トシ…… 遠　藤　　均… 11
秋葉原通り魔事件の真相②…… 遠　藤　　均… 27
高校生の陸上競技長距離種目における指導について …… 石　井　祐　治… 53
野球のバッティング動作の違い
　～「インサイドアウト」によるスイングと「落とし」によるスイングに着目して～ …… 篠　原　諒　介… 59
球速に対する鍼刺激の影響…… 篠　原　諒　介… 67

〈社会福祉学部〉

オーストリアの介護手当…… 小早川　俊　哉… 75
アクティブ・ラーニングの評価に係る実践的研究…… 西　崎　　毅… 81
地域における予防・発見・発信機能のシステム構築への一考察
　―児童虐待防止活動の実践より― …… 上　原　正　希… 91
実習前評価システムに関する一つの考察Ⅳ…… 杉　本　大　輔… 97
地域福祉活動の担い手を養成するためのプログラムに関する一考察…… 大　島　康　雄… 105
保育実習日誌の書き方に関する考察 …… 吉　江　幸　子… 109
HSP（Highly Sensitive Person）は解離しやすいか？―学生の調査から― …… 佐々木　智　城… 115

〈美術学部〉

作品…… 西　田　陽　二… 121
作品…… 西　田　陽　二… 123
作品…… 松　岡　龍　介… 125
作品…… 松　岡　龍　介… 127
作品…… 松　岡　龍　介… 129
作品…… 北　嶋　洋　一… 131
作品…… 北　嶋　洋　一… 133
作品…… 北　嶋　洋　一… 135
作品…… 梅　田　　力… 137
作品…… 梅　田　　力… 139
作品…… 梅　田　　力… 141
作品…… 梅　田　　力… 143
作品…… 三　上　いずみ… 145
作品…… 三　上　いずみ… 147
図学における正六面体を切断する課題について（3） …… 松　岡　龍　介… 149
形態の変形に関する研究　その 8）変形する四角形のパターンから作る六面体について…… 松　岡　龍　介… 155
地域活動における学生の自己評価と課題―アートプロジェクトを事例として―…… 宮　嶋　達　也… 165
「映像制作に於ける演出」先人たちの作品をテキストとして学ぶこと…… 北　嶋　洋　一… 183
芸術実践者のための研究方法論Ⅰ―E・W・サイード，オリエンタリズム（ポストコロニアル理論）―
　…… 梅　田　　力… 217
火山礫軽量コンクリートの直接二面せん断強度に関する基礎的研究…… 長　森　　正… 225
建築家：Josep Maria Jujol y Gibert（1879–1949）に関する建築調査研究（11）
　―ジュジョール・ブルー（紺青）建築の表現考察：スペイン・カタロニアの一建築潮流―
　…… 木　下　泰　男… 235

Contents

〈Faculty of Management〉
Miyazawa Kenji and Nichiren Shōnin (The Sage Nichiren) …… ENDOH Hitoshi… 1
Miyazawa Kenji and His Sister Toshi …… ENDOH Hitoshi… 11
The Akihabara massacre ② …… ENDOH Hitoshi… 27
Guidance of High School Students in Long Distance Events in Athletics …… ISHII Yuji… 53
Difference in baseball batting behavior
— Focusing on swings due to "inside out" and swings due to "drop"— …… SHINOHARA Ryousuke… 59
Effect of acupuncture stimulation on ball speed …… SHINOHARA Ryousuke… 67

〈Faculty of Social Welfare〉
Pflegegeld in Österreich …… KOBAYAKAWA Toshiya… 75
A Practical Research on the Effective Way of Assessing Generic Abilities of the Students
in Active-Learning …… NISHIZAKI Takeshi… 81
A case study for the establishment of a system to prevent, discover, and reveal
— from the implementation of children abuse prevention activities …… UEHARA Masaki… 91
One Study Considered with Estimnational System foy Social Work Practice (Part IV)
…… SUGIMOTO Daisuke… 97
One consideration about the program to train a leading figure of the community-based welfare activit
…… OSHIMA Yasuo… 105
A Consideration about how to write childcare training diary …… YOSHIE Sachiko… 109
Is HSP (Highly Sensitive Person) easy to dissociate? — From student survey — …… SASAKI Tomoshiro… 115

〈Faculty of Fine Arts〉
A Work of Art …… NISHIDA Youji… 121
A Work of Art …… NISHIDA Youji… 123
A Work of Art …… MATSUOKA Ryusuke… 125
A Work of Art …… MATSUOKA Ryusuke… 127
A Work of Art …… MATSUOKA Ryusuke… 129
A Work of Art …… KITAJIMA Youichi… 131
A Work of Art …… KITAJIMA Youichi… 133
A Work of Art …… KITAJIMA Youichi… 135
A Work of Art …… UMEDA Isao… 137
A Work of Art …… UMEDA Isao… 139
A Work of Art …… UMEDA Isao… 141
A Work of Art …… UMEDA Isao… 143
A Work of Art …… MIKAMI Izumi… 145
A Work of Art …… MIKAMI Izumi… 147
On the Subject of Cutting a Regular Hexahedron in the Class of Descriptive Geometry (3)
…… MATSUOKA Ryusuke… 149
A Study on transformation in Plastic Art
— Part 8: A consideration on the hexahedrons which are made of transforming quadrangles patterns —
…… MATSUOKA Ryusuke… 155
The self-evaluation and problems for Students through Community Activities
— Case Study on the Art Project — …… MIYAJIMA Tatsuya… 165
"Direction techniques in films" Learn from pioneers' work …… KITAJIMA Youichi… 183
Methodology study for art practitioner 1 — Orientalism by E. W. Said (Postcolonialism) —
…… UMEDA Isao… 217
Fundamental Study on Direct Double Shear Strength of Laplli Lightweight Concrete
…… NAGAMORI Tadashi… 225
A Research of an Architecture Survey about Architect; Josep Maria Jujol y Gibert/1879–1949, Catalonia (11)
— Consideration about expressions of "Jujol blue (ultramarine) architecture":
The architectural trend of Catalonia, Spain —…… KINOSHITA Yasuo… 235

経 営 学 部

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Management
No.1, 1－10, 2020

宮澤賢治と日蓮聖人

遠　藤　　均

【序文】

2021年2月16日は，日蓮聖人が降誕してから，ちょうど800年にあたる記念日である。

日蓮宗の九州教区では，これを慶讃する100年に一度の大会が，2018年11月28日㈬，福岡サンパレスホールで盛大に開催された。来場した2300名は，九州地区はもとより，国内外からの来賓や檀家等である。

第一部は，主として，粛々と法要がとりおこなわれた。

第二部では，朗読パフォーマンスの第一人者のひとり，女優の紺野美沙子さんが，ピアニスト・中村由利子さんの伴奏をともない，『宮澤賢治と日蓮聖人』の朗読などをおこない，大成功を収める。

このとき私は，朗読の原作者として，前日のリハーサルに立ち会い，当日の本番にも臨席させていただいた。

翌年の2019年4月26日㈮には，福岡県にある日蓮聖人銅像護持教会（**身延山福岡別院**）にて，僭越ながら，今回は私が，世界的なチェリスト・吉川よしひろさんの伴奏とともに，朗読させていただく。そして，400人の聴衆から，身に余る万雷の拍手をいただくことができた。

本稿では，そのときの朗読原稿を大幅に書き改め，詳しい註を書き加えている。

私の母方の祖父と叔父は曹洞宗の住職であった。

が，私自身は，特定の宗教には属さず，仏教であれ，キリスト教であれ，あらゆる宗教を「哲学」という視座から研究対象としている。

とりわけ仏教は，宗派を問わず，長年，学びつづけてきた。あわせて，仏教を童話で表現しようとした宮澤賢治についても，研究を重ねている。

ところで，その朗読原稿を執筆することになった経緯は，主に二つあった。

一つには，私がパーソナリティーを務めるFMメイプルの番組『風の風景』（**79.9 MHz，毎週土曜日 12～14 時，2014年～現在**）や『道新文化センター』で，折に触れ，宮澤賢治や仏教について語ってきたこと。

もう一つは，チェリスト・吉川よしひろさんとのご縁である。

吉川さんは，北海道ツアーのさい，毎年，『風の風景』に出演してくれ，たびたび宮澤賢治について熱く語りあってきた。

彼は，本学とも縁があり，大講堂で，2014年7月20日㈰，法人設立50周年記念行事として，すばらしいチェロを奏でてくれている。

また，私のゼミにおいても，講演会＆チェロ演奏会を開催してくださったことは，感謝に堪えない。

【本文】

みなさん，日蓮聖人が降誕されて八百年にあたる聖日は，いつかご存知ですか。

2021年2月16日です。

ここでは，その100年前の，日蓮聖人降誕七百年のちょうどその日に，時計の針を戻してみましょう。

当時，岩手県の新聞社，『岩手日報』に，こんな記事が載りました。

> **燃ゆる信仰から精進の一路へ**
> 高農を優等で卒業した宮澤賢治君
> 聖日蓮生誕七百年の恩ひ出深き日に
> 剃髪して深夜漂然家出す(01)（註01）

※これをスクリーンに映し出す。

岩手県の新聞・『岩手日報』によりますと，2021年2月16日の日蓮聖人降誕八百年の聖日から遡ること100年。

日蓮聖人生誕700年にあたるちょうどその日に，『雨ニモマケズ』で有名な25歳の宮澤賢治は，髪を剃って家出をしたというのです。

なぜ，宮澤賢治は，家出をしたと思われますか。

賢治は，法華経をはじめて読んだとき，あまりの感動

で，身体の震えが止まらなくなったといいます。(註02)

そして，法華経と日蓮聖人が唱えられたお題目（**※南無妙法蓮華経**）の修行こそ，人々を救う本当の道であると確信したのです。(註03)

賢治は，家出の一年ほど前の24歳のとき，日蓮の法華経を信仰する「国柱会」(註04)に入会しました。

その頃，家では，家業の質屋・古着屋を手伝うかたわら，浄土真宗（**※南無阿弥陀仏**）を熱心に信仰する父親に激しく改宗を迫り，父親と激しい宗教論争を交わしていたのです。(註05)

賢治は，ひどく思いつめていました。

父親が，法華経や日蓮聖人を信仰してくれないのは，自分の修行が足りないからにちがいない。それならば，法華経や日蓮聖人を信仰する国柱会の東京本部（**※上野鶯谷**）に行って，しっかり修行を積むしかない，と。

けれども，なかなか意を決することができません。

そんな折，賢治が店の火鉢にあたっていたときのことです。

驚くべきことが起きました。

なにが起きたと思われますか。

なんと，賢治の背中に，日蓮聖人のご本が二冊，棚からどかっと落ちてきたのです。

その瞬間，日蓮聖人から背中を押されたと感じたのでしょう。

賢治はすぐさま，棚から落ちた日蓮聖人の御書などを風呂敷に包みこむと，鉄砲玉のように家を飛び出していきました。そして，岩手県の花巻駅から上野行きの汽車に乗ったのです。

家出同然で上京した賢治でしたが，国柱会の理事（**※高知尾智耀**）から，その後の人生を決定づける貴重なアドバイスを受けることができました。

文学が得意なら，その文学の上に法華経の信仰がにじみ出るような作品を作ってみてはどうか，と。(註06)

この言葉に深く共感した賢治は，東京本郷にある下宿からほど近い印刷会社（**※文信社**）でガリ版切りのアルバイトをしながら，ひたすら童話を書きつづけました。

ひと月に３千枚も書いたときなどは，「原稿のなかから一字一字とび出して来て」(02)，賢治にお辞儀をしたといいます。(註07)

上京から７か月がたった頃でした。

賢治のもとに，衝撃的な知らせが届きます。

賢治の二つ年下の妹・トシが病に倒れたというのです。

妹・トシは，家族のなかで，たったひとり，賢治と法華経信仰を共にしていました。

驚いた賢治は，大きな茶色のトランクに書きためた原稿を詰めこみ，花巻に飛んで帰ります。

妹・トシの病気は，当時，不治の病とされていた肺結核でした。

それでも賢治は，妹の快復を願い，献身的な看病をつづけたのです。

しかし，帰郷から１年３か月後。冷たい雨雪の降る日，愛する妹は，24歳という短い生涯を閉じます。

最愛の妹を失った賢治は，押入れに首をつっこんで，声のかぎり泣くことしかできませんでした。

お釈迦様が，八つの苦しみのひとつとされた「愛する人と離別する苦しみ」。それは，だれもが避けて通れない，「人生の大きな試練」です。(註08)

みなさん，『法華経』に「常懐悲感心遂醒悟」という言葉がありますが，その意味をご存知ですか。

深い悲しみを胸の奥深く秘めていると，その悲しみに心が洗われ，ついには悟りにいたる，というのです。

愛する人を失う悲しみは，とても辛いことですね。

でも，それさえも正しく受け止めれば，私たちはだれでも，仏さまのような優しく温かい心を育むことができるのです。

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』にも，こんなセリフがあります。

「なにがしあわせかわからないです。ほんとうにどんなつらいことでもそれがただしいみちを進む中でのできごとなら峠の上りも下りもみんなほんとうの幸福に近づく一あしずつですから」(03)

「ただいちばんのさいわいに至るためにいろいろのかなしみもみんなおぼしめしです」(03)

では，悲しみに大いなる価値があり，しかも思し召しでもあるとするなら，どうでしょう？

いちばんの問題は，「何が起きたか」という出来事そのものではなくなりますね。

その出来事を，「自分自身がどう受け止め，どう生きていくのか」，ということこそが，いちばんの問題となるのではないでしょうか。(註09)

宮澤賢治に話をもどしましょう。

妹・トシを亡くしてからおよそ４年後。

農学校の教師をやめ，農民への献身の道を選びます。

賢治は，農民のために新しい農村建設を目ざす「羅須地人協会」という農民塾を開きました。

また，自分を勘定にいれず，豪雨や冷害に苦しむ農家のために，田んぼの稲を心配し，夜も眠らずおろおろ走り回る日々を送っていました。

無理に無理を重ね，しかも粗食ときては，身体が衰弱しないはずはありません。

昭和３年８月，賢治は肋膜炎で倒れ，病の床についてしまいます。

それでも賢治は，病床で詩を書きつづけました。

病気が快方に向かっていた昭和５年４月のことです。

病床に，砕石工場の工場長（**※鈴木東蔵**）が訪ねてきます。(註10)

賢治は，その人柄に強く魅かれ，経営に苦しむこの人のために，どうしても力になってあげたくなりました。

翌，昭和６年，賢治は，東北砕石工場技師嘱託となります。

けれども，技師のみならず，広報やセールスマンとしても，文字どおり命を削るような多忙な日々を送ることになりました。

同年９月のこと。賢治は，家族の反対を押し切り，壁材料の宣伝のため，大きなトランクに 40 キロもの煉瓦見本を詰めこみ，出張に出かけていきます。

やはり，無理がたたったのでしょう。夜行列車のなかで寒風にさらされたために，上野駅に到着した直後，発熱。しかも，風邪から肋膜炎を併発してしまいます。

そして，旅先の東京で，とうとう病に倒れてしまいました。

賢治は，そのとき死を覚悟したのでしょう。両親宛に，こんな遺書をしたためます。(註10)

「この一生の間どこのどんな子供も受けないやうな厚いご恩をいたゞきながら，…たうたうこんなことになりました。今生で万分一もついにお返しできませんでしたご恩はきっと次の生又その次の生でご報じいたしたいとそれのみを念願いたします。

どうかご信仰といふのではなくてもお題目で私をお呼びだしください。そのお題目で絶えずおわび申しあげお答へいたします。

九月廿一日

賢治

父上様

母上様」(04･05)

賢治は，ご恩返しができないまま命が尽きるであろうことを両親に深くわびます。

けれども，賢治は確信していました。

命はこの世かぎりのものではない，と。

だから，なんども生まれ変わって，ご恩返しをいたします。どうかお題目で私をお呼びください。そう書いたのです。

幸い，このときは，なんとか一命をとりとめたものの，それ以降，病の床に臥してしまいます。

そして，この年（**※昭和６年**）の 11 月３日，病床で，愛用の黒い手帳に『雨ニモマケズ』を書きとめました。

翌，昭和７年，病床にあっても，砕石工場や肥料設計の相談にのりだします。

そして，昭和８年の夏の終わりごろ。呼吸が苦しくなり，急性肺炎を発症してしまいます。

このとき，人生の終わりをはっきりと自覚したのでしょう。

夕方に，賢治と父・政次郎は，腹を割って，たがいの信仰について，そして親鸞聖人と日蓮聖人の臨終について語り合いました。

当日の夜７時頃，農家の人が肥料の相談に来ます。

すると賢治は，わが身を省みず，病をおして，１時間もの間，親身になって話をしました。そのため，ひどく疲労困憊してしまいます。

その翌日（**※ 21 日**）の昼近く。いよいよ賢治の命の炎が，燃え尽きようとしていたときのことです。

賢治が寝ている二階から，突然，「南無妙法蓮華経，南無妙法蓮華経」と唱える声がするではありませんか。

驚いた家族は，すぐさま階段を駆けのぼります。

すると，賢治は喀血し，顔が青ざめながらも，お題目を唱えているではありませんか。

そのとき政次郎は，「遺言することはないか」と問うたところ，賢治は，最期の願いを父に託しました。(註12)

どうか，法華経を千部つくり，私の言葉をそえて，知りあいの方に配ってください，と。

父親は，愛する息子の最期の願いを受け止め，「お前も大した偉いものだ」(04) と褒めたたえます。

すると賢治は，「おれもとうとうお父さんにほめられた」(04) と言って，嬉しそうに微笑みました。

そのあと，水をすこし飲み，みずから脱脂綿で身体をふいていたときのことです。急に意識を失い，二度と意

識が戻りませんでした（**※昭和８年９月21日午後１時30分**）。

こうして宮澤賢治は，家族に見守られながら，37年間の生涯に幕を下ろしたのです。

賢治がなくなった翌年のこと。偶然，あの大きな茶色いトランクの蓋の裏から一冊の手帳が見つかりました。

みなさん，その手帳のなかには，なにが書かれていたと思いますか。

『雨ニモマケズ』の詩が走り書きされていたのです。

それでは，最後に『雨ニモマケズ』をおききください。

雨ニモマケズ
風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
丈夫ナカラダヲモチ
慾ハナク
決シテ瞋ラズ
イツモシヅカニワラッテヰル
一日ニ玄米四合ト
味噌ト少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲ
ジブンヲカンジョウニ入レズニ
ヨクミキキシワカリ
ソシテワスレズ
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ
小サナ萱ブキノ小屋ニヰテ
東ニ病気ノコドモアレバ
行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ
行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ
行ッテコハガラナクテモイヽトイヒ
北ニケンクヮヤソショウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ
ヒドリノトキハナミダヲナガシ
サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ
ホメラレモセズ
クニモサレズ
サウイフモノニ
ワタシハナリタイ(註13)(06)

註

（註01）新聞報道とは異なり，実際に賢治が家出をしたのは，同年１月23日のことである。午後５時12分花巻発の列車で東京に向かった。(07)

『岩手日報』の当時の記事は，資料的価値が高いので，４行の見出し後の本文を，旧字体のまま以下に記載したい。

ただし，『岩手日報』から取り寄せていただいた縮小コピーされた記事をみると，活版印刷の活字が摩耗し，不明瞭であるものが多々ある。とりわけ，ふり仮名は，判別しづらいものが多いため，すべて割愛させていただいた。

花巻川口町に於ける素封家（**※金持ち**）宮澤家の息宮澤賢治（二五）君は大正七年盛岡高等農林學校農學科を優等で卒業した秀才だが，遂四五日前の深夜漂然と家出し爾来行衛不明なので全町では此頃の話題として種々な取沙汰してゐる

×　　×　　×
　×　　×　　×

仝君は小學校から懸立盛岡中學校，更に高農までの學歴でも常に最優等で同級生間に君子人の如く尊敬を拂われたそれに酒も飲まず烟草は喫さず女の話一つも無いと云う石部金吉派に屬する人間だと高農在學當時から同級生間の『變人』として取扱はれてゐた

だが宮澤君にも一つの道樂があつた，道樂と云つて前に述べたやうな八公熊公の亞流ぢゃない仝君は中學校時代から宗教上の研究に沒頭し寢食を忘れて『經文』の誦唱に耽つてゐたそして數年此來聖者日蓮を喝仰して其の信仰日を逐ふて益々熱烈なものがあった

同君の信仰は現世によくある宗教屋の如き淺薄なものではなかつた，常に灼か如く燃へ爛れるが如き焔の信仰と精進の一路あるのみだつた，そして彼は常に『日蓮主義』の爲めならば身命も何かはと熱狂した口調で友人間に自己の主義を說いて止まなかつたのである

彼はこの数年間の勤行中，精進潔齋魚肉一切を口にせず生臭坊主共の心膽を奪ふ様な大修業，大試錬によく堪へた

然るに大正九年も暮れ十年を迎へたある日，それは丁度霞の寒に入るや，彼は單衣一枚で深更十二時頃，そつと家を抜け出し『寒行』をやり，吹雪が朔風に氷つて雹となり彼の頬に血を染ませる様な夜も泰然として町外れまで往復してゐたのであつた，寒三十日間，彼は『南無妙法蓮華經』の七字を唱へ乍ら魂

と肉の試練に打勝た

× × ×

× × ×

彼の信仰は日を經るに従ひ益々熱烈になつて來たが，彼は當時俗悪な還境から脫して他郷の聖地に流れゆき其處で日蓮の教へに殉じ度いと思つてゐた，二月半ば過ぎのある，夜，チロくと蛇の眼の様に光る星の下を彼は着のみ着のまま，塗黒の髪をおつぽり剃つて今心姿と化り漂然家を脫け出て姿を晦ました，彼の家出は誰人も見た人はないと云ふ扱にも穢れた現世の張を拂つて『法』の爲めに敢然發心した年若き信徒よ…

× × ×

× × ×

仝人の家出した日は，たしか二月十六日であつたらしい，其の日は日蓮上人生誕七百年の思ひ出深い日であつたのである，彼はこの忘るべ可らざる聖者の此の世に生を享けた日を期して聖地見延山に駈けせ參じたものらしいそれとも房州小湊の日蓮生誕…

昨日剃つたも今道心，一昨日剃つたも今道心，彼の主義信仰爲めの門出に幸多かれと祝福せざるを得ない

（註 02）賢治が，法華経（※**『漢和対照 妙法蓮華経』島地大等 編集**）と出会ったのは，18 歳のときだった。もともとは高橋勘太郎が賢治の父・政次郎に贈ったものだが，政次郎はそれを賢治に譲ったのである。

（註 03）以下の日蓮聖人に関する説明は，本稿の本文から割愛。

聖人は今からおよそ 800 年前の貞応元年 2 月 16 日，現在の千葉県安房郡小湊でお生まれになりました。

みなさん，日蓮聖人は何歳で出家されたかご存知ですか。

みずから進んで，12 の年に，同郷の清澄寺に登り，16 歳で出家されたのです。

清澄寺では虚空蔵菩薩に「日本第一の智者となしたまへ」と発願されるほど，求道に精進されました。

さらに学問の研鑽を深めるため，31 歳まで，京都で学ばれます。

日蓮聖人は，長年の求道の末に，お釈迦様のすべての教えのなかで，『法華経』こそが，真実の教えであり，「一切経の心」であるという確信にいたるのです。

この確信を得た聖人は，若き日出家した故郷の清澄寺で昇る朝日に向かい，南無妙法蓮華経と唱えられ，立教開宗を宣言されたのでした。

このとき，聖人は，名前を「日月」と「蓮華」から一字ずつとって，「日蓮」と改められます。

みなさん，聖人は，日蓮という名前にどのような想いをこめたと思われますか。

闇を照らす日月，泥沼の中にあっても美しい花を咲かせる蓮華。そのように世の中の人々を救うために精進していこう」

そんな決意をこめての命名だったのです。

今日，大地震や大洪水，大型台風といった天変地異が各地で頻発していますね。

日蓮聖人の時代も，大地震や大洪水，飢饉，疫病が相次いでいました。

そして民衆は，同じく，耐えがたい苦しみにあえいでいたのです。

民衆の苦しみに涙された聖人は，それをご自身の苦しみとして受け止められます。そして，災いの根本原因が，お釈迦様が乱れた世を救うために説き遺された『法華経』の教えを見失ったためであるとみなし，『立正安国論』を書かれました。

聖人は，これを時の権力者に差し出し，行動を改め直すよう迫ります。

ところが，幕府からは何の反応もありませんでした。

そればかりか，書かれた内容が，お題目に対して反感を持つ人々にもれ広がっていったものですから，数々の法難が日蓮聖人を襲うことになります。

けれども，日蓮聖人は法難に遭うたびに，「法華経の行者」としての自覚を深めていかれました。

しかも，なんということでしょう！

聖人は，法難を悦びに変えられ，ついには「日本第一の法華経の行者」と自覚されるまでにいたったのです。

なぜでしょう？

法華経にはこの教えが弘められるとき，必ず迫害が起こるであろうと予言されていました。それで聖人は，法華経を身でもって読んだと悦びに変えられたのです。

（註 04）国柱会は，獅子王と称された元日蓮宗僧侶・田中智学（1861～1939）によって創設された在家仏教団体である。純正日蓮主義を掲げ，「立正安国の実現」を目ざす社会運動を展開した。

国柱会という名称は，賢治が心酔した智学が，日蓮の三大請願の一つである「我日本の柱とならん」にちなんで命名したものである。

なお，智学に傾倒した賢治ではあったが，のちに失望し，決別した。

このことは，賢治の文語詩『心相』や『国柱会』

などに刻印されている。

（註 05）賢治の父・政次郎は，東北における浄土真宗信徒のまとめ役として活躍。毎年のように，京都から真宗の名僧や碩学を招いては「花巻仏教会」の講習会を開いていた。賢治も，８歳の頃より，講演者の身の回りの世話をするために参加し，静かに耳を傾けていたという。

ちなみに，会場は，花巻の「大沢温泉山水閣」で開催されていた。(08)

賢治の兄弟姉妹には，２歳下にトシ，５歳下にシゲ，８歳下に清六，11 歳下にクニがいた。

二女のシゲは，家庭内での親子の宗教論争は，「私ども肉親にとりましても，親子の相剋は，ほんとうに悲しいことでした」(09) と語っている。

（註 06）高智尾智耀は，当時をふり返ってこう話す。

「賢治君は，毎晩講話をききにきていました。そのうちにだんだんせわをやきだして，出席者の案内やあっせんなどをしていました。

そうこうしているうち，二月のある日，ようやくはなしあうことがあって，あなたは将来どういう方面に進みたいかとたずねると，詩歌，文筆でいきたいと思うということでした。

それで，純正日蓮主義の信仰というものは，それぞれ生業を通じて開顕するもので，文筆に従うものは筆をとって本領を発揮する，その中に信仰生活があるので，これまでややもすれば専門の宗教家にならねば信仰を全うしないと思うむきがあったが，そうではない，ということをいったものです。それを賢治君は『法華文学』ということばでうけとめたのでしょう。

それにしても当時の賢治君は一向に天才的な感じはなく，後年あれだけの文筆活動をするとは私も思いません。また賢治君もちっとも文学のことなどはいいません。信仰と親のことばかりです。国柱会では天業民報という新聞を出していたのだから，その編集をやってもらってもよかったのに，そういうけぶりが全然ないので，わたくしもわからずじまいでした」(10)

（註 07）賢治の弟・清六によれば，賢治は，小学校３年生の時の担任・八木英三にこう語ったという。

「人間の力には限りがあります。仕事をするのには時間がいります。どうせ間もなく死ぬのだから，早く書きたいものを書いてしまおうと，わたしは思いました。一カ月の間に，三千枚書きました。そしたら，おしまいのころになると，原稿のなかから一字一字とび出して来て，わたしにおじぎするのです」(02)

賢治は，「半年足らずで膨大な量の童話を書いた」が，「誰もが知っている作品の大半は，このときに第一稿が書かれたという」(08)

なお，宮沢賢と童話との最初の出会いは，恩師・八木英三が語る童話に感動したことに始まった。賢治自身も，「自分の童話の源には先生のお話が影響している」(11) と述べている。

（註 08）釈尊が説いた八苦には，四苦とされる生老病死のほかに，つぎの四つがある。合わせて四苦八苦ともいう。

①愛別離苦（**愛する人たちと別離する苦しみ**）
②怨憎会苦（**憎む人と出会う苦しみ**）
③求不得苦（**求めるのを得られない苦しみ**）
④五羅盛苦（**身体と精神の苦しみ**）

（註 09）以下の日蓮聖人に関する説明も，本稿の本文から割愛した。

今日は，日蓮聖人が，悲しみに沈む信徒に宛てた手紙のなかから，２通，ご紹介させていただきます。

古くから日蓮聖人に帰依していた信徒に，南条兵衛七郎という領主がいました。

まだ壮年のお歳であったのですが，痛ましくも病に倒れ，この世を去ってしまいます。

最愛の夫を亡くした妻の悲しみはあまりに深く，夫の後を追ってゆこうとしたほどです。

けれど，お腹に子どもを宿していましたので，危うく思いとどまることができました。

産まれた子どもは，父の七郎という名をとって「七郎五郎」と名づけられ，すぐれた若者に育ちます。

それなのに，なんということでしょう。

16 歳の若さで，亡くなってしまったのです。

日蓮聖人は，愛する夫ばかりか，息子にも先立たれ，悲しみに暮れるこの女性に，お手紙を書かれました。

「無常は，この世の定めですが，亡くなられたことを聞くだけでも，耐えがたい悲しみです。ましてや，母…の身にとっては，なおさらのことでしょう。悲しさのありさまをご推察いたします」(12)

「亡くなられた七郎五郎殿は，…幼少のころから，賢い父の跡を継いで法華経に深く帰依し，まだ二十歳にもならないのに，南無妙法蓮華経とお題目をお唱えになり，ついに仏になられ，旅立ってゆかれました。法華経の方便品に，『法華経の教えを聞いた

人は，一人として成仏しない者はない』と説かれているのは，まさにこのことです。

お母上，願って頂きたい。母上として，我が亡き子を恋しくお思いになられるのであれば，南無妙法蓮華経と唱えて，先に亡くなられた夫の南条殿と，亡き（七郎）五郎殿と，未来世にかならず一所に生まれかわるようにと，お願いなさい。

一つの種子（たね）から，同じ一つの種子（たね）が生まれるのが，因果の道理です。…同じ妙法蓮華経の信仰を，心のうちに抱くことによって，あなたも，亡くなられた時は，子どもさんと，同じ妙法蓮華経の国へ生まれることが出来るのです。そのとき，親子三人が顔をそろえて見あわせる時を，想像してご覧なさい。その悦びは，どれほど深いものであるか，お思い下さい」(12)

およそ1年後，日蓮聖人は，ふたたびこの女性に思いやり深い手紙を書かれています。

「私自身，もはや長くはこの世にとどまることはないでしょう。きっと近いうちに霊山浄土で（七郎）五郎殿とお会いすることと思います。母であるあなたより，先にお目にかかったならば，母上がどれほどなげき悲しまれていたか，お伝えいたしましょう」(12)

この手紙を書かれてからおよそ1年後，日蓮聖人は，波瀾万丈の61年の御生涯を閉じられました。

「この娑婆世界をおいて他に浄土はなく，この苦しみの世界こそが浄土である。娑婆世界を本来の浄土の姿にもどそう」

そんな燃える想いで生きられた日蓮聖人。

浄らかなる蓮華のごとく，法華経とお題目のために身命を惜しまず，苦しむ人びとを救うことにいのちを懸けられた日蓮聖人。

その熱い想いと信仰は，日蓮聖人がお生まれになって800年がたった現在までも，多くの先師たちによって脈々と受け継がれ，生きつづけています。

（註10）砕石工場の工場長・鈴木東蔵が，賢治の元をはじめて訪れたのは，いつのことであったろうか。

賢治の弟・清六によれば，「昭和四年の春」。

鈴木東蔵の長男・実によると，「父の記憶では五年の六，七月頃」。

実の別の著書では，「五年の四月十二日」となっている。

賢治の鈴木宛の五年四月十三日付の手紙には，「昨日は折角の御来花」とあるので，本稿では，「五年の四月十二日」説を採用した。(04)

（註11）肋膜炎はこのときが最初ではない。

一回目は大正7年に発症。一カ月近く療養をしていた。

そのとき賢治は友人にこう語ったという。

「自分の命もあと15年あるまい」，と。実際，賢治は，その15年後の昭和8年9月21日午後1時30分に亡くなっている。(08)

この遺書が書かれたのは，亡くなるちょうど2年前の昭和6年9月21日であるが，没後に発見された。

ちなみに，遺書は，宿泊先の「旅館　八幡館」の便箋と封筒に書かれている。

賢治は同月27日，父親に電話し，重態であることを告げたところ，父の厳命と手配により，翌朝，帰郷することができた。(05)

（註12）賢治の遺言は，つぎのとおりであった。

「合掌，私の全生涯の仕事はこの経をあなたのお手許に届け，そしてその中にある仏意にふれて，あなたが無上道に入られんことをお願いする外ありません」(04)

（註13）この後，賢治の手帳のなかに，つぎの言葉が記されている。

「南無無辺行菩薩
南無上行菩薩
南無多宝如来
南無妙法蓮華経
南無釈迦牟尼仏
南無浄行菩薩
南無安立行菩薩」(06)

引用文献

(01) 燃ゆる信仰から精進の一路へ．(1921.3.6)．岩手日報，5：3-5.
(02) 宮沢清六．(1991.12.4)．兄のトランク．筑摩書房.
(03) 宮澤賢治．(1990.12.20)．銀河鉄道の夜．集英社.
(04) 山内修　編著．(1989.9.18)．年表作家読本　宮沢賢治．河出書房新社.
(05) 竹内清乃　編集．(2014.5.21)．宮沢賢治　おれはひとりの修羅なのだ．平凡社．別冊太陽　日本のこころ218.
(06) 宮澤賢治．(1997.7.30)．新校本　宮澤賢治全集

第十三巻（上）　覚書・手帳　本文編．筑摩書房．
(07) 山下聖美．(2008.9.20)．宮沢賢治のちから．新潮社．
(08) 吉本隆明, 天沢退二郎, 山折哲雄, 他．(2010.6.10)．宮沢賢治を旅する．小学館．サライ７月号，22(7)：18-83.
(09) 岩田シゲ，他．(2017.12.20)．屋根の上が好きな兄と私．蒼丘書林．
(10) 堀尾青史．(1991.1.25)．年譜　宮澤賢治伝．中央公論社．
(11) 賢治と文学．(2019.1.18)．花巻市役所．花巻市役所ホームページ．
(https://www.city.hanamaki.iwate.jp/miyazawakenji/about_kenji/1003947.html)．
(2019.12.28 取得)．
(12) 北川前肇．(2016.4.1)．日蓮聖人からの手紙　後世をこそ思ひさだむべき．NHK 出版．

参考文献（※引用文献を除く）

宮沢賢治．(1996.5.25)．銀河鉄道の夜．角川書店．
宮沢賢治　著／天沢退二郎　編．(1991.7.30)．宮沢賢治詩集．新潮社．
天沢退二郎　編．(2001.4.1)．宮沢賢治万華鏡．新潮社．
天沢退二郎　編．(1996.6.25)．宮沢賢治ハンドブック．新書館．
天沢退二郎．(1986.9.30)．《宮沢賢治》鑑．筑摩書房．
天沢退二郎．(2009.7.25)．《宮沢賢治》のさらなる彼方を求めて．筑摩書房．
天沢退二郎・中村稔　他．(1973.12.1)．國文學　解釋と鑑賞　宮沢賢治の世界．至文堂．
天沢退二郎・栗原敦・杉浦静　編．(2011.5.10)．図説　宮沢賢治．筑摩書房．
栗原敦．(2005.10.1)．宮沢賢治．NHK 出版．
伊藤信吉・伊藤整・井上靖・山本健吉　編．(1968.3.5)．日本の詩歌 18　宮沢賢治．中央公論社．
上田哲　他．(1996.3.25)．図説　宮沢賢治．河出書房新社．
今野勉．(2017.2.25)．宮沢賢治の真実．新潮社．
山下聖美．(2017.3.1)．宮沢賢治スペシャル．NHK 出版．
堀尾青史．(1991.1.25)．年譜　宮澤賢治伝．中央公論社．
見田宗介．(2001.6.15)．宮沢賢治　存在の祭りの中へ．岩波書店．
井上ひさし．(2002.12.10)．宮澤賢治に聞く．文藝春秋
小柳学．(2004.11.25)．宮沢賢治が面白いほどわかる本．中経出版．
栗谷川虹．(1997.1.25)．宮沢賢治　異界を見た人．角川書店．
桜田満　他　編．(1974.8.30)．現代日本文学アルバム第 10 巻　宮澤賢治．学習研究社．
菅原千恵子．(1997.11.25)．宮沢賢治の青春．角川書店．
江宮隆之．(2008.2.19)．二人の銀河鉄道　嘉内と賢治．河出書房新社．
佐々木賢二．(2011.5.30)．宮澤賢治『銀河鉄道の夜』の真実を探って．誠文堂新光社．
門井慶喜．(2017.9.12)．銀河鉄道の父．講談社．
原子修．(1993.4.15)．宮澤賢治論―銀河のいざない―．土曜美術社出版販売．
丹治昭．(1996.10.15)．宗教詩人　宮沢賢治．中央公論社．
西田良子　編．(1992.2.1)．宮沢賢治を読む．創元社．
金子民雄．(1984.9.1)．みちのくのメルヘン　宮沢賢治イーハトヴの世界．そしえて．
萩野貞樹　監修．(2006.11.24)．宮沢賢治．リヨン社．
田口昭典．(2006.9.21)．宮沢賢治と法華経について．でくのぼう出版．
大島宏之　編集．(1992.2.25)．宮沢賢治の宗教世界．渓水社．
坂本幸男・岩本裕　訳注．(1991.6.26)．法華経（上）（中）（下）．岩波書店．
植木雅俊．(2015.3.24)．サンスクリット原典現代語訳法華経（上）（中）．岩波書店．
植木雅俊．(2018.4.1)．NHK テキスト法華経．NHK 出版．
植木雅俊．(2011.10.25)．仏教，本当の教え．中央公論新社．
橋爪大三郎・植木雅俊．(2015.10.10)．ほんとうの法華経．筑摩書房．
紀野一義・梅原猛．(1969.9.10)．仏教の思想 12　永遠のいのち〈日蓮〉．角川書店．
紀野一義．(1982.6.20)．「法華経」を読む．講談社．
紀野一義．(1983.3.25)．名僧列伝（三）　念仏者と唱題者１．角川書店．
紀野一義　他．(1980.6.1)．８人の祖師たち．水書坊．
松原泰道．(1983.7.5)．法華経入門．祥伝社．
佐々木閑．(2017.4.5)．集中講義　大乗仏教　こうしてブッダの教えは変容した．NHK 出版．
久保田正文．(1967.12.16)．日蓮　その思想と生涯．講談社．
中尾堯．(2001.11.1)．日蓮．吉川弘文館．

庵谷行亨.（2003.12.31）. 知っておきたい日蓮宗. 日本文芸社.
ひろさちや.（2001.5.10）. 日蓮がわかる本. 主婦と生活社.
田村芳朗.（1975.10.1）. 日蓮　殉教の如来使. 日本放送出版協会.
浜島典彦　監修.（2016.5.26）. 日蓮を読み解く 80 章. ダイヤモンド社.
渡辺宝陽.（2011.6.10）. 知識ゼロからの日蓮入門. 幻冬舎.
本田不二雄　他　編集.（1993.2.15）. 日蓮の本　末法の世を撃つ法華経の予言. 学研.
末木文美士.（2010.4.10）. 増補　日蓮入門　現世を撃つ思想. 筑摩書房.
山岡荘八.（1979.4.15）. 日蓮. 講談社.

Miyazawa Kenji and Nichiren Shōnin (The Sage Nichiren)

ENDOH Hitoshi

Abstract

Nichiren Shōnin was born on 27 January, 1222, in the village of Kominato. He declared that only the Lotus Sutra contains the highest truths of Buddhism.

Kenji Miyazawa (27 August 1896 – 21 September 1933) was a Japanese novelist and poet. He was deeply worshiping the Lotus Sutra and Nichiren Buddhism eagerly, and joined the Kokuchūkai, a Nichiren Buddhist organization.

On the other hand , his father worshiped Jodo Shinshu, founded by Shinran Shonin (Saint Shinran). This caused a severe religious conflict between Kenji and his father. As a result, Kenji suddenly left home and went to Tokyo. At that time, Kenji was encouraged by one of the leaders of the Kokuchūkai to express the idea of the Lotus Sutra in literature. This is a leading manuscript for recitation written for an event held in Fukuoka Prefecture to commemorate 800th birthday.

This is a reading manuscript written for a big event held in Fukuoka Prefecture in commemoration of the 800th anniversary of Nichiren Shōnin's birth.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Management
No.1, 11－25, 2020

宮澤賢治と妹・トシ

遠　藤　　均

【序】

学生のとき，東京の本屋でたまたま手にした仏教学者・紀野一義先生の著書を通し，仏教と，『法華経』の思想を文学で表現しようとした宮澤賢治に開眼し，心が大きくゆさぶられた。

爾来，仏教研究に没頭し，二年くらいの間に 100 冊以上読んだ。専門分野は異なっていたけれど。

院生のときには，哲学研究の一環として，紀野先生が主催する仏教研究会にも所属した。留学のため，日本を離れるそのときまで。

４年くらい前のことである。岩本芳修氏（**STV ラジオのプロデューサー**）※から紹介された浄国寺住職・高橋浄英老師とお話していて驚いた。

二人とも，紀野先生の仏教研究会に属していたからである。

それからまもなくのこと。思いがけず，老師から私の元に，紀野先生の講演 CD が多数届いた。

ふたたび驚いた私は，御礼に，札幌円山にある浄国寺にうかがう。

すると，あにはからんや，さらに多くの CD をくださったのである。なんと奇特な方なのだろう。みたび驚いた。

それ以来，折につけ，いただいた十数枚の CD をありがたく拝聴し，著書も読み返していたところ，「宮澤賢治と日蓮聖人」に関する朗読原稿の依頼が舞いこんだ。

思い返せば，紀野先生の御実家は，広島県にある日蓮宗のお寺であり，原爆により，ご両親が他界されていたのである。

これもなにかのご縁かも知れない。

この小論を書き終えて思う。

多くの方々に支えつづけていただいたことにより，より深く，宮澤賢治とトシを理解することができた。ふたりのひたむきで愛情あふれる生き方は，時代を超えて，力を与えつづけてくれよう。

僭越ながら，これを読まれる方にとっても，賢治とトシの心の蓮が，心の糧となることを心より願わずにはいられない。

※岩本芳修氏は，先ごろ亡くなった日高晤郎を発掘し，STV ラジオの人気番組「ウイークエンドバラエティ　日高晤郎ショー」をプロデューサーとして支えつづけてこられた方でもある。

【賢治と死　①】

宮澤賢治は，幼いころから，年が二つ離れた妹・トシに深い慈愛をそそいできた。

彼女は，小学生のときから成績優秀。花巻高等女学校でも首席をとおし，「花巻中知らぬものとてない評判の才媛であった」(01) という。

そのトシが，女学校４年生のとき，恋に落ちた。

相手は，赴任してきた音楽教師・鈴木竹松。「目醒めはじめた芸術に対するあこがれと渇仰」(02) が，恋心をも目覚めさせたのであった。

トシは，彼からバイオリンを習い，下宿を訪れるまでになる。

そのさい，トシが人形をだきながら，「センセー，センセー」(01) と呼ぶ姿を同級生が目撃。あくる日，「見チャッタ，聞イチャッタ」(01) と，学校で噂の種にされてしまう。

しかも，鈴木竹松は，ともにバイオリンを習っていた同級生・大竹いほに好意をいだいていることを知り，失恋の痛手を負った。

それぱかりではない。

あろうことか，卒業式（**※大正 4 年 3 月 23 日**）の三日前から前日まで，『岩手民報』（**※ 20～22 日**）に「音楽教師と二美人の恋」(01) というタイトルで，悪意に満ちたゴシップ記事が連載されたのである。(註01)

けっか，彼女に降り注いだものは……。

「曽て味わった事のない痛い痛い衆人の非難冷笑の眼と，彼（**※鈴木竹松**）からの明らかな疎隔」。「きのふまで友人とのみ信じてゐた人の思ひがけない裏切り」(02) であった。それは，「魂を圧し潰すかと思はれ」(02) るほどの「悲しみやおどろきや苦しみ」(02) をもたらし，彼女か

ら「平安」と「喜びと安き眠り」(02) とを奪い去る。

とりわけ，家族思いのトシにとって，「自身を悲しむ以上に彼等（**※家族**）に悲しみを与へたと云ふ事程…痛い打撃はなかった」(02)。

そんな悪夢の嵐が吹き荒ぶなか，17 歳の少女は，卒業式当日，卒業生総代として答辞を読んだ。「きのふまでの…名誉心も自重心も凡てふみにじられ」(02)，「痛い誹謗の矢を雨の様に受け」(02) ながら。

娘を深く案じ，「一日も早くこの苦しい学校と郷里とからのがれ度いと云う願ひ」(02) をくんだ父親は，東京の日本女子大学校家政学部に逃がした。

――「学校から逃れ故郷を追はれた」(02) トシは，21 歳で大学を卒業する。

その後，彼女はどんな道を選んだのだろう？

22 歳の大正 9 年 9 月。英語と家事を受けもつ教諭心得として，かつて汚辱にまみれた母校・花巻高等女学校の教壇に立った。つらい「過去の記憶を抱」き，「到る処に針のむしろにある思ひを捨て」られず，「『男の先生』と云ふ様な詞にまで…刺される様な人知れぬ苛責を感じ」ていたにもかかわらず。

そのわけは，トシがこう考えたからである。

「未だ償はずに居るものを償ひ恢復すべきものを恢復して新しい世界にふみ出し」，「過去の重苦しい囚はれから脱し超越して新しい自分を見出」(02) したい。

「多くの人の心を傷つけた」「過失を相殺する」(02) ために，「恢復された人生に対する勇気と自由とをこれからの…仕事に表はさねばならぬ」(02)

「人のためになりたい，郷土のために働きたい」(註02) (01)

しかし，再度，「不自然な苦しい努力」(02) によって，「弱い糸を極限まで張った様な…状態はついに，身体の病となって現はれた」(註03) (02)。

一年後の大正 10 年 9 月。喀血し，倒れてしまう。

「トシビョウキスグカエレ」(03)

純正日蓮主義を信奉する国柱会東京本部で修業中の賢治のもとに，急を告げる電報が届く。

すぐさま賢治は，書きためた原稿を茶色の大きなトランクにぎっしりつめこみ，故郷の花巻（**※現在の岩手県花巻市豊沢町**）に舞いもどる。

――妹・トシの病気は，当時，不治の病の肺結核だった。

しかし，賢治は，いちずに快復を期し，献身的にトシの看病をつづける。

されど，病状は悪化の一途をたどるばかりであった。

――死の足音が間近に迫るころ。

すれちがう兄妹の，切なくも愛しい心情が，『無声慟哭（**※声を出さないで号泣すること**）』という詩に刻まれている。(註04)

死期を悟ったトシは，家族のなかで，「信仰を一つにするたつたひとりのみちづれ」である賢治に，救いを求め，「どんなちいさな表情もけつして見遁さないやうに」，目で追う。(04)

ところが，肝心の賢治は，いつしか『法華経』（**※妙法蓮華経の略称。大乗仏教の経典のひとつ**）への信仰がぐらつき，まさに，青ぐらい修羅（**※阿修羅道，迷いの道**）(註05) を歩いていた。

すなわち，「あかるくつめたい精進のみちからかなしくつかれてゐて」，「巨きな信のちからからことさらにはなれ」ていたのである。(04)

また，「純粋やちいさな徳性のかずをうしなひ」，「毒草や蛍光菌のくらい野原をただよ」っていた（**「ほかのひとのことをかんがへながら森をあるいてゐた」**）のだった。(註06，07，08) (04)

そのため，「たましひは疾み烏さへ正視ができない」(04) 精神状態にあったのである。

嘘のつけない実直な賢治は，「かなしさうな眼を」(04) するばかりで，妹と，まともに向きあうことさえできないでいた。(註09)

けれど，兄の迷いを知るよしもないトシは，それが自分のせいだと思いこみ，そばにいた母親に問いかける。

「私は，怖い顔をしてるんでしょう？（**おら，おかないふうしてらべ**）」(04)

だから，賢治兄さんは，私をまっすぐに見ることができないのでしょ？，と。

母は，こう答える。

「いいえ，すごくきれいな顔をしているよ（**うんにやずゐぶん立派だぢやい**）」

賢治も，心のなかでつぶやいた。(04)

「ほんたうにそうだ
髪だつていつそうくろいし
まるでこどもの苹果の頬だ
どうかきれいな頬をして

あたらしく天にうまれてくれ」(04)

が，死にさいし，必死に救いを求めるトシは，たたみかけるように母に問うた。
死にかけているのだから，「それでも身体が臭いんでしょう？（**それでもからだくさがべ？**）」，と。(04)
母は答えた。

「いいえ，すこしも（**うんにや　いつこう**）」(04)

そのやりとりを聞いていた賢治は思った。

「ほんたうにそんなことはない
かへつてここはなつののはらの
ちいさな白い花の匂いでいつぱいだから
ただわたくしはそれをいま言へないのだ
（わたくしは修羅をあるいてゐるのだから）」(04)

トシは，いつまでも救いの言葉をかけてくれない兄に，裏切られたような気持ちになったのだろう。
兄から不意に視線をそらす。
そして，ついにこんな言葉までも……。
「（Ora Orade Shitori egumo）（**※私は私で，ひとりで逝くもん**）」(註10)(04)

必死に救いを求める愛する妹に，ひと言もかけてあげることができない兄。
それどころか，ぎりぎりのところまで追いつめられても，いまだ心が定まらない自分。
おのれのふがいなさに，きっと泣き伏したくなったことだろう。
賢治は，こう念じるばかりだった。

「ああそんなに
かなしく眼をそらしてはいけない」(04)

「ひとりさびしく往かうとする」妹を，「正視」することさえできない自分。(04)
愛する妹を，せめても，心安らかに往生させたいという痛切な願い。
出口の見えない葛藤が，激しい苦悩と悪循環を生みだす。
賢治は，刻一刻，暗く危険な崖っ縁に追いつめられていくのであった。

【賢治と死　②】

帰郷から一年あまりたった霜降月（**※大正 11 年 11 月 27 日**）。
とうとう，恐れていたその時がやってきた。

「ああけふのうちにとほくへさらうとするいもうとよ
ほんたうにおまへはひとりでいかうとするか
わたくしにいつしよに行けとたのんでくれ
泣いてわたくしにさう言つてくれ」(註07)(04)

その日の朝のこと。(註11)
トシは，唐突に兄に頼んだ。
「あめゆじゆとてちてけんじや（**雨雪［※みぞれ］をとってきてください**）」と。(註12)(04)
それは，「末期の水（**死に水**）」でもあったろう。

賢治は，愛する妹の最後のたべものを取ろうとして，「まがつたてつぽだまのやうに」病室からあわてて飛びだした。「青い蕈菜もやうのついた」，「ふたつのかけた陶椀」を握りしめて。(註15)(04)

賢治は，外に飛び出し，空を見上げた。
蒼鉛色の暗い雲から，雨雪がびちょびちょ落ちてくる。
すると，どうしたことだろう。
「あめゆじゆとてちてけんじや」といったトシの真意が，自然にしみこんできたのである。

「ああとし子
死ぬといふいまごろになつて
わたくしをいつしやうあかるくするために
こんなさつぱりした雪のひとわんを
おまへはわたくしにたのんだのだ
…はげしいはげしい熱やあえぎのあひだから
おまへはわたくしにたのんだのだ
銀河や太陽，気圏などとよばれたせかいの
そらからおちた雪のさいごのひとわんを……」(04)

「巨きな信のちからからことさらにはなれ」，「青ぐらい修羅をあるいてゐる」賢治。(04)
「信仰を一つにするたつたひとりのみちづれの」妹に，いまわの言葉ひとつかけられず，「かなしさうな眼をしてゐる」兄。(04)
このまま「ひとりさびしく往」けば，賢治は，まっ暗な後悔と自責の念に，生涯さいなまれつづけるにちがいない。(04)

そんな迷える兄を「いつしやうあかるくするために」，ひと椀の雪を頼んだのだ，と。(04)
このとき，トシの心情が，しっかりとわかった。

冥き途への淵に立ちながら，それでも兄を気づかう慈愛にふれ，賢治は固く心に誓う。

「ありがたうわたくしのけなげないもうとよ
わたくしもまつすぐにすすんでいくから」(04)，と。

そして，賢治は，妹の想いに響応し，心のかぎり念じた。

「おまへがたべるこのふたわんのゆきに
わたくしはいまこころからいのる
どうかこれが兜率の天の食に変つて
やがてはおまへとみんなとに
聖い資糧をもたらすことを
わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ」(05)(註16)

――トシは，茶碗を受けとると，「さっぱりした」雪の花を口にふくんだ。

そして，そえられた松の針を，「まるでとびつくやうに」頬にあて，こうつぶやく。(04)

「ああいい　さっぱりした
まるで林のながさ来たよだ」(註17)(04)

やがて，迷いの消えた兄から『法華経』の死生観を聞き，「コハガラナクテモイヽ」(03) などと，やさしい言葉をかけてもらったにちがいない。(註18)

命の灯が消えかかろうとしていたときのこと。

父親が，「病気ばかりしてずい分苦しかったナ。…今度は…いいところに生まれてくれよナ」(07) と語りかけたことに対し，トシはこう答えた。

「また人に生まれてくるときは，こんなに自分のことばかりで苦しまないように生まれてきます（**「うまれでくるたて　こんどはこたにわりやのごとばかりで　くるしまなあよにうまれてくる」**）」(04)(註19)

自分のことばかりで苦しまないとは，裏を返せば，「他人のために苦しむことのできる人間に生まれてきます」，ということである。(註20)

救われたのはむしろ，「巨きな信のちからからことさらにはなれ」て，青ぐらい修羅を歩いていた兄のほうであったにちがいない。(04)

いよいよ死期が迫ったとき，賢治は，トシの耳もとでお題目を叫ぶと，トシは，二度うなずくように息をした。

こうして，いまわのきわに清い言葉を残し，賢治に多大な影響を与えたトシは，24年の短い生涯を閉じたのである。

最愛の妹を失った賢治は，押入れに首を突っこんで，泣くことしかできなかった。

亡骸は，野天で薪や萱を山積みにした状態で荼毘に付された。火葬場が火事で焼失していたからである。

棺が燃えつきるまで，賢治は，一心に法華経をりんりんと読みつづけたのであった。

【賢治と死　③】

妹の死からおよそ9か月。

空蝉のごとく虚ろな賢治は，トシの行方（**幻影**）と死の意味を追い求め，一路，夜汽車で北へ向かう。

「こんなやみよののはらのなかをゆくときは
客車のまどはみんな水族館の窓になる
…あいつはこんなさびしい停車場を
たつたひとりで通つていつたらうか
どこへ行くともわからないその方向を
どの種類の世界へはいるともしれないそのみちを
たつたひとりでさびしくあるいて行つたらうか」(04)

「ああ何べん理智が教へても
私のさびしさはなほらない
わたくしの感じないちがつた空間に
いままでここにあつた現象がうつる
それはあんまりさびしいことだ
(そのさびしいものを死といふのだ)
たとへそのちがつたきらびやかな空間で
とし子がしづかにわらはうと
わたくしのかなしみにいぢけた感情は
どうしてもどこかにかくされたとし子をおもふ」(04)

心時雨る賢治は，さらに北をめざし，青森，旭川を経て，北海道の最果て・稚内にいたる。

が，賢治の旅はそこで終わらない。

果ては，日本最北端の樺太（**※当時**）の終点・栄浜駅にまで移ろう。

その浜辺に行き着いた賢治は，トシのために一晩中，潮騒とともに祈りを捧げたのであった。

このときの鉄道の旅は，『銀河鉄道の夜』となって実を結ぶ。

妹の最期の願いは，登場人物に姿を変えて描きだされることになる。

自己犠牲的こころをもった蠍。(註21)

みずからの命の危険を顧みず，川に落ちた友だちを救いだすも，力尽きてしまうカムパネルラ，となって。

賢治みずからもジョバンニに姿を変え，妹の化身・カムパネラとともに銀河鉄道に乗りこむ。そして，ふたりいっしょの時を楽しくすごしたのである。

が，不意にジョバンニは気づいた。カムパネラの姿がどこにもないことに。(註22)

すぐさま，「まるで鉄砲丸のやうに立ちあが」り，「窓の外へからだを乗り出して力いっぱいはげしく胸をうって叫」んだ。

「それからもう咽喉いっぱい泣きだし」たのである。(08)

すると，いつのまにか，「さっきまでカムパネルラの座ってゐた席に黒い大きな帽子をかぶった青白い顔の瘠せた大人がやさしくわらって」座っているではないか。(08)

その男は，おもむろに口を開く。

「おまへのともだちがどこかへ行ったのだらう。あのひとはね，ほんたうにこんや遠くへ行ったのだ。おまへはもうカムパネルラをさがしてもむだだ」(08)

ジョバンニはすかさず問う。

「ああ，どうしてなんですか。ぼくはカムパネルラといっしょにまっすぐに行かうと云ったんです」(註23)(08)

その大人は答える。

「あゝ，さうだ。みんながさう考へる。けれどもいっしょに行けない。そしてみんながカムパネルラだ。おまえがあふどんなひとでもみんな何べんもおまへといっしょに苹果をたべたり汽車に乗ったりしたのだ。だからやっぱりおまへはさっき考へたやうにあらゆるひとのいちばんの幸福をさがしみんなと一しょに早くそこに行くがいゝ，そこでばかりおまへはほんたうにカムパネラといつまでもいっしょに行けるのだ」(註24)(08)

ここにいたって，妹・トシへの個人的想いは，あらゆる人への想いへと昇華する。

妹を愛することは，すべての人を愛すること。すべての人を愛することは，妹を愛することだと悟ったのである。

しかもその愛は，ひとり，人間愛にとどまるものではない。

生きとし生きるすべてのものへと連なる普遍的愛なのである。(註25)

その後の賢治は，妹の生まれ変わりのごとく，身を削るような奉仕に一身を捧げていく。

あるときは，貧しい農民のために，無償で肥料や土壌の設計を山ほどこなす。

またあるときは，農業指導に東奔西走。

そのさまは，『グスコーブドリの伝記』で，飢饉に瀕した無縁の人びとを救うために，すすんで身命をなげうつ主人公を彷彿とさせよう。

【賢治と死　④】

ここで時間をさかのぼり，必死の想いで雨雪をとろうとしていた賢治にたち返りたい。

賢治は，妹のために，なるたけきれいなみぞれを選ぼうとし，高やかな雪持松の枝からすくい取ろうと，二切れの御影石材にあぶなく立つ。

そのとき，じつはもうひとつ大切な気づきを得ていた。

その悟りとは……

「あんなおそろしいみだれたそらから」落ちてきたものなのに，

「この雪はどこをえらばうにも
あんまりどこもまつしろなのだ」(04)

ひるがえって，日々，私たちにふりつもる冷たい雪（**冷厳な事実，厳しい状況**）も，どれを選ぼうにも，じつは，どこも真っ白なのではないだろうか。

見上げる山にふりかかる雪も，見下ろす谷にふる雪も，雪に変わりはない。それ自体，きれいも汚いもないのである。

そこに色をつけ，差別し，あるいは排斥するもの。

それは，私たち自身の価値観であり，心なのである。

【賢治と死　⑤】

トシは，若くして死出の旅にでた。

けれども，賢治のなかで昇華され，愛しい精神の花を咲かせることになる。

そればかりではない。

私たちに，不朽の芸術的果実と豊かな心の糧をもたらしてくれた。

そして，賢治とトシは，珠玉の作品のなかで，今も生きつづけている。

註

(註01)『岩手民報』は，「音楽教師と二美人の恋」という

タイトルで，つぎの記事を掲載した。一部のみ転載する。

「幸ひにも退校処分等を受ける様な事はなかつたけれ共，入学以来只一度も『組長』と言ふ名義を外の女に譲つた事のない彼の女……文子（**※トシの仮名**），学術優等品行方正と麗々敷書き記された幾枚かの賞状を重ねて，人からは後ろ指一度指された事のない文子も，一朝恋ひ焦れた先生に，一筋に思ひつめた心の届かぬのみか，ただ先生を驚かした許りで永久にぬぐふべくもあらぬ黒雲に包まれた儘文子の恋は哀れ片恋に終つて了つたのである」(01)

「爾来文子は朝に夕に快からぬ胸を抱いて通学して居たが，我恋の余りに悲惨な運命に呪はれたのに反して貴美子（**※大竹いほの仮名**）と先生の交情が益々濃くなりまさり行くに抑え難い恋心と嫉妬の炎に身を焼きつくさん許りに悩み入つた」(01)

では，なぜ，三日連続で，一般人にすぎない人たちのゴシップ記事を，しかも「真偽とりまぜた記事を出した」(02) だろう？

そのわけを，今野勉は『宮沢賢治の真実』のなかで，つぎのように解説している。

当時，「『岩手民報』と『岩手日報』という県内二紙が対立してい」て，「…それぞれが特定の政党を支持していた」。

「『岩手民報』は，「政党・立憲同志会を支持し，対立する保守政党・政友会を批判する激越な論調を展開。…政友会支持の『岩手日報』に対しても露骨な非難を浴びせていた」。「吐ざいたり日報紙」といった過激な調子で。

「『岩手民報』の『音楽教師と二美人の初恋』は，こうした激しい選挙戦の中で報じられたのである。

…当時，花巻町の住民は同志会，花巻川口町の住民は政友会，と明確に分かれていたのだ。すなわち，立憲同志会＝『岩手民報』＝花巻町であり，政友会＝『岩手日報』＝花巻川口町という構図だったのである。

…宮沢とし子（**※トシ**）の実家は，…花巻川口町の有力な資産家で母方の祖父である宮沢善治につながる。善治は，所得税の納税額で当時，県内十八位であった。宮沢善治が政友会派の後楯にちがいないと記者が考えたであろうことは，想像に難くない。

…さらに，もうひとつ。取材の途中，花巻高女の卒業式の来賓に『岩手日報』の『花巻主任』…が入っていることを知った可能性がある。…立憲同志会の民報の記者は，花巻高女の卒業式に招かれていなかった。自らの新聞が軽んじられたと感じたそのとき，記者の良識の最後のタガが外れたのかもしれない」(12)

トシは，この記者についてこう述べている。

「彼女（**※トシ**）に致命傷を負はせた，あの真偽とりまぜた記事を出した新聞記者をも憎む事は出来なかった。彼女は彼が誰であるかを知つてゐる。彼が享楽主義者で，物質上の貧窮が彼に思ふままの享楽を許さないのを人生最大の不幸な運命としてのろうてゐる様な人である事は彼の書く感想文などからうかがはれた。彼が全くおせっかいにも彼女の名誉を傷つけたと云う事は勿論彼女には大きな傷手であった。殊に家族の心がこれによってどれだけいたんだか，それは正視するのも彼女には恐ろしすぎる事であった。二重の意味で彼女は大打撃をうけた。にも拘らず彼女の心には最初から彼を憎む念が殆ど起らずにしまったのは不思議な事であった。『彼の様な人にはそう見えたのも無理はない』。『なぜ私は誤解されるのが当然な様な馬鹿な危険な事をしたらう？』

…彼女には世間を不当と責める権利がない。彼女は，黙って，人人の与へるものを受けなければならぬ」(02)

ちなみに，『岩手日報』は，大正５年 12 月で廃刊になっている。

ところで，兄の賢治は，いつごろ妹の恋愛事件を知ったのだろう？
新聞が掲載されたとき，実家がある花巻川口町にいたならば，当然，リアルタイムで耳目に飛びこんできたはずである。

当時，賢治はどこにいたのだろう？

弟の宮沢清六も編集に携わった『新校本宮澤賢治全集第一六巻（下）補遺・資料年譜篇』の年譜に，このことは記されていない。

山根知子の『宮沢賢治　妹トシの拓いた道』には，こうある。

「こうした顛末を当時自宅にいて盛岡高等農林への入学試験の準備を進めていた賢治は，どのように受けとめたのであろうか」(01)

たほう，今野勉の『宮沢賢治の真実』には，こう書かれている。

「この時期，賢治は花巻にいなかった。盛岡高等農林学校を受験するため，大正四年一月から盛岡で下宿生活をして勉学に励んでいた。三月末に入学試験があり，四月初旬に合格発表があって，四月八日から授業が始まった。賢治は事件について何も知らされなかった」(12)

いったい，どちらの記述が正しいのだろう？

賢治は，『春と修羅』を「詩集」ではなく，「心象スケッチ」としていたように，そこには賢治の赤裸々な心象（**※心に浮かぶイメージ**）が刻印されている。

それならば，賢治がこの衝撃的事件を知ったなら，その後の心象スケッチに，彼の心象が反映されていないはずがない。

賢治がこの事件を初めて知り，みずからの心象を刻んだのは，いつ頃の，どの作品だろうか。

今野勉によれば，それは，妹の死のおよそ一ヶ月半前（**大正 11 年 10 月 10 日**）。

刻印されたのは『マサニエロ』(04)と，その延長線上にある同時期の文語詩『猥れて嘲笑めるはた寒き』(20)だという。

マサニエッロ（Masaniello）とは，なにか。

オーベールが作曲した歌劇『ポルティチの唖娘』に登場する彼女の兄の名前である。この史実を元にした作品は，兄妹の悲劇を描きだす。

いっぽう，「猥れて嘲笑めるはた寒き」とは，どういう意味だろう？

今野勉は，トシの恋愛事件にからめてこう解釈する。

「狎れ狎れしく猥らにつきあっていて裏で嘲笑うとは何と寒々しいことよ」

それゆえ今野は，賢治がこの時期に恋愛事件を知り，トシの『自省録』を読んだのではないかと推理している。

この仮説を援用すれば，トシが死ぬ前後の，賢治の尋常ならざる心の痛みを，より深く理解できるのではないだろうか。

（註 02）トシから英語を習っていた第 10 回生の柴田キヨ（**※当時二年生**）によると，トシは常々，「人のためになりたい，郷土のために働きたい」と語っていたという。(01)

（註 03）これらのトシの言葉は，彼女が書いた『自省録』から引用している。

トシは，これを恋愛事件の５年後の大正９年２月に書いた。

彼女は，この間の心の痛みや変化，成長について厳しく自分自身を見つめ，鋭い自己分析を加えている。

この文書は，宮沢淳郎（**※賢治の末の妹クニのご子息。彼が『自省録』と名づけた**）が，母親の死後，その遺品の中から見つけたもので，『伯父は賢治』（**※1989 年 2 月出版**）という著書のなかで，はじめて公開した。

（註 04）『無声慟哭』(04)

こんなにみんなにみまもられながら
おまへはまだここでくるしまなければならないか
ああ巨きな信のちからからことさらにはなれ
また純粋やちひさな徳性のかずをうしなひ
わたくしが青ぐらい修羅をあるいてゐるとき
おまへはじぶんにさだめられたみちを
ひとりさびしく往かうとするか
信仰を一つにするたつたひとりのみちづれのわたくしが
あかるくつめたい精進のみちからかなしくつかれてゐて
毒草や蛍光菌のくらい野原をただよふとき
おまへはひとりどこへ行かうとするのだ
　（おら，おかないふうしてらべ）
何といふあきらめたやうな悲痛なわらひやうをしながら
またわたくしのどんなちいさな表情も
けつして見遁さないやうにしながら
おまへはけなげに母に訊くのだ
　（うんにや　ずゐぶん立派だぢやい
　　けふはほんとに立派だぢやい）
ほんたうにさうだ
髪だつていつそうくろいし
まるでこどもの苹果の頬だ
どうかきれいな頬をして
あたらしく天にうまれてくれ
　《それでもからだくさえがべ？》
　《うんにや　いつかう》
ほんたうにそんなことはない
かへつてここはなつののはらの
ちいさな白い花の匂でいつぱいだから
ただわたくしはそれをいま言へないのだ
　（わたくしは修羅をあるいてゐるのだから）
わたくしのかなしさうな眼をしてゐるのは
わたくしのふたつのこころをみつめてゐるためだ

ああそんなに
かなしく眼をそらしてはいけない

（註05）『春と修羅』という心象スケッチのタイトルは，
悟りと迷いの象徴であろう

（註06）「毒草や蛍光菌のくらい野原をただよふとき」の第一形態はつぎのとおり。
「経をよめば暗い蕈のにほいのただようとき」(09)

（註07）『松の針』(04)

さつきのみぞれをとつてきた
あのきれいな松のえだ〔だ〕よ
おお　おまへはまるでとびつくやうに
そのみどりの葉にあつい頬をあてる
そんな植物性の青い針のなかに
はげしく頬を刺させることは
むさぼるやうにさへすることは
どんなにわたくしたちをおどろかすことか
そんなにまでもおまへは林へ行きたかつたのだ
おまへがあんなにねつに燃され
あせやいたみでもだえてゐるとき
わたくしは日のてるとこでたのしくはたらいたり
ほかのひとのことをかんがへながら森をあるいてゐた
《ああいい　さつぱりした
まるで林のながさ来たよだ》
鳥のやうに栗鼠のやうに
おまへは林をしたつてゐた
どんなにわたくしがうらやましかつたらう
ああけふのうちにとほくへさらうとするいもうとよ
ほんたうにおまへはひとりでいかうとするか
わたくしにいつしよに行けとたのんでくれ
泣いてわたくしにさう言つてくれ
おまへの頬の　けれども
なんといふけふのうつくしさよ
わたくしは緑のかやのうへにも
この新鮮な松のえだをおかう
いまに雫もおちるだらうし
そら
さはやかな
terpentine の匂もするだらう　※

※ terpentine……テレピン油。松脂を蒸留してつくる。ねばり気と強い芳香がある。

（註08）「ほかのひと」とは，だれか。
盛岡高等農林学校の同級生・保坂嘉内であり，この時期は，とりわけ3歳年下の稗貫農学校同僚・堀籠文之進であった。
新全集年譜の大正10年12月下旬にこうある。

「堀籠の結婚するまで始終訪ね（翌年一月ころからさらに翌々年の三月ころまで週に一，二度，時には三日も四日も連夜），『日蓮宗聖典』を進呈し，寿量品を一緒に斉唱することもあった。また英語の勉強のため丸善から取り寄せた『アラビアン・ナイト』の原書を読みあった。いつも礼儀正しく挨拶し，必ず宿へ手土産をもっていった」(18)

（註09）『恋と病熱』(04)

けふわたしの額もくらく
烏さへ正視できない
いもうとはちゃうどいまごろ
つめたく陰気な青銅いろの病室で
透明薔薇の火に燃やされだす
ほんたうに　けれども妹よ
けふはわたしもあんまり重くひどいから
やなぎの花もとって行かない

（註10）「Ora Orade Shitori egumo」をひらがなで表せば，つぎのとおり。
「おらおらで　しとりえぐも」（**※私は私で，ひとりで逝くもん**）
なお，この部分がローマ字表記である理由については，諸説ある。

①「もう死期が近づいて来て，ことばが聞き取りにくくなったのであろうか」(11)
②「賢治は，とし子の諦めと悲しみと孤独の言葉を書きとめるのがつらすぎて，あえてローマ字で書いたのだ，と私は思う」(12)
③「トシの言葉が，二人が好きだったアルカデルトのアヴェ・マアの一節『ora ora prono bis』を連想させたからではないか（oraというのは祈りの言葉）」(13)

（註11）この日の朝，トシの病状が急変する。看護婦が脈をとったところ，10秒に2つしか打たなかった。ちなみに，健康であれば，12〜13打つ。(18)

（註12）『永訣の朝』(05)

けふのうちに
とほくへいつてしまふわたくしのいもうとよ
みぞれがふつておもてはへんにあかるいのだ
　　（あめゆじゆとてちてけんじや）
うすあかくいつそう陰惨な雲から
みぞれはびちよびちよふつてくる
　　（あめゆじゆとてちてけんじや）
青い蕈菜のもやうのついた
これらふたつのかけた陶椀に
おまへがたべるあめゆきをとらうとして
わたくしはまがつたてつぱうだまのやうに
このくらいみぞれのなかに飛びだした
　　（あめゆじゆとてちてけんじや）
蒼鉛いろの暗い雲から
みぞれはびちよびちよ沈んでくる
ああとし子
死ぬといふいまごろになつて
わたくしをいつしやうあかるくするために
こんなさつぱりした雪のひとわんを
おまへはわたくしにたのんだのだ
ありがたうわたくしのけなげないもうとよ
わたくしもまつすぐにすすんでいくから
　　（あめゆじゆとてちてけんじや）
はげしいはげしい熱やあへぎのあひだから
おまへはわたくしにたのんだのだ
　銀河や太陽　気圏などとよばれたせかいの
そらからおちた雪のさいごのひとわんを……
……ふたきれのみかげせきざいに
みぞれはさびしくたまつてゐる
わたくしはそのうへにあぶなくたち
雪と水とのまつしろな二相系をたもち　(註13)
すきとほるつめたい雫にみちた
このつややかな松のえだから
わたくしのやさしいいもうとの
さいごのたべものをもらつていかう
わたしたちがいつしよにそだつてきたあひだ
みなれたちやわんのこの藍のもやうにも
もうけふおまへはわかれてしまふ
(Ora Orade Shitori egumo)
ほんたうにけふおまへはわかれてしまふ
あぁあのとざされた病室の
くらいびやうぶやかやのなかに　(註14)
やさしくあをじろく燃えてゐる
わたくしのけなげないもうとよ
この雪はどこをえらばうにも
あんまりどこもまつしろなのだ
あんなおそろしいみだれたそらから
このうつくしい雪がきたのだ
　　（うまれでくるたて
　　こんどはこたにわりやのごとばかりで
　　くるしまなあよにうまれてくる）
おまへがたべるこのふたわんのゆきに
わたくしはいまこころからいのる
どうかこれが兜率の天の食に変わつて
やがておまへとみんなとに
聖い資糧をもたらすことを
わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ

(註 13) 二相系とは,「霙が, 雨の『液相』と雪の『固相』の二つの姿を持っているということ」[12]である。
けれども, 賢治においては, これにとどまらない。『永訣の朝』を例にとって, 原子朗はこう説く。

「まず『ふたつのかけた陶椀』がでてくる（欠けているのは幼時から二人で使い古してきたことを暗示しているのだが)。つぎに『ふたきれのみかげせきざい』, そして『二相系』, 最後に『ふたわん』がまた繰り返されている。これらの『二』という数詞は, いうまでもなく精神的に一心同体だった自分と妹の二者を意識し, かつ今後別々の二つの生きかたを余儀なくされた運命をも暗示している」[19]

(註 14)「あぁあのとざされた病室の
　　くらいびやうぶやかやのなかに」[04]

なぜ, 冬なのに, 蚊帳がつられていたのだろう？
また, なぜ屏風が置かれていたのだろうか。
妹のシゲが, 病室の状況についてこう記している。

「ほんとうにあの病室は何と貧弱だったでしょう。高い所に明かり取りにつけた窓は素通しのガラス戸一重で, 外の冷たい空気は遠慮なく部屋に入り込みます。
赤くおこした炭火を火鉢に入れて, 部屋の隅々においたって, 天井は高いし室内が暖まる訳には行きません。
空気が動けばとし子姉さんはすぐにせき込むのです。少しでも空気の動くのを防ごうとかやを吊り, 屏風を回してという具合でした」[07]

(註 15) 賢治には, 2 歳下にトシ, 5 歳下にシゲ, 8 歳下に清六, 11 歳下にクニの兄弟姉妹がいた。二女のクニは,『屋根の上が好きな兄と私』のなかで, そのときの様子を書き記している。

「大正十一年の十一月二十七日，花巻はみぞれでした。
急いで病室を出て，賢さんについて，私も下駄をはいて台所口から庭に出ました。
ビチョビチョと降る雨雪にぬれる兄に傘をさしかけながら，そこに並べてあるみかげの土台石にのって緑の松の葉に積もった雨雪を両手で大事に取るのを茶碗に受けて，そして松の小枝も折って，病室に入りました。
ほんとうにあの病室は何と貧弱だったでしょう。高い所に明かり取りつけた窓は素通しのガラス戸一重で，外の冷たい空気は遠慮なく部屋に入り込みます。
赤くおこした炭火を火鉢に入れて，部屋の隅々においたって，天井は高いし室内が暖まる訳には行きません。
空気が動けばとし子姉さんはすぐにせき込むのです。少しでも空気の動くのを防ごうとかやを吊り，屏風を回してという具合でした。
賢治兄さんは何か言いながら採ってきた松を枕元に飾り，お茶碗の雪を少しづ（※ママ）つさじですくって食べさせてあげましたっけ」(07)

（註 16）『永訣の朝』の初稿では，終わりの部分が，以下のようになっている。

「どうかこれが天上のアイスクリームになって
おまへとみんなとに聖い資糧をもたらすやうに
わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ」(09)

（註 17）「まるで林のながさ来たよだ」というトシの感激は，4 か月前の別荘での出来事が，背景にある。

「七月末のそのころに
思ひ余つたやうにとし子が言つた
《おらあど死んでもいゝはんて
あの林の中さ行ぐだい
うごいで熱は高ぐなつても
あの林の中でだらほんとに死んでもいいはんて》」(04)

このとき賢治は，妹の体調を気遣って，願をかなえてあげることはなかった。
それ以降，トシは寡黙になってしまったという。(12)

（註 18）賢治の『一九二九年二月』という詩のなかに，こうある。

「生もこれ妙法の生
死もこれ妙法の死」(10)

また，『雨ニモマケズ』の一節に，こうある。
「南ニ死ニサウナ人アレバ
行ッテコハガラナクテモイヽトイヒ」(06)

（註 19）賢治の 5 歳年下の妹・シゲによれば，トシのこの言葉は，つぎの経緯で語られたものであるという。

父がお医者様とお話して来られたのか，静かにかやの中に入つてから脈を調べながら泣きたいのをこらえた顔で，
「病気ばかりしてずい分苦しかったナ。人だなんてこんな苦しい事ばかりいっぱいでひどい所だ。今度は人になんか生まれないで，いいところに生まれてくれよナ」と言いました。
としさんは少しほほえんで，
「生まれて来るったって，こったに自分の事ばかりで苦しまないように生まれて来る」と甘えたように言いました。
私はほんとに，ほんとにと思いながら身をぎっちり堅くしていたら，父が，「皆でお題目を唱えてすけて（**※助けて**）あげなさい」と言います。
気がついたら，一生懸命高くお題目を続けていました。そして，とし子姉さんはなくなったのです。
その後は夢のようで，いつ夜になったのかどこで眠ったのか，夜中，賢治兄さんのお経の声を聞いていたようでした。
夜明けに，袴をはいたとしさんが，広い野原で一人，花をつんでいるのがあんまり淋しそうで，たまらなく，高い声で泣いて目を覚ましましたら，賢さんがとんできて，
「何して泣いた？　としさんの夢を見たか？」と差し迫った声で聞いたので，また悲しくなって，
「それだって，一人で黄色な花っことるべかなって言ったっけも」とまた泣きました。(07)

このことは，『春と修羅　第一集』に収められた『青森挽歌』のつぎの箇所に反映されている。

「わたくしたちが死んだといつて泣いたあと
とし子はまだまだこの世かいのからだを感じ
ねつやいたみをはなれたほのかなねむりのなかで
ここでみるやうなゆめをみてゐたかもしれない
そしてわたくしはそれらのしづかな夢幻が
つぎのせかいへつゞくため

明るいいゝ匂のするものだつたことを
どんなにねがふかわからない
ほんたうにその夢の中のひとくさりは
　かん護とかなしみとにつかれて睡つてゐた
おしげ子たちのあけがたのなかに
ぼんやりとしてはいつてきた
《黄いろな花こ　おらもとるべがな》
たしかにとし子はあのあけがたは
まだこの世かいのゆめのなかにゐて
落葉の風につみかさねられた
野はらをひとりあるきながら
ほかのひとのことのやうにつぶやいてゐたのだ
そしてそのままさびしい林のなかの
いつぴきの鳥になつただらうか」(04)

父・政次郎は，お念仏「南無阿弥陀仏」の熱心な信者であり，賢治と激しい宗教論争をくり広げてきた。

「今度は人になんか生まれないで，いいところに生まれてくれよナ」と語ったのは，「南無阿弥陀仏」**(※阿弥陀仏に帰依しますの意)**を唱えることにより，死後，極楽に往生できるとする浄土真宗の教えにもとづくものであろう。

しかしながら，その父が，賢治と信仰をともにするトシのために，お題目「南無妙法蓮華経」を唱え，助けてあげなさいと語ったことは，まことに感慨深い。

なお，「それだって，一人で黄色な花っことるべかなって言ったっけも」というシゲの夢は，『青森挽歌』のなかの「黄いろな花こ　おらもとるべがな」の文言などに連綿とつながっていく。

(註 20) トシの言葉の真意は，彼女が 23 歳**(※大正 9 年 2 月 9 日)**の終わりごろに記した『自省録』**(※ 1920 年 2 月)**の文脈なかで理解される必要があろう。

トシは，こう述べている。

「冷酷な世間を止むを得ず是認する前に，自身を世間に対して冷酷でなかったか，と反省する必要がありはしないか」

「『これが真の愛ではない』と見分けうる一つの路は，それが排他的であるかないか，と云ふことである」

自分たちが「求めたものは畢竟彼等**(※自分たち)**の幸福のみで，それがもしも他の人人の幸福と両立しない場合には，当然利己的に排他的になる性質のものではなかったか？」

自分は，「最早現状に満足せずして高められ浄められるるを求むると云うに躊躇しない」

「盲目な痴愚な愛に満足しない，求めないと云うに躊躇しないであらう」

「凡ての人人に平等な無私の愛を持ちたい」(02)

「『願はくはこの功徳を以て普ねく一切に及ぼし我等と衆生と皆倶に――』と云う境地に偽りのない渇仰を捧げる事は彼女**(※自分)**に許されない事とは思えないのである」(02)

「わがあやまちを許させたまへ
と祈らねばならぬ」

自分には自分を「正当に理解しなかった世の人々を責める資格は，ないのであった。憤りの代わりに謙遜と寛容とを学ばねばならなかった」

「自分の過ちに心を砕かれる事なく，もしもあのまま何事もなく進んでついに一点非の打ちどころのない生活に入り得たとしたら，…真の人間にはなり得なかったかも知れない」

自分が「大乗の煩悩即菩提の世界に憧憬と理想とをおいてゐる事は疑ひなかった。その理想に照らして，今彼女**(※自分)**に苦痛をとほして与へられた賜物の意味を考へる時，…今まで恥辱と悔とに真暗であったとの過去の経験に，思ひもよらぬ光明を見るのである」

また，既述のように，トシが常々，「人のためになりたい，郷土のために働きたい」(01) と語っていたことも踏まえて解釈する必要があろう。

したがって，トシの言葉をつぎのように解釈する今野勉説は，トシの真意を矮小化した見方ではないか，と私は思う。

「こんど生まれてくるとしたら，自分のことばかりで悩み苦しんだような人生は送りたくない。心から愛しあえる人にめぐりあって，二人の愛がみんなへの愛になるようなそんな人生を送りたい」(12)

(註 21) 蠍の話

イタチに見つかり，食べられそうになった蠍は，逃げた拍子に井戸に落ちてしまう。

溺れ死ぬというまさにそのとき。蠍はこういって祈った。

「あゝ，わたしはいままでいくつのものの命をとっ

たかわからない，そしてその私がこんどいたちにとられやうとしたときはあんなに一生けん命にげた。それでもたうたうこんなになってしまった。
　…どうしてわたしはわたしのからだをだまっていたちに呉れてやらなかったらう。そしたらいたちも一日生きのびたらうに。どうか神さま。私の心をごらん下さい。こんなにむなしく命をすてずどうかこの次にはまことのみんなの幸のために私のからだをおつかひ下さい」(06)

(註 22) 以下は,『銀河鉄道の夜　初期形三』(08) より引用。

(註 23)「ありがたうわたくしのけなげないもうとよ
わたくしもまつすぐにすすんでいくから」(04)
を念頭においた言葉であろう。

(註 24) このセリフは,『春と修羅』に収められた『オホーツク挽歌』のつぎの部分の延長線上にあると思われる。

「わたくしがまだとし子のことを考へてゐると
なぜおまへはそんなにひとりばかりの妹を
悼んでゐるかと遠いひとびとの表情が言ひ
またわたくしのなかでいふ」(04)

また,『青森挽歌』のつぎの箇所も，これと連なるであろう。

「　　《みんなむかしからのきやうだいなのだから
　　けつしてひとりをいのつてはいけない》
　ああ　わたくしはけつしてさうしませんでした
　あいつがなくなつてからあとのよるひる
　わたくしはただの一どたりと
　あいつだけがいいとこに行けばいいと
さういのりはしなかつたとおもひます」(04)

　さらに，このセリフは，賢治の童話『手紙四』を想起させよう。
　これは，チュンセという兄と，ポーセという妹の物語である。
　以下の文を読めば，モデルが賢治とトシであり，舞台は『永訣の朝』と同じであることがわかるであろう。

「ポーセは, 十一月ころ, 俄かに病気になつたのです。おつかさんもひどく心配さうでした。チユンセが行つて見ますと，ポーセの小さな唇はな〔んだ〕か青くなつて，眼ばかり大きくあいて，いつぱいに涙をためてゐました。…チユンセは…云ひました。『雨雪とつて来てやろか。』『うん。』ポーセがやつと答へました。チユンセはまるで鉄砲丸のやうにおもてに飛び出しました。おもてはうすくらくてみぞれがびちよびちよ降つてゐました。チユンセは松の木の枝から雨雪を両手にいつぱいとつて来ました。それからポーセの枕もとに行つて皿にそれを置き，さじでポーセにたべさせました。ポーセはおいしさうに三さじばかり喰べましたら急にぐたつとなつていきをつかなくなりました。おつかさんがおどろいて泣いてポーセの名を呼びながら一生けん命ゆすぶりましたけれども，ポーセの汗でしめつた髪の頭はたゞゆすぶられた通りうごくだけでした。チユンセはげんこを眼にあてて，虎の子供のやうな声で泣きました」(15)
その後，チュンセは，妹を「一生けん命そこらをさがしたり考へたりしてみましたがなんにもわからないのです。…けれども私にこの手紙を云ひつけたひとが云つてゐました『チュンセはポーセをたづねることはむだだ。なぜならどんなこどもでも，また，はたけではたらいてゐるひとでも，汽車の中で苹果をたべてゐるひと〔で〕も，また歌ふ鳥や歌はない鳥，青や黒やのあらゆる魚，あらゆるけものも，あらゆる虫も，みんな，みんな，むかしからのおたがひのきや〔う〕だいなのだから。チユンセがもしもポーセをほんたうにかあいさうにおもふなら大きな勇気を出してすべてのいきもののほんたうの幸福をさがさなければいけない。…チユンセがもし勇気のあるほんたうの男の子ならなぜまつしぐらにそれに向って進まないか』」(15)

　ところで，カムパネルラのモデルとして，以下の二つの主要な説がある。

> ①「**カムパネルラ＝トシ**」**説**。
> ②「**カムパネルラ＝保坂嘉内（1896～1937）**」**説**。(16・17)

　保坂は，盛岡高等農林学校の同級生であり，親友でもあった。
　が，執筆当時，信仰や方向性の違いにより，実質的に決別している。
　では，どちらが，カムパネルラの中心的モデルなのか。
　『銀河鉄道の夜　初期形三』と『手紙四』(註22) の類似に鑑みれば，亡くなったカムパネルラ（**※自己犠**

牲的精神の持ち主）の最終的モデルが，死せる妹・トシである，と私は考える。執筆当時，生ける保坂の要素が，少なからず盛りこまれていたとしても。

（註 25）このことは，『注文の多い料理店』や『なめとこ山の熊』，『よだかの星』などを読めば明らかであろう。

引用文献

（01）山根知子.（2003.9.21）. 宮沢賢治　妹トシの拓いた道. 朝文社.
（02）宮沢淳郎.（1989.2.25）. 伯父は賢治. 八重岳書房.
（03）畑山博.（1988.11.20）. 教師　宮沢賢治のしごと. 小学館.
（04）宮澤賢治.（1995.7.25）. 新校本　宮澤賢治全集第二巻　詩Ⅰ本文編. 筑摩書房.
（05）宮沢賢治　著／天沢退二郎　編.（1991.7.30）. 宮沢賢治詩集. 新潮社.
（06）宮澤賢治.（1997.7.30）. 新校本　宮澤賢治全集第十三巻（上）　覚書・手帳　本文編. 筑摩書房.
（07）岩田シゲ，他.（2017.12.20）. 屋根の上が好きな兄と私. 蒼丘書林.
（08）宮澤賢治.（1995.9.25）. 新校本　宮澤賢治全集第十巻　童話Ⅲ　本文編. 筑摩書房.
（09）宮澤賢治.（1995.7.25）. 新校本　宮澤賢治全集第二巻　詩Ⅰ校異編. 筑摩書房.
（10）宮澤賢治.（1995.8.25）. 新校本　宮澤賢治全集第五巻　詩Ⅳ本文編. 筑摩書房.
（11）紀野一義.（1968.5.8）. 佛との出会い. 筑摩書房.
（12）今野勉.（2017.2.25）. 宮沢賢治の真実. 新潮社.
（13）萩野貞樹　監修.（2006.11.24）. 宮沢賢治. リヨン社.
（14）宮澤賢治.（1996.1.25）. 新校本　宮澤賢治全集第十一巻　童話Ⅳ本文編. 筑摩書房.
（15）宮澤賢治.（1995.11.25）. 新校本　宮澤賢治全集第十二巻　童話Ⅴ･劇･その他　本文編. 筑摩書房.
（16）菅原千恵子.（1997.11.25）. 宮沢賢治の青春. 角川書店.
（17）江宮隆之.（2008.2.19）. 二人の銀河鉄道　嘉内と賢治. 河出書房新社.
（18）宮澤賢治.（2001.12.10）. 新校本　宮澤賢治全集第十六巻（下）　補遺・資料　年譜篇. 筑摩書房.
（19）原子朗.（1981.6.30）. 鑑賞　日本現代文学第 13 巻　宮沢賢治. 角川書店.
（20）宮澤賢治.（1996.10.10）. 新校本　宮澤賢治全集第七巻　詩Ⅳ本文編. 筑摩書房

参考文献（※引用文献を除く）

伊藤信吉・伊藤整・井上靖・山本健吉　編.（1968.3.5）. 日本の詩歌 18　宮沢賢治. 中央公論社.
山下聖美.（2008.9.20）. 宮沢賢治のちから. 新潮社.
山下聖美.（2002.9.20）. 検証・宮沢賢治の詩　Ⅰ「春と修羅」. 鳥影社.
佐々木賢二.（2011.5.30）. 宮澤賢治『銀河鉄道の夜』の真実を探って. 誠文堂新光社.
伊藤信吉.（1968.10.30）. 詩のふるさと. 新潮社.
宮沢清六.（1991.12.4）. 兄のトランク. 筑摩書房.
吉本隆明，天沢退二郎，山折哲雄，他.（2010.6.10）. 宮沢賢治を旅する. 小学館. サライ 7 月号，22（7）：18-83.
堀尾青史.（1991.1.25）. 年譜　宮澤賢治伝. 中央公論社.
山内修　編著.（1989.9.18）. 年表作家読本　宮沢賢治. 河出書房新社.
竹内清乃　編集.（2014.5.21）. 宮沢賢治　おれはひとりの修羅なのだ. 平凡社. 別冊太陽　日本のこころ 218.
宮沢賢治.（1990.12.20）. 銀河鉄道の夜. 集英社.
宮沢賢治.（1996.5.25）. 銀河鉄道の夜. 角川書店.
天沢退二郎　編.（2001.4.1）. 宮沢賢治万華鏡. 新潮社.
天沢退二郎　編.（1996.6.25）. 宮沢賢治ハンドブック. 新書館.
天沢退二郎.（1986.9.30）.《宮沢賢治》鑑. 筑摩書房.
天沢退二郎.（2009.7.25）.《宮沢賢治》のさらなる彼方を求めて. 筑摩書房.
天沢退二郎・中村稔　他.（1973.12.1）. 國文學　解釋と鑑賞　宮沢賢治の世界. 至文堂.
天沢退二郎・栗原敦・杉浦静　編.（2011.5.10）. 図説宮沢賢治. 筑摩書房.
栗原敦.（2005.10.1）. 宮沢賢治. NHK 出版.
上田哲　他.（1996.3.25）. 図説　宮沢賢治. 河出書房新社.
山下聖美.（2017.3.1）. 宮沢賢治スペシャル. NHK 出版.
堀尾青史.（1991.1.25）. 年譜　宮澤賢治伝. 中央公論社.
見田宗介.（2001.6.15）. 宮沢賢治　存在の祭りの中へ. 岩波書店.
井上ひさし.（2002.12.10）. 宮澤賢治に聞く. 文藝春秋
小柳学.（2004.11.25）. 宮沢賢治が面白いほどわかる

本．中経出版.
栗谷川虹．(1997.1.25)．宮沢賢治　異界を見た人．角川書店.
桜田満　他　編．(1974.8.30)．現代日本文学アルバム第 10 巻　宮澤賢治．学習研究社.
原子修．(1993.4.15)．宮澤賢治論―銀河のいざない―．土曜美術社出版販売.
丹治昭．(1996.10.15)．宗教詩人　宮沢賢治．中央公論社.
西田良子　編．(1992.2.1)．宮沢賢治を読む．創元社.
金子民雄．(1984.9.1)．みちのくのメルヘン　宮沢賢治イーハトヴの世界．そしえて.
田口昭典．(2006.9.21)．宮沢賢治と法華経について．でくのぼう出版.
坂本幸男･岩本裕　訳注．(1991.6.26)．法華経(上)(中)(下)．岩波書店.
植木雅俊．(2015.3.24)．サンスクリット原典現代語訳法華経（上）（中）．岩波書店.
植木雅俊．(2018.4.1)．NHK テキスト法華経．NHK 出版.
植木雅俊．(2011.10.25)．仏教，本当の教え．中央公論新社.
橋爪大三郎・植木雅俊．(2015.10.10)．ほんとうの法華経．筑摩書房.
紀野一義．(1985.7.2)．賢治の神秘．佼成出版社.
紀野一義．(1982.6.20)．「法華経」を読む．講談社.
紀野一義．(1983.3.25)．名僧列伝（三）　念仏者と唱題者 1．角川書店.
紀野一義　他．(1980.6.1)．8 人の祖師たち．水書坊.
紀野一義・梅原猛．(1969.9.10)．仏教の思想 12　永遠のいのち〈日蓮〉．角川書店.
梅原猛．(1985.7.2)．賢治の宇宙．佼成出版社.
鳥山敏子．(1996.2.27)．賢治の学校．サンマーク出版.
畑山博．(1988.11.20)．教師　宮沢賢治のしごと．小学館.
松原泰道．(1983.7.5)．法華経入門．祥伝社.
佐々木閑．(2017.4.5)．集中講義　大乗仏教　こうしてブッダの教えは変容した．NHK 出版.

Miyazawa Kenji and His Sister Toshi

ENDOH Hitoshi

Abstract

Kenji Miyazawa (27 August 1896 – 21 September 1933) was a Japanese novelist and poet born in Hanamaki, Iwate Prefecture. He and his younger sister Toshi (5 November, 1898 – 27 November, 1922) worshiped the Lotus Sutra and Nichiren Buddhism. Meanwhile , his family except them worshiped Jodo Shinshu, founded by Shinran Shonin (Saint Shinran).

After graduating from Japan Women's University in Tokyo, Toshi returned to her hometown Hanamaki and became a teacher at her alma mater.

But, about a year later, Toshi had pulmonary tuberculosis and left school. In addition, her condition was getting worse and she was almost dying.

Afraid of death, Toshi turned to her brother Kenji , who had same religion, to seek salvation. However, at that time, Kenji was losing faith and suffering deeply. He could not even stare at his sister.

Toshi asked him to take the sleet.

Suddenly Kenji understood the true meaning of her word when he was picking up the sleet from pine tree in home garden. The intent was to save her brother.

After his sister's death, Kenji regained his faith, wrote many wonderful poems and fairy tales, and helped poor peasants.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Management
No.1, 27－51, 2020

秋葉原通り魔事件の真相②

遠　藤　　均

【序　①】

秋葉原通り魔事件（**無差別殺傷事件**）は，日本国中に一大センセーションを巻きおこした。事件の悲惨さもさることながら，犯人の動機があまりに不可解であり，さまざまな憶測や論争をまき起こしたからでもある。

私も，大きな衝撃を受けた。その理由のひとつに，私にとって秋葉原は，学生時代，クラシック音楽のお宝を掘りだし，理想的音響機器を求め試聴を重ねた「夢の国」だったことがある。

そこで私は，各種新聞記事を集め，特集された週刊誌を買いこみ，本も多数購入した。そして，これらの資料をもとに，事件に対する私自身の見解を形づくっていったのである。

ところが，なんということだろう。加藤自身の著作により，事件を解明するための原典が，あらかたまがい物であることが明らかとなったのである。

私にとって，第二弾の衝撃だった。これまでの研究の成果や土台が，ガラガラ音を立てて崩れ去ったのだから。

そのとき思った。

「この事件について語ってきた手前，振出しにもどって研究を一からやり直す責任がある」，と。

そこで私は，５年前に研究を再開することになる。

ところが情ないことに，竜頭蛇尾も蛇尾。とつぜん蜥蜴の尻尾に変わって切れた。何カ月も集中し，真剣にとり組んできたにもかかわらず。

いったい，どうした，自分⁉

なにを隠そう，神経がレッドゾーンに突入してしまったのである。

というのは，真相究明のため，加藤の心理を追体験しようと試みた。

が，加藤の過去も現在も八方ふさがり。どこにも救いが見いだせない。そのため，深入りすればするほど，陰々滅々たる深淵に飲みこまれてしまったのである。

「朝起きて，じつは自分が加藤だったらどうしよう」

こんな馬鹿げた妄想に悩まされたことさえあった。

――翌年もあえなくノックアウトをくらう。

二度あることは……

三度目の正直‼

一昨年やっと半分まで書くことができた。

そして，昨年から今年にかけて，なんとかかんとか仕上げることができたのである。

とはいえ，まだまだ基礎工事を終えたにすぎない。

いずれは，この上に家を建てるつもりである。痛ましい悲劇がくり返されぬよう。そして，よりよい世界を築くために。

【序　②】※再録

秋葉原通り魔事件（**秋葉原無差別殺傷事件**）は，2008年（**平成 20 年**）６月８日，東京の秋葉原で起きた。痛ましいことに，７人が死亡し，10 人が負傷している。

この事件については，おびただしい報道がなされ，幾多の有識者も，その動機などについて，様々な分析を加えてきた。

だが，犯人の加藤智大（**事件当時 25 歳**）は，「捜査機関から発表される情報の大半は事実では」[01] なく，しかも，彼が知る限りでは，「事件の真相を見通すことができている有識者はひとりもい」[01] ない，とまで断言する。

彼の言葉に耳を傾けてみよう。

「捜査機関から発表される情報の大半は事実ではありません。代表的なものは『調べに対し，××と供述している』とか『捜査で××だということがわかった』などとされるものです。報道各社は，たとえそれが嘘であろうが，そのように発表されたものをただ右から左に流しているだけなのです。そうして捜査機関が創り出した架空の事件が全てのベースになってしまっているために，『有識者』は，実在しない幻の犯人の心理を一生懸命になって解き明かそうとするはめになっているのでした」[01]

加藤によれば，精神鑑定も信憑性に欠けるという。

「建前上，捜査機関とは独立して中立的な立場で精神鑑定を行っているとされていますが，実態は，精神科医の肩書きで捜査側が創作した事件のストーリーにお墨付

きを与える作業が精神鑑定というものです。

…供述調書とはデタラメなもの。…精神鑑定は，その供述調書を元にして行われます。実際，鑑定書の中身のほとんどが，…供述調書の丸写しです。鑑定医は，私ではなく，捜査側が創作した動機・経緯・犯人像の分析をするだけです。

確かに面接も行われはしましたが，結局は取調べと同じことです。私が話してもいないことが話したことかのように鑑定書に書かれました。『供述調書にはこう書いてある。本人も面接でこう話している。だから供述調書は信用できる』というのが鑑定書の趣旨であり，私の精神鑑定というより私の供述調書を『鑑定』しているようなものです」(02)

捜査機関も精神鑑定も歪められたものであるとすれば，それらを基にする裁判も，歪んだものにならざるをえないだろう。

加藤は確言する。

「捜査機関は事件の真相，事件の全容を解明するための組織ではありません。精神鑑定も捜査機関が歪めた事件を正当化する作業にすぎず，そんな精神鑑定書を信用できるものとして証拠に採用した裁判でも，事件は歪んだままです」(1)

捜査機関や有識者，精神鑑定，裁判までもが事件の真相を伝えてはいないとすれば，それらをソースとして報道する報道機関も，真実を伝えることは望みがたい。

「捜査機関が捜査で得た情報は，大手メディアを使って広報されることになります。そこから，私が話してもいないことが私の話として，また，事実ではない関係者の話が事実として，ひとり歩きしていきます。誰も裏付けを取りません。

…情報を受け取った側では，捜査機関は正義であるという思い込みと，大手メディアが伝えるのは事実だという思い込みから，創られた事件に疑問を持ちません」(02)

メディアが正しい情報を伝えていないとすれば，そこから情報を得ている国民も，事件を歪んだ形で理解したつもりになっていることになろう。

それでは，この事件の真相を知るにはどうすればいいのだろうか。

加藤はいう。

「本の形にするのは，唯一，何のフィルターも通さない方法です」(02)

しかしながら，加藤自身にとっても，初めから事件の真相がはっきり見えていたわけではない。

「そもそも私は，取調べ時から何故自分が事件を起こしたのかわかっていませんでした。…世間知らずな私は，捜査機関は事件の真相を明らかにするために捜査をしているのだと信じきっていたことと，殺人事件の動機は不満や怒り，という誤った常識を疑うことがなかったことが原因です。４年以上かけて，ようやく事件とは何なのかが見えてきました」(02)

こうして加藤は４年以上の歳月を費やし，事件の真相に達することになる。そして，その成果をつぎの４冊の本にまとめ，上梓（じょうし）した。

①『解』.	(2012.7.10)
②『解＋』	(2013.4.10)
③『東拘永夜抄』	(2014.1.25)
④『殺人予防』	(2014.8.10)

こられの本は，自身の犯行やそこにいたる心理プロセスを解明したものであり，犯罪者みずからが，これほど深く分析したものはまれであろう。それゆえ，たんに「秋葉原通り魔殺人事件」の真相を知るためだけにとどまらない。多くの犯罪にいたる心理学的プロセスの研究や道徳教育，倫理学，犯罪予防にとっても，きわめて有益な資料となりうるであろう。

なお，既述のように，この事件は，第三者の歪んだフィルターを通すことによって，真実からほど遠いものになってしまった。

それゆえ本稿では，あえて，本人の言葉をできるかぎり収録しようと意を注いだ。

【序　③】

『星槎道都大学紀要　経営学部　18 号（P.47～59）』（2019 年 3 月）で，『秋葉原通り魔事件の真相①』を発表した。(09)

今回の小論は，このテーマの後半にあたる。

『秋葉原通り魔事件の真相①』では，P.47～53 の記述に加え，以下のことも事件を招いた主因であるとし，「A.

母親の性格と価値観（**考え方**），そしてしつけ（**教育**）という名の虐待」まで述べた。

A. 母親の性格と価値観（**考え方**），そしてしつけ（**教育**）という名の虐待

B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（**考え方**），そしてそれらがつくり出した現実

Ⅰ.「人のせいにする考え方」(06)
すべてか無か思考
母親との主従関係による主体性と当事者意識の喪失

Ⅱ.「掲示板のトラブル」(06) と「掲示板でのトラブルをトラブルにしてしまった私（**※加藤**）の性格」(06)

Ⅲ.「痛みを与えて相手の間違いを改めさせようとする私（**※加藤**）のものの考え方」(06)

Ⅳ.「言葉ではなく，行動で示して周りにわかってもらおうという考え方」(04)
「どうして怒っているのかを言わない性格」(06)

Ⅴ.「社会との接点の少なさ（**孤立している時間**）を全て掲示板でカバーしていた私（**※加藤**）の生活」(06)

Ⅵ. やらない理由がない（**失うものがない**）という状況
「『やらない理由』が極端に小さいこと」(02)

Ⅶ. 相談するという発想がなかったこと

Ⅷ. 想像力の不足
他人の痛みがわかりにくい

Ⅸ. 自分が「不細工」であることをネタにしていたこと

Ⅹ. 懲役を避け，死刑の道を選択した誤り

今回は，まず，「B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（**考え方**），そしてそれらがつくり出した現実」のⅠ～Ⅹまでを検証する。

つぎに，「加藤の証言の検証」をおこない，最後に，「結語」を述べたい。

【秋葉原無差別殺傷事件　⑧】

B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（**考え方**）
Ⅰ.「人のせいにする考え方」(06)
すべてか無か思考
母親との主従関係による主体性と当事者意識の喪失

加藤の認知には，「人のせいにする考え方」と，「すべてか無か思考」いう癖がある。

このことも，行く先々（ゆきさきざき）で，彼の人間関係や境遇に暗い影を落としていった。

加藤はいう。

「たとえ私の生活と掲示板の利用の仕方に問題があり，掲示板でトラブルがあったとしても，私のものの考え方が違っていれば事件には至りませんでした。思えば，私の性格は問題だらけであり，この人のせいにする考え方もそのひとつです」(06)

「何故人は私が人のせいにしていると批判するのか，何故私は人が私のせいにしていると感じるのかを考えたところ，私のものの考え方に問題があることに気づきました。過失割合の問題がそうです。私には 100％相手が悪いか，100％自分が悪いかの二択しかありませんでした。私のこの考え方が原因で，例えば，客観的に見て 6 対 4 ぐらいで相手が悪いトラブルであっても，私が 10 対 0 にしてしまう…ために，人のせいにしていると感じることになっていました」(06)

それではなぜ，加藤は，このような考えをもつにいたったのだろう？

「母親の価値観が全ての基準です。その基準を外れると母親から怒られるわけですが，それに対して説明することは許されませんでした。一応，『なんで○○しないの』と怒られるのですが，『なんで○○しないの？』ではなく，『なんで○○しないの！』と，質問ではなく命令でした。『なんで○○しないの』と言われて説明しても『そんなことはいいから○○しなさい』とさらに怒られるだ

けなのですから，私は次第に何も言わなくなりました。

私のやり方も同様です。誰かが私に対して，私の価値観で間違ったことをしてくると，私は怒りました。…相手が100%悪いと考えています。相手が何を言ってきても全く耳を貸さず，時には力ずくで黙らせましたから，私は天下の嫌われ者になりましたが，そのことすら，どうして自分が悪いくせに私を悪者にするのか，と不快に思っていました。私が親に対して自分が全て悪いと考えて対応していたように，私から攻撃された相手も自分が全て悪いと考えて対応してくれるものと思っていたからです」(06)

「これは幼少の頃の親，特に母親から受けた養育の結果だということになりそうですが，このように書くと，人のせいにしている，と批判されるのでしょう。…しかし私は，テレビやマンガ等を制限されるように，外から得られる情報を減らされ，つまり，相対的に母親から受ける影響が大きい環境におかれ，また，母親の価値観が絶対的に正しいものとされる中で育てられてきました。他に選択肢が無い私が母親のコピーになっていくのは，私の責任ではありません」(06)

しかし，加藤が帰属していたのは家庭ばかりではない。

言うまでもなく，学校にも属していた。

なのに，なぜ，このような極端な考え方が少しも修正されなかったのか。

加藤は回想する。

「学生時代の教師らも，ただ頭を押さえつけ，正しい自分に従わせようとする，タイプとしては私の母親に近い人ばかりでしたから，私が何かやらかすたびにただ感情的に怒りをぶつけられるばかりであり，考えるきっかけが得られなかった」(06)

それでも，通常，社会に出れば，修正を余儀なくされるはずである。

にもかかわらず，どうしてそんな極端な考え方を維持できたのだろう？

これについて，加藤は述べている。

「社会に出て様々な価値観に触れることができるようになってもなお自分の間違いに気づけなかったのは何故かと考えると，我慢することを覚えたからだと思われます。たとえ10対0で相手が悪くても，私が我慢すれば全て丸く収まることを知り，実際にもそうすることで，トラブルが表面化せず，人から嫌われなくなり，見かけ上うまくいっていたために，問題に気づかなかったのかもしれません。また，我慢できないものは『まあいいや』と，トラブルをトラブル相手ごと自分から切り落としてきたために，やはり考える機会を作れなかった。

…もし私にこの考え方が無ければ，ハンドルネームを入力していない自分も悪いのかも，と考えることができたと思います」(06)

「私には，100%相手が悪いか，100%自分が悪いかの二択しかありませんでした」という考え方は，まさしく「認知行動療法」における「認知の歪(ゆが)み」のひとつ，「全(すべ)てか無か思考（all-or-nothing thinking）」，「黒白思考（black-and-white thinking）」，「二分割思考（dichotomous thinking）」にほかならない。

「全(すべ)てか無か思考（**黒白思考，二分割思考**）とは，なにか。

曖昧(あいまい)な状態（**灰色**）に耐えられず，いつも白黒はっきりさせておかないと気がすまない。そして，

「完全か不完全か」

「全てか無か」

「百点満点か零(れい)点か」

「善か悪か」

「良いか悪いか」

「あれかこれか」

といった極端な二者択一的思考で割り切ろうとする。

「完璧にできないならやる意味がない」といった完全主義も，これの一形態。

けれども，現実（**日常生活，社会，組織，会社，学校など**）においては，完全であることも，曖昧さがないことも，白黒で割り切れることもまれである。

だから，こういう認知をもつと，現実との齟齬(そご)をきたし，うつ病を呼びこみやすくなってしまう。(10)

このような歪(ひず)んだ考え方をしていては，自分をとり巻く状況や精神状態が時間の経過とともに悪化していくのは，自然な流れであるといえよう。

【秋葉原無差別殺傷事件　⑨】

B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（**考え方**），そしてそれらがつくり出した現実

Ⅱ.「掲示板のトラブル」(06) と「掲示板でのトラブルをトラブルにしてしま」った私（**※加藤**）の性格」(06)

幼いときから，酷薄(こくはく)な家庭環境で育った加藤は，それ

だけ深く，温かい人間関係や愛情に飢えていたにちがいない。

けれども，リアルな世界では，手にすることは叶(かな)わなかった。

そこで加藤は，ネットの世界にそれを求めたのである。

ところが，「成すまし」や「荒らし」は，無残にも，彼の最後の砦(とりで)を破壊つくしてしまう。

加藤の怒りは，すさまじかった。

彼の異常なまでの掲示板への執着（**渇愛，愛着**）は，「成すまし」や「荒らし」への途方もない殺人的憎悪へと姿を変えていくことになる。

「家での生活は，苦痛でした。母親の絶対的支配下にあり，常に緊張し，警戒していなくてはいけません」(03)

「私は『母親』など求めてはいません。…私が求めているのは，誰かのために何かをする，その『誰か』なのです。母親とは限りませんし，女性とも限りません。それこそ，誰でもいいのです」(01)

「私はひとりでは生きられない人間でした。誰かのために何かをしていなくては生きていられず，…私には，誰かのために何かさせてくれる，その『誰か』が必要でした。…例えば，私は楽器を弾きたいと思っても練習する気になりません。…私は，自分のための努力をしないだけです。楽器を弾ける私を誰かが必要とするなら，私はその人のために楽器の練習を始めます（**嫌いな相手は除きますが**）。私はそういう人間なのです」(01)

「私には『自分』がありませんので，純粋に自分のため生きるということができませんが，『誰か』のために何かさせてもらえるなら，生きられます。『誰か』から評価され続けるなら，生きていた方が得な気もします。

『自分』がない，とは，自分で自分のために何かをすることができないということです。やってみても，続きません。私には『誰か』が必要です。『誰か』のために何かをすることで，はじめて私は『自分』を手にいれることができます。

そして，おそらくは，誰にとっても『誰か』の存在が，『やらない理由』にできる源なのではないかと思いました」(02)

「他の人やものではなく，自分自身も『誰か』になります。私には『自分』がないと書きましたが，全くないわけでありませんでした。嫌なことは全力で回避します。例えば，懲役は嫌，という自分のために懲役を回避したようにです。ただ，私に欠けているのは，将来の自分の得を考えることです。将来の自分は今よりよくなっていることを楽しみにできれば，それも『やらない理由』になるでしょう」(02)

「予定が多ければ多いほど，安全です。先の予定が楽しみなことで埋まっていれば事件など起こさないはずであり，問題は，何の予定もない人です。私など，スケジュール帳を持つ必要もないほど，予定らしい予定のない人生でした」(02)

「私は，誰かのために何かをし，評価をされなくては，生きていけない人です。正確には，評価をされ続けなくてはいけないということです。評価が途切れると，急に不安になります。自分がこの世に存在しているのか，という不安です。だから私は『誰か』を求めます。誰かのために何かをさせてもらえる，その『誰か』です。

評価の形は様々です。言葉であったり，金品をもらうのもそうですが，しかし，それらは一瞬で終わってしまうものです。一方，一緒にいてもらえるということは，評価をされ続けているということです。誰かと一緒にいれば，安心します。一緒にいてくれる，というのは，私にとって，自分が最高に評価されていると思えます」(02)

「現実(リアル)で物理的に誰かとずっと一緒にいるのは，現実的に考えて，ほぼ不可能なことです。しかし，掲示板であれば，ケータイを持ち，料金を払い，電波があれば，必要な時にはいつでも誰かと一緒にいる状態を作ることができますから，安心でした。誰かが一緒にいれば，その人から評価してもらえます。現実(リアル)で誰からも評価してもらえない状態になっても，掲示板に行けば，そこに誰かがいて，評価してもらえます。いつでも，どこからでも一瞬で行けるという点も，掲示板のいいところでした」(02)

「ひとりの時間ができると，掲示板へのアクセスする頻度が自然に高まりました。というより，ケータイを手離さずに，常時アクセスしているようになりました。

…私と一緒にいる人の頭に中には私がいます。私と一緒にいる時間の長さは，そのまま，相手が私のことを考えている時間の長さになります。ですから私にとっては，一緒にいる時間の長さが長い人ほど親しく感じます。一緒にはいられない昔からの友人と，いつも一緒にいてくれる掲示板上の友人とで，優先順位が入れ替わってしまいました。

すると，生活が掲示板中心になります」(06)

「現実(リアル)の穴埋めのためにやっているはずの掲示板なの

に，いつの間にか，掲示板があればそれでいいような状態になってしまいました。現実（リアル）より掲示板を優先させるということではありません。あくまでも現実（リアル）が優先させてはいるのですが，現実（リアル）の穴埋めを現実（リアル）でする努力をせず，すぐに掲示板をやるようになったということです。

掲示板にはいつも誰かがいる，というのは，メリットでもあり，デメリットでもありました。掲示板上の友人という特定の誰かであれ，通りすがりの誰かであれ，そこに誰かがいて，私に評価を返してくれるという点は同じです。そのように，誰かがすぐに返信してくることに慣れてしまうと，『すぐには評価されないこと』に耐えられなくなります。掲示板中毒とは，この『即レス中毒』なのだと気づきました」(02)

「評価を『前払い』でもらえることもあります。期待される時です」(02)

「実は私は，拘置所では監視カメラなしの単独室に収容されています。自殺できないようにタオルや衣類，歯ブラシやボールペンなどは使用時以外は居室の外で保管される人もいる一方，私は全て自己管理が認められています。もちろん最初からそうだったわけではありません。入所後，数年してそのように処遇が変更になったのです。はっきりしたことはわかりませんが，どうも，担当の職員が『自殺のおそれはない』と太鼓判を押してくれたためにそうなったようです。そうであるならば，私としては，その職員（**心当たりがあります**）のためにも，また，私を信用して処遇を変更した拘置所のためにも，自殺するわけにはいきません。根拠もなく自殺を疑われてカメラ付きの部屋に戻されたり『保護』されたりしたならお望み通りに自殺してやろうかという気にもなるでしょうが，そのようなことは今のところされておらず，私は自殺しないことを期待されています。誰かのために何かをできるというのは幸せなことですが，拘留所側の期待に応えるのも，誰かのために何かをしているといえるでしょう。この点だけでも『生きている意味』があります。

また，『生きている意味』は自ら作るものです」(01)

【秋葉原無差別殺傷事件　⑩】

B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観(**考え方**)，そしてそれらがつくり出した現実
Ⅲ.「痛みを与えて相手の間違いを改めさせようとする私（**※加藤**）のものの考え方」(06)

加藤は，みずからの人生をふり返ってこう語っている。

「私は，不満を持った相手の心身を痛めつけることで『しつけ』をし，不満な言動を修正させようとしたことは数多くありました。ちょっとした暴言・暴力から自殺や殺人といった『命がけ』のものまで，様々です」(585／P.212)

かくのごとく，加藤の人生は，他人に対する「しつけ」の連続であり，そのたびごとに，彼の生活は，どんどん袋小路（ふくろこうじ）に追いつめられていった。

その事例を，時系列に沿って，列挙（れっきょ）したい。

① 加藤は，中学のとき，交際していた女子にしつけをしている。

「私は中学生の頃，交際していた女子に対して『しつけ』をしました。『浮気』をしたからです。いわゆる浮気ではありません。私のいう『浮気』とは，私以外の人，物に意識を向けることです。私と一緒にいる時に私から意識を逸らせば，『浮気』なのです。それに対して私は，彼女の顔をわし摑みにすることで『しつけ』をしました」(03)

② 加藤は，母親に対しても「しつけ」をおこなっている。

彼は，工業高校か私立の自動車科に行きたかったが，「大学に入ったら車を買ってあげるから」(03) という母親の殺し文句に釣られ，青森県内で一番の進学校に進学した。

その後，母親の意向である北大ではなく，工業大学を目ざすと言ったところ，あからさまに嫌な顔をされた。そのさい，加藤が，工業大学でも大学に入ったら車を買ってくれるのかと確認したところ，母親はこう言い放つ。

「そんな約束，してない！」(03)

この言葉を受け，加藤は，こう思った。

「『そんな大学なら車は買ってやれない』というのであれば一定の理解はできます。しかし，あろうことか母親は，約束自体をなかったことにしました。

これは，明らかに母親が間違っています。

…約束をなかったことにするという間違ったことをする母親に対して正しいのは私であり，正しい私は間違っている母親を『しつけ』しなくてはなりま

せん。

そこで私は，大学進学そのものを拒否することで母親の悲願である『大学生の息子の親になる』という夢を潰し，『しつけ』をしたのです」(03)

けっか，整備士になる気もないにもかかわらず，『自動車ディーラー』に整備士として就職するための短期大学に，「ただ遊びに行くことにした」のだった。(03)

ところで，加藤は自動車に強い興味をいだいていたにもかかわらず，2004 年の春まで免許証を取得しなかったのはなぜだろう？

それも，「母親が『大学に行ったら車を買う』という約束を反故（ほご）にしたことへのアピール」(04) であった。

③短大入学後，今度は父親に「しつけ」をおこなう。
整備士の資格を取るための学校で，整備士の資格を取らないことによって。

「短大卒業直前，私は学校から 20 万円の奨学金を貰いました。それは，父親の銀行口座に振り込まれました。しかし，父親はそれを私に渡しません。遊興費にでもしたのでしょう。私はその間違ったことに対し，整備士の資格を取るための学校を資格を取らずに卒業してやりました。数百万円をドブに捨てた痛みで父親を改心させようとしたものです。ところが父親は，『どういうつもりだんず‼（訳：どういうつもりなのか）と，自分がしたことを棚上げして逆ギレしてきました。

（どういうつもりって，そっちこそどういうつもりだよ）

そう思っても，口には出しません。言うだけ無駄です。話にならず，私はもう父親とは二度と関わりたくないと思いました」(03)

④ 2003 年 7 月，短大を卒業した加藤は，人材派遣事業などを幅広く手掛ける仙台の会社で準社員として働き始める。が，2005 年 2 月末，会社を「しつけ」るために退職してしまう。
いったい，どんなトラブルがあったのだろうか。

「人件費がかかりすぎる，という理由で時給から固定給にされて残業代が支払われなくなったこと，指示されて進めていた作業をひっくり返されたこと等，ある上司とのトラブルが原因だったといえます。ただし，ただ嫌になって辞めたという単純な話ではありません。

まず私は，その上司のさらに上司に退職願を提出することで意志表示をしてみましたが，それが通じなかったため，事務所に放火したうえで消火栓からホースを引いてきて放水し，少し痛い目にあってもらうことで間違った考え方を改めさせることが思い浮かびました。しかし，それは思いとどまっています」(06)

「『自分がいなくなったら，会社が少し困った状況になり，そうなったら（所長が）どうして私が辞めたか考えると思いました。私が，何か言いたかったのか伝わると思いました』（公判）」(04)

その後，友だちに 10 万で車を売り，逃げるように仙台を後にする。

そして，「携帯電話の番号も変えたため，青森の実家とは音信不通となった」(04)。

⑤ 2005 年，加藤は，派遣会社から斡旋（あっせん）された埼玉県上尾（あげお）市にある自動車メーカーの工場で働き始める。が，またしても，ある正社員に「しつけ」をするために辞めてしまう。

「そんな仕事も，2006 年 4 月末で失われることになりました。

…私の担当だった部品置き場の部品棚の配置が変更されることになりました。その際に，主にそこで作業する者として私が意見を述べたところ，ある正社員から『何もできないハケンのくせに。ハケンはだまって言われたことだけやってろ』と言われたことが原因で，私は仕事を辞めました。

…その正社員の間違った考え方を改めさせるため，まずは所属していた派遣会社の上司経由でクレームをつけるという方法で怒りを伝えました。

…それが無視されたため，無視できない痛みを与えようと，無断で辞めることが思い浮かんだものです。私が辞めればその正社員が私の代わりに穴を埋めることを知っていましたので，…部品も残りをゼロにして，置き場の決まっていない特殊な部品をどこに置いたのかも教えずにいきなり私が辞めれば，少しはその正社員も苦労するはずだと考えていました。その苦労が，痛みです。

とはいっても，その正社員を痛い目にあわせたかったわけではありません。間違った考え方を改めてほしかっただけです。痛みを与えるのはその手段です」(06)

なお，この会社での人間関係は希薄で，しかも，青森時代からの友人とも関係が遠ざかっていた。そのため，この頃より携帯サイトの掲示板にどっぷりはまっていくことになる。

⑥ 2006 年 5 月，加藤は別の派遣会社からの紹介で，茨城県つくば市にある住宅関連部品を製造する工場で働き始めた。ところが，約束を履行しなかった派遣会社に腹を立て，「しつけ」をするために，無断で工場を辞めてしまう。

「茨城なのは，つくばエクスプレスの存在を知ったからです。…秋葉原でネタ探しをするのに，秋葉原に直結しているつくばエクスプレスは便利でした。

…工場での仕事を始めたのはいいのですが，もともと昔からの友人と一緒にいる幸せな時間を維持するために始めた仕事のはずが，仕事をすることで友人と一緒にいられなくなるのでは本末転倒でした。…仕事をする理由を見失い，やる気も失われていきました。そこで，ふと昔からの友人を掲示板に誘うことが思い浮かびました。…しかし，私が作成した掲示板に友人は来てはくれませんでした。それは，私にとっては，一緒にいることを拒否されたということになります。そのショックは小さくはありませんでした。

孤立し，かつ自殺への思いが強くなり始めたのがこの頃でした」(06)

「派遣会社との約束を守らせようとしました。会社は私に，業務上必要なフォークリフトの免許を取らせてやる，と約束しておきながら，そのまま放置していました。…派遣会社の間違った考え方を改めさせるため，無断で工場を辞め，派遣会社が工場から怒られることで痛みを与えようとしました。…その結果，仕事を失ったことで，私と社会との接点はひとつも無くなりました。孤立です」(06)

「孤立すれば，自殺はもう目の前です。私は肉体的な死には特に感じるものはありませんが，社会的な死は恐怖でした。ですから，孤立の恐怖から逃れるために自然と自殺が思い浮かんでくるのだと思います」(06)

「この頃の加藤は，以前にも増して掲示板にのめりこんでいた。彼にとって，掲示板はなくてはならないものになっていた。彼はこの当時の掲示板の存在を『帰る場所』（公判）と表現している。

そんな『帰る場所』で，彼は疎外感を味わうようになる。

あるとき，掲示板の仲間に対して『本音で厳しいことを書いた』ところ，一気に関係が険悪になり，掲示板から人がいなくなってしまった。彼はひどく落ち込むとともに，管理人に迷惑をかけたと思い，掲示板にアクセスしづらくなった。

彼は孤独になった。

青森や仙台では，身近に友人がいた。ゲームやアニメの話もできた。上尾やつくばでは，身近な友人こそいなかったが，掲示板という『帰る場所』があった。

しかし，そんな掲示板の仲間が，彼を避けるようになった。掲示板行きづかくなった。彼は孤独感を深めた。

そんなとき，彼の心によぎったことがあった。

――もう自殺したい」(04)

⑦ 2006 年 8 月，友人を「しつけ」るために，自殺をもくろむ。

消費者金融の返済期限日の 2006 年 8 月 31 日。加藤は，利用限度額一杯いっぱいまで使ったのち，自殺しようと決めた。

なぜ自殺しようとしたのだろう？

既述のように，青森の友人たちをインターネット掲示板い誘ったところ，断られたのが原因だという。

「友人らには拒否されました。あり得ません。そこで私は，友人らのいる地元青森で自殺してみせることで心の痛みを与える『しつけ』を行い，友人らを改心させようとしました」(03)

換言すれば，「私と一緒にいてくれない，という彼らの間違った考え方を改めさせるめに彼らに心理的痛みを与えるため」に自殺しようというのである。

そのため，友人たちには，「これからトラックで車に突っ込んで自殺する」(04)，という内容のメールを一斉送信。母親にも電話で，「これから自殺する」(04)と，突然つげた。

そして，青森市内のバイパスで，酒を飲んで，対向車線のトラックに正面衝突しようともくろんだのである。

ところが，酩酊していたからだろう。縁石にぶつけてしまい，車はぴたっりと動かなくなる。加藤は，

「車でトラックにでも突っ込んで，と宣言した以上，他の方法では自殺はできない」(06) と思い，未遂に終わった。

⑧ 2007 年 1 月，青森にある運送会社で，トラック運転手として働き始める。
仕事ぶりはまじめ。作業も丁寧。会社の同僚との関係も良好だったため，ほどなくして正社員に昇格した。
けれども，「何かとおかしい会社の間違った考え方を改めさせるために」(06) しつけをし，ここも退職してしまう。

「ある時，先輩が，終わったら電話をするようにと言うので電話をしたら，その先輩はケータイの電源を切っていました。ああ，そうですか，ということで放置しておいたら，その先輩は，
『なんで電話しねんず。おめ，喧嘩うちゅんず!?(訳：どうして電話しないのか。お前は喧嘩を売っているのか)』
と逆ギレしてきました。意味がわかりません。
後日，私が毎日使っているトラックが泥だらけにされていました。仕事が終わったら洗車をしておくことになっているので私は洗車しておいたのですが，夜間にその先輩が使ったようです。その先輩は突発的な仕事に対応する要員で，空いているトラックから好きなものを選べる立場でした。
私が担当するトラックは会社に 1 台しかない珍しいタイプのもので，その先輩のお気に入りです。実際，よく使われており，しかし，いつもはきちんと洗車して返すのに今回に限って汚したままなのは，明らかな嫌がらせでした。
時間がないので仕方なくそのまま使ったら，会社の配車担当者から洗車をするようにと怒られました。
（洗ったよ，俺は！）
どうせ言ったって，話を聞いてはもらえません。頭にきたので，逆に一切洗車せずに汚れた車で毎日配送をしてやることによって，会社に対して『しつけ』をしました。
ところが今度は，会社から嫌がらせのような仕事を押しつけられるようになりました。冗談ではありません。私は会社のトラック 100 台を全て破壊してやることで『しつけ』をしてやろうかと考えましたが，
（ま，いいか。掲示板仲間に遊びに誘われているし）
と，他にやることを優先し，仕事を辞めて青森から福岡までのドライブに出発し，運送会社でのことは全てなかったことにしました。
こうして私は『天職』も失います」(03)

また，当初，自宅から通勤していたが，そのことが両親の離婚を招いてしまう。

「母親同様，父親とも家族のやり直しをしようと考えていました。
ところが，5 月のはじめ頃，父親と母親は離婚することになりました。『あんたも帰ってきたし，離婚することにしたから』というように言われた覚えがあります。よくわかりませんが，私が離婚の引き金を引いたようです。家族をやり直そうとしていた私は全否定され，ひとりで空回りしている虚しさを感じました。
私は，家を出るように言われました。アパートを借りる費用は全額母親が用意しました。さらに現金を 50 万円渡され，『これであんたに渡す金はもう無い』とも言われました。つまり，それは親子の縁を切る，ということでした」(06)

そして，このことが，加藤をますます掲示板にのめりこませていく。

「家を出されたのは，2007 年 7 月頃だったと思います。帰る家を失った私は，代わりに掲示板に帰ることになりました。私にとって掲示板が，友人と話す居酒屋のようなものから，家族と話をする家のようなものになりました。感覚的に，『掲示板に出かける』のではなく，『掲示板に帰る』ことになったということです。
…掲示板に帰り，書き込んでも反応が無く，誰もいないことを確認してしまうと，途端に不安になってきます。…掲示板は見わたす限り誰もいない真の孤独で，孤立の恐怖が湧いてくるからです。…頭がおかしくなりそうで，わけのわからない書き込みを連発し，せっかく掲示板に人が来ても，その人は私のところには来てくれない，という悪循環になっていました」(06)

その後，ネットで知りあった「兵庫の女性」に告白し，交際を申しこむも，あえなく断られてしまう。
女性にフラれ，仕事も辞め，借金もかさみ，そして家族もバラバラになってしまった加藤は，孤独感をいっそう深め，今度こそ死のうと思いつめる。

東京の中央線で飛び込み自殺をはかろうと思い立ち，2007年10月下旬，父親から車を借りて，東京へ向かう。事件の約7か月前のことである。

車を上野の駐車場に停め，総武線の秋葉原駅ホームに立ち，電車を待つ。

ところがそのとき，「『人身事故で中央線が止まっている』というアナウンスが流れた。中央線のホームに立っていると思い込んでいた彼は，『これで電車がホームに入ってこないので，自殺はできない』と考え，駅を離れた。

彼は，茫然（ぼうぜん）としながら上野の駐車場に戻った。

そして『車で寝ていれば死ねるかな』と思い，車の中でじっとしていた」(04)

それから約半月ほどたったあるのこと。

「気づくと，駐車場の管理人が警察官を連れてきていて，その警察官に，何をしているのかと問われました。久しぶりの人との会話に涙があふれました。ごまかすこともできずに，自殺しようとしていると，そのまま答えた。

…駐車場の管理人から，とりあえず駐車場から車を出すよう言われました。金が無い，と答えると，料金は年末までいいから，とも言われました。その瞬間，私は生きなくてはいけなくなりました。年末までに駐車料金を返済するという約束を果たさなくてはいけないからです。金銭の問題ではなく，私を信用してくれたその駐車場の管理人のためにと，頭が働いたものです。私としても，その約束がある限り，孤独になっても絶対に孤立はしません。自殺のことなど，一瞬で消えて無くなりました。

2007年11月中旬のことでした。年末まで余裕がありません。そのまま駐車場を出してもらった私は，急いで仕事を探し始めました」(06)

⑨駐車料金33,500円を払うため，その日のうちに秋葉原にある派遣会社・行って派遣登録を済ませる。

こうして，2007年11月から，静岡にある関東自動車工業の工場で働くことになったが，「しつけ」をするために，無断で帰宅し，無断で退職してしまう。

事の経緯（けいい）はこうである。

事件12日前の2008年5月27日の夕刻。出勤すると，上司に呼び止められた。首切りリスト（**※派遣社員200人中150人が対象。サブプライム住宅ローン危機による不況が原因**）に入っているというのである。

加藤は，「最後までやるつもりだったのに，信用されていないというか，見くびられているような対応をされ不愉快」(04)だったという。

この頃から，掲示板は荒れに荒れ，加藤に対し，「死ねよ」と暴言を吐く者や，改行をくり返し，画面を見づらくする「荒らし」，そして加藤の「なりすまし」まで現れた。

「イライラしながら送迎バスのバス停に向かいます。仕事などにイラついているのではありません。掲示板の成りすましらが腹立たしいのです。だったら掲示板なんかやらなきゃいいと思うのですが，そうすると社会との接点を持てない空白の時間ができてしまい，急に不安になってくるので，それはできません。…どうしても掲示板にしがみつくしかありませんでした。その意味で，やはり掲示板は命綱なのです」(03)

その日の朝（**6月3日**），バス停に着くと，派遣の主任から，軽い調子で声をかけられた。

「加藤君は契約延長だから。続けて頑張ってね」(03)，と。

彼は，解雇が撤回され，喜んだろうか。

逆に，「自分がパーツ扱いされているようで，腹立たしく思」(04)った。そして，掲示板にもこう書きこむ。

「ああ，そういえば，クビ延期だって。

別に俺が必要なんじゃなくて，新しい人がいないからとりあえず延期なんだって。うるせーよ粕（カス）』(04)

犯行の3日前の2008年6月5日のことだった。

午前6時頃，職場に到着し，控え室で作業着のツナギに着替えようとしたが，どこにも見当たらない。

以前にも，作業着がなくなることがあった。けれど，そのときは，「作業着がなくなったことをネタにして職場の友人や同僚の笑いを取りにい」(02)く余裕があった。だが，今の加藤には，「ネタにして笑いとばす余裕がな」(02)い。怒りと苛立ちが頂点に達した。

「缶チューハイを飲みながら，ゲームをし，掲示板で成りすましらに警告を続け，睡眠不足でイライラしながら出勤する，いつも通りの朝でした。

いつもと少し違うとすれば，出勤直前，ただ警告が無視されるのではなく，成りすましが出現し，いつも以上にイライラしていたことはあるかもしれま

せん。

送迎バスの中でもイライラし，いつもの缶コーヒーを買ってもイライラし，ロッカールームに向かってもイライラです。そこで作業着のツナギに着替えようとしたら，私のツナギがありません。昨日，共用ロッカーのハンガーにかけておいたのですから，今日はそのままそこにあるはずです。

（なんでねーんだよ）

心の中で舌打ちをして，他のロッカーや洗濯室，はてはゴミ箱の中まで探してみました。しかし，見つかりません。ツナギがひとりでどこかに行ってしまうはずはありませんから，誰かが隠したということです。その場にたまたまいた松田さんが，

「なんだ加藤，ツナギないのか？いつもなくなるんだよなあ」

と言って，ロッカールームから出ていきました。

（いつも？）

誰かがいつもツナギを隠しているなど，許されることではありません。『ふざけんな！』と私は叫び，完全にブチ切れ，持っていた缶コーヒーを壁に投げつけてへこませ，ロッカーのツナギを全て床に引き落としてやりました。

制御不能な怒りは，一瞬です。私は肩でぜいぜいと息をしながら，まわれ右をしました。私のツナギを隠した犯人に対して『無断帰宅事件』で反撃です。そうやって問題を起こせば，塗装工程の総力をあげて犯人探しが始まるはずでした。

ロッカールームを出たところで出勤してきた菊田さんとすれ違い，

『あれ，加藤，どうした？』

と訊かれ，私は『ちょっと忘れ物を』と，とっさに意味のわからないことを言いました。別に言い訳をしなくてはいけないシチュエーションではありません。『あ，いや，やってらんないんで帰ります』と説明になっていない説明をして，あとは菊田さんを振り切って帰りました。

しかし，工場の門を出て駅に向かって歩いているあたりではもうカッカしていたものが収まり，冷静に戻っていました。

（あーあ，またやっちまった）

いつものパターンです。私はいつもこうやって職を失ってきました。

（ま，いいか。とりあえず，帰ろう）

歩きながら，いつも通りに掲示板にアクセスし，いつも通り，成りすましらへの警告をします。坂田さんや派遣の主任などからガンガン電話がきましたが，もう出るに出られませんでした」(03)

「作業着がなくなったことをきっかけにして仕事を失い，同時に職場の友人も失うことで，掲示板の他は何もなくなり，成りすましらを謝らせることに向かい始めます。

…作業着がなくなった件は，事件とは全く関係ないにもかかわらず，重要な分岐点になっていて，『たられば』も成立します。もし作業着がなくならなければ，そのまま『仕事→職場の友人→掲示板→仕事……』というローテーションが続きました。そうであれば，何も起こりません。

もちろん，作業着がなくなったから事件を起こしたのではありません」(02)

「コンビニ袋をふたつ手に下げて寮に戻ると，駐車場には白いワンボックスカーがとまっていました。派遣会社のロゴが入っています。そんな予感はありましたが，やっぱり，会社の人が来ていました。

（怒られるの，いやだなあ。ま，いいか。とりあえず，無視して部屋に入っちゃおう）

そう思って足早に横をすり抜けようとしたら，

『ツナギ，あったよ。それだけ，伝えに来た』

と話しかけられました。あり得ない話です。犯人が慌ててこっそり戻しておいたとしか考えられません。ツナギを隠した犯人の，そのずるいやり口も腹立たしいものがありますが，派遣会社の社員のまるで私が勝手に勘違いをして帰ったかのような言い草にもカチンときた私は『じゃあ何ですか，自分が悪いって言うんスか』と言い捨てて，部屋に戻りました。

要するに私は，ツナギを隠した犯人にはめられたということです。許せません。そこで今度は，『無断退職事件』によって攻撃することにしました。今度こそ，犯人探しが始まるはずです。その『しつけ』により，犯人は反省することでしょう」(03)

「しつけ」をするために退職することは，加藤にとって，いつもと同じパターンでしかない。だが，加藤をとり巻く状況は，以前とは違うものになっていた。

車のローンの支払いは滞り，借りていたアパートも放置したまま。おまけに，景気が後退し，「歳も歳だし，使ってくれるとこも減ってきた」(04)。

就職となるとさらに厳しい。お金の余裕もなかった。しかも，無断退職したことで，派遣会社が借りている部屋から出ていくことを余儀なくされる。なのに，親は離婚して帰る故郷はなく，寝泊まりできる車もない。借金取りが嗅ぎつけることを恐れ，居

場所を知らせなかった友人たちとも疎遠になっている。

もはや，どこにも逃げ場が無かった。掲示板を除いては。

それなのに，なんということだろう。最後に残った命綱を，「成りすまし」や「荒らし」が，容赦なく切り刻んでいくではないか。それは，加藤にとって，身を切られるよりも残酷な痛みだったにちがいない。

八方ふさがりの加藤の怒りや苛立ちは，最後の希望の灯を吹き消す無慈悲な「成りすまし」や「荒らし」に一極集中していく。

こうして，加藤が，彼らに向けて，自暴自棄の自爆をおこなう状況ができあがっていった。

「これまでであれば『まあいいや』と自分からトラブル源を切り落としてしまっていたのですが，今回は掲示板を捨てることはできませんでした。掲示板が自分を支えてくれたことが何度もあったために期待をしてしまっていたのかもしれません。掲示板でのトラブルから掲示板上の友人は一掃されてしまっていて，トラブルの相手だけが残っているような状態でした。それでもトラブル相手に警告をしつつ，変わらずネタを書き続け，誰かがまた来てくれるのを待っていたようでした。

…６月５日に，私は仕事を失い，そのことで職場の友人も失いました。すると，私に残っているのは掲示板だけになります。掲示板に残っているのはトラブルだけですから，私の社会との接点は，掲示板でのトラブルだけ，ということにもなります。そこから離れると孤立することになるため，孤立の恐怖は耐えがたく，私はトラブル相手にしがみつきました。そこから事件へと向かっていくことになります」(06)

「いつもと少し違うのは，明日以降の予定がないことです。仕事は辞めてしまいました。ここは派遣会社が借りているマンションの部屋なのですから，遅くとも月曜日には出ていかないといけないでしょう。

…私の社会との接点は掲示板の成りすましらだけになってしまいました。手がかりも足場も失って，命綱１本でぶら下がっている状態です。それが全てです。もう，やるしかありません。いつかは事件を起こして成りすましらを痛い目にあわせる必要があると考えていた，その『いつかは』の時が来てしまいました」(03)

「私にとって，社会との接点が失われるのは，それこそ自殺してでも逃れたいと思うほどの苦痛です。…友人ができたとしても，彼らと一緒にいられるのはある程度の時間でしかなく，それ以外の時間帯は一時的に社会との接点を失っている状態であり，不安でした。何か，そわそわするのです。それを安定させていたのがインターネット掲示板で，ある意味では命綱としてとても重要なものでした。

そんな掲示板に，私に成りすまして書き込みを行う『成りすまし』が現れました。他の掲示板利用者は私と成りすましとの区別がつかず，全てを私だと思ってしまいます。

その成りすましを私だと勘違いして勝手に腹を立てて荒らし行為をする『荒らし』も現れました。

（ちょっと待て。それは俺じゃねーぞ）

そう思っても，成りすましが荒らしを挑発し，荒らしはますます怒って荒らしまくるという悪循環に，私はどうしようもありません。

（あ，そうか。成りすましを成りすましだと指摘すればいいのか）

簡単なことでした。早速，そのように掲示板に書き込みます。しかし，あろうことか荒らしは，成りすましをされるのは私が悪いとして成りすまし行為を正当化し，自らの荒らし行為，それも勘違いでの『誤爆』をも正当化しました。冗談ではありません。成りすましのおかげで掲示板上の私の存在は抹殺され，荒らしのおかげで掲示板には誰もいなくなり，私の『命綱』は切れました。

もし，私に何か問題があって関係を失ったのであれば，それは私が悪いのですから，仕方ありません。しかし，今回は『失った』のではなく，『奪われた』のです。もちろん，成りすましと荒らしに，です。それが許せませんでした。『しつけ』をしなくてはいけません。このことにより，楽しく雑談をすることで社会との接点を得ていた掲示板を失い，その代わり，不正を行った成りすましらと対決することで社会の接点を得る掲示板が始まったのです。それが新たな私の命綱になりました」(03)

⑩そしてついに，成りすましや荒らしたちに「しつけ」をするために，秋葉原で無差別殺傷事件を起こしたのである。

「事件を起こし，それを成りすましらに突きつけます。ただの事件ではなく，大事件です。成りすましらが心の痛みを感じるような，身の危険を感じるような，そして誤りを認めて謝るような，そんな大

事件でなくてはいけません。

また，成りすましらに事件を伝えるためには報道される必要があります。

そのためにはとにかく派手に，大々的に報道したくなるよう報道各社が食いついてくるような大事件にしなくてはいけません。計画はもう完成していました。日曜日の秋葉原の歩行者天国にレンタカーのトラックで突入し，その後ナイフで刺してまわるという計画です。何十回も警告を発しているうちに具体化していました。

…ただし，私は事件を起こしたいわけではありません。むしろ，起こしたくなどないのです。だから，警告を続けました。より攻めた，強力な警告です。しかし，相変わらず無視されていました。謝ってもらえば，事件なんか起こす必要はありません。事件を起こすのは，痛みを与えて謝らせるための手段です。しかし，それは最後の手段であり，警告だけで謝るなら，それで十分なのです」(03)

「私は成りすましらに心理的な痛みを与え，その痛みでもって成りすましらの間違った考え方を改めさせようとしました。

…誰でも条件反射化している行動は意外とたくさんあります。…相手の間違った考え方を改めさせるために痛みを与える必要が生じる，という条件が私に入力された時には，もう痛みを与える方法が頭の中に浮かんできているということです。…思い浮かんでしまったら，それを実行するか思いとどまるかの二択しか，私にはありませんでした。

…各種メディアという弓で大事件という矢を放ち，成りすましらという的を射たようなものです，的が手の届くところにあるなら殴るなりけとばすなり何でもできますが，はるか遠くに的があるために，飛び道具を使うしかありまでんでした。

ということは『矢』は何でもいいということになります。

…他人の生命を犠牲にしない事件や他人を関わらせない事件も考えられる中で，私が思い浮かんだのは，無差別殺傷事件でした。当時，…色々考えて，その中から選択したわけではありません。一瞬で思い浮かんでしまっていました。そして，既に述べた通り，他の方法は考えませんでした」(06)

とはいえ，加藤は，最初から本気で事件を起こそうと考えていたわけではない。

みんな掲示板から去っていってしまったことに，耐えられなくなった彼は，「成りすまし」や「荒らし」に警告するとともに，いちど離れてしまった仲間の注目と関心をふたたび引こうとしたのだろう。そのためには事件を起こすとほのめかすことが有効であると考えた。それはあたかも子どもが親の関心を引こうとして問題行動を起こすようなものであったろう。

しかし，こののち起こる新たな出来事や書き込みは，加藤の予想をはるかに超えて，加藤を事件に導いていくことになってしまった。

では，「『人のせい』にすると同様，…きちんと考えれば問題に気づけるのに」(06)，なぜその過ちに気づけなかったのだろう？

「痛みを与えて改心させる考え方が，世の中のどこにでもよくあることだから」(06) だという。

たとえば，「宿題を忘れた生徒に往復ビンタする教師，ミスをした選手を殴るコーチ」(06) がいい例であり，「戦争は，その究極」(06) であるという。

「これらはいずれも，自分が正しいと考えているのは自分の価値観でしかありません。自分の都合，といっていいものです」(06)

ただし，「私の場合も，考え方そのものはよくあることでも，その手段は最悪のものでした。許されるはずがありません」(06)

「もし私にこの考え方が無ければ，成りすましをされようが何をされようが，何事も起らなかったといえます」(06)

それでは，なぜ加藤は，こんな歪んだ考え方を身につけてしまったのか。

「何故このようなものの考え方になったのかと考えて自分の人生をさかのぼってみましたが，やはり，最初からそうだった，としか考えられませんでした。このような考え方に変わったきっかけになる出来事等は無く，こうして自己分析するまでは，この考え方は当たり前のこととして，何の疑問も持っていませんでした。

私は，遅くとも小学１年生の時にはもうこの考え方による行動を起こしていますから，これも幼少の頃に母親から受けた養育の結果だということになりそうです。…例えば，私が母親が料理をしているところにちょっかいをかける，という間違いを改めさせるために母親は私を２階から落とそうとしました。…しつけといえば，しつけなのでしょう。その意味では，私も成りすましらにし

つけをした，と捉えることもできます」(06)

なにか納得のいかないことが起こると，加藤はいつも他人に対し，正義感を振りかざし，問答無用で，度が過ぎる「しつけ」をしようとした。これは母親から受け継いだものではあるとはいえ，「人を呪わば穴二つ」。自分自身もそれによって墓穴を掘ることになる。そして，こんなことをくり返すたび，墓穴はどんどん深くなり，ついには，はい上がれないところまで深くなってしまった。

どん詰まりになった彼は，既述のように，なんとか自殺を試みる。

一度目は，2006年8月31日，友人に「しつけ」をしようとして自殺を試みた。

二度目は，2007年10月末。東京の中央線で，電車に飛びこんで自殺しようともくろむ。18歳の女性にふられ，仕事も辞め，両親の離婚により居場所がなくなったためである。

けれども，人身事故のため電車が来ず，またしても自殺は未遂に終わった。

ジョン・マルツバーガー（**精神分析医**）の臨床研究によれば，自殺の危険の高い精神科患者には，自殺につながる三種類の耐えがたい感情状態がみられるという。(11)

①孤独感（aloneness）
②自己軽蔑（self-contempt）
③すさまじい怒り（murderous rage）

加藤は自殺を試みるたびごとに，墓穴はドロドロとなり，ついには底なし沼と化す。

しかも，ゾンビに咬まれた加藤自身も，しつけの連鎖反応によって，ゾンビに成り果てた。

こうして，にっちもさっちもいかなくなったところで……。

なんということだろう。

ついに，いきり立つあまり，幾多の命と引き換えにしてまで「しつけ」をしたいと思わせる人物に出会ってしまう。

それは，自殺へのエネルギーが，ベクトルを変え，殺人へのエネルギーに変換されたとみることもできよう。

いずれにせよ，憎悪と歪んだ正義感に憑りつかれた加藤は，雪崩を打って「しつけ」や復讐へと突き進むことになる。

そして，視野狭窄におちいった彼は，その手段として，無差別殺人という最悪の方法を実行に移してしまったのである。

以上のように，加藤の歪んだものの考え方は，すべての現実を黒く染め，破滅の道へと彼自身をいざなうことになった。

ところで，この「しつけ」をしなければならないという強迫観念は，臨床心理学の認知行動療法における認知の歪みのどれに当てはまるのだろう？

それは，主に，以下の点であると考えられる。

①「『べき』『ねばならない』思考（“should”and“must”statements）『命令型思考』（imperatives）」
②「感情的決めつけ（emotional reasoning）」

①の「『べき』『ねばならない』思考」とはなにか。

現在，未来において……

「～すべきだ」

「～しなければならない」

「～でなくてはならない」

とみずからルールをつくりあげ，それを頑なに信じこむ。

過去に対して……

「～すべきだった」

「～すべきではなかった」

と無理な期待をし，激しく悔やむ。

つまり，自他のあり方や行動に対し，柔軟性を欠いた（**融通がきかない**）おのれの基準を厳格に適用し，固定的（**絶対的**）理想をかたくなに求める。

けっか，自他の行動を制限したり，過度のプレッシャーや窮屈な心の縛りをかけたりして，追いつめてしまう。こうなると意に反し，想定外の望ましくない事態をまねきやすい。たとえば，自分自身においては，罪悪感や自己嫌悪，失望感，自信喪失，自縄自縛などにつながり，やる気や気力を失う恐れがある。

他人にににおいては，自分の基準どおりに行動しない相手に対し怒りやフラストレーションを感じてしまい，人間関係をくずしやすい。高ずると，対人関係を崩壊させたり，他人に対する非難や制裁（**いやがらせ，お仕置き，いじめ，リンチ，懲罰，殺人事件，粛清，闘争，ホロコースト，戦争**）に発展したりすることもある。(10)

加藤はいう。

「成りすまし行為は悪だと思っていましたが，よく考えると根拠がなく，成りすまし行為は悪ではありません。当然，『成りすましの正当化』も，悪くありません。それを禁止する法律がない以上，してはいけないことではないのであり，何ら問題はないことでした。むしろ，それを私の勝手なルールで謝らせようとしたことが問題で

す」(02)

ちなみに，なぜ加藤は，考えを改めたのだろう？
彼自身も，過去に同じような成りすまし行為をしたことがあることに気づいたからでもある。

「思えば，成りすましは私もしたことがあり，人のことをいえません。…出会い系サイトまがいの掲示板があり，私はそこに女性のふりをして書き込んで，本気で口説いてくるアホをからかって遊んでいたことがありました」(02)

②の「感情的決めつけ」とは？
「自分はそう感じる（**思う，信じる**）。だから，真実（**事実，正しい判断**）にちがいない」
そのときの自分の感情にもとづいて現実を判断し，それを真実と思いこむ，というものである。(10)

加藤は，母親から叩きこまれたこれらの歪んだものの見方（**原因**）により，そのまま忠実にひずんだ言動（**結果**）を引き起こした，と解釈することもできよう。

【秋葉原無差別殺傷事件　⑪】

B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（**考え方**），そしてそれらがつくり出した現実
Ⅳ.「言葉ではなく，行動で示して周りにわかってもらおうという考え方」(04)
「どうして怒っているのかを言わない性格」(06)

加藤の特徴である「言葉ではなく，行動で示して周りにわかってもらおうという考え方」。かつ，「どうして怒っているのかを言わない性格」は，すでに小学校低学年から現れていた。

「小学校低学年のときには，工作の時間のときに，文具を片付ける人を巡って争っている二人を殴り，自分で片付けたことがあった。彼は，『殴る』ということで，自分の思いを相手に伝えようとしたのだという。
このような加藤の暴力性には，担当教員も気づいていた。小学１年生から３年生までの加藤の指導要録には『すぐカッとなることが多い』と記されている」(04)

事件直後，中学の同級生が，『FRIDAY』の取材を受けてこう語ったという。

「アイツは中学の時からキレキャラで，周りが見えない性格だった。授業中，突然，目を吊り上げ，同級生の胸倉を摑(つか)んで喚(わめ)き出したんです。後でケンカを売られた相手に『どうしたの？』と聞くと『さっぱり（理由が）わからないんだ』とキョトンとしていましたよ」(04)

また，別の同級生も証言する。

「『加藤は静かにキレるタイプでした。とにかく地雷のスイッチがどこにあるかわからない。これは高校を卒業して社会人になってからも同じでした。彼の地雷源がどこにあるのか，最後までわからないままでした』」(04)

弟によると，加藤は「学校でイライラすると，彼は素手でガラス窓を割り，血まみれになって家に帰ってきたこと」(04) があったという。

このように，加藤は，昔から「言いたいことや伝えたいことをうまく表現することができ」ず，「行動で示して周りにわかってもらおうと」(04) していた。

加藤はいう。

「人生を振り返っていて，私にはこの口喧嘩というプロセスが無いことに気づきました。いつもいきなり無言の攻撃でしたから，それでは通じるはずもありませんでした」(06)

では，なぜ加藤は，こうなってしまったのだろう？

「その通じるはずがないことを何故私がしていたのかというと，それは，自分自身に対してはそれが通じていたからです。つまり，私は相手の無言の攻撃を受けると，それは自分が悪いからだと考え，その意味をおおよそ読み取り，自分の間違いを改めてきたからです」(06)

なお，この「無言の攻撃」という刺激を受けると，すぐさま「自分が悪いからだ」という反応を示すのは，認知行動療法における認知の歪みのひとつ，「個人化」である。
「個人化」とは，なにか。
なにか望ましくないことが起こったとき，「自分のせいだ」，「私が悪い」というように，自分自身に関連づけて考えてしまう考え方のクセである。たとえ自分に責任（**原因，関係**）がなく，自分の力だけではどうすることも

できず，自分でコントロールできないことであったとしても。すると，その帰結として，強い罪悪感や自責の念，無力感，自己嫌悪，劣等感，屈辱感などにさいなれてしまう。(10)

加藤に染みついた「個人化」は，加藤の性格をひずませ，ゆがんだ思考を生むことになった原因のひとつであると考えられる。

では，なぜ加藤は，このような考え方を身につけてしまったのだろうか。

「私に対して誰が無言の攻撃をしていたのかというと，主に母親です。…私が翌日着ようと用意してみた服を母親が床に投げ落とすのは，私が自分で着たい服を選んではいけないのだと理解し，服への興味を消しました。私以外の人が攻撃される場合でも，例えば，父親がトイレを使った後に母親が便器に洗剤をかけるのは，父親がトイレを使うのがいけないのだと理解でき，食べてもいないものの料金を支払って母親が店を出たのは，注文したものを持ってくるのが遅い店が悪いのだと理解できました。

このように，私は人の無言の攻撃の意味がわかってしまう人でしたので，他の人も当然わかるものと考えていました。ですから，『通じていない』のではなく『無視されている』とばかり考えていたために，このやり方を改めることはありませんでした。また，私は意味がわからない攻撃を受けた時でも，攻撃を受けるということは自分が悪いのだろうからと思い，何がいけないのかはわからないままでも親に謝りました。同様に，私から攻撃を受けた人は，たとえその意味が通じていないのだとしても，少なくとも謝られるはずでしたから，『無視されている』という思いを訂正することはできませんでした」(06)

事件後に自殺した弟も，手記のなかでこう証言している。

「母も含めて私の家族全員に言えるのは，叱ったり，怒ったりするときに，その理由を説明しないことです。だから私は幼いときから，怒られた理由を自分で考えねばなりませんでした。また，それを不可解なことだと思ったこともありませんでした。犯人（**※兄の加藤智大**）が過度に独善的な判断・行動をとるのは，こうしたことが影響しているのかもしれません」(04)

結果的に，加藤のこの言動パターンは，病膏肓に入り，事件を引き起こす原因のひとつになった。

「成りすましや荒らしは，どうやら嫌がらせというわけではなさそうですので，もし私にこの考え方が無く，例えば『荒らしても中傷してもいいけど成りすましだけはやめろ』とか『ネタにいちいち本気で反論してくるな』等と言葉で説明していれば，状況が変わった可能性はありそうです」(06)

【秋葉原無差別殺傷事件　⑫】

> B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（**考え方**），そしてそれらがつくり出した現実
>
> Ⅴ.「社会との接点の少なさ（孤立している時間）を全て掲示板でカバーしていた私（※加藤）の生活」(06)

社会との接点の少なさを，すべて掲示板によってカバーしようとしたことが，事件に結びついてしまったと，加藤は述べている。

「…掲示板そのものには問題は無いのですが，その使い方が問題でした。掲示板はあくまで社会との接点のひとつでしかなく，それで全てをフォローしようとしたのが間違いでした。掲示板から離れてしまえるチャンスも何度かありましたが，努力し苦労して社会との接点を確保しなくてはいけない現実と違って楽だから，と掲示板に頼ってしまう様子は，依存というより中毒といった方がいいのかもしれません。

宮城の会社や青森の運送会社で危うく事件を起こしそうになっても，それらを自分から切り落としてしまうことで思いとどまってきたように，今回も掲示板を切り落としてしまえば事件は起こらなかったというのはひとつの可能性です。それができなかったのは，私が自分の中で掲示板に大きな役割をもたせてしまったことが原因だったと考えています」(06)

「私は，社会との接点がなくては生きていられません。問題が発生しては『しつけ』をしようとするも無視され，あるいは逆ギレされるので，結局，最後はその問題の人間関係そのものを自分から切り落として生きてきました。そのために，直接・間接に次々と社会との接点を失っていき，自殺を考え始めるもそれは回避すべく必死で社会との接点を見つけようとはしましたが，うまくいかず，とうとう全ての社会との接点を失った私は，完全なる孤立のなかでふらふらと自殺へと向かい始めたのでした」(03)

「私は，社会との接点がなくては生きていられません」と自覚しながらも，いっぽうにおいて，『しつけ』によってつぎつぎと社会との接点をぶち壊していく加藤智大。このあまりに矛盾した言動が，どんどん彼をどん詰まりの袋小路へと追いこんでいった。

【秋葉原無差別殺傷事件　⑬】

> B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（**考え方**），そしてそれらがつくり出した現実
>
> Ⅵ. 失うものがない（**やらない理由がない**）という状況
>
> 「『やらない理由』が極端に小さいこと」(02)

加藤は，みずから社会との接点を潰（つぶ）していったけっか，ついには「失うものがないという状況（**やらない理由がないという状況**）」に陥（おちい）ってしまう。

そして，「失うものがないという状況」は，犯罪へ向かう歯止めを決壊（けっかい）させた。

すなわち，犯罪に対するブレーキを失い，怒りのアクセルのみとなった加藤という名の車は，無差別殺傷というカタストロフィへ向かって暴走することになる。

「〈やる理由〉の効力は，その人が置かれている状況・環境・状態・事情によって差が出てきます。ですから，『普通は事件は起こさない』のに事件を起こしてしまう人については，その人にとっては〈やる理由〉が重大だったからだと考えるのは，半分は正解です。しかし，たとえどんなに強力な〈やる理由〉があろうとも，それを上回る〈やらない理由〉があるなら，その行動は『やらない』のです。〈やる理由〉があるから事件を起こすのではなく，〈やる理由〉を上回る〈やらない理由〉がないから事件を起こすのだと理解しましょう」(01)

「事件を起こした後の現在では，事件を起こした結果，多くの人に迷惑をかけることになることを理解しています。しかし，事件当時はそれをわかっていませんでした。だから事件を思いとどまることができなかったのです。

何より昔からの地元の友人たちには迷惑をかけたくはなかったのですが，事件前には，迷惑がかかるとは思ってもみませんでした。…これほど迷惑をかけることをわかっていたら，事件など起こしませんでした。

…また，工場での仲間たちにも迷惑をかけたくありませんでした。

…以上の他には，迷惑をかけたくないと思える人はいませんでした。

…ここで『家族は？』と思った人は，そう思える家族がいる人なのでしょう。しかし，…私には『家族』などいないのです」(01)

たいてい〈やらない理由〉の最大要因のひとつとなるのは，「家族に迷惑をかけたくない（**悲しませたくない**）」ということであろう。

しかし，加藤にとって，家族は〈やらない理由〉にはなりえなかった。それどころか，「私には『家族』などいないのです」(01) とまで言い切るのである。

「多くの人は親に迷惑をかけないようにしようと思うらしいのですが，私も普通に育てられたなら，そのように考え，事件は起こさなかったでしょう」(02)

「そもそも何が間違いなのかといえば，『普通は事件を起こさない』と考えることが間違いなのです。…誰でもいつでも事件を起こす可能性があります。可能性はあるけれども，事件は起こしていないのです。…『普通は事件は起こさない』と傍観していないで，誰もがリスクを抱えているということを認識したうえで，『普通は事件は思いとどまれるのにどうして思いとどまれなかったのか』と考えましょう。

『普通は事件は起こさない』と言われますが，それは本当は『普通は××だから事件は起こさない』というように，事件を起こさない何らかの事情が想定されているはずです。事件を起こさないのが当たり前，なのではありません。何らかの理由があるから思いとどまっているだけなのです。思いとどまるための何らかの理由があるのが『普通』だとはいえるでしょう。『普通』でなくなる，つまり，思いとどまるための何らかの理由を失えば，事件という手段が使われてしまいます」(01)

「なぜ事件を起こしたのかという疑問には，最初から答えが出ているのです。〈やる理由〉があり，かつ〈やる理由〉を上回る〈やらない理由〉がないから，事件を起こすことになります。それだけのことです」(01)

ただし，「何が〈やらない理由〉になるのかは，人によります。本人が置かれている社会環境に加えて，過去の経験・学習によって形成された性格・価値観がそれを決定づけます。人生は人それぞれなのですから，〈やらない理由〉も人それぞれなのです。それなのに，自分自身の〈やらない理由〉を想定し，他の人の行動について自分の〈やらない理由〉と照らし合わせて『普通はやらない』と考えていませんか？それでは疑問が生じるのは当

然です。価値観は人によって異なるのであり，ある人の行動について考えるなら，その人の価値観で考えなくてはいけません。その人の行動は，その人の価値観で決定されるからです」(01)

「『やらない理由』が勝てば，とりあえずは事件は起きません。殺人だろうと自殺だろうと，『やらない理由』があることが，最後の最後で踏みとどまる，命綱になるはずです」(02)

「社会全体としては，現在は，『やる理由』は何なのかを探り，それをつぶそうとしているようです。しかし，私は，それよりも，『やらない理由』を確保させる方が効果があると思います。ある『やる理由』をつぶしても，別の『やる理由』が発生したら，結局，同じことです。一方，『やらない理由』があれば，どのような『やる理由』にも対抗できます。『やる理由』があっても，『やらない理由』があれば，やりません」(02)

「事件は，全ての人が持っている選択肢のひとつです。しかし，同じ問題を抱えていたとしても，事件を起こす人とそうでない人がいます。その違いはどこにあるのでしょうか。極論すれば，〈やらない理由〉の有無，ただその一点のみが違うのです。〈やらない理由〉があれば，思いとどまります。私は秋葉原無差別殺傷事件より前にも，殺人だの放火だの器物損壊だのといった犯罪行為や自殺を何度も考えました。『攻撃的』だからではなく，『刹那的』だからでもなく，もちろん，うつ病その他の精神的な異常があるからでもなく，いずれも，抱えた問題をどうにかできる現実的な手段として思い浮かんだものです。しかし，全て思いとどまってきました。なぜなら，その時には〈やらない理由〉があったからです。捜査機関も報道各社も『有識者』も，私が過去に何度も事件を考えてきたことを私の『凶暴性』や『人間性の異常』を強調することにしか使いませんが，本当に注目すべきなのは，たとえ考えたとしてもそれらを思いとどまってきたという事実でしょう。〈やらない理由〉があれば，思いとどまるのです」(01)

加藤は以上のことを母親の事例で説明している。

「実は，〈やる理由〉はあまり重要ではありません。たとえ〈やる理由〉があっても，〈やらない理由〉がそれを上回るなら行動は思いとどまるからです。もし最初から玄関に来客がいたなら，母親は私にチラシで『食事』をさせることはなかったでしょう。『虐待を知られていないがチラシで食事をさせれば虐待を知られる』という変化が生じる状況だからです。実際，母親は，虐待を第三者に知られそうなピンチになってはじめてチラシで『食事』をさせることをやめました」(01)

【秋葉原無差別殺傷事件　⑭】

B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（考え方），そしてそれらがつくり出した現実
Ⅶ. 相談するという発想がなかったこと。

加藤には相談相手がいなかった。
いや，それどころの話ではない。
相談するという発想すらなかった，というのである。

「もともと相談をするという発想が私にはありませんでした。…相談をしようと思ってもできないのではなく，相談をしようと思うこと自体が無いのだということです。家の中では誰かが誰かに相談するということはありませんでしたし，…嫌われ者の私は人から相談されることもありませんでした。知らないことはできません。

…相談をするということが身につかなかった理由は，ふたつ考えられます。

まず，母親との関係です。私は失敗が許されない環境で育てられました。おねしょをすることや，テストが100点でない等のわかりやすい失敗もそうですが，他の人ができることが私にできないことも失敗，他の人が知っていることを私が知らないことも失敗，そうした失敗を指摘される（**からかわれる**）ことも失敗とされました。そこから，人に相談をすること，つまり，自力でどうにかできないことも失敗なのだとすると，相談することができないことを説明できます。もちろん，母親とは物理的に離れていますから怒られることはないのはわかっていますが，その影におびえるのは，十数年かけて固まった防衛本能なのかもしれません。

…もうひとつは，…指示待ち人間ではいけない，と学校で教わったことが考えられます。私はそれを，『思いついたらどんどんやれ』と解釈してしまっていました。何かする時，相談するのは指示待ち人間だ，という誤解です。そのため，社会に出てからも，使えない奴，と思われたくなかったために，私は相談をするということがありませんでした。

もし私が人に相談していたなら，事件は回避された可能性があります。『掲示板で成りすましをされ，それを正当化されて，その怒りが抑えられない』と誰かに相談したなら，私などには思いつきもできないような解決方

法が示されたかもしれません」(06)

【秋葉原無差別殺傷事件　⑮】

B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（考え方），そしてそれらがつくり出した現実
Ⅷ. 想像力の不足
他人の痛みがわかりにくい

加藤が事件にいたった原因のひとつとして，想像力の不足があげられよう。

想像力が足りなければ，おのずと他人の痛みに対し，鈍感になる。

そして，「他人の痛みがわかりにくい」ほど，加害行為に抵抗が薄れ，犯罪のハードルもそれだけ低くなっていく。

「想像力が足りない，と言われます。確かに，『他人』のことは考えもしませんから，想像力が足りないといえばそうなのでしょう」(02)

「小学校低学年の頃，クラスでぬり絵が流行しました。しかし，自分もやりたくても，学校の『お勉強』以外のものは悪だとする母親には，当然，ぬり絵帳など買ってはもらえません。そこで私は，クラスメイトのぬり絵帳からページを破り取って，自分のものにしてしまいました。また，色鉛筆も折って，半分自分のものにしてしまいました。クラスメイトには泣かれ，教師には怒られたのですが，当時は何がいけないのかわかっていませんでした」(02)

「私は，昔は，周りの人のことなど全く考えない人でした。その後，少しずつ周りのことも考えるようになってきたものの，それでも一般的なレベルには届いていない，というのが正解でしょう」(02)

「『他人の痛みがわかりにくい』という指摘に限っては，私に当てはまるかもしれません。とはいえ，…自己愛が強いからではなく，物心ついた頃から何もかもを否定され続け，もはや何も感じなくなるまで母親に鍛えられたおかげで『戦車のハート』を持っている私は，ちょっとやそっとのことではダメージを受けないために他人の痛みがわからないのだと気がつきました。それこそ，ハケン切りを屁とも思わない私にはハケン生活の不安やハケン切りのショックなどといった『普通』の人たちの気持ちがまるで理解できないように，です」(01)

「ある時，私は，事故で母親を亡くしたクラスの女子に『母親が死んだくらいでめそめそしやがって』と言いました。クラスは静まりかえり，その女子は泣きだし，私は別室で『反省』させられたのですが，意味がわかりませんでした。

…担任は，『相手の立場になって』と言うくせに，母親が死んでも悲しくない私の立場になって考えようともしませんでした。おかげ様で，私はそういうキレイゴトが大嫌いです」(03)

「私は，実家で母親に『殺された』のです。『芸術や文化の深さに触れる』ことで『自分を大事にするという気持ちを他人と共有し合うこと，人間としての深さ，他人に対処する姿勢』を養うとされているところ，私の母親は私に周りから『芸術や文化』を排除しました。全ては学校での評価，試験の成績のためです。テストの点数につながらないものは『悪』とする，…大学受験のためのエリート校のような状態でした。私の母親は，私がクラシック音楽のCDを購入したものに対して，『なんでそんなものに金を使うの！』と怒鳴りつけてくるような人間だったのです」(01)

【秋葉原無差別殺傷事件　⑯】

B. 母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（考え方），そしてそれらがつくり出した現実
Ⅸ. 自分が「不細工」であることをネタにしていたこと

加藤は推理する。

なぜ，「成りすまし」や「荒らし」が執拗に攻撃を加えてきたのだろう？

「不細工」をネタにしていたことが原因なのではないか，と。

すなわち，「不細工」をネタにしたことで，「不細工」であることに本気で悩んでいたであろう「成りすまし」や「荒らし」の劣等感をひどく刺激してしまったのではないか。そして，このことが，彼らをして執拗（しつよう）な攻撃に走らせたのではないか，と。

「私は『不細工』をネタにしてしまいました。珍しいものではありませんし，あくまでネタなのですが，私のように自分が不細工であるという現実を受け入れた人はと

もかく，そうでない不細工な人にとっては，自分が攻撃されていると感じることになるのではないか，ということに気づきました。おそらく荒らしは，自分が不細工であることに本気で悩んでいたのだと思われます。それをおもちゃにされたら怒るのは当然で，私に問題がありました」(06)

【秋葉原無差別殺傷事件　⑰】

B．母親の影響によって形成された加藤の性格と価値観（考え方），そしてそれらがつくり出した現実
X．懲役を避け，死刑の道を選択した誤り

加藤は，犯行におよぶ直前，最後の最後のところで思いとどまった。

ところがそのとき，とっさに，あることに気づいてしまう。「掲示板に犯行予告に見える具体的な書込みをしてしまっていた」(01) ことに。

そして思った。

「掲示板などで犯行予告に見える具体的な書込みをした人は見せしめ的に『厳罰』を喰らわされる」(01)。逮捕され，三年間も刑務所に収監（しゅうかん）されるのはどうしても耐えられない。ならば，ここで事件を起こし，一年くらい我慢して死刑になったほうがましだ，と。

この決断が最後の引き金となり，あの凄惨（せいさん）な秋葉原無差別殺傷事件を招来（しょうらい）することになったのである。

「私は懲役三年の刑から逃れるために死刑判決でそれを上書きすべく，事件を起こしました」(01)

加藤は，そこにいたる経緯（けいい）を克明（こくめい）に描いている。

「帰ろう，と私は思いました。やることが見つかったからです。レンタカーのトラックを返さなくてはいけません。そもそもそのつもりなのであり，帰りの高速道路料金も燃料代も，残してあります。

（もういい。掲示板なんか，もうやらん）

成りすましらのことも，もうどうでもよくなりました。

…いや，帰るわけにはいかないのでした。

（ちょっと待て。掲示板に何を書いたよ？）

掲示板に犯罪予告に見える具体的な書込みをすると，犯罪になります。逮捕され，刑務所にぶち込まれ，懲役を食らわされます。

（冗談じゃねーぞ）

３日くらいなら我慢してもいいですが，３年間もの懲役は絶対に嫌でした。大体にして，前科者になってしまえば，もう生きてもいられません。懲役３年の後に明るい未来が待っているのであればともかく，ただ無駄に心身の苦痛を味わされるなど，まっぴらごめんです。

（冗談じゃねーぞ！）

掲示板に事件を宣言してからもう 20 分も経過しています。とっくに警察に通報されていて，既に個人は特定されており，いつ捕まってもおかしくありません。とにかく，今すぐにどうにかしなくてはいけない緊急事態です。

（ああ，そうか。事件を起こせばいいのか）

私はトラックに乗っています。そして，ナイフを持っています。現在地は秋葉原で，歩行者天国は始まっています。つまり，全て準備済みなのです。

（何人か死ねば死刑だよな）

以前，何かのマンガで，凶悪犯は１年で死刑になると知りました。刑務所に１年もいるのも嫌でしたが，その後にすぐ殺してもらえるだけ，懲役３年よりはマシです。とはいえ，やっぱり人を殺傷するのも嫌です。だからさっきから３回もためらっているのです。しかし，やるしかありません。嫌でもやるしかないのです。もう時間もありません。またぐるぐると走りまわるわけにはいかないのであり，今度こそ，覚悟を決めました。尻に火がついており，私も必死です。もう後がないのです」(03)

「私が何をしたのかといえば，…無差別殺人をしたのでもありません。私は，懲役を回避したのです。取調べを受けている時からずっと『殺すつもりではなかった』と話していましたが，まさにその通り，私は『殺すつもり』ではなく『懲役を逃れるつもり』だったのでした。人を殺傷するのは，そのための手段です」(01)

ところで，加藤はなぜそれほどまでに懲役を恐れたのだろう？

「私が回避しようとしたのは，懲役三年の刑でした。誰が好き好んで刑務所に行きたがるでしょうか。三日間くらいなら社会勉強として入ってみてもいいですが，三年間は長すぎます。

補足するなら，私は，刑務所にいるのは殺人犯を筆頭にゴロツキ，チンピラ，ヤンキーばかりで何かと因縁をつけられる毎日になると思っており，また，看守は看守で収容者を暴行しているとも思っており，食事はパンと水だけといった粗食で，軍隊などとは比較にならないほど娯楽も自由もない生活なのだと思っていました。そんなところに三年間も放り込まれるくらいなら，死んだ方がマシです。

もちろん，実際にはそんなことはありません。拘置所で実際に生活してみて，自分の誤解に気がつきました。しかし，事件当時の私は誤解をしていたのであり，それはなぜかという疑問が生じるのは当然のことでしょう。

おそらくですが，マンガで読んだ『収容所』のイメージがあり，それと刑務所とが混同されてしまっていたのだと思います。また，刑務所の職員が収容者を暴行したとする報道に接した覚えがあり，そのために，全ての刑務所の職員がそのようなことをしているのだと思い込んでしまっていました。

…つまり，知識と経験の不足が問題だったということです」(01)

なお，見方を変えれば，加藤が死刑を選んだのは，実質的には，三度目の自殺でもあったといえよう。

【秋葉原無差別殺傷事件　⑱　証言の検証】

加藤の証言はどこまで信用できるのだろうか。

たとえ偽証していないと仮定しても，必ずしも自分自身を正しく自己分析できているとはかぎらない。

また，プライドや自己防衛機制によるバイアス，死刑を望んでいるとはいいながら死刑回避のための印象操作や責任転嫁などがないかどうか検証してみる必要があろう。

たとえば，事件の約 7 か月前の 2007 年 10 月下旬のこと。

18 歳の「兵庫の女性」にふられ，仕事も辞め，両親も離婚して居どころのなくなった加藤は，東京の中央線の駅から電車に飛びこんで自殺しようともくろむ。

そして，地元青森から目的地に向かって父親から借りた白い車を走らせた。

その道すがら，掲示板で知り合った 3 歳の子供がいる「群馬の女性」宅に立ち寄る。3 度目の訪問だった。

そのとき，なにが起きただろう？

「1 カ月前と同じく，昼間はゲームセンターなどに行き，夜は部屋で酒を飲んだ。

…夜が深まり，二人は床についた。女性は目を閉じると，加藤が胸の辺りをつついてきた。彼女は気づかないふりをして，そのまま眠った。

翌日，東京に住む掲示板仲間の男性が合流した。夜になり，3 人で飲んだ。

…この夜は，子供を入れて 4 人で床についた。

問題が起きたのは，翌朝だった。

女性が圧迫感を感じて目を覚ますと，加藤が自分のお腹の上にまたがり，馬乗りの状態になっていた。彼は腹部に性器を押し付け，腰を振り始めた。

彼女はびっくりした。

――『のいてくれる？』

とっさに，そう言った。

加藤は無言で，首を横に振った。もう一人の男性は，まだ横で眠っていた。

彼女はもう一度，同じことを言った。今度は加藤が『イヤだ』と言った。彼女は恐怖心を抱いた。

『このままではまずい』。そう思った彼女は，静かに語りかけた。

――『重いから，とりあえずのいてから話そう』『こういうことはよくないから』

加藤は，ようやく彼女から離れた。落ち着きを取り戻した彼は，『すみません，すみません』と何度も誤った。そして，部屋を飛び出していった。

その日，加藤は戻ってこなかった。

翌 30 日，女性は加藤に連絡した。すると，加藤は『まだ近くにいる』と言ったため，『まだ残していった荷物があるから，戻ってきたら』と語りかけた。

加藤は戻ってきた。

女性は，話は後にして，とりあえずシャワーを浴びるよう勧めた。加藤はそれに応じた。

シャワーを浴びているとき，部屋に置かれた加藤のカバンの中身が見えた。コンドームが入っていた。

シャワーから出てきた加藤に対して，女性は怒りを込めながら問い詰めた。

『カバンの中が見えちゃったんだけど，私とやるつもりで来たの？』

加藤は首を横に振った。そして，唐突に言った。

『死ぬつもりでこっちに来た。死ぬ前に楽しい思い出を作りたかった』」(04)

この件に関し，加藤はつぎのように弁解している。

「群馬の友人は女性ですが，私が甘えて抱きついたものを犯そうとしたと誤解して私を責めるため，私は，誤解させた私が全て悪いと考え，冤罪を受け入れて謝り，そして関係を絶ちました」(06)

どちらがより真実に近いかは明らかであろう。

かりに，加藤の言い分が正しいとすれば，加藤の言動パターンの常として，事細(ことこま)かに反論し，偽証(ぎしょう)した相手に精神的打撃を加えようとするはずである。

ところが，加藤はそうしなかった。しかも，彼にしては，表現があまりに冷淡(れいたん)すぎる。実際，あの事件は，加藤の執念深さを抜きにしては語れないのだから。

たほう，この女性には，偽証する動機もメリットもない。逆に，加藤の性格や事件の規模を鑑みれば，偽証するデメリットは，はかり知れないだろう。

けれども，これを根拠に，加藤の陳述がすべて信用できないと考えるとすればどうだろう？

特称肯定命題（**※あるＳはＰである**）にすぎないものを全称肯定命題（**※すべてのＳはＰである**）にまで敷衍する拡大解釈であると思量される。

それではなぜ，加藤は，他の証言の信憑性を危険にさらしてまで嘘をつく必要があるのだろう？

この点に関して，元特捜検察官・田中森一の経験談が参考になるのではないだろうか。

「『事情があったんです』

自白したあと，被疑者は口をそろえて言う。

どんな悪人でも，自分自身を正当化したいものだ。

だから自己正当化する言葉を必死で訴えてくる。そんな自己正当化は，法的には許されるものではないし，世間では通用しない。だが，本人にとっては，それが心の救いになっている。

どんな人間にもプライドがある。たとえ極悪人でも，最後に残ったプライドを無下に否定していいものではないのではないか。そう思ってきた。だから，無茶な自己正当化だとわかってはいても，その言葉を聞いてやった。逃げ道を求める相手の道までふさぐことはできなかった」(12)

たしかに，加藤の証言をすべて信用することはできない。

だが，それ以前のマスコミ等による発表よりは，はるかに真実に近いのではないだろうか。

また，犯罪者自身が，これほど深く自己分析をおこなった記録はまれであり，犯罪心理学やプロファイリング（**profiling**）等にとっても大変貴重な資料であることは確かである。

それゆえ，加藤の証言を尊重しつつも，けして鵜呑みにはせず，論理の破綻や飛躍などに留意しながら総合的に判断し，読み解く必要があろう。

【秋葉原無差別殺傷事件　⑲　結語】

加藤の証言によって，「秋葉原無差別殺人事件は，成りすましらを心理的に攻撃する手段」(06) であったことが，明らかとなった。

この動機は，加藤にとっては，自明のことであり，なんら不自然なものではなかったろう。

しかし，ほとんどすべての人にとって，とうてい理解できるものではないだろう。ネズミ一匹殺すために，家全体に火をつけて，多くの死傷者を出すなどといった行為は。それはあまりに狂気に満ちている。目的と手段が少しも釣り合っていないのだから。

だから，どうしても，それだけでは不気味な違和感や隔靴掻痒の感を拭いきれないのである。

そして，まさに，この点にこそ，この事件の特異性と異常性，そして核心があるにちがいない。

これまでも，「なぜ，無差別殺傷が頭に浮かび，しかも，それを単なる手段として実行できたのか」という問題について，多少なりとも言及してきた。

けれども，それだけでは十分ではないだろう。

ここでは，なぜ，縁もゆかりもない人たちを無差別に殺傷するという凶行に走ることができるのか，という点について，さらに考察を加えたい。

加藤は，母親によって存在価値が激しく否定されてきた。しかも，それが悪循環となって，他人への「しつけ」や「無言の攻撃」に波及していったといえよう。

そして，そのたびごとに，みずからの価値（**人材市場価値，社会的価値，精神的価値など**）が，怒涛のように飛び散っていった。

けっか，彼の潜在的にもつ高いプライド（**※彼の言葉からそれがあふれだしている**）を傷つけていったにちがいない。

そして，その反動により，生みだされたマイナスエネルギー（**プライドの高さに反比例する劣等感など**）が膨らんでいき，それが怒りや恨みとなって復讐のエネルギーを際限なく高め，他人への「しつけ」や「無言の攻撃」をこじらせていったと考えられる。

それは同時に，彼自身は自覚していないとしても，そのぶん，社会に対する漠然とした怒りや憎しみをも高めていったにちがいない。

ならば，加藤は「秋葉原無差別殺人事件は，成りすましらを心理的に攻撃する手段です」(06) と主張しているが，それが動機のすべてではないと思われる。他にも目的をとげる方法はいくらでもあったのだから。

加藤自身は，自覚していようがいまいが，それは世間に対する漠然とした復讐でもあったのではないか。そう仮定すると，殺害対象が「無差別」であったことが，少しは理解できよう。具体性をもたない漠然とした怒りや憎しみは，具体性を欠いた無差別殺人と共通性が高いのだから。

加藤はネットにこう書きこんでいる。

「望まれずに産まれて　望まれて死んで

待っている人なんか居ない　俺が死ぬのを待ってる人はたくさんいるけど
みんな俺を敵視してる　味方は一人もいない　この先も現れない」(05)

全員が敵であれば，無差別に人を殺すことは，論理的に不合理ではなくなるだろう。少なくとも加藤本人にとっては。

しかしながら，「なぜ，ほとんど抵抗なく，無差別殺傷ということが頭に浮かび，しかも，それを実行できたのか」という疑問を解くためのより重要なカギは，以下の点にあるのではないだろうか。

既述のように，加藤は二度までも自殺をはかろうとした。とりわけ，最初の自殺未遂のように，自分の命を引き換えに，友人を「しつける」というのは，あまりにおのれの命を軽く扱っているといわざるをえない。
また，懲役は嫌だからという理由で死刑を選択し，しかも，とっさに無差別殺傷におよぶことができるのも，もとはといえば，自分の命を軽んじるところから発していると考えられる。
こういう軽はずみなことが軽々とできるのは，彼にとって，おのれの命の価値が軽いからである。そして，命の価値が軽いのは，自己価値観（**※自分自身に対する評価**）があまりに低いからであろう。
じっさい，加藤智大は，『殺人予防』のなかで，
「若い犯罪者に欠けているのは，たいていの場合，規範意識ではなくて，自尊心である」(01)
と説く加藤尚武（**京都大学名誉教授**）の考えに賛同している。
また，加藤智大は，きっぱり言い放つ。

「私は…自己愛などというものも持って」(01) いない，と。

元ヤクザの作家・安倍譲二は，ヤクザについてこう述べている。

「ヤクザというのは，…一般社会では，人から期待されなかったり，愛されなかった人たちかもしれません。それが意識するとしないとにかかわらず，本人の肉体の底に澱のように溜まっています」(13)
「親分が，一度，
『死んでくれ』
と言ったとき死ねるのは，単純に忠誠心とか何とかいったものだけではないように思います。もしかしたら，自分の生命に対してさえ横着になれる，尋常一様でない精神構造から生じてくる“勇気”なのかもしれません」(13)

そして，みずからの命を軽視するものは，他人の命をも軽く考えるようになるにちがいない。
加藤が，いかなる理由があるにせよ，「しつけ」の手段として無差別殺人を実行できたのは，自己価値観の低落からくる「おのれの命の軽視」が根底に横たわっているからだと，私は思う。
そして，自分の命を大切にしない者は，他人の命も大切にできないという特徴がある。
たとえば，加藤は，対向車線のトラックと正面衝突することによって自殺を図ろうとした。しかも，掲示板に参加しない地元の友人たちを「しつけ」るための手段として。また，最終的には懲役を回避し，死刑を選択するためだけに，罪なき人たちを無差別に殺害してしまう。
これほど他人（**運転手や通行人**）の命を軽んじることができるのは，自分の命の価値の感得を通じ，他人の命の価値を感得していないからである。
では，なぜ，加藤は，みずからの命の価値を感得できていなかったのだろう？
それは，これまで見てきたとおり，とりわけ幼少期において，親の愛情を十分受けていないからであると考えられる。
愛されるということは，愛する価値があると承認を受けることをも意味する。
加藤が親から愛情を注がれていれば，みずからの命の価値を感得し，同時に他者の命の価値をも感得したことだろう。
いや，それどころではない。
加藤においては，幼いころより，愛されないどころか，さんざん虐待を受けてきた。
虐待を幼少期より受けつづけてしまうと，虐待に対する抵抗感が相対的に薄れ，被害者から加害者へ容易に豹変しやすい。
だからこそ，他人を虐げる無差別殺人を犯すことに大した抵抗も罪の意識も感じなくなってしまったと考えられる。
また，「痛みを与えて相手の間違いを改めさせ」るという暴力的手法も，虐待された体験を通しておのずと身に着けたものだろう。
さらに，虐待が日常的であったために，「想像力が不足」し，「他人の痛みがわかりにくい」人間に育ったにちがいない。
さらにまた，親から虐待されて育ったことで，「自分が『不細工』であることをネタ」にする自虐（**自分への虐待**）にも，違和感をいだかなくなったのではないだろう

か。

加藤は，リアルな世界で家族の愛情を受けてこなかったがゆえ，つねにおののくほどの孤独感にさいなまれ，「一人きり」となることを異常に恐れてきた。「私にとって，社会との接点が失われるのは，それこそ自殺してでも逃れたいと思うほどの苦痛です」(03) と述べているほどに。

だからこそ，防衛機制を働かせ，その代償として，ネットの世界で，その置乏を満たそうとしたのだろう。

つまり，加藤は，子どものころからずっと，親にとって自分が必要のない存在である**(親から愛されていない)**と思い悩んでいた。だからこそ，ついぞ現実世界で叶えられなかった「認めてほしい」，「愛してほしい」，「必要とされたい」といった常軌を逸するほど肥大化した承認欲求を，ネットの世界で補填しようとしていたにちがいない。

ならば，そこに込められた思い入れは，たいていの人には想像もできないほど大きなものだったことだろう。

そればかりではない。

母親から受け継いだ歪んだ認知により，現実においてうまく立ち回れず，いつもトラブルを起こしてしまう加藤。「言葉ではなく，行動で示して周りにわかってもらおうという考え方」をもつ彼にとって…。

ネットの世界は，唯一本音で語り合える居場所であり，リアルな世界より，はるかに重要な世界であった。たとえ，バーチャルな世界ではあろうとも。

いや，加藤にとっては，それこそがリアルワールドであり渇望していた住家であった。

ところが，あろうことか，「成りすまし」や「荒らし」らは，無慈悲にも，唯一のやすらぎの場所であり，最後の砦となったわが家に，火をつけ，焼き尽くしてしまったのである。

加えて，その悲痛な体験は，忘れていた幼少期の虐待や恨みつらみをフラッシュバックさせたことだろう。

けっか，「成りすまし」や「荒らし」に対する怒りは，母親に対する感情と渾然一体となって暴走し，コントロールがきかないほどの怒りと憎悪を生みだしたにちがいない。

別言すれば，たった首の皮一枚でつながった唯一の「命綱」。最後の生きる希望を奪われた加藤は，ネット上の擬似家族を皆殺しにされたような感覚を覚え，抑えきれないほどの怒りを覚えたのだろう。

そしてついに，激昂とねじれた反動は，目には目を，火には火を。お仕置きという名の復讐へと向かっていったのである。

参考（引用）文献

(01) 加藤智大.（2014.8.10）. 殺人予防. 批評社.
(02) 加藤智大.（2013.4.10）. 解＋. 批評社.
(03) 加藤智大.（2014.1.25）. 東拘永夜抄. 批評社.
(04) 中島岳志.（2013.6.30）. 秋葉原事件　加藤智大の軌跡. 朝日新聞出版.
(05) 長谷川博一.（2015.4.1）. 殺人者はいかに誕生したか. 新潮社.
(06) 加藤智大.（2012.7.10）. 解. 批評社.
(07) 片田珠美.（2016.3.1）. 自己愛モンスター「認められたい」という病. ポプラ社.
(08) ロバート・レスラー＆トム・シャットマン　著／相原真理子　訳.（2000.12.31）. FBI 心理分析官～異常殺人者たちの素顔に迫る衝撃の手記. 早川書房.
(09) 遠藤均.（2019.3.25）. 秋葉原通り魔事件の真相①. 星槎道都大学. 星槎道都大学紀要　経営学部, 18：47-59.
(10) 遠藤均.（2019.3.25）. 認知行動療法における認知の歪み. 星槎道都大学. 星槎道都大学紀要　経営学部, 18：29-38.
(11) John Maltsberger.（1986）. Suicide Risk: The Formulation of Clinical Judgment. New York University Press.
(12) 田中森一.（2007.6）. 反転　闇社会の守護神と呼ばれて. 幻冬舎.
(13) 安倍譲二.（1987.4.30）. 極道渡世の素敵な面々. 祥伝社.

The Akihabara massacre ②

ENDOH Hitoshi

Abstract

The Akihabara massacre was an incident of mass murder that happend on Sunday, 8 June 2008, in the Akihabara, Chiyoda, Tokyo, Japan.

At 12:33, a man drove into a crowd with a truck, killing three people and injuring two; he then stabbed at least 12 people using a dagger, killing four people and injuring eight.

Tokyo Metropolitan Police Department arrested Tomohiro Katō on suspicion of attempted murder. Katō was sentenced to death by the Tokyo District Court in 2011, and the sentence was upheld on appeal in 2015.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Management
No.1, 53－58, 2020

高校生の陸上競技長距離種目における指導について

石　井　祐　治

１．はじめに

現在，陸上競技長距離種目の大会で高校生が参加できるレースが増え，同時に高校生たちは国内外のアスリート達の活躍を見てレースへの関心を高めてきている。

そして何よりも日本で生まれた「駅伝」種目が普及して，テレビで中継放送される箱根駅伝をはじめとする駅伝競走は高校生たちの憧れとなり，大学に進学して「出雲駅伝」「全日本大学駅伝」「箱根駅伝」に出場して走りたい気持ちから長距離走を始める高校生たちが増えてきているように思われる。

駅伝は，ロードコースを用いての試合がほとんどであるため駅伝の常連校ではロード走を中心とした練習や，ジョギングもロードを使用する場合が多い。

筆者は，高校生の指導に携わってきた中で色々な問題に局面してきた経験から練習を実践させる前に考慮しなければならなかった反省点を今後の指導に活かしていかなくてはならないと感じている。

今回，筆者は高校生の指導に携わった経験から高校生の長距離の指導について検証する。筆者が推奨する練習方法は選手の適性や練習環境に合った練習方法を取り入れる方法がベストだと感じている。そのためには，指導者が各々の練習方法のメリット，デメリットを把握した上で練習計画を立案して実行，検証，修正して練習計画の見直しを図りながら進めていくべきであろう。練習環境によって練習の効果は違うであろうが，そうすることによって国内，国外いずれの環境においても練習の効果は高まるものと考えられる。

２．ランニングにおける練習方法

現在，ほとんどの高校の練習は授業後の放課後におこなわれているなかで，ランニングに関する練習方法をざっと挙げてみると以下のような練習方法が用いられている。

【練習方法】

①JOG（ジョギング）
②LSD（ロング・スロー・ディスタンス）
③ペース走
④ビルドアップ走
⑤タイムトライアル
⑥インターバル
⑦レペティション
⑧ウインドスプリント走
⑨クロスカントリー走

①JOG（ジョギング）

JOG とは，ジョギングとよばれ速く走るランニングとは違い，ウォーキングの延長でゆっくりとしたスピードで走ること意味して国立健康・栄養研究所によって示されている METs 表によるとランニングは時速 6.4 km 以上，ジョギングはそれ以下のスピードが目安とされている。またジョギングは準備運動で用いられる場合が多く，ウォーミングアップでレースに必要な動き作りに用いられている。また競技者がレースの後にクーリングダウンをおこなう時にも使われる。

METs 表とは運動強度の単位で，安静時を１とした時と比較して何倍のエネルギーを消費するかで活動の強度を示したものである。ジョギングに相当する METs は 5.0 以上の強度となり，時速 9.6 km のランニングとなると METs は 10 となる。普段の練習では，準備運動や整理運動の時，積極的休養を図る時，体調を整える時などゆっくり走る時にジョギングが用いられる。またジョギングは怪我や故障者が練習に復帰する前の練習方法として体に与える影響が少ないことから有効な練習である。ジョギングは，競技者には心拍数が上がらない程度の運動強度であるため心肺機能の強化にはあまり役立たないため，負荷をかける用途には用いられない。

②LSD（ロング・スロー・ディスタンス）

LSD とはロング・スロー・ディスタンスの略称で，一般に長い時間かけてゆっくりのペースで距離を踏む練習方法である。この練習方法は，特に一般の競技者に多く取り入られていて，スローペースで長時間走ることによって酸素の運搬能力を高めることから有酸素機能を向上させ，心肺機能が高まることから一般の競技者がマラ

ソン向けの練習に広く役立てている。

有酸素運動によって，毛細血管を活発に増加させ多くの酸素を血液で循環させることができることから酸素摂取能力および全身持久力の向上が期待できるわけである。

また脂肪の燃焼に役立つことからダイエット効果があり体脂肪の削減に効果があるとされジョギング同様に初心者や怪我や故障者の復帰した後の練習方法として用いられる。ロング・スロー・ディスタンスは速筋繊維を強化させる効果は低く，ジョギング同様にスピード強化には結びつかない。

③ペース走

ペース走とは，ある一定のペースで走る練習方法でペース感覚を養うことができる。ペース走をおこなっていくことで一定の距離をスピードの上げ下げが少なく走れる技術を身につけることができるため，長距離選手の練習に有効な手段であるといえる。ペース走は持久力アップに効果的で，AT 値の向上に効果的であるとされておりスピード持久力の向上に役立つ。

AT 値とは，有酸素運動と無酸素運動の境界レベルの運動負荷で走るペースのことで，ぎりぎりに近い一定の速度を維持して走ることのできる値である。

効果的なペース走とは，余裕を持ったペース感覚で最後まできつくない程度のある一定ペースで余力を残して走れるスピードを保って走ることが重要である。繰り返しおこなうことによって徐々に距離を伸ばしていき，徐々にペースのレベルを上げていくことによって AT 値レベルが向上していく。

ペース走は，試合前の調整にも用いられる練習方法であり，試合前にレースペースと同じペースで走ることで目標タイムのテスト走になる。また，レース前の状態の確認とレースペースを体に覚えさせることができる。

④ビルドアップ走

ビルドアップ走とは走り始めはペースを抑えて徐々にペースを上げていく練習方法で体力的には後半になるにつれて疲労が生じてくるためペース配分を考慮しておこなわなければならないが，レース後半からのペースが上がった時の精神的な苦しさに対して強化することができる。そして，乳酸性作業閾値（LT 値）を高める練習方法である。

乳酸性作業閾値とは，運動する際に発生する乳酸が発生する中で乳酸を利用することによって運動を続けることができるもので，乳酸濃度が高まらないレベルでの走りをすることによって長時間走り続けることができる分岐点を意味する。

乳酸性作業閾値を高めることはランニング効率の向上，筋肉の酸化系エネルギー供給力の向上につながるため速いペースでのランニングの持続時間が高まるものと考える。

⑤タイムトライアル

タイムトライアルとはレースと同じような決められた距離を全力で走る方法で，毎日の練習の成果や自分自身の現段階での状態の確認やレース感覚を磨くことができる。レースの予行練習にもつながりレースプランの構成に役立つ練習方法である。

実際には，全力で走るため練習計画を立てる際にタイムトライアルの実施日や体調を考慮しておこなわなければならない。

タイムトライアルは試合と同様に体への負担がかかるため一定期間をおいた上で実施することが大切であり，定期的に実施するとよい。

また，目標とするレースの距離よりも短い距離でおこなったほうが追い込んで走れるためレースより速いペースでおこなうことができる。予定していたペースより速いレース展開になった場合の対応にもつながる。

⑥インターバル

一般的に長距離の練習に用いられる方法で，不完全休息を入れながら走る練習方法で，あらゆるスポーツ種目で取り入れられている。

特に，陸上競技の中長距離種目の心肺機能の向上に役立つ練習方法である。

インターバルの意味として，心肺機能に負荷がかかる走りを入れた後に暖走を入れた不完全な休息を入れ，それを繰り返すものである。インターバル走をおこなった後，数日間の回復期間を入れてから繰り返してインターバル走をおこなうことによって心肺機能の向上が望める。

この練習方法の利点として，負荷をかける距離を短くして距離でセット数を増やしたり負荷をかける距離を長くしてセット数を少なくしたりと色々な組み合わせの中で用いることができる。

⑦レペティション

レペティションとは，一定の距離を全力または全力に近いペースで走り完全休息に近い休息時間を設けた「疾走＋休息」を繰り返しておこなう練習方法で，インターバル走との大きな違いとして，インターバルトレーニングは疾走後不完全休息で繰り返すトレーニングであるのに対してレペティショントレーニングは，完全休息を入れて負荷をかけるといった休息の仕方に大きな違いがあ

る。

練習の効果として，全力に近い負荷をかけることによって速筋線維を刺激するためスピードを向上させ，乳酸に対する耐性を高めるために，乳酸を多く発生させる運動強度が高い練習方法である。

乳酸耐性を高めることによってより速いスピードで走り続けられるようになり，スピード持久力を高めることによってレース後半のペースダウンを抑える効果的な練習方法である。

⑧ウインドスプリント走

ウインドスプリント走とは，全力ではなく７，８割の感覚で短い距離を走る練習方法である。

距離的には 100 m 前後の短い距離を数本程度おこなうもので追い込む走りをするのではなく適度なスピードの強度でおこなう。

特に，レース前や体に刺激を入れたい時など身体の調子を整える意味でおこないレース前やメイン練習の前後に用いる場合が多い。

初心者は，慣れるまではジョギングのあとにウインドスプリント走を入れた練習をして徐々にスピードを入れる距離を伸ばしていくよう色々な練習に加えていくとよい。

⑨クロスカントリー走

クロスカントリー走とは，ロード走とは違った土や芝生といった自然の地の利を使った起伏や不整地な柔らかいコースでおこなうものである。

この練習方法は，アスファルトと違い着地の際に衝撃が吸収され反発しないため普段使わない筋肉も使用され，上りや下りで負荷のかかり方が変わるためバランス感覚が養われ，脚筋力や上りを走る際の心肺機能の強化に役立つ練習である。

また，丘のような地形を用いたヒルトレーニングでも平地での練習とは違ったクロスカントリー走と同じような効果があり，両者とも自然の地形を活かした練習方法で身体のバランス感覚や脚筋力や心肺機能に効果がある。

３．これからの高校生の指導における練習計画についての課題

⑴　故障の予防

高校生については，まだまだ成長過程の中での段階である。高校生の練習の内容も中学生時よりも練習の量と質が高まってくるため疲労度も高まり，身体器官に与える影響が大きくなるため，筋肉および靭帯，関節，骨への負担がかかることによって故障が起こる要因となる。

特に，１年生は練習環境，練習内容に慣れていないため身体へのストレスが高まることによって故障を誘発する要因になる。

シンスプリント，中足骨の疲労骨折，ハムストリングの肉離れ，膝蓋骨軟化症，膝蓋靭帯炎，オスグット，長径靭帯炎など各怪我の種類があるがいずれも原因として練習のし過ぎによる各個所への過度な負担によって起こるものである。

そのため，練習の内容に各選手たちへの身体に負担がかかり過ぎないよう配慮しなければならない。

現在，高校生の長距離走においての記録の向上によって練習の内容も質量ともに増えていく傾向にあり体への負担が高まってきているのが現状である。

指導者として，記録の向上の中に高校生の長距離種目の大会で目標とされている全国高校総体（インターハイ）や全国高校駅伝を目指しているため，春先から夏はトラック練習，夏から冬場においてはロード練習が主体となるため高校生にとって休養期間が限られているのが現状である。

欧米諸国のトレーニングをみてみるとアスリートたちは冬場，走り込みよりもウエイトトレーニングや室内での球技やウインタースポーツを行なっている。

日本では，冬場は駅伝シーズンとなるためロードでの試合が多くなり，トラックシーズンに向けての走り込みとしてロード走を用いる場合が多いため，特に冬場は筋肉や諸関節・靭帯にかかるストレスがかかり故障が発生しやすい。

故障の原因として，ロード練習やスピード練習のやり過ぎから起こると考える。

筋肉にあるグリコーゲンの回復には 48 時間かかるとされている。つまり最大レベルの練習強度で入れた場合最低でも２日間は練習の強度を落とさないと元のレベルには戻らない。そのような事を考えると，２日間同じ強度のレベルで練習を入れた場合２日目の練習の際には注意して行わないと故障や怪我に結びつく危険性があるということになる。

現在，全国高校総体の地区予選大会をみてもレースが続く中での日程となるため，１日に２レース出場もしくは２日連続しての出場となるため，レースを想定した上での練習を計画していかねばならないと考える。

筆者は，２日間強度の高い練習を組む場合には１日目より２日目に強度の高い練習を行うようにすれば実践的なものになるかと思われる。

この事は，決勝をふまえた上で，いかに予選で余裕をもってレースをできるかは，普段からの練習によって活かせるはずである。

例えば予選で，軽そうに走っていた選手が決勝では予

選よりも悪い結果で終わってしまう場面がよくある。

原因として体力的要因もあるだろうが１本目の予選で心身共にもてる力を発揮し過ぎてしまい２日目は，心身共に疲弊した状態に陥ってしまい予選の動きもできないまま終わってしまったと考えられる場合がある。

１本目の予選よりも２本目の決勝で最大限の実力を発揮させるための練習として練習の内容として２日間強度の高い練習を組む場合，１日目よりも２日目に強度を上げるべきと考える。

練習の強度については選手の走力に応じて１日目は全力にならない強度の内容にして２日目に強度の高い内容にすることによって，連戦になるレースを想定した上での練習になるであろう。

故障の原因として疲労の蓄積によって起こる場合があるため練習の過程の中で故障を誘発する伏線がみられた場合には直ちに練習の内容の見直しを図らなければならない。そして，大会までの計画を修正していけば，大きな故障にならず回復修正が効くであろう。

指導者は選手が故障しそうな時点で，素早く察知して故障を回避する策を投じるのも重要なことで，指導者と選手とのコミュニュケーションが作られていないとできない。

選手は試合に出場したいがために，多少の異変が生じても指導者に黙っているケースがみられ，あとで指導者が知ったケースが多いのは，指導者が普段から選手の動きをよく見た上で状態の確認を常にチェックするなど細かい気づきが必要なことであろう。

そのためにも指導者と選手との信頼関係の構築が必要となり練習日誌をつけさせて，定期的にチェックしてアドバイスを入れながら取り組ませることと同時に，定期的なメディカルチェックも必要となる。

また気候に応じて練習環境を配慮することも必要なことであり，練習場所，練習時間，練習内容も考慮すべきである。

⑵　貧血の予防

公益財団法人日本陸上競技連盟が推奨するアスリートの貧血対策として７つの項目が挙げられている。

①食事で適切に鉄分を摂取すること。
②鉄分の摂りすぎに注意すること。
③定期的な血液検査で状態を確認すること。
④疲れやすい，動けないなどの症状は医師に相談すること。
⑤貧血の治療は医師と共におこなうこと。
⑥治療と共に原因を検索すること。
⑦安易な鉄剤注射は体調悪化の元になること。

貧血の原因として病的な要因で起こるものとスポーツ等でハードな運動によってヘモグロビン鉄が発汗や尿や便から消失して，ランニング特に長距離走では長時間足底に衝撃が加わることによって赤血球が破壊されて溶血して貧血の症状を引き起こす。

特に成長期である思春期の運動選手にとって鉄分は血液を作成する以外に，筋肉や骨格などの身体を構成する際に使われる物質であり，常に鉄分の数値が高い状態でないと貧血に陥りやすくなる。

女子の場合は，月経による失血がともなうため特に注意を要するものである。

主な症状として疲労感，だるさや動悸，息切れなどがあるが長距離選手のほとんどは貧血状態に陥っているのに気がつかない場合が多いため，定期的な血液検査が有効な手立てであるのと同時に食生活に常に気を使い食育も充実させていかなければならない。

血液検査の指標として３ヶ月に１度，赤血球，ヘモグロビン，ヘマトクリット，血清鉄，血清フェリチンが基準値を下回っていないかどうか検査してみることによって選手が安心してトレーニングに取り組めるものと考える。

一般的な食事の中でもレバーなど鉄分を多く含む肉類の他に鉄の吸収率を高めると言われるホウレンソウなどの野菜類そしてビタミンＣ，亜鉛を一緒に摂取できる食事に気を使うと良いであろう。

そして，補助食品として鉄分などを多く含んだサプリメントを食事と一緒に摂ると効果的である。

貧血の陥りやすい夏場などは特に食欲が衰退してしまい貧血になってしまうと改善が遅くなるため梅雨時から食生活に注意する必要がある。

特に鉄分などの補給は意識して摂取する必要があるが健康補助食品に頼り過ぎないよう日頃から食事に注意する必要がある。

⑶　モチベーションの維持

スポーツ選手の中に，燃えつき症候群に陥るケースがある。いわゆる精神的に落ち込んだ状態になりやる気を失い競技を続ける意欲がなくなり自分から止めてしまうケースが見られる。

心身の状態が悪くなりバーンアウトに陥るケースの前の段階で適切な対応をしておかないと手遅れになってしまう。

その前触れとして，モチベーションの低下が挙げられる。メンタルな面での影響として，日常生活の中でイライラや不安，焦りの症状が見られ，身体的な部分への影響としては，食欲不振，不眠，発熱などの症状が見られる。

これらの症状が出ないようにするためには，普段からの練習時間，部活動以外の時間の確保，休養・睡眠時間の確保が必要不可欠となる。

高校生活の中で，部活動と勉強との両立や人間関係など思春期の生徒にとってストレスが多くのしかかって精神的な負担からモチベーションの低下が見られる場合がある。これらを防ぐためにも指導者が選手の生活状況が把握できるような手段をとらなくてはならない。よく部活動日誌を書かせて指導者が練習結果を確認して選手に指導しているが，直接選手と面談等向き合った形で進捗状況を確認して，場合によっては相談に応じる機会を定期的に設ける必要があるであろう。

特に中学時代に活躍していた選手が高校に進学してから怪我などで伸び悩んだまま競技生活を終えてしまった選手の話を聞くが，この場合，競技に対する意欲を失う，燃え尽き症候群と言われるバーンアウトに陥ったケースが多い。

指導者としては，こうしたケースにならないよう選手の心身の状態を常に観察して傷口が大きくなる前に対処していかなくてはならないので選手とのコミュニュケーションを図れるよう選手が指導者と向き合える状況を作っておかなければならない。

そのためにも練習日誌をつけさせて選手状態を確認したうえで定期的に面談して選手の話を聞いてアドバイスを送るようなコミュニュケーションを図れる場を作ると良いであろう。

4．まとめ

高校生の陸上競技の長距離指導について，専門的な知識や技術および豊富な経験を積んだ指導者であれば高いレベルの指導ができるかと思うが，まずは生徒達への意識付けも大切であろう。そのためには，長期的な目標など明確に設定することが大事である。指導者は過去の経験や学んで得た知識などを土台にして練習計画を立案しているかと思われるが，その中で練習計画の内容を理解させた上で生徒自身が思考する取り組みの場を作ってやるべきだと思う。今，文部科学省が推奨するアクティブラーニングが当てはまるかと考える。指導者自身も指導される側に立って，計画→実行→評価→改善といったサイクルをつなげていきながら練習レベルを上げていく必要があるであろう。段階を踏みながら作り上げていかなくて指導される側がついていけなくなる可能性があるからである。これからは，画一的指導ではなく会話を通じて納得いく上での練習計画を立案，実行させていく指導が有効であるかと考える。

参考文献

1）ノックス，ティム（ランニング学会訳）『ランニング事典』大修館書店，1994
2）サウスメイド，ウィリアム他（中嶋寛之監修）『スポーツヘルス』ブックハウス・エイチディ，1983
3）日本スポーツ心理学会　編集『スポーツ心理学事典』大修館書店，2008
4）公益法人日本陸上競技連盟『アスリートの貧血対処７ヶ条』2016
5）石川三知『トップアスリートになるための食事と栄養学―ベストな身体を作り勝利を目指す実践スポーツ栄養学！』日本文芸社，2004
6）井藤英俊，山本順之「長距離走の授業におけるアクティブラーニングの導入：新学習指導要領に対応した体育授業の提案」『九州保健福祉大学研究紀要⑲』53-58，2018

Guidance of High School Students in Long Distance Events in Athletics

ISHII Yuji

Abstract

Currently, the number of races that high school students can participate in in long-distance athletics events is increasing, and at the same time, high school students are increasing their interest in racing by watching the activities of athletes in Japan and abroad.

And above all, the “Ekiden” event that was born in Japan spread, and the Ekiden race including Hakone Ekiden which is broadcast ed by television became a longing of high school students, and went on to university “Izumo Ekiden” and “All Japan University Ekiden” It seems that the number of high school students who start long-distance running from the desire to participate in “Hakone Ekiden” and run is increasing.

Since the Ekiden is mostly a game using a road course, regular schools in Ekiden often use road practice and jogging, mainly road running.

The author seems to have to make use of the reflection points which had to be considered before the practice is put into practice from the experience which has faced various problems in the guidance of the high school student in the guidance in the future.

This time, the author examines the long-distance guidance of high school students from the experience of teaching high school students. I think the best practice method I think is to incorporate the practice method that suits the player’s aptitude and practice environment. In order to do so, it is necessary for the leader to understand the merits and disadvantages of each practice method, and then plan the practice plan, execute it, verify it, and revise it while reviewing the practice plan. The effect of the practice might be different depending on the practice environment, but the effect of the practice is considered to increase in both domestic and foreign environments by doing so.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Management
No.1, 59－65, 2020

野球のバッティング動作の違い

～「インサイドアウト」によるスイングと「落とし」によるスイングに着目して～

篠　原　諒　介

第Ⅰ章　緒言

1．研究の背景及び意義

野球の試合における勝敗は「いかに相手により多く点数を奪うか」によって決まる。そのため打者の役割が試合において重要な鍵を握る。相手よりも多く得点するために，打者はヒットやホームランのような速い打球・遠くへ飛ぶ打球を打つように心がける。速い打球・遠くへ飛ぶ打球を打つために力強いインパクト（バットとボールの衝突）が必要であり，力強いインパクトをむかえるために，打者はバットを加速させ，インパクトまでに大きな速度を獲得させる必要がある。

バッティング動作中のバット運動は，グリップエンドが投手方向へ移動する並進運動，グリップエンドを中心としたバットの長軸そのものの回転運動（スイング）とバットの長軸周りの回転運動（ローリング）という３つの運動によって構成されている（Fig. 1)。他にもバッティングは投手が投げるボールを見て，コース，高低，球種を判断し，タイミングよくボールに当て，野手と野手の間を抜く，あるいは外野フェンス越えを目標とするものでもある。さらに，バッティングではインコースの直球に対応することが難しいとされている。インコースの直球をできるだけ高い確率で打ち返し，かつ他のコースや球種にも対応するためにトップからフォロースルーまでのバットの軌道を「インサイドアウト」で振ることが重視されている。

「インサイドアウト」のスイングとは，トップの位置から右打者ならば左手のグリップでスイングをリードし，できるだけ身体の近くをバットが通るように振り始め，大きいフォロースルーがとれるようにするスイングのことであり，野球の指導書にはインサイドアウトのスイングが理想として解説される。

たとえば「バッティング革命」[1] では「インサイドアウト」を次のように記している。「球道を中心線としたとき，身体の内側（中心線よりバッター寄りの側）から外側（中心線よりバッターから遠い側）へと向かう理想的なバットヘッドの軌道のことを指す。構えの位置からバットが最短距離でインパクトを迎える。そのため，エネルギーロスが少なく，強い打球を放つことができる。このスイングだとインコースに苦しまずにすみ，変化球に多少泳いで上体が突っ込んでもバットのヘッドが残っているので対応できる」

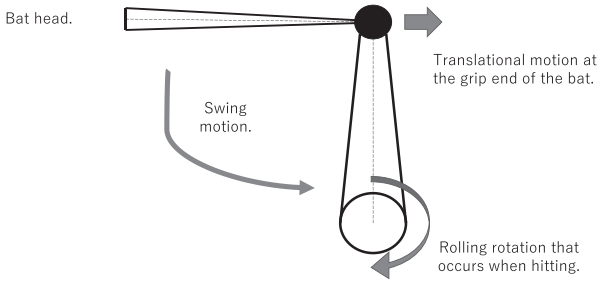


Fig. 1.　Structure in bat swing.

野球のバッティングの研究はバッティングの正確性[2]やタイミング[5]，バット速度を速くする技術[7]，打者の意志決定[10]，打撃ポイントの違いによる動作の変化[12]，投手の投げるボール速度に対する打撃動作[6] などが中心である。しかし，野球指導者からはどのような指導法であれば打撃が向上するかという指導法の研究も望まれていると思われる。たとえば，「インサイドアウト」のスイングは実戦可能な指導法等であるが，これまで「インサイドアウト」における指導法の研究はほとんど行われていない。

「インサイドアウト」を意識させるために，よく言われている表現として「内から最短」などが挙げられるが，実際にこのように意識してスイングを行うと，グリップエンドを身体の近くかつ向かってくるボールに向けて出すような動きになる。その際，リーディングアーム側の肩が後方に回転してしまい，俗に言う「開く」という動作を引き起こすきっかけになってしまうと考えられる（Fig. 2)。Welch et al（1995）はバッティング動作では，下肢-体幹-上肢の順で回転し，バットを加速させていると報告している。しかし，「インサイドアウト」を意識させることにより，上肢の動き，特に腕・手首の筋活動が中心になってしまうのではないかと考えられる。

本研究では，「インサイドアウト」ではなく，トップができてからスイングを行う際にグリップエンドを体側に



Fig. 2.　Swing by inside out.

落とすこと，またそれと同時に骨盤を回転させる「落とし」という動作を意識させる。この「落とし」によるスイングは，「インサイドアウト」とは全く別のスイングのように思われるが，グリップエンドを体側に落とし回転する，つまり身体の近くをバットが通るように降るという「インサイドアウト」と同等のスイングになると考えられる。また，この「落とし」によるスイングは上肢の使い方が体側に落とすだけと非常に簡単なため，無駄な力が入らず，先行研究にあるように，下肢-体幹-上肢という流れがスムーズに行えるのではないかと考えられる（Fig. 3）。



Fig. 3.　Swing by dropping.

これらのことから，本研究では，「インサイドアウト」及び「落とし」によるスイングにおける違いを明らかにすることにより，バッティング動作の改善やトレーニング方法，指導方法に新たな知見を加えることができると考えられ，バッティングパフォーマンス向上に繋がると考えられる。

２．研究目的

本研究は，「インサイドアウト」及び「落とし」によるスイングにおける違いについて検討することを目的とした。

第Ⅱ章　研究方法

１．被検者

被検者は，18 歳以上の健康な男性 25 名とした。Table 1 に被検者の年齢及び身体的特性を平均値及び標準偏差で示した。

全ての被検者には，事前に本研究の目的，方法及び実験に伴う危険性について十分に説明を行い，任意による実験参加の同意を得た。

Table 1.　Age and physical characteristics of subjects.

n	Age (yrs)	Body Height (cm)	Body Weight (kg)	FFM (kg)
25	20.7±1.0	174.7±5.9	74.0±7.7	63.7±5.9

Values are means±S.D.

２．形態計測

形態計測の項目は，身長，体重，体脂肪率及び筋肉量とした。身長は，アナログ身長計を用いて 0.1 cm 単位まで計測した。体重及び体脂肪率，筋肉量はマルチ周波数体組成計（TANITA BC-761，TANITA 社製）を用いてインピーダンス法により測定した。

３．計測方法

本研究では，「インサイドアウト」によるスイング（以下インサイドアウト群）と「落とし」によるスイング（以下ダウン群）の違いをスイングスピード及び打球速度から検討する。打者の後方 1.5 m にマルチスピードテスター（Fig. 4）を設置し，スタンドティーに置いたボールに対して各スイングで 10 球ずつ実打してもらった（Fig. 5）。



Fig. 4.　Multi speed tester (SSK Baseball).



Fig. 5.　Measuring method.

第Ⅲ章　研究結果

1．各スイングにおける比較

Table 2 は，各スイングにおけるスイング速度及び打球速度の平均速度と最大速度の比較を示したものである。スイング速度における平均速度では，インサイドアウト群（122.1±8.7 km/h）とダウン群（122.6±8.6 km/h）との間には有意な差は認められなかった。スイング速度における最大速度でも，インサイドアウト群（129.9±6.6 km/h）とダウン群（129.9±8.6 km/h）との間には有意な差は認められなかった。打球速度における平均速度では，インサイドアウト群（119.7±7.2 km/h）とダウン群（124.2±9.1 km/h）との間には有意な差は認められた。打球速度における最大速度では，インサイドアウト群（128.4±7.1 km/h）とダウン群（131.1±8.5 km/h）との間には有意な差は認められなかった。

Table 2.　Conparison of swing speed and hitting speed by each swing.

Group	Average speed(km/h)		Max speed(km/h)	
	Swing	Hitting	Swing	Hitting
IS	122.1±8.7	119.7±7.2	129.9±6.6	128.4±7.1
DS	122.6±8.6	124.2±9.1	129.9±8.6	131.1±8.5

*

Values are mean ± S.D. * : $p<0.05$

2．インサイドアウト群における打球速度と FFM の関係

Fig. 6 は，インサイドアウト群における打球速度と FFM の関係を示したものである。その結果，打球速度と FFM との間に相関関係は認められなかった。

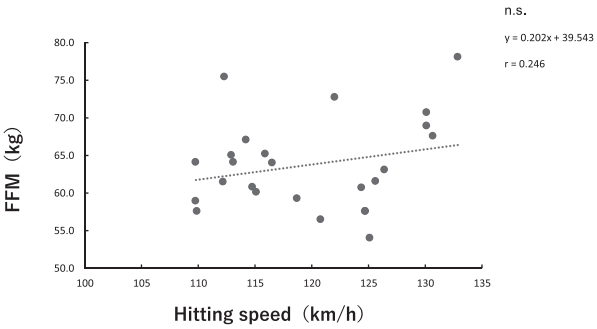


Fig. 6.　Relationship between hitting speed and FFM in inside-out swing.

3．ダウン群における打球速度と FFM の関係

Fig. 7 は，ダウン群における打球速度と FFM の関係を示したものである。その結果，打球速度と FFM との間に相関関係は認められなかった。

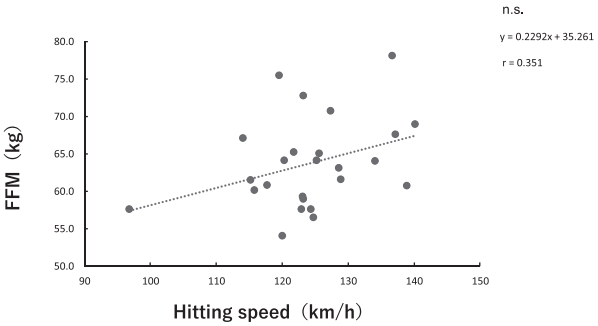


Fig. 7.　Relationship between hitting speed and FFM in swing by dropping.

4．インサイドアウト群におけるスイング速度と FFM の関係

Fig. 8 は，インサイドアウト群におけるスイング速度と FFM の関係を示したものである。その結果，スイング速度と FFM との間に相関関係は認められなかった。

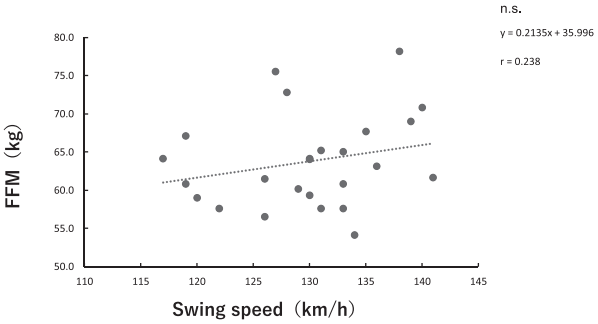


Fig. 8.　Relationship between swing speed and FFM in inside-out swing.

5．ダウン群におけるスイング速度と FFM の関係

Fig. 9 は，ダウン群におけるスイング速度と FFM の関係を示したものである。その結果，スイング速度と FFM との間に有意な正の相関関係が認められた。

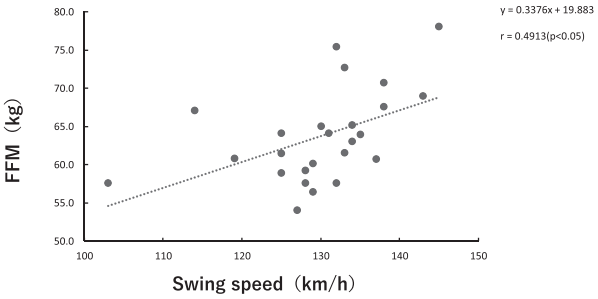


Fig. 9.　Relationship between swing speed and FFM in swing by dropping.

６．インサイドアウト群における打球速度とスイング速度の関係

Fig. 10 は，インサイドアウト群における打球速度とスイング速度の関係を示したものである。その結果，打球速度とスイング速度との間に有意な正の相関関係が認められた。

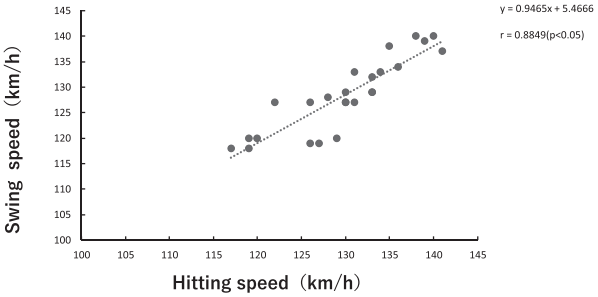


Fig. 10.　Relationship between hitting speed and Swing speed in inside-out swing.

７．ダウン群における打球速度とスイング速度の関係

Fig. 11 は，ダウン群における打球速度とスイング速度の関係を示したものである。その結果，打球速度とスイング速度との間に有意な正の相関関係が認められた。

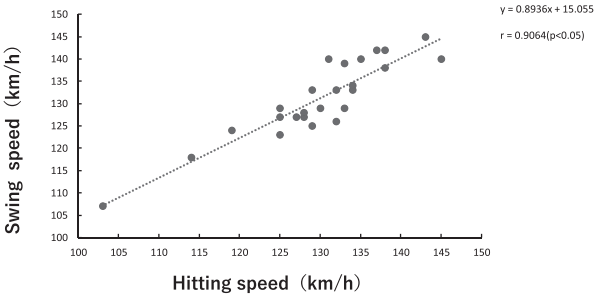


Fig. 11.　Relationship between hitting speed and swing speed in swing by dropping.

第Ⅳ章　論議

本研究は，２種類のスイング（「インサイドアウトによるスイング：インサイドアウト群」と「落としによるスイング：ダウン群」）における違いについて詳細に検討することを目的とした。

その結果，本研究では，打球速度における平均速度において，ダウン群がインサイドアウト群より有意に速い打球を打っている結果となった。また，ダウン群におけるスイング速度と FFM の関係及び打球速度とスイング速度の関係において有意な正の相関関係が認められ，その相関はインサイドアウト群より強い相関を示していた。

１．意識の問題について

David et al（2014）は，バッティング動作は，最初の直線運動が基底部位（地面，両足，両脚）で起こり，続いて股関節の前方回旋が起こり，それが胴体（体幹，背，肩）に伝わり，さらに上肢（両腕）と手に伝わり，最後に用具に伝わると報告している。この原理は，キネティックチェーンの最後の連鎖である手と手関節が他の部位に「従って動く」ことを意味する。すなわち，全体的な運動エネルギーの発生とスイング速度に果たす手や手関節の貢献はあまり大きくはない。また，David et al（2014）は，EMG による四肢の筋群の分析に基づいて，運動連鎖の原理を裏付けた。その報告によると，野球のスイングは調和のとれた一連の筋活動であり，両脚（ハムストリング：大腿二頭筋と半膜様筋）における高い筋活動から始まり，股関節（大臀筋と内側広筋）での高い活動，続いて体幹（腹斜筋，脊柱起立筋，三角筋後部）の高い活動がみられ，その後スイング後期では勅上筋及び前鋸筋とともに体幹部の筋活動が低下し，そして最終的に両腕の停止をもたらす（スイングの初期及び中期における上腕三頭筋の高い筋活動と終期における低い筋活動）。このように，バッティング動作には下肢−体幹−上肢という流れがあるが，本研究で行ったインサイドアウト群では，「内から最短に」などの表現のように，バットを持っている手など上肢における筋活動の介入が大きすぎるのではないかと考えられる。一方で，ダウン群では，スイング開始時の上肢の動きは，グリップエンドを体側の落とすという動作と非常に筋活動は少なく，また骨盤で回転するという先行研究のように下肢−体幹−上肢という流れは発生しやすいスイングだと考えられる。しかし，本研究では，MC センサーや EMG などの筋電図を用いた測定などが行えなかったため，一概にインサイド群では上肢筋群，ダウン群では下肢筋群及び体幹における筋活動が大きかったと断言することができない。

２．スイング軌道について

本研究では，各スイングにおけるスイング速度には有意差は認められなかったが，打球速度においては有意差が認められた。このことについては，各スイングにおけるスイング軌道の違いがあると考えられる。インサイドアウト群はスイング軌道の中の点でボールをとらえるダウンスイング（Fig. 12）に，ダウン群はボールをとらえる範囲が広いとされているレベルスイングやアッパースイング（Fig. 13）になっている可能性があると推察される。立花ら（2017）は，上から直線的にバットを出す，いわゆる最短距離でのダウン軌道は最もスイング速度が速くなると思われがちだが，実はそうではないと述べている。その根拠に，Fig. 14 における A 点に置いた球を B

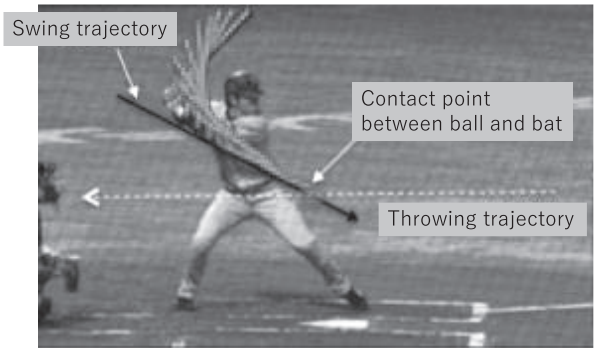


Fig. 12.　Swing trajectory in downswing.

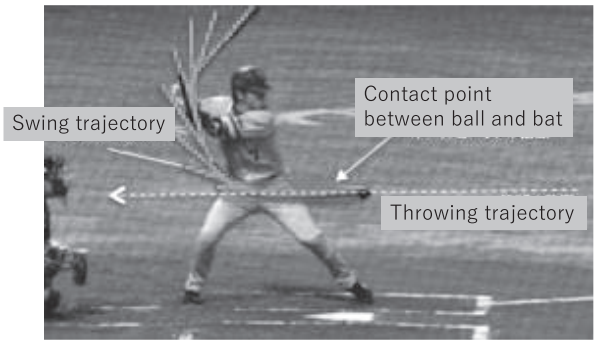


Fig. 13.　Swing trajectory in level swing.

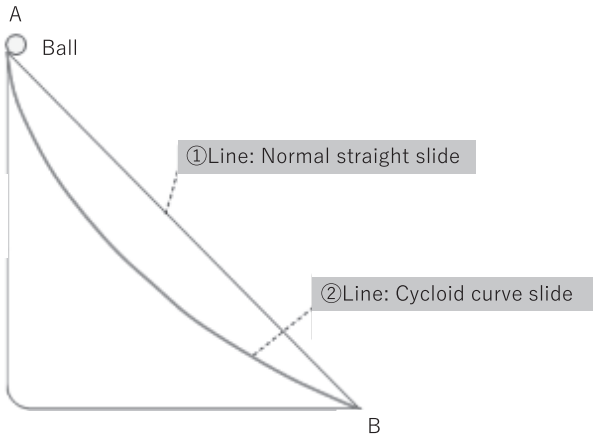


Fig. 14.　Cycloid curve.

点に転がしていく場合，①のような直線の滑り台と②のような曲線の滑り台では，後者のほうが早くＢ点に到達する。この②線は最急降下線（一点からもう一点に到達するまでにかかる時間が最小となる曲線）という意味で「サイクロイド曲線」と呼ばれているものであるが，Ａ点をトップの位置，Ｂ点をインパクトと考えれば，スイング速度においても同じことが言える。また立花ら（2017）は，この「サイクロイド曲線」のスイングをするためには，スイングの前半 1/5～1/4 で身体を垂直回転させていくことが重要となる。そして後半の 3/4～4/5 で水平回転に切り換え，一気にバットを振り上げていくことで，いわゆるナイキのマークである「スウォッシュ」の形を描き，理想的なアッパー軌道のスイングになるとも述べている。これらのことから，本研究でのダウン群におけるスイング速度がインサイドアウト群よりも速い傾向を示した結果及び打球速度が有意に速かった結果は先行研究を支持するものだと考えられる。しかし，本研究では，動画解析などを行えなかった為，一概にスイング軌道について断言することができない。また，本研究では，スタンドティーでの実打を行ったため，ボール軌道などが関係なかったが，打球速度において森下（2018）は，投球されたボールの軌道とバットのスイング軌道が同一直線上で衝突するとき打球速度は最も大きくなると報告しているため，マシン打撃やロングティーなどの実用的な研究を課題としたい（Fig. 15）。

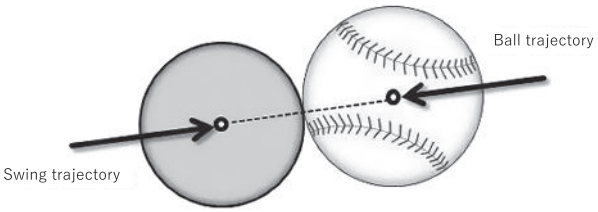


Fig. 15.　Ball impact that maximizes hitting speed.

３．「落としのスイング」について

笠原（2012）は，スイング速度は除脂肪体重と相関関係にあると報告している。本研究の結果においては，ダウン群におけるスイング速度と除脂肪体重との間に有意な正の相関関係が認められ，先行研究と同様の結果となった。しかし，インサイドアウト群においては先行研究と異なる結果となった。

スイング速度と除脂肪体重との先行研究とインサイドアウト群における結果が異なった要因としては，スイングを行う際に介入する筋群の違いが挙げられる。David et al（2014）は，腕と手は主に，身体における水平及び回転動作の運動エネルギーをバットに伝達する役割を果たし，ほんのわずかなエネルギーを付け加えるだけであったことから，バットのエネルギーに対する手と手関節の貢献はほんのわずかであったことが示唆されたと報告している。つまり，本研究の結果から，インサイドアウト群は上肢筋群，ダウン群は体幹及び下肢筋群における筋活動の違いからスイング速度に差がでたのではないかと推察される。

打球速度における平均速度においてダウン群が有意に速いこと，両群ともに打球速度とスイング速度に相関関係はあったが，ダウン群においてインサイドアウト群より強い相関を示したことなどから，ダウン群で実施した「落としのスイング」は実践において「有効なスイング」である可能性が考えられる。堀内（2017）は，捕手側（軸

足）の股関節を伸展させることで大きなエネルギーを生成しており，そのエネルギー量とスイング速度との間に相関関係が示されたと報告している。また，打球速度とスイング速度の相関関係を示した研究結果（城所・矢内，2017）から，158 キロの打球速度を出すには 128 キロのスイング速度が必要であることが分かっている。この打球速度 158 キロとういう数値は，高打率及び長打率を実現できると言われている「バレル」の最低条件となっている。これらのことから，本研究におけるダウン群で実施した「落としのスイング」は，体幹及び下肢筋群へのトレーニングによってはより速い打速度を可能とし，試合において高打率や長打率を記録する可能性が示唆された。今後は，「落としのスイング」におけるトレーニング方法，動画解析，筋電図やロングティーやマシン打撃の実用的実験を用いて多角的に比較検討することが課題となるだろう。

第Ⅴ章　総括

本研究は，「インサイドアウト」及び「落とし」によるスイングにおける違いを比較検討することで，バッティング動作の改善，トレーニング方法や指導方法の新たな知見を得ることを目的とした。その結果，以下の知見が得られた。

1．打球速度における平均速度では，ダウン群がインサイドアウト群より有意に速いことが明らかとなった。

2．スイング速度と FFM における関係では，ダウン群のみにおいて有意な正の相関関係が認められた。

3．打球速度とスイング速度における関係では，両群ともに有意な正の相関関係が認められたが，ダウン群においてより強い相関関係を示していた。

以上のことから，「落とし」によるスイングは，平均的に速い打球を打つことができ，身体における筋活動がスムーズに行われている可能性が示唆された。また，「落とし」によるスイングは実践において「有効なスイング」である可能性も示唆された。

謝辞

本稿を執筆するにあたり，いつもお世話になっている星槎道都大学経営学部の石山玄幸准教授に心より感謝申し上げます。また，論文の校正をして頂いた星槎道都大学図書紀要及び情報委員会の皆様にも御礼申し上げます。最後に，本研究に協力して頂いた星槎道都大学硬式野球部の選手達にも感謝申し上げます。

引用文献及び参考文献

1）池山隆寛，中村好志：バッティング革命，永岡書店，pp171，東京，2004.
2）Katsumata，H.: A coordinative structure in baseball batting. Human Movement Science，26，24-47，2007.
3）工藤孝幾：バッティング動作におけるタイミングの分析，体育学研究，31(4)，285-291，1987.
4）小田伸午，森谷敏夫，田口貞善，松本珠希，見正冨美子：地面反力からみた野球のバッティング技術，体育学研究，36，255-262，1991.
5）石田和則，仲井良平，平野裕一：野球打者の打撃の意思決定とバットの運動調節に関する実験的研究，バイオメカニクス研究，4(3)，172-178，2000.
6）田子孝仁，阿江通良，藤井範久，小池関也，高橋圭三，川村卓：野球における打撃ポイントの高さが打撃動作に及ぼす影響，バイオメカニクス研究，10(1)，2-13，2006.
7）高木斗希夫，藤井範久，小池関也，阿江通良：異なる投球速度に対する野球の打撃動作に関するキメティックス的研究，バイオメカニクス学会誌，32(3)，158-165，2008.
8）Welch CM, Banks SA, Cook FF, Draovitch P (1995) Hitting a baseball: A biomechanical description. Journal of orthopaedic & sports physical therapy 22 (5): 193-201.
9）David J. Szymanski, Coop DeRenne (2014) The effects of small muscle training on baseball hitting performance. NSCA JAPAN, volume 21, Number 3, pages 59-68.
10）立花龍司：科学に基づくフライボール打法，ベースボールマガジン社，東京，2017.
11）森下義隆：野球研究室を行く，Baseball Clinic，ベースボールマガジン社，2018.
12）笠原政志：大学野球選手のバットスイングスピードに影響を及ぼす因子，日本ストレングス＆コンディショニング協会機関誌 19(6)，14-18，2012.
13）堀内元：野球のバッティングにおける股関節のダイナミクス，体育学研究，63(2)，695-705.
14）城所収二，矢内利政：野球における打ち損じた際のインパクトの特徴，日本バイオメカニクス学会機関誌 21(2)，52-64，2017.

Difference in baseball batting behavior

— Focusing on swings due to “inside out” and swings due to “drop”—

SHINOHARA Ryousuke

Abstract

[Purpose] The purpose of this study was to examine the difference in swing between “inside out” and “drop”.
[Method] Subjects were 25 males (Means ± S.D. Age 20.7 ± 1.0years, Height 174.7 ± 5.9 cm, Weight 74.0 ± 7.7 kg and Fat free mass 63.7 ± 5.9 kg). The difference in swing between the two types was examined from the swing speed and hitting speed. A measuring instrument was placed 1.5 m behind the batter, and the ball placed on the stand tee was hit with 10 balls in each swing.
[Result] The swing by “drop” was able to hit a fast ball on average, suggesting that the muscle activity in the body might be performed smoothly.
[Conclusion] It was suggested that the swing by “drop” could be an “effective swing” in practice.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Management
No.1, 67－71, 2020

球速に対する鍼刺激の影響

上　野　正　博（北海道メディカル・スポーツ専門学校　鍼灸学科）
宮　越　俊　明（北海道メディカル・スポーツ専門学校　鍼灸学科）
岡　崎　遼太朗（北海道メディカル・スポーツ専門学校　鍼灸学科）
篠　原　諒　介（星槎道都大学　経学部）

第Ⅰ章　緒言

1．研究の背景及び意義

現在の日本におけるスポーツ人口は増加傾向にあり[20]，スポーツ人口の増加はスポーツ外傷・障害に繋がることが予想されている[6]。特にアスリートによくみられるスポーツ障害は，繰り返し過度な負担が積み重なり，痛みを主な症状として慢性的に継続するものであることから，スポーツを行う場面に限らず日常生活にも支障をきたす可能性がある。また，競技スポーツによる受傷の主要な原因としてあげられるのは，オーバーユース及びスポーツを行う前の準備不足であるとされている[1) 9)]。そのため，スポーツ障害の治療及び予防が重要であると言えるだろう。オーバーユースによるスポーツ障害は，人間の極限を追求するという競技スポーツの側面からみると，競技力向上のためにはやむをえない。しかしながら，スポーツ前の準備不足は改善することが可能であると考えられる。

スポーツにおける怪我の予防として最も重要と考えられているのは，トレーニング及び競技直前に行うウォーミングアップ（以下 W-up）であるといっても過言ではないだろう。近年，その代わりに，運動に伴う筋疲労の予防や軽減を意図して運動前に行われる処置，すなわち，「プレコンディショニング」として鍼灸治療が挙げられる。また，新たな身体的コンディショニングの方法として，事前に鍼灸治療である鍼刺激を加えることにより，パフォーマンスに好影響を与えることが報告されている。

鍼刺激の生理学的効果は，体性自立神経反射によって活動筋中の血管が拡張し，筋内血流量を改善するなどが示されている[19) 21)]。これまで鍼刺激について，宮本ら（2008）は下肢の経穴への鍼刺激が半腱様筋及び大腿二頭筋における筋硬度を低下させることを示している。また，パフォーマンスと関連が高いといえる筋収縮特性に及ぼす鍼刺激の効果について，古屋ら（2006）は，腰部への鍼刺激が筋疲労耐性を向上させることを示している。これらの効果は，W-up における先行研究の結果と似た効果を示している。W-up の生理学的効果は，血液循環が促進し，呼吸・循環系の反応が速くなることによる体温及び筋温の上昇が神経機能を亢進させ，神経伝達を律速する。その結果，筋，腱及び靱帯など運動器の損傷を防ぎ，関節可動域を広げ，柔軟性を高め，力学的にも優美さにおいても運動能力を高めることが述べられている[9)]。このように，W-up によって筋温が上昇することで，筋の粘性を低下及び収縮速度を上昇させることができ，スムーズな動きを可能にすることや，優れたパワーを発揮しやすくなることはこれまでに多数報告されている[1) 9) 16) 17)]。

このように，鍼刺激は身体に対して，W-up と類似した効果を与えるのではないかと推察することができる。しかしながら，実際に競技パフォーマンスの向上を目的に鍼灸治療が行われたとする報告は少ない。そこで，近年における高校野球投手の球速低下に関する報告[14)]（Fig. 1）から，本研究は，鍼刺激を身体に施すことによる投球に及ぼす効果について明らかにすることにした。これは，鍼刺激が実際の運動パフォーマンスに及ぼす効果についての基礎的知見を得ることに繋がるであろう。

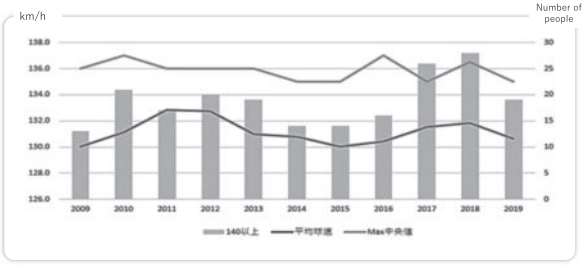


Fig. 1.　Straight average and maximum ball speeds in Koshien in the last 10 years in spring.

2．研究目的

本研究は，身体への鍼刺激により，投球による球速に及ぼす効果について検討することを目的とした。

第Ⅱ章　研究方法

１．被検者

被検者は，18 歳以上の健康な男性 49 名とした。Table 1 に被検者の年齢及び身体的特性を平均値及び標準偏差で示した。

全ての被検者には，事前に本研究の目的，方法及び実験に伴う危険性について十分に説明を行い，任意による実験参加の同意を得た。

Table 1.　Age and physical characteristics of subjects.

n	Age (yrs)	Body Height (cm)	Body Weight (kg)	FFM (kg)
49	19.9±1.8	174.8±6.2	74.2±7.9	64.4±5.8

Values are means±S.D.

２．形態計測

形態計測の項目は，身長，体重，体脂肪率及び筋肉量とした。身長は，アナログ身長計を用いて 0.1 cm 単位まで計測した。体重及び体脂肪率，筋肉量はマルチ周波数体組成計（TANITA BC-761，TANITA 社製）を用いてインピーダンス法により測定した。

３．使用経穴

使用経穴は，両足の少陽経筋の足臨泣とした（Fig. 2）。足の少陽経筋は，股関節や肩関節周囲の投球に関わる筋に流注があり，また足臨泣は兪木穴であり，体重節痛，関節部の疼痛を治すツボとされており，四肢の運動器系の症状を改善するとされている[4]。

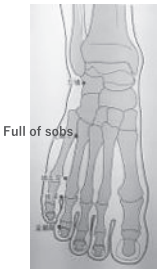


Fig. 2.　Acupuncture points used.

４．鍼刺激の実施方法

鍼刺激には，パイオネックス（セイリン株式会社製，0.15×0.6 mm）を用いた（Fig. 3）。一般的には，燔鍼を用いて患部（筋肉）に速刺速抜をし，効果がでるまで繰り返し行う。しかし，本研究では，技の熟練度などで条件が異なってしまうのを防ぐため，安全性が高く簡易的に同じ条件で行えるパイオネックスを用いた。



Fig. 3.　Pyonex.

５．測定手順

測定手順は，事前に 10 球の投球を行い，安静条件（con 群），鍼刺激条件（pyonex 群）を実施した後，同様の方法を用いて 10 球の投球を実施した（Fig. 4）。球速の測定には，スピードガン（BMS-6，ZETT 社製）を用いて，各 10 球の平均球速及び最高球速を採取した（Fig. 5，Fig. 6）。

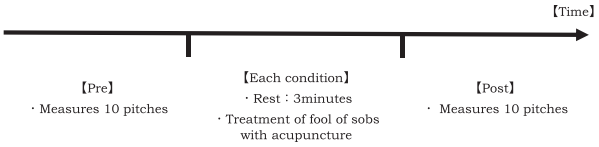


Fig. 4.　Experimental protocol.



Fig. 5.　Speed gun.



Fig. 6.　Measurement scenery.

第Ⅲ章　研究結果

１．各条件実施前後における平均球速の比較

Table 2 は，各条件実施前後における平均球速の比較及び変化率を示したものである。各条件実施前後における平均球速の比較では，Pyonex 条件実施前（116.4±

7.6）と実施後（117.6±7.2）間，Con 条件実施前（121.3±5.9）と実施後（119.6±6.0）間に有意な差が認められた。

各条件での平均球速の変化率における比較では，Pyonex 条件（0.02±0.03）と Con 条件（−0.01±0.01）間に有意な差が認められた。

Table 2. Average ball speed on Pre and Post value with each condition.

Conditions	Average ball speed(km/h) Pre	Post	Change ratio(%)	
Pyonex	116.4±7.6	117.6±7.2	0.02±0.03	*
	*			
Con	121.3±5.9	119.6±6.0	-0.01±0.01	
	*			

Values are mean ± S.D. *：p<0.05

2．各条件実施前後における最高球速の比較

Table 3 は，各条件実施前後における最高球速の比較及び変化率を示したものである。各条件実施前後における最高球速の比較では，Pyonex 条件実施前（120.2±7.7）と実施後（122.1±7.3）間，Con 条件実施前（124.4±5.9）と実施後（123.3±6.2）間に有意な差が認められた。

各条件での最高球速の変化率における比較では，Pyonex 条件（0.02±0.03）と Con 条件（−0.01±0.02）間に有意な差が認められた。

Table 3. Maximum ball speed on Pre and Post value with each condition.

Conditions	Maximum ball speed(km/h) Pre	Post	Change ratio(%)	
Pyonex	120.2±7.7	122.1±7.3	0.02±0.03	*
	*			
Con	124.4±5.9	123.3±6.2	-0.01±0.02	
	*			

Values are mean ± S.D. *：p<0.05

第Ⅳ章　論議

本研究は，両足の少陽経筋の足臨泣への鍼刺激により，投球による平均球速及び最高球速に及ぼす効果について検討することを目的とした。

1．鍼刺激が運動パフォーマンスに及ぼす効果について

鍼刺激が運動パフォーマンスに及ぼす報告として，宮本ら（2008）は，陸上競技長距離選手のトレーニング合宿中の筋疲労に対する円皮鍼は，筋疲労の軽減に有効であると報告している。また，円皮鍼における効果に関して，古屋ら（2006）は，等尺性運動における筋出力の減少の回復，等張性運動における筋持久力の減少の抑制，等速性運動における総仕事量の減少率の増加を抑制したと報告している。つまり，本研究の結果から運動パフォーマンスは，鍼刺激によって向上するということが明らかになり，先行研究を支持する結果となった。

2．鍼刺激が投球動作に及ぼす効果について

投球に関する先行研究では，肩関節外旋筋群は投球の減速期からフォロースルー期にかけて遠心性収縮をすることで肩甲上腕関節への牽引力に対し制動作用として働く，そのため肩関節外旋筋群は連続投球によって疲労が生じやすいという報告されている[7]。また，下肢の働き，特に股関節は投球速度を高めるうえで重要な役割をもつため，下肢の動きは指導上の着眼点として重要性が指摘されてきた[11) 12) 15) 18) 22)]。このように，投球において肩関節及び股関節は重要であることがわかる。そこで，本研究では，肩関節及び股関節に効果があるとされている少陽経筋の足臨泣に鍼刺激を行った。その結果，Pyonex 条件後に平均球速及び最高球速は Con 条件に比べ有意に上昇した結果となった。このことは，鍼刺激による体性自律神経反射によって活動筋中の血管が拡張し，筋内血流量を改善するという報告[19) 21)] から，小円筋，三角筋，棘下筋などの肩関節周囲筋群及び中殿筋などの股関節筋群における支配神経を介し，血流が改善されたことにより，下肢から上肢への伝達能力及び筋出力が向上したために，球速が上昇したと考えられる。このように，これまで鍼刺激に関する知見は，そのメカニズムや使用方法を示されたものは見当たるが，足臨泣への鍼刺激が投球に与える効果に関する文献は見当たらない。したがって，本研究において足臨泣への鍼刺激が投球に与える効果を検討したことは，鍼刺激が投球における平均球速及び最高球速を向上させることを明らかにしたのみならず，鍼刺激の効果を得るための一つの手法として足臨泣を刺激する根拠となる基礎的知見となったであろう。

第Ⅴ章　総括

本研究では，両足における少陽経筋の足臨泣への刺激により，投球による平均球速及び最高球速に及ぼす効果について検討することを目的とした。その結果，以下の知見が得られた。

1．平均球速：Pyonex 条件実施後における平均球速は，実施前と比較して有意に上昇することが示された。

2．最高球速：Pyonex 条件実施後における最高球速は，実施前と比較して有意に上昇することが示された。

３．Pyonex 条件と Con 条件の比較：Pyonex 条件実施後における平均球速及び最高球速の変化率は，Con 条件実施後の変化率と比較して有意に大きな変化率を示した。

以上のことから，鍼刺激は，投球による平均球速及び最高球速を有意に上昇させることが明らかとなった。また，鍼刺激を身体に施すことによって，W-up と類似した効果が得られる可能性が示唆された。

謝辞

本稿を執筆するにあたり，今回協同研究を行って頂いた北海道メディカル・スポーツ専門学校　鍼灸学科　上野正博学科長，北海道メディカル・スポーツ専門学校　鍼灸学科　宮越俊明専任教員，北海道メディカル・スポーツ専門学校　スポーツ学科・鍼灸学科　岡崎遼太朗君に心より感謝申し上げます。また，いつもお世話になっております星槎道都大学経営学部の石山玄幸准教授に心より感謝申し上げます。そして，論文の校正をして頂いた星槎道都大学図書紀要及び情報委員会の皆様にも御礼申し上げます。最後に，本研究に協力して頂いた星槎道都大学硬式野球部の選手達にも感謝申し上げます。

引用文献及び参考文献

１）D. Eitner・W. Kuprian：スポーツ・ケア，ブックハウス・エイチデイ，1986.
２）Myers, D. and Gola, M: The Louisville slugger complete book of pitching. McGraw-Hill, 2000.
３）伊藤博子，井上正子，古屋英治：最大運動負荷試験時における各種指標の経時的変化に及ぼす円皮鍼の効果，東洋療学協会誌，25，85-93，2001.
４）医道の日本社　新版　経絡経穴概論　第２版.
５）宮本俊和，古屋英治，森山朝正：スポーツ鍼灸の研究，全日本鍼灸学会雑誌，58(2)，166-178，2008.
６）近藤宏・池宗佐知子・泉重樹・金子泰久・桜庭陽・藤本英樹・古田成仁・吉田行宏・古屋英治：スポーツ鍼灸委員会の取り組み―東京オリンピック・パラリンピックを通過点にして―，全日本鍼灸学会雑誌，64(3)，171-173，2014.
７）金子文成，増田正：投球動作における肩関節周囲筋筋電図の連続時系列変化に関する分析，理学療法学，32(3)，115-122，2005.
８）熊川大介，田中重陽，古屋英治，角田直也：連続的な筋力発揮特性に及ぼす鍼刺激の効果：東京体育学研究 2005 年度報告，71-４.
９）公益財団法人健康・体力づくり事業財団：健康運動実践指導者養成用テキスト，南江堂，92-93，2014.
10）江頭至光，後藤まりあ，古屋英治：肘関節屈曲伸展運動に伴う筋疲労に及ぼす円皮鍼の効果―等張性運動での検討―，東洋療学協会誌，30，66-70，2006.
11）荒木大輔：トッププロに学ぶ野球上達テクニックピッチング，成美堂出版社，2003.
12）高橋佳三：投動作を助ける脚のはたらき，体育の科学，56(3)，174-180，2006.
13）高橋正，安斎勉，古屋英治：実験的急性筋疲労モデルに及ぼす鍼灸刺激の影響―上腕屈筋群に対する円皮鍼の効果―，東洋療学協会誌，14，60-64，1990.
14）春の甲子園投球成績：https://note.mu
15）松尾知之，川村卓：投球動作指導における着眼点の分類と指導者間の意見の共通性―プロ野球投手経験者及び熟練指導者による投球解説の内容分析から―，体育学研究，55，343-362，2010.
16）滝澤一騎：筋とパフォーマンスについて(3)，Training journal，6，51-59，2012.
17）竹宮隆・石河利寛：運動適応の科学，杏林書院，9-25，1998.
18）島田一志，阿江通良，藤井範久，川村卓，高橋佳三：野球のピッチング動作における体幹及び下肢の役割に関するバイオメカニクス的研究，バイオメカニクス研究，4，47-60，2000.
19）楠本盛一，武重千冬：局所疼痛に対する鍼作用の実験的研究 V．視床下部前部を反射中枢とする脊髄傍施鍼の強縮後減少した腓腹筋の短縮高の回復促進作用，昭和医学学会，45(2)，279-285，1985.
20）文部科学省：成人の周一回のスポーツ実施率の推移，http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jissi/__icsFiles/afieldfile/2015/10/01/1294610_1.pdf.
21）木下晴都：局所疼痛に対する鍼作用の実験的研究，昭和医学学会，41，393-403，1981.
22）与田剛：トッププロに学ぶ野球上達テクニックピッチング，成美堂出版社，2005.

Effect of acupuncture stimulation on ball speed

SHINOHARA Ryousuke

Abstract

[Purpose] The purpose of this study was to examine the effect of acupuncture on the body on the ball speed by throwing a ball.
[Method] Subjects were 49 males (Means ± S.D. Age 19.9 ± 1.8 years, Height 174.8 ± 6.2 cm, Weight 74.2 ± 7.9 kg and Fat free mass 64.4 ± 5.8 kg).
Acupuncture stimulation (Pyonex) was applied to the body, and the pitch was measured and the ball speed was measured.
[Result] Acupuncture increased average and maximum ball speeds.
[Conclusion] This study revealed that acupuncture increased average and maximum ball velocities by pitching. Moreover, it was suggested that the effect similar to W-up could be obtained by applying acupuncture stimulation to the body.

社 会 福 祉 学 部

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Social Welfare
No.1, 75－80, 2020

オーストリアの介護手当

―Pflegegeld in Österreich―

小早川　俊　哉

1　はじめに

日本で2019年に生まれた子供の数は90万人を下回り，予想以上のスピードで少子化が進んでいる。社会保障負担は今後も増加することが確実であり，その担い手である働き手の数も激減することから，国内の富の減少も推測することができる。

内閣府が発行した「令和元年（2019年）版高齢社会白書」によれば，現状の我が国は65歳以上の高齢者が3,558万人となり，全人口の28.1%という超高齢社会を形成している。2065年には約2.6人に1人が65歳以上，そして約3.9人に1人が75歳以上になると推測されてもおり，現制度のままでは介護人材のニーズはさらに高まることは確実である。介護人材の需要推計では，2020年度には約216万人，2025年度には約245万人の介護人材が必要となると推計されており，2020年度で約26万人，2025年度では約55万人の介護人材が不足すると見込まれている。

この人材不足の波は，介護業界だけに留まるわけではない。日本商工会議所が2019年6月に公表した「人手不足等への対応に関する調査結果」によると，全国の中小企業2,775社のうち，人材が「不足している」と回答した企業が66.4%にも達していたことである。2018年度の調査結果65.0%よりも約1.4ポイント上昇しており，中小企業においても深刻な人材不足が継続していることが窺える。

現在，介護業界のみならず日本全体が働き手の争奪戦を繰り広げており，採用自体が難しい状況下にあると言える。しかし，高齢者は今後ますます増えることから，介護人材の需要は一層高まるものと予想される。介護需要の増加に伴う介護人材不足という状況を打開するためには，早急に継続的・効果的な対策が不可欠となる。

国は2012年度の介護報酬改定において「介護職員処遇改善加算」という制度を設けた。介護職員処遇改善加算とは，介護施設で働く人のためにキャリアアップの仕組みを構築したり，職場環境の改善を行ったりした事業所に対して，介護報酬を加算して支給する制度である。残念ながら，問題の解消には程遠いと言わざるを得なかった。そこでさらなる打開策として，国は「**介護職員等特定処遇改善加算**」を創設した。この制度は2019年10月に行われた消費税率の引き上げに合わせたもので，経験や技能を有する介護職員の更なる処遇改善を行うことを目的としている。リーダー級の介護職員（勤続年数10年以上の介護福祉士が基本）に月額平均8万円相当の処遇改善が行われることで，優秀で経験豊富な介護職員に対して他の業種に劣らない賃金水準を実現することができると期待されている。

しかしながら，国の施策は介護人材に他業種と同じ賃金水準の土俵を提示したにすぎず，継続的・効率的な介護サービスの提供を我々に約束したものとは言えない。昨年の紀要でも述べたが，介護サービス提供そのものを根本的に考え直す，端的に述べるならば，発想の転換が今こそ必要だと考える。

「施設から地域・居宅へ」の完成形と言える地域包括ケアシステムの構築と介護の現実を鑑みると，質の保証を伴うフォーマルによるサービス提供での対処には限界があると言わざるを得ない。我々の自由な選択を尊重するとともに，合理的行動へと導く仕組みの構築を急ぎたい（リバタリアン・パターナリズム）。

今後予想される介護人材不足への対処のために，有効な選択肢の1つとして「**介護手当（現金給付）**」を捉え，以下において，今回はオーストリアの介護手当のシステムを考察することから，日本における実現性を探っていきたい。

2　介護手当

オーストリアの介護システムは，1993年7月1日に施行された連邦介護手当法と同様の州法によって規定されたものである。2012年の介護手当改正法（Pflegegeldreformgesetz）により，立法・行政権が各州から連邦に移行され，67,000人の介護手当受給者の管轄が州から年金保険基金あるいは社会保険基金に移された。介護手当の根拠法は，介護手当法（BPGG；Bundespflegegeldgesetz）である。介護手当は，介護を必要とする者に必要な援助と扶助を確保する機会を与

え，ニーズに応じて自身でサービスを調整することに役立つことから，必要経費への部分補償と捉えるべきである。介護手当の使い道および介護・援助の種類に対する決定権は要介護者に委ねられており，同時に，介護手当によって家族及び外来による介護が促進されている。介護に関わる支出超過が介護手当によって賄われ，要介護者に一定の自立と地域･居宅での生活を可能にしている。介護手当の目的は，要介護者が自らの意思で自身の望む生き方を選択する余地をもたらすところにあると考える。

※　介護手当を受給するためには，以下の要件を満たさなければならない；

・身体・知的・精神の障害，あるいは少なくとも6か月以上継続するであろう感覚障害のために絶えず支援・援助を必要とする
・少なくとも月65時間以上の介護ニーズを有する
・国内に居住所がある（決められた条件のもとならばヨーロッパ経済圏の国及びスイスにおいても介護手当を受給可能）

※　介護等級

下記の表からもわかるように，オーストリアの介護手当は7等級に区分されており，他の要件はもちろんだが必要介護時間が重要視され，等級に応じて月額の介護手当が決定する。

・介護等級1
　1月に65時間以上95時間未満の介護を必要とする人に，160.10ユーロが月額の介護手当として給付される。
・介護等級2
　1月に95時間以上120時間未満の介護を必要とする人に，295.20ユーロが月額の介護手当として給付される。
・介護等級3
　1月に120時間以上160時間未満の介護を必要とする人に，459.90ユーロが月額の介護手当として給付される。
・介護等級4
　1月に160時間以上180時間未満の介護を必要とする人に，689.80ユーロが月額の介護手当として給付される。
・介護等級5
　1月に180時間以上，介護者に特殊な介護をしてもらう必要がある人に，936.90ユーロが月額の介護手当として給付される。
・介護等級6
　1月に180時間以上の介護ニーズがあり；
　―時間的な調整は難しいが24時間標準的な介護を必要とする人　あるいは
　―自傷・他傷の危険性があるので常時介護者の付き添いが必要な人
　に，1,308.30ユーロが月額の介護手当として給付される。
・介護等級7
　1月に180時間以上の介護ニーズがあり；
　―代替となる機器を用いても両手両足が意図的に動かすことができない人　あるいは
　―常に注意をしていなければならない状態にある人
　に，1,719.30ユーロが月額の介護手当として給付される。

介護手当の申請については，年金受給者の場合は各年金の支払窓口で，それ以外の人は年金保険基金に行う。

2020年の介護手当額（2020年1月1日から引き上げられた）

介護等級	月毎の要介護時間	月額（€：ユーロ）
1	65時間以上	€157.30 → €160.10
2	95時間以上	€290.00 → €295.20
3	120時間以上	€451.80 → €459.90
4	160時間以上	€677.60 → €689.80
5	180時間以上で，特殊な介護を必要とする場合	€920.30 → €936.90
6	180時間以上で； ・時間的に調整は困難だが，昼夜標準的な介護を必要とする場合 あるいは ・自傷・他傷の危険性のため，常時介助者の付き添いが必要な場合	€1,285.20 → €1,308.30
7	180時間以上で； ・代替機器を使用しても，四肢の意図的動作が不可能な場合 あるいは ・常に留意されるべき状態にある場合	€1,688.90 → €1,719.30

認定調査は，有識者の本人への問い合わせの後，要介護度の把握のため，医師あるいは有資格の介護専門職が聞き取り訪問調査を行う。その際，要介護者は，望ましい介護状況を申し立てることのできる人物を同席させる権利を有する。この専門家の所見に基づき，現況の介護等級が行政決定として確定する。もちろん，決定に対して異議がある場合は，労働・社会裁判所に不服申し立てが可能である。受給額を伴う要介護等級の最終決定は，行政決定として法的拘束力を有することから，社会保険基金あるいは裁判所が行う。介護手当は，申請が行われた月にさかのぼって給付される。介護手当は年に 12 回の月ごとに支払われ，所得税及び医療保険料の対象とならない。

2020 年 1 月 1 日からの給付額の引き上げは，物価スライドによる年金給付引き上げに伴うものである。介護手当を自由に補償費に充てることができることから，この引き上げは，居宅介護への資源の拡大，他方で入所・入院による州の福祉財政負担の軽減を図るものである。さらに，介護給付の引き上げは今年だけではなく，今後は各年の 1 月 1 日に社会保険法（§108fASVG）のスライド要因に基づき引き上げられることになっている。ある識者の試算によると，1993 年に介護手当が導入されて以来 5 回の給付引き上げが行われたが，引き上げのたびに実質で約 35%目減りしてきたので，多少なりとも改善されたと言える。

重度の精神障害，特に満 15 歳以上の認知障害を持つ者の介護等級決定には，「悪化への備え（Erschwerniszuschlag）」として包含的に 25 時間が要介護時間に繰り入れられる。また，15 歳になるまでの重度障害児の集中介護にも「悪化への備え」による対応が為される。

病院あるいは療養施設滞在中，滞在費を社会保険や国，州の保険基金あるいは公務員共済が支払う際は，介護手当は 2 日目から打ち切られる。ただし，介護手当が支給され得る場合もある。

3　オーストリアの介護事情

現代の介護は，補償から賦活，そして医療制度の強固な支柱であることを前提としている。真に介護サービスが必要なのか，健康的な生活を維持していくために（日々の料理など）サービスが必要なのか，法的にも明確に区分することは難しい。

オーストリアにおける介護は，私的消費サービス提供ではないとの考えから健康管理制度ではなく，社会制度に組み込まれている。これは介護ニーズ（必要度）に応じた税財源からの現金給付を裏付ける根拠となっており，現金給付には当事者に直接支払われる年 12 回の「介護手当」と，制度的にはサービス提供の介護施設を整備する間接的な「補助金」としてのものがある。介護手当の場合，医学的あるいは福祉的専門家の判定による介護・介助時間等で介護等級が法的に規定されている（介護手当法のための等級規定：Einstufungsverordnung zum Bundespflegegeldgesetz ― EinstV BGBL Ⅱ Nr. 453/2011）。

2019 年 5 月末の社会政策省[注1]の発表によると，介護手当受給者数は全体で 462,583 人，内訳は以下の表の通りである。

介護等級	受給者数
1	128,637 人
2	100,340 人
3	84,088 人
4	67,838 人
5	52,281 人
6	19,992 人
7	9,407 人

2019 年オーストリアの人口は 8,634,482 人（population pyramid.net），高齢化率 19.00%（2019 年 12 月 13 日：グローバルノート―国際統計・国別統計専門サイト）である。

今日，約 462,000 人が介護サービスを受けている。日々 27 ケース増加しており，2050 年には 750,000 人が介護サービスを必要とすると推測されている。そして，2050 年までに介護需要を賄うためには，約 40,000 人の専門職の増員が不可欠である。

およそ 950,000 人の近親者が介護を担い，多くの介護者がその状況下に過大なストレスを抱えている。そして，彼らは自ら情報や援助をマネージメントしなければならず，介護施設も十分な数がないのが現状である。

要介護者の約 80%が，居宅において近親者の介護を受けており，特に重要な場面での担い手は女性である。専門職のみでは介護需要を十分には充足できない現状から，近親者による介護が全ての要介護者の包括的援助を可能にしていると言える。主要介護者としての彼女たちは，少なからず介護手当制度により要介護者から貢献の対価を受け取ることができる。さらに，専門的援助組織（赤十字など）が，近親者に研修機会やセルフヘルプグループへの参加機会を提供している。

※　代替介護の援助金

１年以上継続的に介護をしている近親者が，病気や休暇あるいはその他の理由により介護ができない場合，障害者支援基金から援助金を受け取ることができる。このお金は，本来の介護者が介護できない状況下において，専門職・非専門職を問わず代替介護者を雇う費用弁済に資するべきものである。

介護手当の関連として，上記の援助金を受給するためには少なくとも以下の要件を満たす必要がある。
・介護等級３以上の者
・介護等級１で認知症の者
・介護等級１で要介護未成年者

認知症及び未成年者の介護の際の援助金の最高額は，2017 年１月１日から月額 300 ユーロに引き上げられた。

※　障害児介護期間の社会保険

障害を持つ子供の介護をする両親などの１名に限られるが，年金に加入することができ，保険料は家族手当のための補償基金及び連邦政府から支払われる。上記の制度は，最長で障害を持つ子供が満 40 歳になる誕生日までである。但し，公務員や特定の社会保険給付，例えば失業給付などを受けている者には適用されない。

医療保険においても自身の保険加入がない場合，保険料は家族手当のための補償基金からの支出により加入することができる。

この他，近親者介護の際，年金保険その他の社会保険に対する有利な加入施策が用意されている。

※　介護休業および短時間労働

仕事と介護の両立のため，被用者には介護休業と短時間労働の期間に，解雇保護や介護休業手当申請権，保険料無償での年金・医療保険加入が用意されている。

介護休業および短時間労働は以下の条件をすべて満たす必要がある；
・近親者が介護等級３以上，介護等級１の未成年者あるいは介護等級１の認知症であり，
・雇用者と介護休業・短時間労働に関する文書での合意をして，
・申請前に３カ月以上の就業期間があること。

この他にも様々な施策が用意されているが，本稿では介護手当を中心に考察するためこれ以上の言及を避ける。

※　質の保障と家族支援

社会政策省は，2001 年に居宅介護の質の確保とバックアップを意図した施策として「居宅介護の質確認（Qualitätssicherung in der häuslichen Pflege）」を施行した。目的はドイツの場合と同様で，有資格介護専門職が直接家庭を訪問し，直に介護手当受給者およびその介助者と話をすることで，提出されている状況報告書に基づきしっかりと援助されているかの確認を行うことである。また必要な場合には，日々の介護の質を維持・向上させるために臨床的助言・情報の提供を行う。訪問は，一般的介護手当受給者には無償及び任意で行われるが，24 時間援助を必要とする要介護者には 2007 年から，2018 年 10 月１日からは申請者も含めて義務付けられた。2019 年１月から，試験的試みで都市州ウイーンとチロル州で義務的訪問を予告なしで行っている。

介護を担う近親者は，しばしば精神的ストレスを抱えている場合があるので，訪問の際に専門家によるカウンセリングの紹介も行われる。2015 年から確認訪問並びにカウンセリングも負担なしで要請することができるようになった。

4　まとめ

昨年の紀要においても述べたように，日本でも介護保険制度導入の際，近親者介護に現金給付を導入するか否かの大議論があった。インフォーマルな近親者によるケアに介護が委ねられていた経緯から，「介護の社会化」という大義の下に現金給付は組み込まれてこなかった。また，社会保障審議会介護保険部会（第 62 回）の資料３「ドイツの介護保険制度における介護手当（現金給付）」の３ページに，介護保険施行前の現金給付に対する消極的及び積極的意見，2004 年７月の介護保険部会の抜粋でも消極的な意見が述べられている。

冒頭で述べたように，我が国は 65 歳以上の高齢者が 3,558 万人となり，全人口の 28.1％という超高齢社会を形成しており，現制度のままでは介護人材のニーズはさらに高まることは確実である。介護人材の需要推計では，2020 年度には約 216 万人，2025 年度には約 245 万人の介護人材が必要となると推計されており，2020 年度で約 26 万人，2025 年度では約 55 万人の介護人材が不足すると見込まれている。さらには，在宅医療・介護の推進もあり，インフォーマル，特に近親者の関りが多かれ少なかれ必須となる。

ドイツやオーストリアの介護手当制度を参考に，日本においても確かな制度設計による現金給付は，介護・援助の在り方に対する決定権を要介護者に委ねるとともに，近親者の生活と近親者への介護の両立を図る上で有効と考える。個人の行動・選択の自由を尊重するとともに，質の保障等を含む合理的行動へと導く仕組み，いわ

ゆる行動経済学で提唱されるリバタリアン・パターナリズムを制度に反映させた形で，日本版「**介護手当**」を制度導入する意義があると考える。

注

(1) 2020 年 1 月現在，労働・社会政策・健康・消費者保護省は合同省として 1 人の大臣の下に管轄されているが，今も労働省，社会政策省など，個々の名称で呼ばれている。
Die seit 2007 existierende und seit 2018 als Bundesministerium für Arbeit, Soziales, Gesundheit und Konsumentenschutz österreichische Verwaltungseinrichtung des Bundes

参考資料及び参照ホームページ

・「社保審―介護給付費分科会 第 165 回（H 30.11.22）参考資料 1」 厚生労働省
・「**Pflegegeld**」 Bundesministerium für Arbeit, Soziales, Gesundheit und Konsumentenschutz
・「**Pflegegeld**」 Oesterreich. gv. at (E-Government-Anwendung)

・その他
法律などの参照は，Bundesministerium für Arbeit, Soziales, Gesundheit und Konsumentenschutz のホームページ

Pflegegeld in Österreich

KOBAYAKAWA Toshiya

Auszug

Mit dem Pflegegeld wird ein Teil der pflegebedingten Mehraufwendungen durch eine pauschale Geldleistung abgegolten. Dadurch soll die notwendige Pflege gesichert und ein möglichst selbstbestimmtes und bedürfnisorientiertes Leben ermöglicht werden.

Insbesondere soll die Entscheidung über die Verwendung des Pflegegeldes und die Wahl der Betreuungsart dem pflegebedürftigen Menschen überlassen werden. Gleichzeitig werden durch das Pflegegeld familiäre Pflege gefördert. Pflegegeld wird — je nach Ausmaß des erforderlichen Pflegebedarfes und unabhängig von Alter und Ursache der Pflegebedürftigkeit — in sieben Stufen gewährt.

Ab 1. Jänner 2020 wird das Pflegegeld in allen Stufen um den Pensionsanpassungsfaktor erhöht und jährlich valorisiert.

Etwa 80 Prozent der pflegebedürftigen Menschen in Österreich werden zu Hause durch Angehörige gepflegt. Zu einem Großteil wird diese oft schwierige Aufgabe von Frauen geleistet. Nur diese Pflege im Familienkreis ermöglicht umfassende Betreuung aller Pflegebedürftigen. Durch die Einführung des Pflegegeldes können Sie als Hauptpflegeperson immerhin einen finanziellen Beitrag von der/dem Pflegebedürftigen erhalten.

Im Rahmen eines Hausbesuches von einer diplomierten Gesundheits- und Krankenpflegeperson wird die konkrete Pflegesituation anhand eines standardisierten Situationsberichtes erhoben. Schwerpunkt dieser Aktion ist es, oftmals bestehende Informationsdefizite durch praxisnahe Beratung zu beheben und damit zur Verbesserung der Pflegequalität beizutragen.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Social Welfare
No.1, 81－89, 2020

アクティブ・ラーニングの評価に係る実践的研究

西　崎　　毅

1　はじめに

西崎（2019）では，講義型授業へのアクティブ・ラーニング（以下，AL）の導入の意義を教育改革の観点から考察するとともに，具体的な授業実践や授業評価の結果等を取りまとめた。

本論においては，AL によって育成を目指す資質・能力の測定・評価に関する実践研究成果を報告する。

2　育成を目指す資質・能力と教育改革

まずはじめに，AL によって育成を目指す資質・能力を教育改革との関連から整理しておきたい。

近年，人工知能（AI）の活用による高度情報化やグローバリズムの急速な進展を背景に，先進国を中心に教育改革が活発に進められている。変化の予測が難しい時代における国際競争力の維持・充実のために教育が担う役割は極めて大きい。各国においては，こうした新たな時代を生き抜くために必要な汎用的能力を，それぞれ独自のコンピテンシー概念としてまとめあげ，その達成に向けた教育政策を強力に推進している。

我が国におけるコンピテンシー概念は古くから教育における不易な価値観として共有されてきたものでもあるが，臨時教育審議会答申を踏まえて行われた教育課程審議会答申（1987（昭和 62）年 12 月）において提起された「新しい学力観」がその原型とも言えよう。その後，我が国のコンピテンシー概念は，1996（平成 8）年 7 月の中央教育審議会答申「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について」において「生きる力」としてまとめられ，2007（平成 19）年改正の学校教育法第 30 条に示されたいわゆる「学力の三要素」や高等教育段階で培うことが求められる「学士力」の概念にも反映されている。

「学力の三要素」については，学校教育法の規定のほか，各種答申等において多様な記述がなされている。このうち，2014（平成 26）年 12 月の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜の一体的改革について」の記述が包括的である。同答申においては，その構成要素を次の①～③に整理し，「大学においては，それを更に発展・向上させるとともに，これらを総合した学力を鍛錬すること。」としている。

①これからの時代に社会で生きていくために必要な，「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」
②その基盤となる「知識・技能を活用して，自ら課題を発見しその解決に向けて探究し，成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」
③その基礎となる「知識・技能」

このうち①及び②に代表される汎用的な諸能力の育成については，その重要性は常に論議されつつも，長年にわたって十分な成果が上がらないまま課題が先送りされ，今日に至っているという現状がある。

2000（平成 12）年から行われている OECD による生徒の学習到達度調査（PISA）においては，一定の成果は認められるものの，汎用的な能力を効果的に育成するための授業改善や必要な制度改正，体制整備については，実現までにまだ相当の時間を要することは多くの教育関係者の認めるところである。

こうした課題を生み出してきた主たる要因としては次の 3 点が考えられる。

①汎用的能力としての，「思考力・判断力・表現力等」や「主体性・多様性・協働性」などの資質・能力は測定や評価が難しいこと。
②従来行われてきた大学の入学者選抜試験においては，知識・技能の測定と比較して汎用的能力を測定する機能が十分ではなかったこと。（図 1）
③従来の初等中等教育における教育課程の基準である学習指導要領が，各学問分野における系統性を重視した内容の積み上げを中心として記述・構成されており，学習を通して育成すべき資質・能力との関連が重視されていなかったこと。（図 1）

ここ 10 年間において，①大学教育の質的転換，②高大接続改革，③初等中等教育における学習指導要領の改訂といった教育改革が進められているが，こうした改革はすべてこうした課題意識に基づく改革であると言って良い。

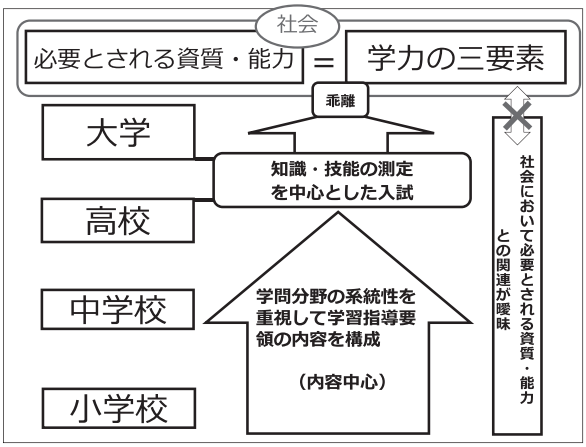


図１

図２には，今次行われている教育改革の構図と方向性を示した。その特徴としては次の４点が挙げられる。

①すべての学校段階において，「社会で必要とされる資質・能力」＝「学力の三要素」の育成を起点として学習（学修）内容を構成すること。

②「学力の三要素」を構成する資質・能力のうち，特に汎用的能力を効果的に育むことを主眼に授業を改善すること。

③これまで，知識・技能を中心に測定していた大学入学者選抜を，汎用的な資質・能力を測定・評価することができるよう改善すること。

④「学力の三要素」というコンピテンシー概念を中心に，高等教育から幼児教育までを一体的に改革すること。

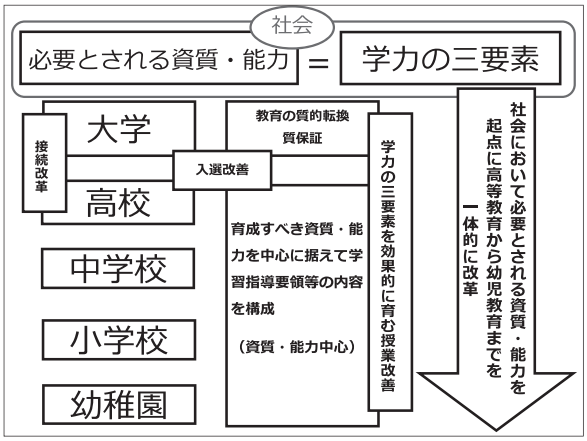


図２

実際に，2017（平成 29）年～2018（平成 30）年に改訂された各学校種の学習指導要領の各教科・科目の目標及び内容は「学力の三要素」の三つの柱に沿って構成されている。また，2017（平成 29）年３月告示の幼稚園教育要領及び保育所保育指針においても，それぞれの施設において「育みたい資質・能力」として次の３点が示された。

①豊かな体験を通じて，感じたり，気付いたり，分かったり，できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

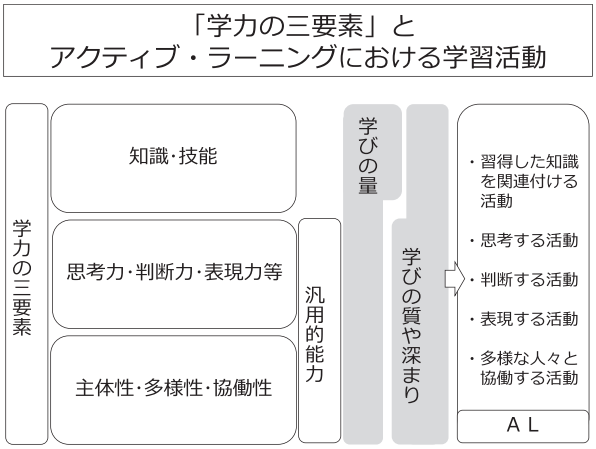
②気付いたことや，できるようになったことなどを使い，考えたり，試したり，工夫したり，表現したりする「思考力，判断力，表現力等の基礎」

③心情，意欲，態度が育つ中で，よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力，人間性等」

このように，今次の教育改革は，学習指導要領の構成が抜本的に改善されるなど，戦後の教育課程改革史上重要な意義を持つものである。また，長年の課題であった大学入試の改善による高大接続改革を成し遂げようとしている点においても，極めて画期的な改革であると言える。そして，授業改善こそが，これらの改革の成否を左右する重要な課題であることは論を俟たない。

幼児教育をはじめ，初等中等教育から高等教育までを通じたすべての教育関係者は，こうした改革の歴史や意義，そして教育の現状を踏まえ，「学力の三要素」を偏りなく育成するための取組を推し進めて行く必要があろう。

最後に，授業改善の中核的手法として期待されているALと「学力の三要素」との関連を再確認しておきたい。（図３）



西崎（2019）

図３

「学力の三要素」を偏りなく育成するためには，「学びの量」と「学びの質や深まり」の両方を確保することが大切である。特に，「思考力・判断力・表現力等」や「主体性・多様性・協働性」等の汎用的な能力を効果的に育成するためには，学修（学習）の中で，「修得した知識や技能を関連付ける活動」，「思考，判断，表現する活動」，「多様な仲間と協働する活動」を可能な限り確保する必要があり，その役割を AL が担うということである。

3　AL における評価方法の工夫・改善

西崎（2018）において述べたように，2016(平成 28)年から，教職課程科目の授業（教育史，教育原理，教育課程論）において，AL を活用している。

本論では，2019(令和元)年に実施した「教育史」の授業を例に，学修評価及び授業評価の工夫・改善について報告し，その成果と課題を考察する。

⑴　使用教室等

使用教室は通常の固定机の教室であり，学生の座席については，４人一組のグループワークを実施するために固定している。詳細については，西崎（2019）を参照されたい。

⑵　学修集団

51 名（経営学科 34 名，社会福祉学科 7 名，デザイン学科 8 名，建築学科 2 名）

⑶　授業における諸活動

授業における学修活動の形態は，次のとおりである(順不同)。学生に汎用的な能力を育むために，基本的に学生が思考，判断，表現，協働する活動が可能な限り多くなるよう配慮しているが，授業で扱うテーマ等により適宜，適切な学習活動を選択している。

ア　説明・講義（教員による知識伝達・教員学生間の対話）
イ　個人思考（授業テーマについての個人思考及び思考内容の記述）
ウ　グループ討議
　・個人思考を基にしたグループ内での意見交換
　・他の成員の意見の記述
　・他の成員の意見に対する感想・疑問等の記述
エ　グループ討議の結果の発表（個人，グループ）
オ　文章，ビデオの内容に関する意見の記述
カ　文章読解，ビデオ視聴に関する意見の発表
キ　授業前後の学修課題（学修事項のまとめ，調べ学修）

⑷　評価の観点と評価方法

各活動によって測定する汎用的能力とその評価方法については，図 4 ～図 10 に示したとおりである。測定する主たる項目を◎印，副次的に測定する項目を○印で示した。

学修活動	測定する資質・能力	比重	評価方法
説明・講義	知識・技能	◎	定期試験 ペーパーテスト
	思考力	–	
	判断力	–	
	表現力	–	
	協働性	–	
	意欲・態度	–	

図 4

学修活動	測定する資質・能力	比重	評価方法
個人思考 思考テーマについての個人思考 思考結果の記述	知識・技能	–	思考・意見交換・発表支援ツール
	思考力	◎	
	判断力	◎	
	表現力	◎	
	協働性	–	
	意欲・態度	○	

図 5

学修活動	測定する資質・能力	比重	評価方法
グループ討議 個人思考の結果に基づいた意見交換 他の成員の意見のまとめ及び記述 他の成員の意見に対する感想・疑問の記述	知識・技能	–	思考・意見交換・発表支援ツール 教員による観察
	思考力	○	
	判断力	○	
	表現力	◎	
	協働性	◎	
	意欲・態度	○	

図 6

学修活動	測定する資質・能力	比重	評価方法
グループ討議の結果発表 原則立候補制	知識・技能	–	教員による観察
	思考力	–	
	判断力	–	
	表現力	◎	
	協働性	–	
	意欲・態度	○	

図 7

学修活動	測定する資質・能力	比重	評価方法
文章、ビデオの内容に関する感想・意見の記述	知識・技能	—	感想・意見シート
	思考力	◎	
	判断力	◎	
	表現力	◎	
	協働性	—	
	意欲・態度	○	

図 8

学修活動	測定する資質・能力	比重	評価方法
文章、ビデオの内容に関する感想・意見の発表 原則立候補制	知識・技能	—	教員による観察
	思考力	—	
	判断力	—	
	表現力	◎	
	協働性	—	
	意欲・態度	○	

図 9

学修活動	測定する資質・能力	比重	評価方法
課題 学修事項のまとめ 調べ学修	知識・技能	—	振り返り課題シート 課題シート
	思考力	—	
	判断力	—	
	表現力	—	
	協働性	—	
	意欲・態度	◎	

図 10

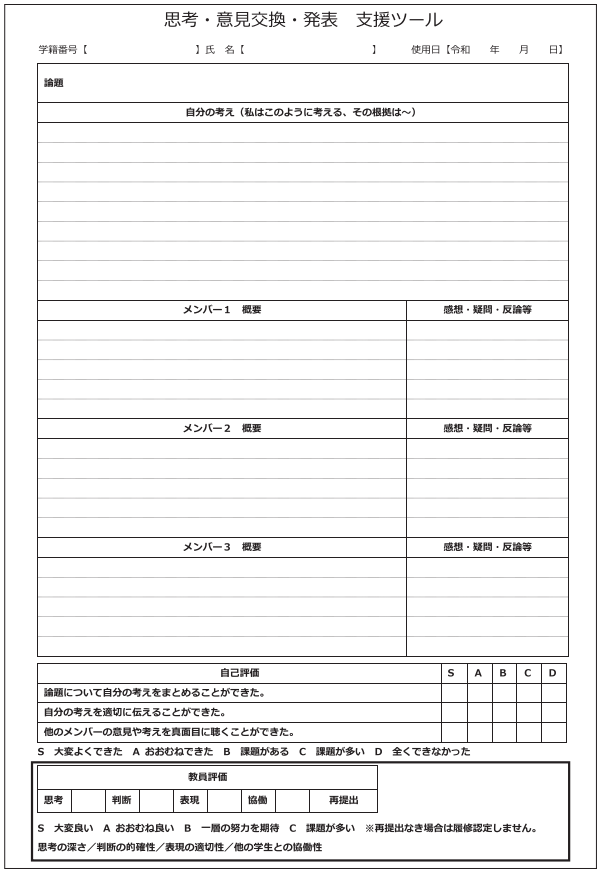


図 11

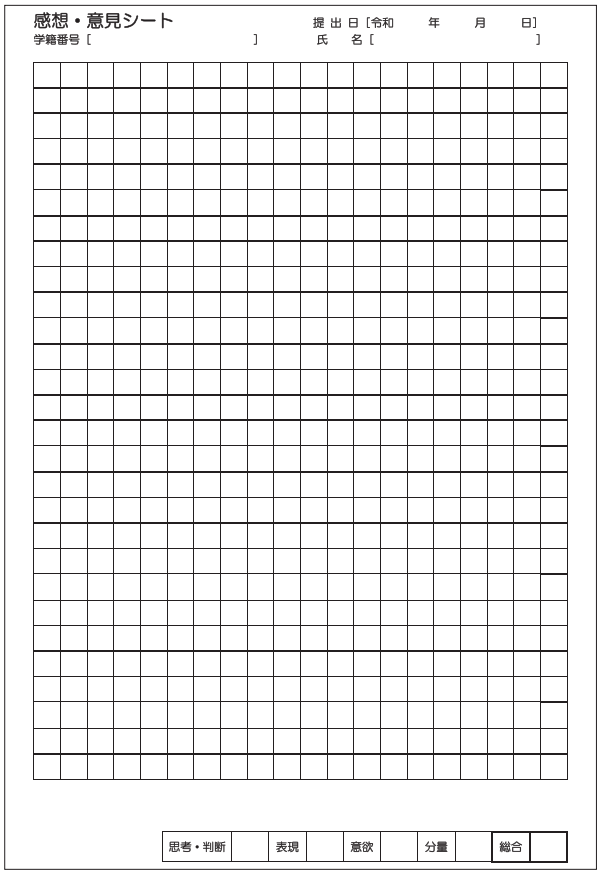


図 12

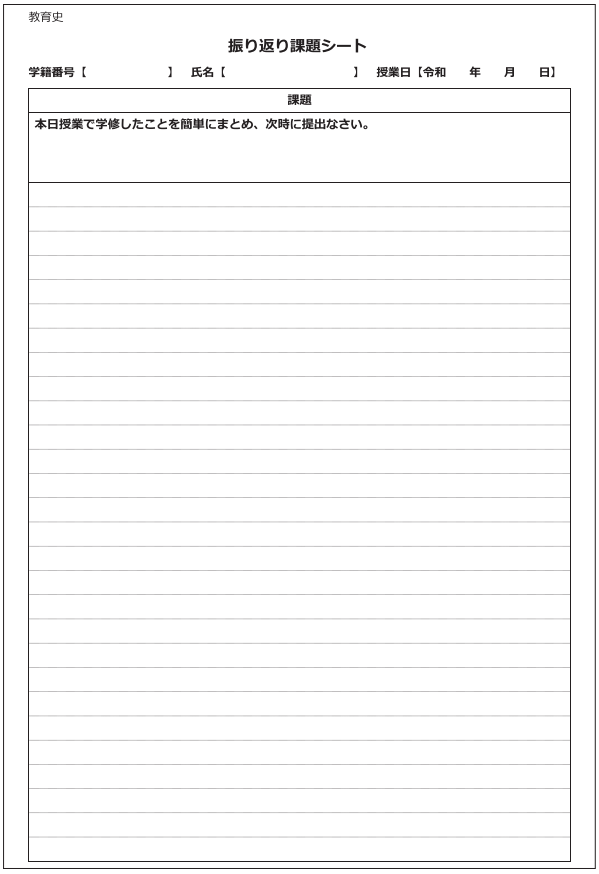
⑸　評価資料

AL による学修の評価を行う具体的な資料については，上記の図４～図 10 の評価方法欄にも示したが，次の４種類がある。

ア　思考・意見交換・発表　支援シート（図 11）
イ　感想・意見シート（図 12）
ウ　振り返り課題シート（図 13）
エ　課題シート（図 14）

アの「思考・意見交換・発表　支援シート」は，①与えられた思考テーマに基づく個人思考の欄，②グループの他の構成員（２～３名）の意見の要約欄，及び③各意見に対する個人の感想・疑問・反論等を記入する欄で構成している。

下部には，各学生が，グループ討議を行う際の留意事項を踏まえて学修することができたかどうかを確認するための自己評価欄を設けている。

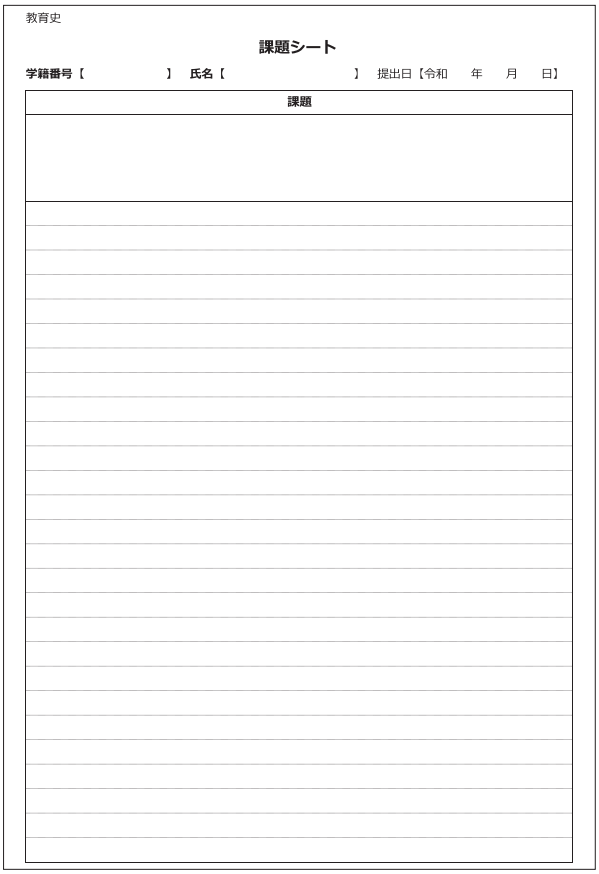

教育史

振り返り課題シート

学籍番号【　　】　氏名【　　】　授業日【令和　　年　　月　　日】

課題
本日授業で学修したことを簡単にまとめ、次時に提出なさい。

図 13


教育史

課題シート

学籍番号【　　】　氏名【　　】　提出日【令和　　年　　月　　日】

課題

図 14

最下部には，「思考の深さ」，「判断の的確性」，「表現の適切性」，「他の成員との協働性」を S，A，B，C の 4 段階で評価する欄を設けている。それぞれの評価にできるだけ客観性を持たせるため，以下に示すようなルーブリックを作成し活用している。

思考の深さ	
S	与えられた思考テーマについて，既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え，根拠を明らかにしながら，論理的に自分の意見をまとめている．
A	与えられた思考テーマについて多面的に考え，根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめている．
B	与えられた思考テーマについて考え，自分の意見をまとめているが，根拠の記述や論理性に課題がある．
C	与えられた思考テーマについて考え，自分の意見をまとめてはいるが，根拠の記述や論理性が著しく欠けている．

判断の的確性	
S	授業全体の流れの理解の下に，与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ，期待されるすべての論点に言及している．各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめている．
A	授業全体の流れの理解の下に，与えられた思考テーマの意味をとらえているが，期待されるすべての論点には言及していない．言及した論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめている．
B	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが，思考テーマの意味のとらえに課題があり，期待される論点に十分には言及していない．
C	与えられた思考テーマについて記述しているが，思考テーマの意味のとらえが不十分であり，期待される論点にほとんど言及していない．

表現の適切性	
S	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ，簡潔にまとめて記述している．誤字脱字がなく，丁寧に書いている．各欄の記述の分量が期待される分量の 9 割を超えている．
A	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述している．誤字脱字が少ない．各欄の記述の分量が期待される分量の 7 割程度である．
B	他の成員の意見を記述してはいるが，その趣旨を十分にまとめ切れていない．誤字脱字が散見される．各欄の記述の分量が期待される分量の 5 割程度である．
C	他の成員の意見を記述してはいるが，内容が極めて不十分である．誤字脱字が多くみられる．各欄の記述の分量が期待される分量の 3 割程度である．

他の成員との協働性	
S	他の成員と積極的に意見交換を行っている．他の成員の意見を十分に理解し，自分の感想等を記述している．自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述している．
A	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られない．他の成員の意見を理解し，自分の感想等を記述している．自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られない．
B	他の成員と意見交換しているが，消極的である．他の成員の意見の理解に不十分な面がある．自分の感想等を記述してはいるが，表面的なものにとどまっている．
C	他の成員との意見交換に渋々参加している．他の成員の意見の理解が極めて不十分である．自分の感想等を記述しているが，論点がずれている．

イの「感想・意見シート」では，「思考・判断」，「表現」，「意欲」，「分量」の評価の観点を設け，それらを総括して「総合」評価としてまとめている。各観点についてルーブリックは作成していないが，評価に当たっては，アの「思考･意見交換･発表　支援シート」の評価で用いるルーブリックを参考にしている。いずれも，S，A，B，C の４段階の評価としている。

ウの「振り返り課題シート」は授業の事前課題として活用している。学生に前時の学修内容をまとめて提出するよう指示している。

エの「課題シート」は授業の事後課題として活用している。主として授業テーマに関する調べ学修を指示している。

ウとエについては，１シートの裏表の両面構成であり，２つの資料を総括して S，A，B，C の４段階の評価としている。

⑹　評価の積算・総括方法

学修の評価は，シラバスやオリエンテーション時の説明において，学生に対し，次のとおり説明している。

ア　成績評価は，定期試験（60%），課題等への対応，講義に臨む姿勢，積極性など（40%）を参考に総合的に判断して行う。

イ　受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積され，評価点とする。

この度の実践研究の対象科目である「教育史」においては，以下のとおり評価を積算した。上記の定期試験以外の 40%の部分である。（図 15）

このほか，「グループ討議の結果の発表」や「文章読解，ビデオ視聴に関する意見の発表」において積極的に発表を行った学生については，１回につき２点の加点を行った。

評価資料	枚数	評価の観点 S,A,B,Cの総数	比重	配点
ア　思考・意見交換・発表 支援シート	5	４×５＝２０	1	２０
イ　感想・意見シート	2	2	×２	
ウ　振り返り課題シート	9	9	1	２０
エ　課題シート				
※　S:3点　A：２点　B:１点　C:0点 ※　各資料で得られた点数の総点を配点の範囲で比例計算する。				

図 15

⑺　脳内活性化指標（ISBA）

AL においては，思考，判断，表現，協働などの学修活動によって，学生の脳を可能な限り活性（Active）化させることが重要である。

こうした課題意識の下，本研究を行う中で，学生が授業内でどの程度，脳を活性化させて学修活動を行っているかを定量的に把握するために，各授業時間の学修活動及び各活動に費やした時間の記録を試みた。

学修活動の性質によって脳の活性化の度合いが異なることから，それぞれの学修活動に比重を設け，学生の脳が活性化している時間の総和を求めた。さらに，積算した時間（90 分）の授業全体に占める割合を求め，「脳内活性化指標」=「ISBA：Index of Students' Brain Activeness」とした。（図 16）

ISBA の平均値は 54.7 となった。授業のほぼ半分以上の時間において学生の脳内が活性化する主体的，能動的な学修活動が確保されたととらえることができる。

脳内活性化指標（ISBA: INDEX OF STUDENTS' BRAIN ACTIVENESS）							
比重	0.3	1	1	0.5	0.3	1	ISBA
学修活動	講義・説明	思考	討議	発表	読解・視聴	記述	
9/27	45	15	15	15	0	0	56.7
10/2	20	15	25	30	0	0	67.8
10/4	30	15	15	30	0	0	60.0
10/9	10	15	25	40	0	0	70.0
10/11	30	20	20	20	0	0	65.6
10/16	30	20	20	20	0	0	65.6
10/18	30	10	25	25	0	0	62.8
10/23	40	25	25	0	0	0	68.9
10/25	60	0	0	30	0	0	36.7
10/30	30	0	0	0	30	30	53.3
11/1	0	0	0	0	90	0	30.0
11/13	10	20	30	30	0	0	75.6
11/15	10	0	0	80	0	0	47.8
11/20	90	0	0	0	0	0	30.0
11/27	90	0	0	0	0	0	30.0

※各学修活動の欄の数字の単位は min.
※ISBA の数字の単位は%

図 16

知識・技能の修得のための説明・講義の必要性を否定するものではないが，各授業回における ISBA を意識することは，「学力の三要素」を効果的に育む授業をデザインする上で重要な鍵となろう。

なお，ISBA の測定には，毎時間の授業における記録を徹底する必要があることから，毎時間の授業記録票には，各学修活動の時間を記入することができるよう工夫した。（図 17）

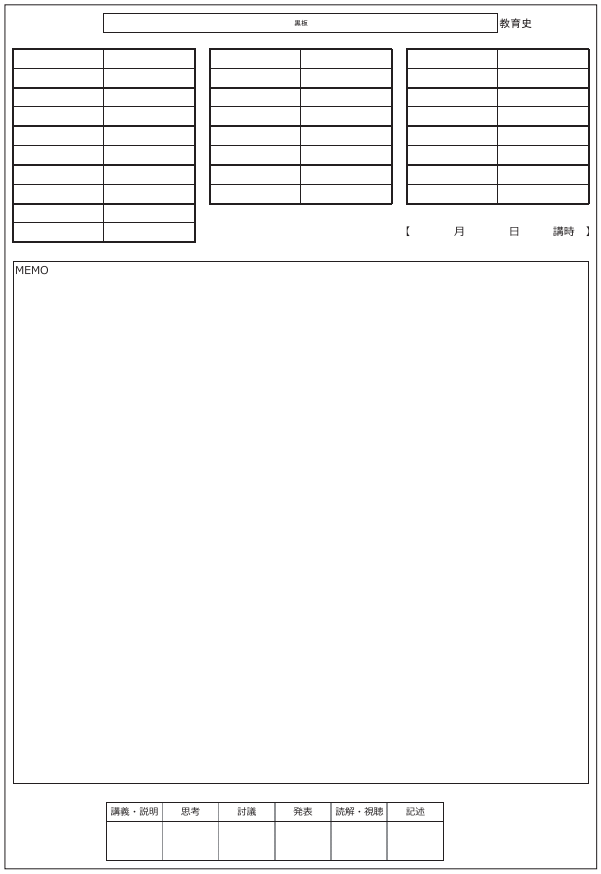


図 17

⑻ 成果

以上，本実践研究の内容について説明してきたが，成果としては，次のようなことが挙げられる。

ア　知識・技能の量のみならず，思考力，判断力，表現力，協働性，意欲・態度などの汎用的な能力を定量的に把握することができること。

イ　汎用的な能力の評価について，客観性や信頼性を確保することが可能となり，評価に関する説明責任をより適切に果たすことができること。

ウ　AL によって修得すべき資質・能力や評価の各観点に対する学生の理解が深まり，望ましい学修姿勢が確立されること。

エ　学生の授業内外の学修活動を，多様な観点からきめ細かく評価することが可能となること。

オ　ISBA の開発により，教員自身が AL を活用した授業のデザインや評価を一層適切に行うことができること。

⑼ 課題

課題については，次のようなことが挙げられる。

ア　各種評価資料の点検・評価・評定に時間と労力がかかること。例えば，「思考・意見交換・発表　支援シート」においては，１つのシート内において，「思考力」，「判断力」，「表現力」，「協働性」を評価し，さらに，評定に向けてはすべてのシートにおける各能力の評価を積算する必要がある。

イ　現状の学生数では，すべての学生に「発表」の活動させることが難しいことから，発表の活動の評価が「積極性」を測定するのみの評価となっている。今後，さらに多くの観点からの評価が可能となるよう工夫・改善する必要があること。

ウ　文献通読後やビデオ視聴後の感想や意見を記述する際に使用する「感想・意見シート」における評価の観点が，「思考・意見交換・発表　支援シート」の観点と相違する点があることから，整合性を取り，総括的な評価に活用することができるよう改善する必要があること。

エ　各汎用的能力を評価する際のルーブリックについては，これまで口頭で説明してきたが，オリエンテーション等において印刷物として配布して説明するなど，一層の理解に向けた取組を充実する必要があること。

オ　現状では，「振り返り課題シート」及び「課題シート」の評価が合同となっていることから，今後は，活動ごとの評価を行うよう改善する必要があること。

4　おわりに

我が国における戦後最大と言ってもよい教育改革が行われている。予測が不可能な時代の到来を目前に，我が国が今後，国際競争力を維持しながら持続的に発展していくためには，どのような変化が生じてもそれに対応することのできる汎用的能力の育成を確実なものとしていかなければならない。とりわけ高大の接続に関しては，中央教育審議会や高大接続システム改革会議で議論された理念や具体策を，諸課題を解決しながら着実に進めていく必要がある。

長年の課題であり続けたこうした課題を，この機に解決することができなければ，我が国の教育は，旧態依然としたまま迷走を続けることになるだろう。

現状における改革の具体策の進捗状況はどうであれ，改革の最も重要な基盤となる授業改善について，その必

要性を否定する理由は皆無である。

西崎（2019）及び本論においては，こうした課題意識の下で，大学の講義における AL の一つの可能性についての実践をまとめたものである。拙い実践研究の報告であるが，授業改善の一助となれば幸いである。

参考文献

・臨時教育審議会「教育改革に関する第一次答申（1985），第二次答申（1986），第三次答申（1987），第四次答申（1987）」
・教育課程審議会答申 1987(昭和 62)年「教育課程の基準の改善について（答申）」
・中央教育審議会 1996(平成 8)年「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について（答申）」
・中央教育審議会 2012(平成 24)年「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」
・中央教育審議会 2014(平成 26)年「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」
・高大接続システム改革会議 2016(平成 28)年「最終報告」
・中央教育審議会 2017(平成 29)年「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
・幼稚園教育要領 2017(平成 29)年　文部科学省
・保育所保育指針 2017(平成 29)年　厚生労働省
・中央教育審議会 2018(平成 30)年「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」
・松下佳代　京都大学高等教育開発推進センター 2015(平成 27)年「ディープ・アクティブラーニング」 勁草書房
・ダネル・スティーブンス，アントレア・レビ　佐藤浩章 監訳　井上敏憲 俣野英典 訳 2015(平成 27)年「大学教員のためのルーブリック評価入門」 玉川大学出版部
・松尾知明 2016(平成 28)年「21 世紀型スキルとは何かコンピテンシーに基づく教育改革の国際比較」 明石書店
・教育課程研究会 2016(平成 28)年「アクティブ・ラーニングを考える」 東洋館出版社
・松下佳代，石井英真「アクティブ・ラーニングの評価」2017(平成 29)年　東信堂
・西崎　毅「講義型授業へのアクティブ・ラーニングの導入に係る実践研究」2019(令和元)年　星槎道都大学研究紀要第 44 号　社会福祉学部

A Practical Research on the Effective Way of Assessing Generic Abilities of the Students in Active-Learning

NISHIZAKI Takeshi

Abstract

Active-Learning is expected to enable the students to acquire generic abilities, such as the ability to think, to make decisions, to express themselves, to cooperate well with others and to cultivate positive attitude toward getting new knowledge and skills. However, it has been very difficult to assess these abilities and attitude in the lessons, which has prevented the quality of the lessons from being drastically improved for a long time. This research confirms again the necessity of improving daily teaching from the viewpoint of the entire educational reform that has been being done during these ten years in many countries as well as in Japan and suggests some clues about how we should assess them effectively in daily teaching.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Social Welfare
No.1, 91－96, 2020

地域における予防・発見・発信機能のシステム構築への一考察

―児童虐待防止活動の実践より―

飯浜浩幸・小早川俊哉・西崎毅・藤根収
上原正希・杉本大輔・櫻井美帆子・大島康雄
吉江幸子・湯浅頼佳・西野克俊

この論文は過去にも報告してきたが，児童虐待防止の広報・啓発活動である「学生によるオレンジリボン運動」に取り組んだ星槎道都大学社会福祉学部の保育士・社会福祉士・精神保健福祉士・教員を目指す２年生40名の学生と教員11名の活動と，その教育効果を記したものである。

Ⅰ．学生によるオレンジリボン運動について

「オレンジリボン運動」は，子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで，子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動であり，オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え，多くの方に子ども虐待の問題に関心を持ち，市民のネットワークにより，虐待のない社会を築くことを目指している。

また「学生によるオレンジリボン運動」の，その目的は，近い将来親になりうる若者などに向けた児童虐待予防のための広報・啓発が主たる目標となっており，学園祭等を利用して学生が主体的に実施するもので，その活動内容は各校に委ねられている。当初，厚生労働省で主唱していたものであるが，平成27年度から，オレンジリボン運動の総合窓口を担う特定非営利活動法人児童虐待防止全国ネットワークが引き継ぎ実施している。

Ⅱ．本学におけるオレンジリボン運動について

本学は平成26年度より毎年開催している。先に記載した通り，オレンジリボン運動の活動内容は各校に委ねられているが，本学の活動内容については教員間で話し合い，令和元年度の本学活動については，社会福祉学部２年生を対象に，令和元年９月17日～20日の「夏季集中期間での授業」，10月28日の「北海道空知郡南幌町での活動」，11月19日の「北海道北広島市児童虐待防止講演会で作成した掲示物の展示及び参加」という３つの活動内容を企画した。

Ⅲ．「夏季集中期間での授業」について

大まかなスケジュールは表１を参照。以下４つの学びを形成した。

⑴　児童虐待についての講義

講義内容については，a．児童虐待とは，b．児童虐待の現状，c．児童虐待の類型，d．被虐待児の臨床像についての４項目について実施した。

⑵　オレンジリボン運動についての講義

講義内容については，a．オレンジリボン運動について，b．オレンジリボン憲章について，c．オレンジリボンの意味，d．オレンジリボンの自治体・企業活動について，e．学生がオレンジリボン活動をおこなう意義，f．本学のオレンジリボン活動についての６項目について実施した。

⑶　学生の手作りオレンジリボンの作成

児童虐待防止全国ネットワークのホームページに掲載されている「自分で作れる手作りリボン」の情報を参考にしながら，マスコットを付したオリジナルリボンの作成をした。

⑷　児童虐待についてグループ学習

40名の学生を概ね４つのグループに分け，a．児童虐待とは，b．被虐待児童の臨床像について，c．児童虐待の類型について，d．オレンジリボン憲章について，各グループに１テーマを振り分け，模造紙にまとめ，その後，児童虐待防止のポスターも作成，授業内で発表会をした。

Ⅳ．北海道空知郡南幌町での活動について

令和元年10月28日に北海道空知郡南幌町でイベント

【表1】スケジュール

開　催　日	講　時	時　　間	コ　マ	内　　容
9月17日(火)	1	9：00～10：30	1	・オリエンテーションと事前アンケート調査 ・オレンジリボン活動とは
	2	10：40～12：10	2	・児童虐待について（特定相談支援事業所　職員）
	3～4	12：55～16：05	3～4	・面接技術のVTR学習とOSCEのポイント
9月18日(水)	1～2	9：00～12：10	5～6	・オレンジリボン作成
	3～4	12：55～16：05	7～8	・図書館で調べ物と整理 ・掲示物作成（模造紙）
9月19日(木)	1～4	9：00～16：05	9～12	・掲示物作成（模造紙） ・掲示物作成（ポスター）
9月20日(金)	1	9：00～10：30	13	・掲示物作成（ポスター） ・発表準備
	2	10：40～12：10	14	・掲示物について発表と総括 ・掲示物を学内に掲示

※15コマ目は北広島市で開催される児童虐待防止講演会に学生が参加，掲示物展示．事後アンケート実施．




学生の手作りオレンジリボンの作成




各グループ，作成した模造紙・ポスターを発表

を開催した際に会場に掲示し，オレンジリボンの配布も
実施した。



南幌町のイベント会場で掲示物の展示とオレンジリボンの配布を実施





児童虐待防止講演会での掲示物の展示

Ⅴ．北広島市要保護児童対策地域協議会主催（北広島市主催）の児童虐待防止講演会への学生の参加と掲示物の展示

令和元年 11 月 19 日に北広島市芸術文化ホールで開催された児童虐待防止講演会に学生が参加し，授業で作成した掲示物の展示を行った。

Ⅵ．オレンジリボン実施後の学生へのアンケート

この児童虐待防止活動の一つであるオレンジリボン活動を実施するにあたり授業開始前と，授業終了後にアンケートを実施した。

アンケートの項目については，Q 1.「オレンジリボン運動を授業前から知っていたか」，Q 2.「Q 1 で知っていたという学生はなぜ知っていたのか」，Q 3.「児童虐待を防止するには，どのような活動が必要だと思うか」の 3 項目とし，活動終了後，再度，Q 3 について質問し，授業・活動前と活動後の変化について明らかにし，本学で活動した実践内容がどのような効果を及ぼしたのかを考察した。授業及びアンケート対象者数は 40 名であったが，アンケートの有効回答数は 36 名であった。

【事前アンケート】

Q 1．オレンジリボン運動を授業前から知っていたか。

項　目	総数	%
知っていた	27 名	75%
初めて知った	9 名	25%
合計	36 名	100%

「知っていた」27 名（75%），「初めて知ったが」9 名（25%）であった。

「知っていた」と答えた学生については，Q 2 の質問を答えてもらった。

Q 2．Q 1 で「知っていた」という学生はなぜ知っていたのか。

当てはまるものに１つ答えなさい。

項　　目	総数	%
①学内で取り組んでいたことで知っていた	15 名	55.6%
②テレビの情報で知っていた	１名	3.7%
③居住している地域活動で知っていた	０名	0%
④授業の中で学び知っていた	９名	33.3%
⑤その他	２名	7.4%
合計	27 名	100%

「学内で取り組んでいたことで知っていた」が 15 名（55.6%），「授業の中で学び知っていた」が９名（33.3%），「その他」は２名（7.4%）で，その他の意見では「母親が話してくれた」「オープンキャンパスで知った」であった。その次には「テレビの情報で知っていた」が１名（3.7%），「居住している地域活動で知っていた」が０名（０%）であった。

学内で継続して活動していることが，周知されて，早期の理解につながっていることが理解できた。

Q３. 児童虐待を防止するには，どのような活動が必要だと思うか。
下記項目を重要なものから，それほど重要でないものまで順番をつけなさい。
（　）→（　）→（　）→（　）→（　）→（　）

順　位	１位	２位	３位	４位	５位	６位	
①親の子育て強化	10	[10]	2	3	10	1	36
②社会で支える・発見する取り組み強化	[11]	11	9	4	1	0	36
③行政の子ども・親などの検診などの強化	4	6	[12]	8	6	0	36
④児童相談所の機能強化	4	6	8	[15]	3	0	36
⑤社会へのソーシャルアクション	7	2	4	6	[15]	2	36
⑥その他	0	1	1	0	1	[33]	36
	36	36	36	36	36	36	

【事後アンケート】

Q１. 児童虐待を防止するには，どのような活動が必要だと思うか。

順　位	１位	２位	３位	４位	５位	６位	
①親の子育て強化	4	6	[15]	10	1	0	36
②社会で支える・発見する取り組み強化	11	[13]	7	3	2	0	36
③行政の子ども・親などの検診などの強化	1	2	6	[15]	7	5	36
④児童相談所の機能強化	5	5	0	2	[24]	0	36
⑤社会へのソーシャルアクション	[15]	8	6	4	2	1	36
⑥その他	0	2	2	2	0	[30]	36
	36	36	36	36	36	36	

Ⅶ. オレンジリボン活動の実施前と実施後の変化

事前アンケートで，「児童虐待を防止するには，どのような活動が必要だと思うか」という質問に対して，優先順位の高い順から「社会で支える・発見取り組み強化」⇒「親の子育て強化」⇒「行政の子ども・親などの検診などの強化」⇒「児童相談所の機能強化」⇒「社会へのソーシャルアクション」⇒「その他」の順であった。その他について，「親の認識強化」「町内会等の付き合い強化」「再犯防止」「法律強化」「親のストレス軽減」である。特徴としては，子どもを支える対象を「社会」と「親」であるという認識は強く，しかし社会や親に対するアクションへの取り組みへの認識は薄く，他人事という感覚。

授業，講演会でのアクションなど，全ての授業が終了した後，事後アンケートでも上記同様の質問を実施したが，優先順位の高い順から「社会へのソーシャルアクション」⇒「社会で支える・発見する取り組み強化」⇒「親の子育て強化」⇒「行政の子ども・親などの検診などの強化」⇒「児童相談所の機能強化」⇒「その他」の順であり，その特徴と事前アンケートからの変化については，社会や親が子どもを支えるために強化することは大切であるという認識の変化はないものの，その社会や親に働きかける大切さが認識されたことが伺い知れる。

この活動を実施したことで，児童虐待防止をするためには支える側へのソーシャルワークにおける発信機能（ソーシャルアクション）の大切さを理解し，意識強化への変化が醸成された。

Ⅷ. おわりに

星槎道都大学における「学生によるオレンジリボン運動」には学生 40 名と学部教員 11 名が９月から 11 月まで関わった活動であった。北広島市の児童虐待防止講演会には学生と教員が，授業で作成した掲示物を展示，講演会の準備や後片付けまで含め参加し，参加した一般市民，民生委員，人権擁護委員，小中学校教員など 200 名程に学内のみならず多くの市民に発信できた，また学生のソーシャルアクション能力醸成にも役立った。今後共この活動も継続していく必要性を改めて感じさせられた。

参考文献

特定非営利活動法人児童虐待防止全国ネットワーク
（http://www.orangeribbon.jp/　2019.12.10）



児童虐待防止講演会で記念撮影

謝辞

最後に学生の作成した掲示物を快く児童虐待防止講演会の会場に展示をさせていただきました北広島市保健福祉部の職員の方々には心から感謝申し上げます。児童虐待がなくなることを願い，そしてこの研究がより深めていけることを祈り，末尾の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

A case study for the establishment of a system to prevent, discover, and reveal

— from the implementation of children abuse prevention activities

IIHAMA Hiroyuki　KOBAYAKAWA Toshiya　NISHIZAKI Takeshi　FUJINE Osamu
UEHARA Masaki　SUGIMOTO Daisuke　SAKURAI Mihoko　OOSHIMA Yasuo
YOSHIE Sachiko　YUASA Yorika　NISHINO Katsutoshi

Abstract

A second-year student at the Department of Social Welfare at Seisa Dohto University has held an Orange Ribbon campaign as one of the activities for child abuse prevention. Surveys were conducted before and after the lessons, and an awareness of the social actions of social workers to prevent child abuse has been reported to have increased through this activity.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Social Welfare
No.1, 97－103, 2020

実習前評価システムに関する一つの考察Ⅳ

杉　本　大　輔

本稿では一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロック加盟校が実施している実習前評価システムの本学における2019年度の実施状況の報告と，そこからうかがえる本学における実習前の２学年次における教育課題の考察を行う。筆者はこれまでに当該システムに関するいくつかの拙稿の中で，当該システムの持つ潜在的機能の分析と，本学における実施状況について報告してきたが①，その重要性は年を追うごとに増していると実感している。理由の一つとして，2021年度から実施される社会福祉士・精神保健福祉士養成新カリキュラムがあげられる。現行より60時間の実習時間の増加が謳われる新カリキュラムへの改定を受けて，各養成校でも様々な取り組みが検討されているが，60時間＝地域実習という前提に立てば，実習生は２つの領域の実習を経験しなければならず，事前学習において種々の工夫が必要になろうことは容易に想像できる。当該システムの本来の目的は実習生の選別であるが，その実施方法は各養成校に一任されている。これまで述べてきたように，本学においては２年時夏季集中講義に実施することにより，実習前における学習課題の明確化を目的とするに至っている。今後，新カリキュラムが導入されることにより，当該システムも各養成校によって多様な機能を果たすことになろうと考える。

１．2019年度星槎道都大学社会福祉学部実習前評価システム（OSCE）実施要領

７月29日㈪の２年生科目「相談援助実習指導Ⅰ」の前期講義最終日（本学においてな今年度から導入された第２クォーター総括日にあたる）に実施を告知。実施日時は夏季集中講義「地域共生プログラム」② ２日目の９月18日の１，２講目。内容は櫻井美帆子准教授と杉本が交互に利用者と評価者になり「地域包括支援センターにおけるインテーク面接」という場面におけるロールプレイングを行う。所要時間は５分間。櫻井・杉本がそれぞれ評価者・利用者としての評価を後述する評価表に記入。それぞれの評価内容は７月29日に配布し周知している。受講生は本学社会福祉学科２年生30名。なお，本年度からの変更点として評価項目を前年までの３段階から５段階に変更（５：大変よくできている　４：よくできている　３：できている　２：あまりできていない　１：できていない）した。これは，より精緻な分析を行うことを目的として，実施結果の一層の精査をねらいとしている。つまりは５段階評価による因子分析の導入と，それによる，より精緻で具体的な学習課題の発見である。また，実施の前日に面接技法の復習として鑑賞するDVD『面接への招待―核心を外さない相談援助面接の技法―』（監修　奥川幸子　渡部律子　中央法規）の鑑賞中に映像を止めて前期において学習した面接技法の具体的解説を行い，惰性で受講する学生の戒めとした。

評価者評価（５段階）

１，クライエントを迎え入れる態度	言葉	5　4　3　2　1
	動作	5　4　3　2　1
２，椅子の勧め方	言葉	5　4　3　2　1
	仕種	5　4　3　2　1
	どちらが先に座るか	5　4　3　2　1
３，対面の取り方（座る位置）		5　4　3　2　1
４，初めのあいさつ	言葉	5　4　3　2　1
５，自己紹介	所属	5　4　3　2　1
	職名	5　4　3　2　1
	役割	5　4　3　2　1
６，倫理的配慮	守秘義務の伝達	5　4　3　2　1

	メモをとることの断り	5	4	3	2	1
7，主訴の聞き取り	切り出し方	5	4	3	2	1
8，質問方法の的確さ（閉ざされた質問・開かれた質問）		5	4	3	2	1
9，身体技法	傾聴の姿勢	5	4	3	2	1
	うなずき	5	4	3	2	1
	手や足を組んでいないか	5	4	3	2	1
10，視線	相手の目を見ているか	5	4	3	2	1
	きょろきょろしていないか	5	4	3	2	1
	相手の動きを追っているか	5	4	3	2	1
11，声音の様子	明確さ	5	4	3	2	1
	速さ	5	4	3	2	1
	抑揚	5	4	3	2	1
12，主訴の要約は的確であったか		5	4	3	2	1

利用者評価（５段階）

1，クライエントは気持ちよく迎えられたか		5	4	3	2	1
2，クライエントはワーカーの役割をよく整理できたか		5	4	3	2	1
3，クライエントは滑らかに相談関係に入れたか		5	4	3	2	1
4，クライエントは相談事を十分に聞かれたと感じたか		5	4	3	2	1
5，クライエントは相談事を十分に話したと感じられたか		5	4	3	2	1
6，クライエントは相談事を十分に理解されたと感じたか		5	4	3	2	1

なお，得点の評価内容は以下のとおりである。

５…非常によくできている
４…よくできている
３…できている
２…あまりできていない
１…全くできていない

２．評価結果

評価者評価

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値		標準偏差	分散
	統計量	統計量	統計量	統計量	統計量	標準誤差	統計量	統計量
迎え入れる態度　言葉	30	2	3	5	4.77	.092	.504	.254
迎え入れる態度　動作	30	2	3	5	4.60	.132	.724	.524
椅子の勧め方　言葉	30	2	3	5	4.77	.092	.504	.254
椅子の勧め方　仕種	30	1	4	5	4.73	.082	.450	.202
椅子の勧め方　どちらが先に座るか	30	4	1	5	4.13	.274	1.502	2.257
対面位置の取り方	30	4	1	5	4.70	.187	1.022	1.045
初めのあいさつ　言葉	30	3	2	5	4.43	.149	.817	.668
自己紹介　所属	30	4	1	5	3.97	.242	1.326	1.757
自己紹介　職名	30	4	1	5	3.50	.218	1.196	1.431
自己紹介　役割	30	4	1	5	2.90	.200	1.094	1.197
倫理的配慮　守秘義務の伝達	30	4	1	5	3.00	.336	1.838	3.379
倫理的配慮　メモをとることの断り	30	4	1	5	2.67	.350	1.918	3.678
主訴の聞き取り　切り出し方	30	3	2	5	3.17	.152	.834	.695

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値		標準偏差	分散
質問の方法の的確さ	30	3	2	5	3.60	.132	.724	.524
身体技法　傾聴の姿勢	30	3	2	5	4.83	.118	.648	.420
身体技法　うなずき	30	2	3	5	4.87	.079	.434	.189
身体技法　手や足を組んでいないか	30	0	5	5	5.00	.000	.000	.000
視線　相手の目を見ているか	30	0	5	5	5.00	.000	.000	.000
視線　きょろきょろしていないか	30	2	3	5	4.93	.067	.365	.133
視線　相手の動きを追っているか	30	2	3	5	4.60	.103	.563	.317
声音の様子　明確さ	30	3	2	5	3.90	.255	1.398	1.955
声音の様子　速さ	30	3	2	5	4.00	.220	1.203	1.448
声音の様子　抑揚	30	3	2	5	3.77	.257	1.406	1.978
主訴の要約は的確であったか	30	4	1	5	2.90	.194	1.062	1.128
有効なケースの数（リストごと）	30							

利用者評価

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値		標準偏差	分散
	統計量	統計量	統計量	統計量	統計量	標準誤差	統計量	統計量
気持ちよく迎えられたか	30	4	1	5	4.57	.184	1.006	1.013
ワーカーの役割をよく整理できたか	30	4	1	5	3.87	.234	1.279	1.637
滑らかに相談関係に入れたか	30	3	2	5	4.27	.191	1.048	1.099
相談事を十分に聞かれたと感じたか	30	4	1	5	4.30	.240	1.317	1.734
相談事を十分に話したと感じたか	30	4	1	5	4.03	.242	1.326	1.757
相談事を十分に理解されたと感じたか	30	4	1	5	3.87	.252	1.383	1.913
有効なケースの数（リストごと）	30							

評価者評価での平均値の比較を行うと「迎え入れる態度　言葉」「迎え入れる態度　動作」「椅子の勧め方　言葉」「椅子の勧め方　仕種」「対面の位置の取り方」「身体技法　傾聴の姿勢」「身体技法　うなずき」「身体技法　手や足を組んでいないか」「視線　相手の目を見ているか」「視線　きょろきょろしていないか」「視線　相手の目を見ているか」「視線　相手の動きを追っているか」は平均値4.5を超えており，特に「身体技法　手や足を組んでいないか」「視線　相手の目を見ているか」は5.0，つまり全員が満点であったことから，身体技法に関する高得点がうかがえる。反対に「倫理的配慮　メモをとることの断り」「主訴の要約は的確であったか」は平均値3.0を割っており，今後の学習課題といえる。利用者評価に関しては，平均値の最高は「気持ちよく迎えられたか」の4.57，最低は「ワーカーの役割をよく整理できたか」「相談事を十分に理解されたと感じたか」が3.87となっており，評価者評価の結果と関連するものとなっている。

3．因子分析

本年度より，評価者評価の結果について因子分析を行い，より精緻な課題抽出を行うこととなった。なお，分析法により，平均値の高かった身体技法は分析項目には入れていない。なお，因子抽出法は最尤法を採用した。

KMO および Bartlett の検定

Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測度	.554
Bartlett の球面性検定　近似カイ２乗	247.793
自由度	105
有意確率	.000

共通性[a]

	初期	因子抽出後
迎え入れる態度　言葉	.765	.827
迎え入れる態度　動作	.737	.630
椅子の勧め方　言葉	.746	.999
椅子の勧め方　仕種	.880	.839
椅子の勧め方　どちらが先に座るか	.645	.169
対面位置の取り方	.724	.552

	初期	因子抽出後
初めのあいさつ　言葉	.740	.999
自己紹介　所属	.723	.687
自己紹介　職名	.837	.823
自己紹介　役割	.664	.695
倫理的配慮　守秘義務の伝達	.846	.720
倫理的配慮　メモをとることの断り	.811	.999
主訴の聞き取り　切り出し方	.721	.598
質問の方法の的確さ	.655	.310

	初期	因子抽出後
主訴の要約は的確であったか	.511	.203

因子抽出法：最尤法
a. 反復中に１つまたは複数の１よりも大きい共通性推定値がありました．得られる解の解釈は慎重に行ってください．

説明された分散の合計

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和[a]
	合計	分散の％	累積％	合計	分散の％	累積％	合計
1	4.775	31.834	31.834	3.799	25.328	25.328	3.869
2	2.506	16.709	48.543	1.539	10.257	35.585	2.304
3	1.875	12.499	61.042	1.123	7.486	43.071	2.048
4	1.323	8.823	69.865	1.998	13.318	56.389	2.404
5	1.092	7.281	77.145	1.592	10.613	67.001	2.698
6	.770	5.133	82.278				
7	.699	4.657	86.936				
8	.638	4.253	91.189				
9	.438	2.919	94.107				
10	.256	1.709	95.816				
11	.187	1.244	97.060				
12	.170	1.133	98.192				
13	.142	.948	99.140				
14	.076	.508	99.648				
15	.053	.352	100.000				

因子抽出法：最尤法
a.　因子が相関する場合は，負荷量平方和を加算しても総分散を得ることはできません．

因子行列[a]

	因子				
	1	2	3	4	5
倫理的配慮　メモをとることの断り	.804	－.145	－.575	－.001	－.004
初めのあいさつ　言葉	.758	－.379	.530	－.003	－.001
自己紹介　職名	.667	－.179	－.045	.417	.413
倫理的配慮　守秘義務の伝達	.642	－.132	－.229	.176	.455
主訴の聞き取り　切り出し方	.560	－.328	－.286	.002	.308
対面位置の取り方	.525	.202	.318	－.340	－.137
質問の方法の的確さ	.409	.232	.041	－.031	－.293
主訴の要約は的確であったか	.318	－.174	.193	.030	.182
椅子の勧め方　言葉	.460	.878	.133	－.003	.001
迎え入れる態度　言葉	.086	－.036	.336	.807	－.235
迎え入れる態度　動作	.231	.134	－.099	.686	－.281
椅子の勧め方　仕種	.378	.484	.245	.589	－.237
椅子の勧め方　どちらが先に座るか	.173	.026	－.106	.258	.247
自己紹介　役割	.365	－.249	.054	.324	.627
自己紹介　所属	.536	.079	－.140	.191	.581

因子抽出法：最尤法
a.　５個の因子が抽出されました．12 回の反復が必要です．

適合度検定

カイ２乗	自由度	有意確率
45.527	40	.253

パターン行列[a]

	因子				
	1	2	3	4	5
自己紹介　役割	.837	－.006	－.146	.153	－.194
自己紹介　所属	.824	－.119	.215	－.060	.024
自己紹介　職名	.686	.206	－.028	.177	.142
倫理的配慮　守秘義務の伝達	.661	－.048	.037	.040	.281
椅子の勧め方　どちらが先に座るか	.404	.108	.007	－.129	.008
迎え入れる態度　言葉	.008	.886	－.167	.178	－.192
迎え入れる態度　動作	－.020	.786	－.016	－.173	.264
椅子の勧め方　仕種	.060	.668	.463	.023	－.065
椅子の勧め方　言葉	.204	－.028	1.011	－.125	－.096
対面位置の取り方	－.178	－.213	.531	.502	.048
質問の方法の的確さ	－.249	.141	.366	.152	.286
初めのあいさつ　言葉	.026	.077	.033	.971	.006
主訴の要約は的確であったか	.228	－.038	－.006	.354	－.075
倫理的配慮　メモをとることの断り	.113	.040	.038	－.059	.955
主訴の聞き取り　切り出し方	.392	－.122	－.147	.120	.440

因子抽出法：最尤法
回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法[a]
a.　8 回の反復で回転が収束しました.

構造行列

	因子				
	1	2	3	4	5
自己紹介　職名	.859	.346	.090	.506	.525
倫理的配慮　守秘義務の伝達	.803	.086	.095	.390	.618
自己紹介　所属	.798	.087	.211	.271	.431
自己紹介　役割	.795	.138	－.130	.380	.239
椅子の勧め方　どちらが先に座るか	.381	.173	.035	.039	.153
迎え入れる態度　言葉	.147	.868	.051	.188	－.169
椅子の勧め方　仕種	.182	.802	.629	.148	.026
迎え入れる態度　動作	.191	.753	.204	－.001	.172
椅子の勧め方　言葉	.141	.258	.982	.031	.109
対面位置の取り方	.012	－.058	.536	.491	.231
質問の方法の的確さ	－.015	.197	.454	.220	.275
初めのあいさつ　言葉	.411	.196	.167	.995	.374
主訴の要約は的確であったか	.318	.044	.022	.408	.162
倫理的配慮　メモをとることの断り	.556	.043	.190	.339	.992
主訴の聞き取り　切り出し方	.618	－.081	－.084	.397	.651

因子抽出法：最尤法
回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

因子相関行列

因子	1	2	3	4	5
1	1.000	.192	.035	.377	.477
2	.192	1.000	.256	.109	－.023
3	.035	.256	1.000	.116	.151
4	.377	.109	.116	1.000	.363
5	.477	－.023	.151	.363	1.000

因子抽出法：最尤法
回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

因子の解釈

第１因子

「自己紹介　役割」「自己紹介　所属」「自己紹介　職名」「倫理的配慮　守秘義務の伝達」「椅子の勧め方　どちらが先に座るか」

↓

面接開始時の配慮

第２因子

「迎え入れる態度　言葉」「迎え入れる言葉　動作」「椅子の勧め方　仕種」

↓

クライエント入室時の配慮

第３因子

「椅子の勧め方　言葉」「対面位置の取り方」「質問方法の的確さ」

↓

クライエントの話しやすい環境づくり

第４因子

「初めのあいさつ　言葉」「主訴の要約は的確であったか」

↓

インテークにおけるニーズの把握

第５因子

「倫理的配慮　メモをとることの断り」「主訴の聞き取り　切り出し方」

↓

インテークにおける信頼関係構築

４．考察と課題

第１因子から第３因子までは面接が始まるまでの環境，アイスブレークのための配慮であり，第４，第５因子はインテーク面接における山場である。２学年の前期終了後の OSCE 実施であるが，例年のように面接開始時までのアイスブレーク家庭の得点は高いが，面接の内容・重要性に関しての把握がまだまだ低いということがうかがえる[3]。身体技法に目が行きがちになり，ソーシャルワーク面接の意義の理解が乏しくなりがちになるのは例年通りだが，今年度より因子分析を取り入れたことにより，昨年度までの平均値の比較にとどまらず，各項目を一つの因子にまとめたことにより，より広がりのある学習課題を抽出できたと考える。例えば，第５因子のインテークにおける信頼関係の構築であるが，これに含まれる「倫理的配慮　メモをとることの断り」「主訴の聞き取り　切り出し方」を個々に指導していては個別の技法で終わってしまう可能性がある。これに,「インテークにおける信頼関係の構築」という潜在因子名を与えることにより，個々の項目の良しあしが，インテーク時に以下に大きな影響を与えるか，という学習の動機づけを与えることになる，同様に第４因子においても「初めのあいさつ　言葉」と「主訴の要約が的確であったか」という個々の技法にとらわれていては，特に「初めのあいさつ　言葉」では，単なる言葉がけの良しあしで理解が終わってしまう可能性があるが,「インテーク時におけるニーズの把握」という潜在因子名を与えることにより，個々の技法の統合が，インテーク面接におけるニーズの把握という，基礎的かつ重要な要因を構成していることに理解がつながる。本学が使用している OSCE 評価表の個々の項目がソーシャルワーク面接技法の何を関連するかを抽出することにより，面接技法の重要性をより具体的な学習課題に昇華できたと考える。

５．終わりに

2021 年度より，社会福祉士及び精神保健福祉士養成校は新カリキュラムに移行する。実習時間の増加など，より実践的なカリキュラムの意向に対して，ソ教練北海道ブロックが実施している実習前評価システムは，より多様な可能性を模索し，実施してゆくことが求められる。本学においては，実習前評価システムの本来の目的である「実習生の選抜」からは逸脱した形で実施してきたが，これにより「実習前の学習課題の明確化」という目的を見つけ，それを昇華してゆくという潜在機能を発見した[4]。北海道ブロックという実習教育システムに参加している以上，そこで提示された課題を各養成校の事情に合わせて継続して実施することにより，新たな潜在機能の発見につながり，実習教育における順機能となると考える。

註記）

① これらに関しては以下の拙稿を参照。杉本「実習前評価システムに関する一つの考察」道都大学社会福祉学部紀要第 40 号 P 71～80「実習前評価システムに関する一つの考察Ⅱ」道都大学社会福祉学部紀要第 41 号 P 23～31「実習前評価システムに関する一つの考察Ⅲ」星槎道都大学社会福祉学部紀要第 44 号 P 37～44

② この科目は本学が夏季集中講義間に実施している科目で 4 日間で 15 時間分のカリキュラムをこなす。主な内容は本学が 2014 年度より実施している虐待

防止オレンジリボン運動の活動。当該プログラムは，この活動と同時並行で行われる。

③ 本学においては2019年度よりクォーター制を実施しているが，当該科目の「相談援助演習」においては従来通りのセメスター制で実施している（相談援助実習指導も同様）。よって，面接技法の学習は3人の教員によるグループに分かれて，各グループ5月下旬から6月上旬にかけて，４～６時間をかけて学習する。

④ 実習前評価システムが持つ潜在機能の考察については杉本「実習前評価システムに関する一つの考察」（道都大学社会福祉学部紀要第40号Ｐ71～80）において考察したが，これは当該システムを実施することにより，養成校と実習現場との関係が密になるという，養成校と実習現場との相互関係の中での発見であった。本稿においては各養成校が当該システムを実施し続けることにより，各養成校の現状に即した潜在機能発見の可能性を示唆したものと自負している。

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Social Welfare
No.1, 105－108, 2020

地域福祉活動の担い手を養成するためのプログラムに関する一考察

大　島　康　雄

キーワード：地域福祉，共助，担い手，リーダーシップ

要旨

少子高齢化の影響，制度デザインの観点からも地域福祉の推進が求められている。地域福祉を担っていた町内会は加入率の低下や停滞化から福祉機能を担うのが困難となってきている。また，世帯構成の変化からも介護の社会化，地域力の向上が必須となっている状況である。このような現状から福祉リーダーを育成することが求められており，地域の担い手を養成するプログラムが重要と考えた。担い手に求められる機能として「配慮」，「構造作り」が重要で，それを行う地域にはある程度の資源や協力が必要となる。そのためにもフィールドワークやエリアマネジメントのように既存の枠組みを超えた地域の在り方を創設することを述べた。

１．はじめに

地域福祉の在り方検討会からも自助，互助，共助，公助のバランスが問われており，地域単位の互助力の向上を図ることが求められている。高齢者分野では地域包括ケアシステム，障害分野では共生社会と地域単位とした制度デザインとなっており，インフォーマル資源の活用を具体的な狙いとしている。フォーマルサービスの限界をインフォーマルでカバーし，活動的な地域を目指す試みである。一方，少子高齢化の影響により，地域資源の枯渇や担い手不足もあり，今後の在り方を検討していくことが重要である。社会福祉協議会や地域包括支援センター，特定相談支援事業所など地域の福祉機関に制度デザインを実現できる活動が求められている。しかし，職員の能力や経験，業務量などを見たときに現状には課題があるため，支援方法の確立が求められる。

「住民主体の原則」が示すように，専門職による要請やトップダウン型の地域づくりには限界があり，住民が中心になる組織作りが求められる。また，地域組織を形成する際にもリーダーが必要となり，このリーダーを発掘し，養成することが課題として挙げられよう。地域福祉を概観したとき，コミュニティケアとコミュニティワークに分けることができる。コミュニティケアは，制度やサービスを指し，上記に挙げたフォーマルサービスの部分を指す。コミュニティワークは，地域組織化や地域開発のことを指す。この背景には，目指すべきコミュニティケアが地域包括ケアや共生社会になっており，それを実現させる方法がコミュニティワークになっている。この背景には大きな課題があり，コミュニティケアとコミュニティワークの整理が不十分な状況で，主体性を軸にしたコミュニティワークが目標のコミュニティケアに到達するとは限らないのである。

「住民主体の原則」をベースにしたコミュニティワークは，その展開には地域包括ケアや共生社会が直線上に在るとは限らないことが指摘できる。しかし，少子高齢社会の日本で，ポリシーとしての展開が望まれ，方法論をある程度示し，課題なども明らかにしていくことが求められる。以上のような問題意識から，目指すべき地域に向かうために必要な人材である地域住民の福祉リーダー像を構築し，特徴を整理しつつ教育プログラムを考察したい。

２．福祉リーダー像及び特徴

リーダーシップは，大きく行動理論と条件適合理論に分けることができる。行動理論には，三隅二不二の PM 理論などが挙げられ，規則に従わせたり，指示命令したり，報告を求めるような P 機能。気軽に話し合う，気を配る，信頼するなどの M 機能があり，両方の機能がリーダーシップには有効だという理論である。グリッド理論や他大学の研究も同じような結論となっている。条件適合理論では，リーダーとメンバーの関係性に焦点を当てているもので，フィードラー理論やパス・ゴール理論が挙げられる。上記の２つを福祉領域に置き換えるとそれぞれの地域で必要な福祉活動をしている団体におけるリーダーはどのような行動を行っているのか，メンバー

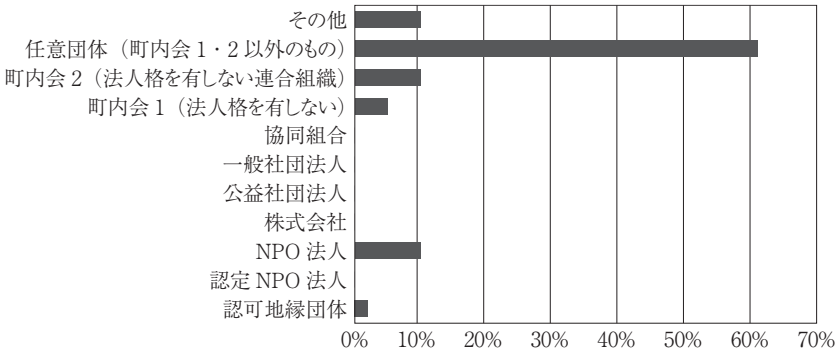


図１　地域運営組織の組織形態

（出所：暮らしを支える地域運営組織に関する調査研究事業報告書　平成 28 年）

との関係はどのようになっているのかを着目することで理論との比較を行うことができる。また，他領域の分野との比較検討も分析手法として検討できるだろう。

行動理論と条件適合理論は，不動の二次元と呼ばれ「配慮と構造作り」の２つの機能が特徴とされている。そのため，本論の着眼点としては配慮と構造作りとし，研究フレームを組んでいる。配慮とは，相手との人間関係を構築するツールとして用いられている。リーダーがメンバーに対して，細かな配慮をすることでチームとしての人間関係が形成され具体的な取り組みを円滑にする力となる。また，構造作りは，組織運営が円滑に行われ目的に沿った行動を取り組めるということである。

「配慮」に関して説明を重ねると霜越ら（2018）がまとめた地域組織活動の継続要因には，参加者の負担の無い参加形態，参加者や関係者の良い人間関係，参加者がアクセスしやすい生活圏内に活動場所があるなどが示されている[1)]。参加者の負担の無い参加形態とは，自由な参加形態，リーダーや役員の負担を減らす，楽しく参加するなどが示されている。参加者や関係者の良い人間関係では，参加と交流を通じた信頼関係の構築，組織内及び関係者間の関係づくりが示された。人間関係の良好さが活動の楽しさに影響も与えていることを明らかにしている。

「構造作り」では，参加者や関係者間の情報共有，行政との協働，地域住民や他組織との関係が挙げられる。参加者や関係者間の情報共有は，地域住民が参加しやすい環境整備，活動目的，内容，評価の共有がある。住民が地域の課題を理解し，改善に向けた意思決定をする，継続的な研修があり自信を持つことが示されている。行政との協働では，地域行政機関との協働，経済的・物質的支援である。住民意向の反映などが示されている。地域住民や他組織との関係では，地域住民の理解や協力，地域の様々な組織との協働，地域組織活動を支える人材が挙げられる。以上のように「配慮」，「構造作り」がリーダーに求められるスキルとなる。本論のテーマは，福祉リーダー像に絞っているため，福祉リーダーの資質が重要となる。基本的に求められるものは同じであるが，地域性に部分が欠落している。では，地域性についてはどのような状況なのであろうか。藤原（2016）は，地域福祉推進リーダー養成塾の効果をまとめ，人材養成プログラムを整理している[2)]。このプログラムの特徴は，フィールドワークを基本としており，そこから情報共有と課題の再確認ができるようになっている。先ほど述べた構造作りの機能に養成プログラムを追加することとなる。この研究の中で地域性によってこのようなプログラムの展開が難しいことも想定されると述べており，地域の実情を理解する必要がある。

３．地域の実情

最初に述べたように，少子高齢化や福祉制度の観点からも地域福祉の推進が求められており，単に財政的な問題だけではなく地域住民同士の互助や自助により，生活の質が向上し，様々な社会的な経験を得ることができる。図１から地域福祉の中心的な役割を担っていたのは町内会である。澤田（2018）が行った町内会の調査では，2000 年以前の町内会加入率は横ばいになっており，それなりの加入率であった[3)]。2000 年以降に関しては低下しており，今後も低下することが推測できる。地区活動の中心を担っていた町内会未加入者の増加は，大きな課題となっている。また，町内会自体の課題として停滞が挙げられる。主な活動として募金活動の協力，美化活動，消毒，街灯管理が挙げられ，活動自体が日常化され義務的になっていったと指摘されている。そのため，参加疲れを起こしてしまい，新たな魅力の創設ができないまま現状の未加入状態が出現したとみることができる。

上記のような状況を「配慮」から分析すると理想のリーダーシップをとることはできず，参加者の負担の無い参加形態が履行することが困難となる。では，今後どのようなことが地域で行っていく必要があるかを検討すると

表１「65 歳以上の世帯推移」

年次	65 歳以上のいる世帯	全世帯に占める割合	単独世帯	夫婦世帯	親と未婚の子世帯	三世代世帯	その他の世帯
平成元年	10,774	27.3	1,865	2,706	1,439	4,348	1,280
平成 10 年	14,822	33.3	2,724	3,956	2,025	4,401	1,715
平成 20 年	19,777	41.2	4,352	5,883	3,634	3,667	2,241
平成 30 年	24,927	48.9	6,830	8,045	5,122	2,493	2,437

（単位：千世帯）
（出所：国民生活基礎調査）

「エリアマネジメント」という概念がキーワードになる。このエリアマネジメントは，国土交通省土地・水資源局がマニュアルを整理しており，住民・事業主・地権者等による自主的なまちづくりを進めているものである。これを提示したのは，負担感を減らすために絶対的なマンパワー不足が挙げられ，民間やあらゆる資源を活用することが求められている状況だからである。その理由としては世帯の変化が挙げることができる。表１は平成の世帯構成の変化であるが，65 歳以上の世帯を見たときに単独世帯や夫婦のみ世帯，独身の子供との世帯が増え，３世代家族が減少していることが分かる。これは，家族による福祉機能が低下していることを指摘することができる。そのため，介護保険による介護の社会化が有効に機能していないと実現することができない。この点に関しては今まで述べてきたように，地域福祉に求められていることが達成できてない現状から急務な課題といえよう。

４．養成プログラムの考察

以上のように述べてきたことを整理すると。１，リーダーには「配慮」と「構造作り」が必要である。２，町内会のように参加疲れを起こさないためのエリアマネジメントを地域単位で行う必要がある。３，フィールドワークを行い，地域課題の抽出や情報共有のトレーニングが必要である。以上の３点が地域の担い手に求められる役割であろう。項目ごとに整理を行うと表２のようになった。エリアマネジメントについては，地域課題を把握するところは，フィールドワークと重複するため割愛した。構成要素を考えたときには，人間関係の形成に向けたロールプレイや活動場所の選定，経済・物的資源の確保，地域課題の把握，地域資源とのネットワーク化など求められるものが多くあり，しかも，ハイレベルなものが要求されている。その点からも地域福祉推進はテクニカルでヘビーな内容といえよう。社会課題を乗り越えていくためにもこの人材を各地域で養成していくことが望まれる。

具体的な養成プログラムとしては，講義を中心としたものやフィールドワーク，ロールプレイなどを組み込んだものが必要であろう。先に述べた大阪市社会福祉協議会で行っている地域福祉推進リーダー養成塾は３日間である。期間としては短いため，課題をクリアするまで養成を支援する機関が地域に必要となる。その機関が社会福祉協議会になるとエリアマネジメントの視点が欠けてくるであろう。事業主のコミュニティは，様々であり行政の介入や商工会のバックアップも求められる。また，楽しい活動や負担感の少ないものとして考えたときに，公助の機能を地域が肩代わりするようなコミュニティケアが住民に求められないような制度デザインのベクトルやバランスには注意が必要だ。

表２「養成プログラムの構成要素」

配慮	負担の無い参加形態
	より良い人間関係
	活動場所が生活圏にある
	楽しい活動
構造作り	情報共有の機会
	目的・内容・評価を示す
	住民主体の決定権
	継続的な研修
	行政機関との協力
	経済的・物的支援
エリアマネジメント	事業主・地権者とのネットワーク
フィールドワーク	情報共有
	地域課題の把握

（作成：筆者）

本論の限界としては，プログラムの作成が時間的な側面や研修内容の触れていないため，構成要素で留まっている。今後も地域を取り巻く環境は厳しくなることが予想される。そのため，本論の養成プログラムを効果的なものとして構築し，プレテストを行いながら研究調査を今後，行っていきたいと考えている。

引用文献

１）「地域組織活動の継続要因に関する文献レビュー―看護学等，多様域にわたる scoping review ―」（2018,2）霜越多麻美，宮崎美砂子　千葉看会誌

２）「地域福祉時代における地域住民の人材養成～地域福祉推進リーダー養成塾の取り組みから～」（2016,3）藤原慶二　関西福祉大学社会福祉学部紀要

３）「地縁組織の加入率と活性化に関する一考察―町内会・自治会制度をめぐる基礎理論的研究―」（2018）澤田道夫　アドミニストレーション

参考文献

金井壽宏「リーダーシップ入門」日本経済新聞社
国土交通省土地・水資源局「エリアマネジメント推進マニュアル」（平成 20 年 3 月）

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Social Welfare
No.1, 109－114, 2020

保育実習日誌の書き方に関する考察

吉　江　幸　子

１．研究の目的

保育士養成課程における保育実習の目的は，国の保育実習実施基準である「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」（平成 27 年 3 月 31 日厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知，以下「局長通知」）において，その第１で次のように定めている。

「保育実習は，その習得した教科全体の知識，技能を基礎とし，これらを総合的に実践する応用能力を養うため，児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする」

この目的を達成するために，保育実習（以下，「実習」）の段階的な履修方法や実習施設の選定等における基準に則り，全国の養成施設が実習を効果的にすすめられるよう指導体制を整えている。

学生は座学と実学の積み重ねによって保育の専門性を学び，保育士として従事するための準備をすすめるのであるが，実習に際し，学生が苦労することの一つが記録である。実習期間中は毎日記入する記録だが観察力や表現力が大きく求められる。事前指導で記録の意義・目的を説明し，実習日誌の様式を示しながら記入の方法を学ぶのであるが，実習後は日誌の記述の難しさを口にする。そこで本研究では，実習における記録の意義を明らかにし，記録が難しいと話す学生にどのように指導したらよいかについて考察することを目的とした。

２．研究の方法

保育実習を履修するために保育実習指導という必修科目が設置されている。この科目における指導内容と実際に学生が実習で記録した実習日誌及び保育現場の実習評価をもとに，日誌の書き方における実態，そこから見えてくる課題，今後の対策について検討する。

３．保育実習指導における標準化の背景

近年，子ども子育て支援法の施行や児童福祉法の改正，保育所保育指針の改定等により保育を取り巻く環境は多様に変化している。これらに対応するため保育実習実施基準も見直され，保育士養成施設の実習指導に関する調査研究も進められてきた。とりわけ一般社団法人全国保育士養成協議会編集の「保育実習指導のミニマムスタンダード」（2007）は，実習指導の基礎的内容を整備し，標準的事項を共有する目的で刊行され，各養成校の実習指導担当者が活用してきた基準本である。このミニマムスタンダード策定の背景には「2003 年，厚生労働省雇用均等・児童家庭局長名での『保育士養成施設の指定及び運営の基準』で示す『保育実習』の目標・ねらい等はきわめて簡明であり，養成校の実習指導者がみずからの行う教育・指導の独自性や有効性を判断するための基準として機能させるには十分とはいえない」との指摘があったからである（全国保育士養成協議会，2018）。

入学してくる学生に対し，保育士の専門的知識・技能等を正確に伝え，実習における学びの質を担保すると考えた時，実習指導の基礎的な条件を整備し，標準的事項を共有することが必要であることは言うまでもない。

以上のことから養成校の実習指導者が共有する事項として「保育実習のミニマムスタンダード～現場と養成校が協働して保育士を育てる」（2007），さらには「保育実習のミニマムスタンダード Ver.2『協働』する保育士養成」（2018）が刊行され，養成校側の一方通行ではなく，現場の実習指導者にも参加・執筆を求め協働という双方向の関係形成を以ってひとりの学生を保育士として育てていく方向性を示したのである。

４．保育実習指導の単位化

保育実習の履修基準は，局長通知により運営の基準を定めているところであるが，保育実習指導が教科目として単位化されたのは 2010 年の「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」による提示である。改正案に係る保育実習関連の抜粋を表１に示す。改正では，必修科目である「保育実習」５単位を「保育実習Ⅰ」４単位，「保育実習指導Ⅰ」２単位とし，選択必修科目「保育実習Ⅱ又はⅢ」にも「保育実習指導Ⅱ又はⅢ」１単位が示されたのである。これにより，保育実習指導は一つの科目として，教科目の目標及び教授内容の中で実習の意義，実習内容と課題の明確化，実習の計画と記録に関する事

表１　保育実習における単位数の変化

	改正前			2010 年改正案		
	教科目	設置単位数	履修単位数	教科目	設置単位数	履修単位数
必　　修	保育実習（実習）	5	5	保育実習Ⅰ（実習）	4	4
				保育実習指導Ⅰ（演習）	2	2
選択必修	保育実習Ⅱ又はⅢ（実習）	2	2	保育実習Ⅱ又はⅢ（実習）	2	2
				保育実習指導Ⅱ又はⅢ（演習）	1	1

※資料：保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）2010.3.24　保育士養成課程等検討会別紙１より抜粋

前・事後指導が整理されることとなった。ここでは，保育実習指導Ⅰ（演習・２単位）の目標と内容について表２に示す。

表２は 2018 年の養成課程改正案で示されたものであるが，2010 年からその内容に変更点は認められない。

いずれにしても保育実習５単位の中に含まれ，実習４単位と実習指導１単位で合計５単位としていた実習指導が科目として独立し，実習指導の強化によって保育実習をより体系的・総合的・効果的に行なうことが明らかにされたと考えてよい。

本稿で取り上げるのは，教授内容に明記されている「４．実習の計画と記録」である。

表２　保育実習指導Ⅰ（演習・２単位）の目標及び内容

〈目標〉
1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し，自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮，プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して，実習の総括と自己評価を行い，今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

〈内容〉
1. 保育実習の意義
　（1）実習の目的
　（2）実習の概要
2. 実習の内容と課題の明確化
　（1）実習の内容
　（2）実習の課題
3. 実習に際しての留意事項
　（1）子どもの人権と最善の利益の考慮
　（2）プライバシーの保護と守秘義務
　（3）実習生としての心構え
4. 実習の計画と記録
　（1）実習における計画と実践
　（2）実習における観察，記録及び評価
5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化
　（1）実習の総括と自己評価
　（2）課題の明確化

資料：保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について（2018）

５．保育実習指導における記録指導

ここでは保育実習指導Ⅰの記録指導について述べる。

筆者が所属する北海道内の保育士養成施設では，前述のミニマムスタンダードを参照･引用して作成された「保育実習指導ガイドライン」を活用して指導にあたるよう申し送りがなされている。これは全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会に所属する養成校の理事が編集委員を務め執筆したもので 2018 年４月１日付で配布された。本学においても学生に配布し，標準的な実習基準を示しながら指導している。

保育実習Ⅰの内容に“記録に基づく省察・自己評価”が掲げられていることから保育実習指導Ⅰにおいても観察と記録，評価に関する事前・事後指導が求められる。

保育実習Ⅰは学生にとって初めての学外実習となるが，実習施設の１日の流れを見学・観察するところから始まり，子どもと生活をともにする参加実習，さらに実習生の力量に応じて部分的に指導計画を立案し実践してみる指導実習へと経験を積んでいく。以上のようないくつかの実習段階において必ず必要になるのが記録である。

書き留めるという行為を通じて自己の実践を振り返り，現場の実習指導者から指導を受け，良かった点や改善点を理解していくことにつながる。

記録の書き方について本学では，前述の「保育実習指導ガイドライン」と「幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド」のテキストを使用して教科目「保育実習指導Ⅰ，Ⅱ及びⅢ」で取り上げるほか，「保育課程論」(2019 年度新カリキュラムは「保育の計画と評価」) や本学独自の共通教育科目である「アクティブプログラム」を活用した保育所交流の企画立案を通して実践を積んでいるところであるが，保育の知識不足が故に視点の定まらない文章表現が散見する場合と，基礎的な文章表現に間違いが散見する場合がある。

このことについて佐藤（2019）は，学生が書いた実習日誌の 15 行ほどの文章を取り上げ，次のように述べている。

「＊今日は５歳児のクラスで「ごっこ遊び」をしました。子どもはいろいろなものにたとえるのが上手で，幼児はごっこ遊びが得意だと思いました。ごっこ遊び

は一人ひとりの特意なことがよくわかるので～以下省略。

＊今日はなるべく多くの子どもと関わろうと思って実習に臨みました。子どものいろいろな姿が見えたので，これからも積極的に実習に望みたいと思います。

始めは正しい漢字表記ができていたにもかかわらず，わずか数行後には間違った漢字を書く学生が少なくない。同様の事例が増えている。」

とし，文章を書く時の注意力不足や国語力の低下が深刻であると指摘している。

6．学生の実習日誌から見えること

先に述べた佐藤（2019）の指摘同様に，本学の学生が記入する実習日誌の記録も，実習指導担当者が付箋を付けて誤字・脱字を指導したり，その書き方では意味を取り違える可能性の指摘，話し言葉の部分を示し，丁寧に指導していることがわかる。

以下に学生が書いた日誌から誤った表記の記録と実習指導担当の保育士が指導した部分を抜粋する。

①○○ができたと思った。ですが，畑に向かう途中で～以下省略。

②物の取り合いになるので，回数を決めてやる。

③○○でふざけている子どもがいた。→気持ちが高ぶっている子どもがいた。

④靴下をはいてもらう。→靴下をはく援助をする。

⑤オムツは大丈夫か見る。→オムツに排泄しているか確認する。

①と②は，話し言葉による記載であり，特に①は，一つの文章中に敬体と常体が混在している。③は，子どもが冗談を言ったり飛び跳ねたり騒いだわけではなく，実習生が子どもの横に座った時のことを表現した記載であるため，ふざけているのではないことが担当保育士の指導で書き示されている。④は，主語を「子ども」にした場合は不適切な表現である（授業では，行為主体を意識し，「子ども」を主語にして書いてみるよう指導している）。⑤は，オムツの何が大丈夫なのかが不明瞭であり，伝えるべきことが分かりやすく表現されていない。これら①～⑤は一人の記録から抽出したものである。

また，多くの学生に共通して見受けられる表記が「ら抜き」，「い抜き」言葉である（表３）。

表３　多用される「ら抜き言葉・い抜き言葉」

食べれる	食べれない
寝れた	寝れない
残ってる	残ってない
見れた	見れなかった
しっかりしてる	しっかりしてない　　他

以上のように不適切な表現が多く見られ，しかも誤った表記であることに学生自身が気づいていない。実習担当教員が訪問指導において記録の確認・指導を行い，実習先の担当保育士とも調整を図るが，実習評価票の総合所見で誤字・脱字の多さや読み直しが必要であるとの指摘を受けることは当然のことであり，記録の評価が低くなることも否めない。

実習を終えた学生に「何が大変だっか」を尋ねると，その９割が実習日誌を書くことと答える。実習を終えて夕方帰宅し，そこから７時間かけて記録を書いた学生もいるなど１日の記録完成が夜中までかかっている場合も少なくない。緊張する毎日の中で休息ともなる睡眠時間の調節が崩れると体調管理にも影響を及ぼしかねない。しかし，記録は保育士にとって欠かせない業務の一つであり，保育所保育指針解説（2018）においても次のように示されている。

「子どもは，日々の保育所の生活の中で，様々な活動を生み出し多様な経験をしている。こうした姿を記録することは，保育士等が自身の計画に基づいて実践したことを客観化することであり，記録という行為を通して，保育中には気づかなかったことや意識していなかったことに改めて気づくこともある。記録をする際には，子どもに焦点を当てて，生活や遊びの時の様子を思い返してみる視点と，一日の保育やある期間の保育について，保育士等が自分の設定したねらいや内容・環境の構成，関わりなどが適切であったかといったことを見直してみる視点がある。この双方の視点から保育を記録することによって，子どもの生活や遊びにおける保育士等と子どもとの多様な相互作用の様子が明らかとなる。

こうした記録を通して，保育士等は子どもの表情や言動の背景にある思いや体験したことの意味，成長の姿などを的確にかつ多面的に読み取る。その上で，指導計画に基づく保育の実践やそこでの一人一人の子どもに対する援助が適切であったかどうかを振り返り，そこで浮かび上がってきた改善すべき点を次の指導計画に反映させていく。この一連の流れが保育の過程であり，この循環的な過程が絶えず繰り返されながら，日々の保育は連続性をもって展開されるとともに，保育における子どもの育ちが意識化され，長期的な見通しに基づく保育の方向性が具体化される。」

このように記録から子ども理解を深め，保育の質の向上を図ることが記録の目的であると述べている。

7．課題と対応に関する考察

学生が実習日誌を書くということは，実習生の推測や

活動の一場面を切り取る主観的発想を言語化し，指導教員や実習担当者と共有することで客観的視点を身につけることに役立つ。また，子どもの思い，保育士の意図や願いに気づいていく過程でもあると考える。さらに指導計画の作成や日誌に記録することは，その日の保育を考えたり見通しをもって保育活動を組み立てる保育のデザインとも言える工程なのである。

保育所であっても児童福祉施設であっても，業務日誌，保護者との連絡帳，個々の子どもの成長記録，指導計画や指導要録の作成，保護者・地域住民に向けた発信文等記録の種類は多種多様である。実習内容を記録することによる客観化は今後保育士として勤務した際に担う様々な記録の事前体験でもある。子どもの動きを観察し記録に表すこと，保育士の動きを観察し記録に表すこと，自分自身も保育活動に参加し記録に表すことを体験することで記録に慣れ，客観化に慣れ，エビデンス（evidence）に基づく保育の実践を具現化する過程と捉えることができる。

では，このように重要な項目である記録がなぜ実習時間の中に組み込まれないのであろうか。

教科目である「保育実習」の目標・教授内容に，「記録に基づく省察・自己評価」が挙げられているにも関わらず自宅へ帰り日誌を記入するのであろうか。実習前から日誌を書くことへの不安感・負担感を口にする学生の中には，帰宅しても日誌の記入があるので時間外労働だと不満をもらす者もいる。しかし実習も履修教科目の一つであり，講義・演習・実験実習授業は事前・事後学習の授業外学修時間も含めた授業計画で学修する。このことは，文部科学省の中央教育審議会資料（2018）の学修時間の確保と把握に関する平成 24 年答申で次のように記載されている。

「５．学士課程教育の現状と学修時間（学修時間に着目する理由)―(略)―学生が，予測困難な時代にあって生涯学び続け，主体的に考える力を修得するには，事前の準備，授業の受講，事後の展開といった能動的な学修過程に要する十分な学修時間が不可欠である。学修時間が短いという現状に加えて，学生の学修時間に着目して学士課程教育の改善を図る理由は以下のとおりである。第一に，教育課程の基準が法令で定められ，授業時数を中心に教育課程が編成されている初等中等教育とは異なり，学生が主体的に事前の準備，授業の受講，事後の展開という学修の過程に一定時間をかけて取り組むことをもって単位を授与し，また，このような学修経験を組織的，体系的に深めることをもって学位を授与するというのが大学制度である。学修の量と質の両立のためには，質を伴った学修時間であることが必要である。したがって，各大学の学士課程教育の基本的な目標の達成状況は，学修時間について，①学士課程教育に求められる学修の質が伴うように確保されているか，②その大学が重視する教育に関する営為と活動に照らして適切な設定となっているか，③大学や教員の組織的な責任体制がその確保に対応しているか，といった点によって示されるものと言えよう。（以下，略)」

と述べている。このことは，学修時間の確保が学士課程教育の質の保証と国際的信頼に示唆するとし，学生の学修時間の増加と確保という視点に立って学生の主体的学びを大学全体で取り組むべきと言い換えることができるであろう。

１日８時間の実習という授業を終え，事後学習によってその日の学びを記録し言語化することは，帰宅後に事後学習を行い，評価反省から翌日の目標を設定し目標達成のための事前学習を行うという学修の一環なのである。

2020 年度，新学習指導要領が小学校から中学校・高校へと順次全面実施される。幼稚園・保育所・認定こども園も関係３法令が平成 29 年告示で同時改定され，幼児教育において育みたい資質･能力の３つの柱が示された。その一つに，思考力・判断力・表現力等の基礎を培う時期と定義づけられ，就学前，小学校，中学校，高等学校教育を通して伸ばしていくことが明確に取り上げられた。昨今，学生の文章表現力や国語力の低下が問題視されているが，見たり聞いたり書いたりすることのバランスが良くないと国語力は育たない。そのきっかけが就学前児童では絵本や図鑑であり，小学校から学年を追うごとに読書へとつながっていく。全日本学校図書館協議会の第 65 回学校読書調査（2019）によると，小学生の１か月平均読書冊数は 1988 年に 6.3 冊であったのに対し，2019 年は 11.3 冊という結果が出ており，小学校時代の読書が盛んであることがわかる。一方で文化庁が実施している国語に関する世論調査（2019）は，16 歳以上を対象に 1,960 人（有効回答数 54.6%）の結果をまとめている。それによると約半数近くが１か月に１冊も本を読んでいない実態が浮かび上がる（図 1.）。電子書籍に関する質問項目もあるが，活用している割合は８％程度で

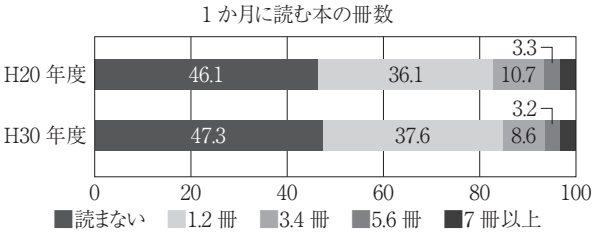


図 1. 2018 年度　国語に関する世論調査（抜粋）
資料：文化庁（2019 年２～３月調査）

あった。

読む・書く・聞く・話すことを経験して読解力が身につき，相手の思いや意図を読み取る力がつくとすれば，中学校，高等学校でほとんど読書の習慣がなくなり大学に入学してくる学生の記録指導が困難になることは容易に想像できる。本学の学生においても保育実習Ⅰを終えた学生 10 人に読書の習慣があるか質問したところ，7 人が「ほとんど読まない」，3 人が「3 か月に 1 冊程度」との返答が返ってきており，文章に目を通す機会が少ないことがわかる。現状として誤字・脱字以外にも散見する事例を取り上げたがこのような課題への対応について考察する。

①学生の実態把握

現行，筆者が担当する 1 年次開講科目において漢字テストを実施したりテキストの音読により，読み飛ばしや読めない漢字の実態把握を行っているところであるが，「読む」「書く」ことができる漢字とできない漢字は義務教育のどの段階かを把握し，キャリア支援教育，図書情報館担当等との情報共有を強化する。これにより，漢字検定や図書要約プレゼン（仮称）等，学生が「参加しやすく役に立ち身につく」補習教育を行う。

②授業改善の取り組み

学生の学習効果を高めるためにフィールドワークやディベートを積極的に活用する。

本学では地域連携事業による保育交流体験を実施しているが，フィールドワークとして学生の研究論文に発展するよう改善したい。また，ディベートは，「聞く」「話す」体験を多く含むことから，宮崎（2015）は「体験を積むことで，論理的　な思考力を育むことができ，文章を書く力にも繋がっていく。」と述べている。

③オフィス・アワーの積極的活用

授業を受ける学生に対して教員が相談に応ずる専用の時間帯(オフィス・アワー)の活用である。中央教育審議会は個別の学習指導や少人数教育の実践とともにオフィス・アワーの必要性を述べている。本学では課程専攻外の学生であっても履修アドバイスやオフィス・アワーで相談体制を整えているが，敢えて保育士課程を履修する学生を対象に専門領域の相談に応じる時間を確保する。

以上のような取り組み実現に向け，学生・指導教員との意思統一，さらに実習担当の理解を得るための説明責任を担うことが，学生の不安を最小限にして実習に臨み，その学びを記録化することが必要と考える。すべての学生が終始記録への不安を口にするわけではない。中には，「最初は大変だったが子どもの姿を観察することに慣れてくると書きやすくなる。」という意見や，「保育士に付箋を貼られて嫌だったが，ある 1 日だけ誤字・脱字も指摘の付箋もなく嬉しかった。」という反省会の発言もあった。認められる体験が本人の成長を促すことは言うまでもない。どの学生にもそのような自己肯定感をもって成長してほしいとの願いと期待を込めて実践したい。

以上，本稿では，保育実習指導における記録指導の課題と対応について考察した。記録の必要性と重要性及び記録のための概略的取り組みを模索したところである。

今後の課題として，学生が実習において子どもの理解を深めるためにも，記録に必要な「子どもの姿」を捉える指導法の確立と実践について検討する必要がある。

〈引用・参考文献〉

石橋裕子・林幸範編著（2015）．幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド．同文書院.

公益社団法人全日本学校図書館協議会（2019）．学校図書館 11 月号.

厚生労働省編（2018）．保育所保育指針解説．フレーベル館．pp 52–53.

厚生労働省雇用均等・児童家庭局長（2015）．指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について.

佐藤達全（2019）．保育科学生の文章に見られる問題点とその対応―保育者に必要な注意力と想像力の低下を中心に―．日本保育者養成教育学会第 3 回研究大会資料 p 55.

全国保育士養成協議会編（2007）．保育実習指導のミニマムスタンダード―現場と養成校が協働して保育士を育てる―．㈱北大路書房.

全国保育士養成協議会編（2018）．保育実習指導のミニマムスタンダード―「協働」する保育士養成―．中央法規出版.

全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会（2018）．保育実習指導ガイドライン．北海道ブロック編集委員会.

中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会（第 1 回）資料（2018）．高等教育に関する主な中央教育審議会答申の抜粋表 p 11.

文化庁（2019）．平成 30 年度「国語に関する世論調査」の結果概要．一般社団法人中央調査社.

保育士養成課程等検討会（2010）．保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）.

宮崎加代子（2015）．文章を書く力をめぐる課題と指導―大学一回生の作文分析から―．大阪総合保育大学紀要 9 号．pp 24–92.

A Consideration about how to write childcare training diary

YOSHIE Sachiko

Abstract

One of the difficulties students face during childcare training is writing a training diary. Writing requires observation and expressiveness. However, it is difficult to write while remembering the child's appearance because he plays with the child during the day. If you are not good at writing, childcare training itself is not good. Therefore, I researched how to write a practice diary and how to deal with it. As a result, I think three things are important: (1) deliberately set the experience of "reading" and "writing", (2) create time for fieldwork and debate, and (3) communicate with students in addition to class time.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Social Welfare
No.1, 115－118, 2020

HSP（Highly Sensitive Person）は解離しやすいか？

―学生の調査から―

佐々木　智　城

【概要】

大学生 110 名を対象として解離症状と敏感さとの関連について調査した。解離症状の測定のために Bernstein, E. M., & Putnam, F. W.（1986）, Carlson, E. B. & Putnam, F. W.（1993）の DES と柴山（2017）の解離の主観的体験チェックリストを使用した。

また，敏感さの測定のために，岡田（2017）の過敏性プロファイルと Sand, I.（2016）の HSP チェックリストを使用した。

この他に，自己効力感の測定を GSES（General Self-Efficacy Scale）（坂野，東條 1986）で行い，HSP の自己効力感について検討した。

【目的】

HSP（Highly Sensitive Person，とても敏感な人）は解離しやすいと言われている（長沼，2017）。実際に HSP の傾向が強まるほど，解離が生じやすくなるのかを DES と解離の主観的体験チェックリストを用いて検討する。

また，HSP の傾向がある人の中には新しいことにチャレンジしたり，未来を肯定的に見ることが困難な人が存在することが示唆されている（赤城，中村 2017）。そのため，自己効力感の低さが考えられるため，GSES を用いて検討する。

今回は佐々木（2019）の続編である。そのため，岡田（2017）の過敏性プロファイルと Sand, I.（2016）の HSP チェックリストの詳細については，その論文を参照されたい。

【方法】

大学生（被験者）110 名を対象に，敏感さを調査する尺度として岡田（2017）の過敏性プロファイルと Sand, I.（2016）の HSP チェックリストを使用した。この 2 つは佐々木（2018）と同様の尺度である。

これに加えて，解離症状を調べる尺度として，DES と解離の主観的体験チェックリスト，自己効力感の測定として GSES を使用した。

【結果】

1．DES のスコアについて

DES は 30 点以上が解離の疑いがあるとされる。110 名の学生の中で最低点が 5 点，最高点が 50.1 で平均が 22.9 であった。DES-T は病的解離の程度を推定する項目群であるが，被験者の得点は 0 点～42.5 点であり，病的に高い被験者が存在することがわかった。

Table 1　全被験者の DES の平均得点と標準偏差

	全項目	DES-T
平均	22.88	17.25
標準偏差	14.21	15.36

2．解離の主観的体験チェックリスト

50 項目の合計得点（A 項目）は被験者 110 名中，最低点 56，最高点 132 であった。解離に比較的特異的とされている 20 項目（B 項目，Table 10）では，最低点 23，最高点 51 であった。

Table 2　全被験者の解離の主観的体験チェックリストの平均得点と標準偏差

	A 項目（全項目）	B 項目（解離に特異的な 20 項目）
平均	89.10	36.00
標準偏差	27.0	11.26

3．GSES（General Self-Efficacy Scale）について

最低点 3，最高点 10 で平均 7.8 であった。

Table 3　自己効力感の 5 段階評価

	非常に低い	低い傾向にある	普通	高い傾向にある	非常に高い
成人男性	～4	5～8	9～11	12～15	16
成人女性	～3	4～7	8～10	11～14	15～
学生	～1	2～4	5～ 8	9～11	12～

Table 4　全被験者の GSES の平均得点と標準偏差

	平均値
平均	7.80
標準偏差	2.49

4．岡田（2017）の過敏性プロファイルについて

Table 5　過敏性スコアの得点分類

合計得点	判定
0～ 5	過敏さを認めない
6～11	境界レベル
12～19	過敏な傾向が軽度認められる
20～24	過敏な傾向が中等度認められる
25～	過敏な傾向が顕著である

※岡田（2017）

判定基準は Table 5 の通りである。

Table 6 は①～⑥が過敏性の 6 つの要素で高いほど生きづらくなる。⑦の回避傾向は刺激を強く感じる場所を回避する程度，⑧は一定程度以上の刺激が得られなければ刺激として認識しづらいという刺激の閾値に関連する。

各項目は 0 ～ 5 点でチェックされ，最大 5 点である。Table 6 では，過敏性が認められなかった。

Table 6　全被験者の過敏性の 6 つの要素と回避傾向，低登録の平均値

	平均値	標準偏差
①感覚過敏	2.70	1.70
②馴化抵抗	1.80	1.62
③愛着不安	1.80	1.48
④心の傷	2.80	1.81
⑤身体化	1.80	1.55
⑥妄想傾向	2.00	1.49
⑦回避傾向	2.60	1.78
⑧低登録	1.90	1.29

Table 7　全被験者の過敏性プロファイル平均値

	平均値	標準偏差
神経学的過敏性①＋②	4.00	3.13
心理社会的過敏性③＋④	4.00	3.40
病理的過敏性⑤＋⑥	3.20	2.90
過敏性スコア（①～⑥の合計）	11.20	9.09
生活障害指数（①～⑧の合計）	15.10	11.57
過敏性に伴いやすい傾向⑦＋⑧	3.90	2.96

Table 7 で過敏性に関連する重要な項目は過敏性スコアである。このスコアは過敏性の 6 つの要素を合計したものである。これを Table 5 に当てはめて過敏性の判定を行うと，全被験者の平均では過敏性は認められなかった。チェックリストを個別にみると，ほとんどの項目にチェックが入る被験者もいるが，チェックが 1，2 個くらいしかついていない被験者もいるため，平均化すると敏感さの見られない集団となった。

5．HSP チェックリストについて。Sand, I.（2016）

Table 8　HSP チェックリストでの全被験者の平均と標準偏差

	平均値	標準偏差
グループ A（0～140）	74.20	19.14
グループ B（0～52）	18.30	9.36
HSP 度（A－B）（－52～＋140）	55.90	9.78

このチェックリストは，質問項目がグループ A とグループ B に分かれており，A は敏感さに関する項目，B は鈍感さに関する項目で構成されており，A から B の得点を引いた結果（HSP 度）が 60 を超えていると HSP に該当するとされている（Sand, I., 2016）。

110 人の被験者全体の平均の HSP 度では HSP には該当しなかったが，55.90 点はあと少しで HSP に該当する得点である。そのため，HSP 傾向のある被験者が多くいたことが示唆された。

5．過敏性プロファイル 12 点で分類した解離傾向

Table 9　過敏性スコア得点 12 点で分類した解離尺度平均点

過敏性スコア	DES 合計平均点	DES-T 平均得点	A 項目 平均得点	B 項目 平均得点
12 点以上	30.31	19.79	89.17	36.33
12 点以下	17.68	10.94	73.00	32.50

岡田（2017）の過敏性プロファイルでの HSP 基準となる 12 点で区切り，DES と解離の主観的体験チェックリストで解離の程度に差があるかを検討した。その結果，12 点以上と以下では解離の程度に差が見られた。

【考察】

Table 7 の過敏性スコアを見ると 11.20 とあり，軽度の HSP 傾向があると示される 12 点に達していない。被験者は健常な学生たちであることを考えると，15%～20%存在するとされる HSP の割合（Aron, E. N. 1996）からすると高いのではという印象を受けた。

HSP チェックリスト（Table 8）においても HSP 度は 55.90 点 HSP の可能性がある 60 点には達していないが，近い数値であり，HSP ではなくとも敏感さをある程度持っている学生が多いことが示唆される。

Table 9 で過敏性スコアの得点を HSP の基準（Table

5）である 12 点で分けると，DES の合計平均点が 30.31 と 17.68 に分かれた。DES は 30 点以上が解離を疑う基準であるため，過敏性スコアが 12 点以上の被験者が直ちに解離があると言える訳ではないが，12 点以下の被験者に比べると解離傾向が存在することが示唆された。

また，解離の主観的体験チェックリスト（柴山　2017）においても過敏性スコア 12 点で分けると，A 項目（全項目の合計得点）では 12 点以上の群は 89.17，12 点以下の群は 73.00 であった。B 項目（解離の特異的な主観的体験 20 項目）では，12 点以上の群は 36.33，12 点以下の群は 32.50 であった。

解離の主観的体験チェックリストは，一般女子大学生では A 項目平均と標準偏差が 82.5±22.2，B 項目平均と標準偏差は 30.9±9.9（柴山　2017）であるため，今回の被験者である学生が特に解離傾向が高いというわけではない。柴山（2017）によると，解離性離人症の場合は，A 項目の平均値と標準偏差は 165.3±18.7，B 項目の平均値と標準偏差は 73.4±5.2 であるため，HSP であったとしても解離性離人症になるには，何かの体験に遭遇することによって発症すると考えられる。

今回の結果からは，HSP 傾向のある被験者は，HSP 傾向の低い被験者に比べて，解離傾向はありそうであることが示唆された。HSP は解離を生じさせる要因の一つであると考えられる。

Table 10　解離の主観的体験チェックリストの B 項目（解離の特異的体験）

項目　2	黒い影が目の前をさっと横切る
項目　4	自分の周囲に誰かがいる気配を感じる
項目　6	夢の中でも感覚は，まるで起きているときのようにリアルである
項目　8	自分の頭の中から人の声が聞こえる
項目 10	自分の過去をどこかに置いてきたように感じる
項目 12	鏡の中に映る自分が，まるで自分ではないように感じられる
項目 14	自分の体から離れたところやずれたところに自分を感じる
項目 16	地に足がついておらず，自分が浮いているように感じる
項目 18	ついさっきの出来事の記憶が夢にように薄れていく
項目 20	どうしてかわからないが，勝手に涙が出たり笑ったりする
項目 22	自分自身を背後から見ているように感じる
項目 24	人混みの中で，自分が変な人のように見られていると感じる
項目 26	夢の中で自分の姿が目の前に見える
項目 28	周りの物がそこにあるという実感に乏しい
項目 30	自分の中に別の人格がいるように感じる
項目 32	自分が今・ここにいるという実感が乏しい
項目 34	周囲と自分の間に膜や隔たりを感じる
項目 36	人混みの中では怖さを感じる
項目 38	当然覚えているべきことが記憶から消えている
項目 40	背後に人がいる気配あるいは人の視線を感じる

【引用文献】

赤城智里，中村真理（2017）感覚処理感受性とソーシャルスキル，精神的回復力の関連性の検討　東京成徳大学臨床心理学研究，17，59–67

Aron, E. N. (1996). The highly sensitive person: How to thrive when the world overwhelms you. New York: Broadway Books.

Bernstein, E. M., & Putnam, F. W. (1986). Development, reliability, and validity of a dissociation scale. The Journal of Nervous and Mental Disease, 174, 727–735.

Carlson, E. B. & Putnam, F. W. 1993 An update on the Dissociative Experiences Scale. Dissociation, 6(1), 16–27.

長沼睦雄（2017）子どもの敏感さに困ったら読む本：児童精神科医が教える HSC との関わり方　誠文堂新光社

岡田尊司（2017）過敏で傷つきやすい人たち　HSP の真実と克服への道　幻冬舎書房

坂野雄二，東條光彦（1986）一般性セルフ・エフィカシー尺度作成の試み　行動療法研究，12(1)，73–82.

Sand, I. (2016) Highly sensitive people in an insensitive world: How to create a happy life. London: Jessica Kingsley. 鈍感な世界に生きる 敏感な人たち　枇谷玲子訳　ディスカヴァー・トゥエンティワン

佐々木智城（2019）青年期の HSP（Highly Sensitive Person）の敏感さと否定的思考の関連について　星槎道都大学紀要　*44*，77–83

柴山雅俊（2017）解離の舞台　金剛出版

田辺肇（2009）病的解離性の DES-Taxon 簡易判定法　こころのりんしょう

Is HSP (Highly Sensitive Person) easy to dissociate?

― From student survey ―

SASAKI Tomoshiro

Abstract

This investigation is target to 110 University students about HSP and dissociation. This Used sensitivity profile of Okada (2017), HSP checklist of Sand, I. (2016), GSES (Sakano, Tojo, 1986), DES (Carlson, E. B. & Putnam F. W. 1993), Dissociative subjective experience scale (Shibayama, 2017).

These students are divided into sensitivity profile score over 12 and under 12. The result was are different between sensitivity profile score over 12 and under 12 about DES and Dissociative subjective experience scale. Students of sensitivity profile score over 12 were higher dissociation score than under 12.

Students with a score of 12 or more are not as severe as dissociation symptoms.

But HSP is a developmental factor to Dissociative disorder

美 術 学 部

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 121－123, 2020



「赤と黒の誘惑」 F100 号　油彩×キャンバス　2019 年作　改組新　第 6 回日展

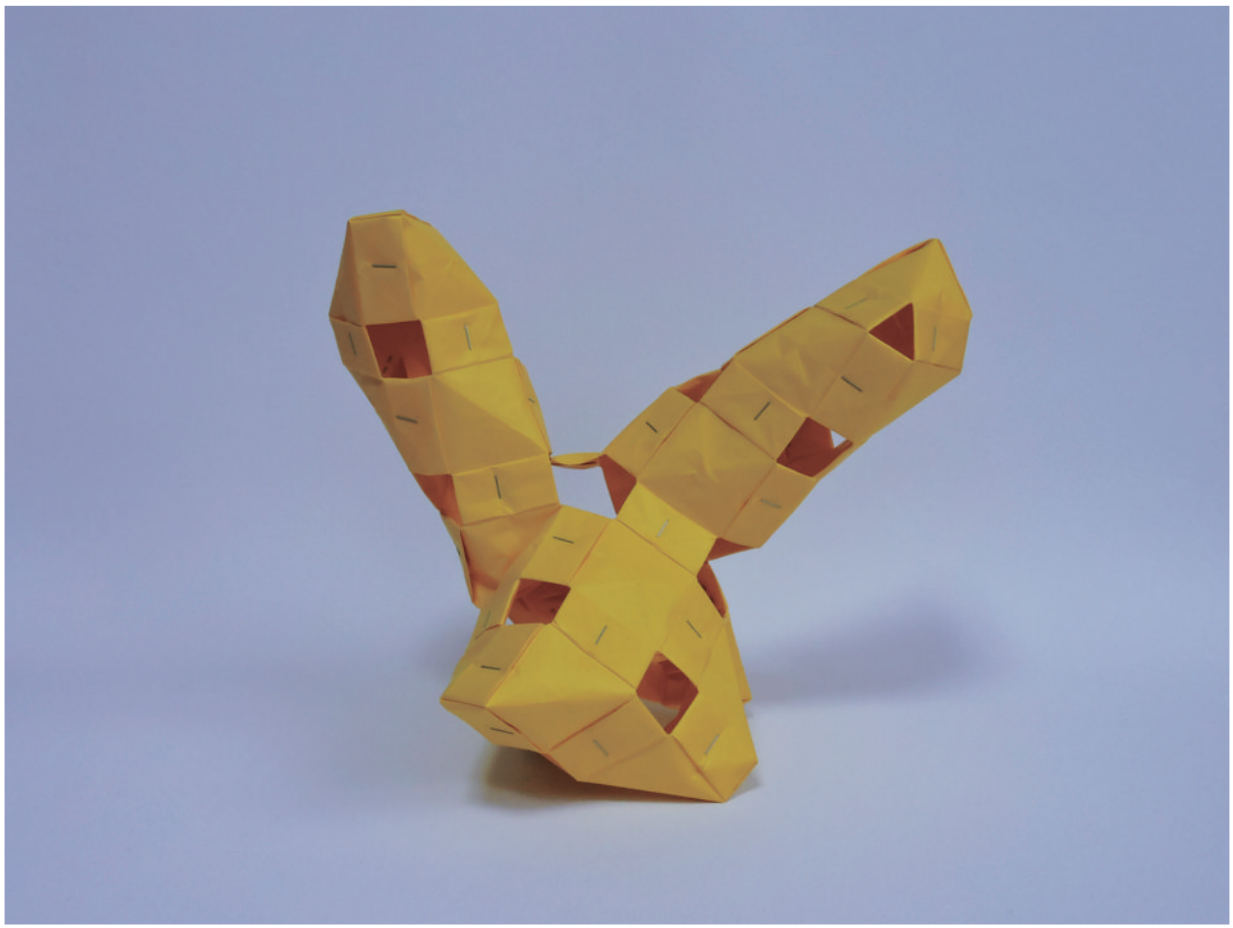
西田陽二　Nishida Youji



「A woman with tow dragons」 F130 号　油彩×キャンバス　2019 年作　第 105 回光風会展出品作

西田陽二　Nishida Youji

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 125－129, 2020

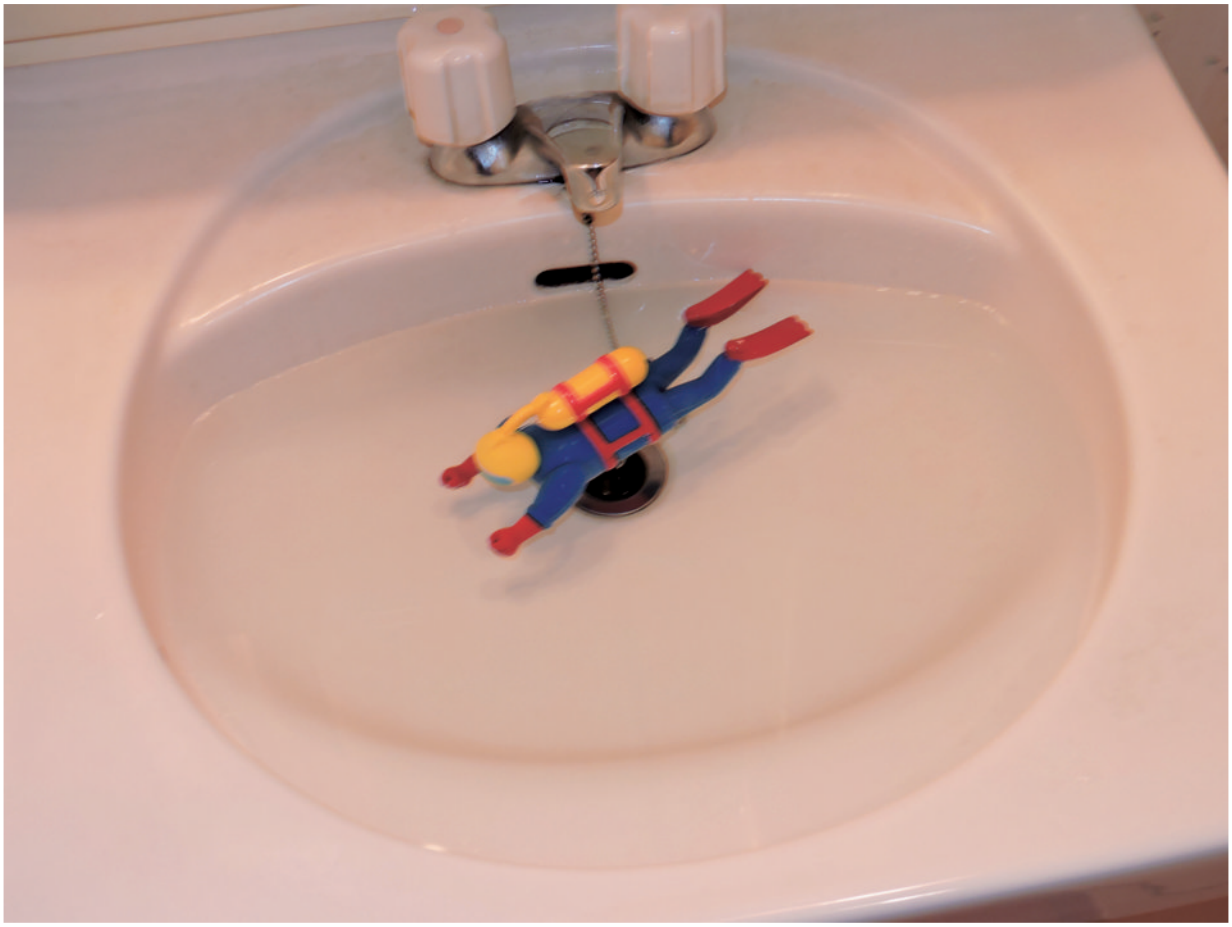


「無題」／サイズ 可変／写真 プリンタ出力／2019

正四角形の胴の 4 辺に連結部分となる 4 本の腕がついたユニットを 28 個直線状に連結した展開図から立体造形を制作した。展開図の端部を角状に組み立てることで 2 個の長い突起のある形態となっている。このユニットは，正四角形と同定できる[1]ので，縦横比が 1：28 の矩形の展開図から作られた造形であるとも言える。

参考文献
［1］松岡龍介「ユニット折紙作品の形態構成について」『星槎道都大学紀要 美術学部』第 45 号　2019.3　pp.33-38

松岡龍介　Matsuoka Ryusuke



「潜水する人」／サイズ 可変／写真 プリンタ出力／2019

松岡龍介　Matsuoka Ryusuke



「無題」／サイズ 可変／写真 プリンタ出力／2019

抽象絵画を音楽のように語るワシリー・カンディンスキー（1866-1944）の共感覚的な感覚のようなものは，パルテノンのパンアテナイア祭のフリーズから聞き取れる音楽[1]や，フェルディナン・ド・ソシュール（1857-1913）が詩行から見いだした“APOLLO”，あるいは，明恵上人（1173-1232）の「あじあじ」感にも似て名状し難い創作に連関する感覚であるように思える。

参考文献
[1] シャルル・ブロー：構図法―名画に秘められた幾何学―，小学館，2000.10，pp.31-37

松岡龍介　Matsuoka Ryusuke

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 131－135, 2020



「le ragazze」 イラストレーション　サイズ：H 1030 mm × W 728 mm
原画：アクリルガッシュ　加筆・レイアウト：Clip Studio

北嶋洋一　Kitajima Youichi



「le ragazze」 イラストレーション　サイズ：H 728 mm × W 1030 mm
原画：アクリルガッシュ　加筆・レイアウト：Clip Studio

北嶋洋一　Kitajima Youichi



「le ragazze」 イラストレーション　サイズ：H 728 mm × W 1030 mm
原画：アクリルガッシュ　加筆・レイアウト：Clip Studio

北嶋洋一　Kitajima Youichi

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 137－143, 2020



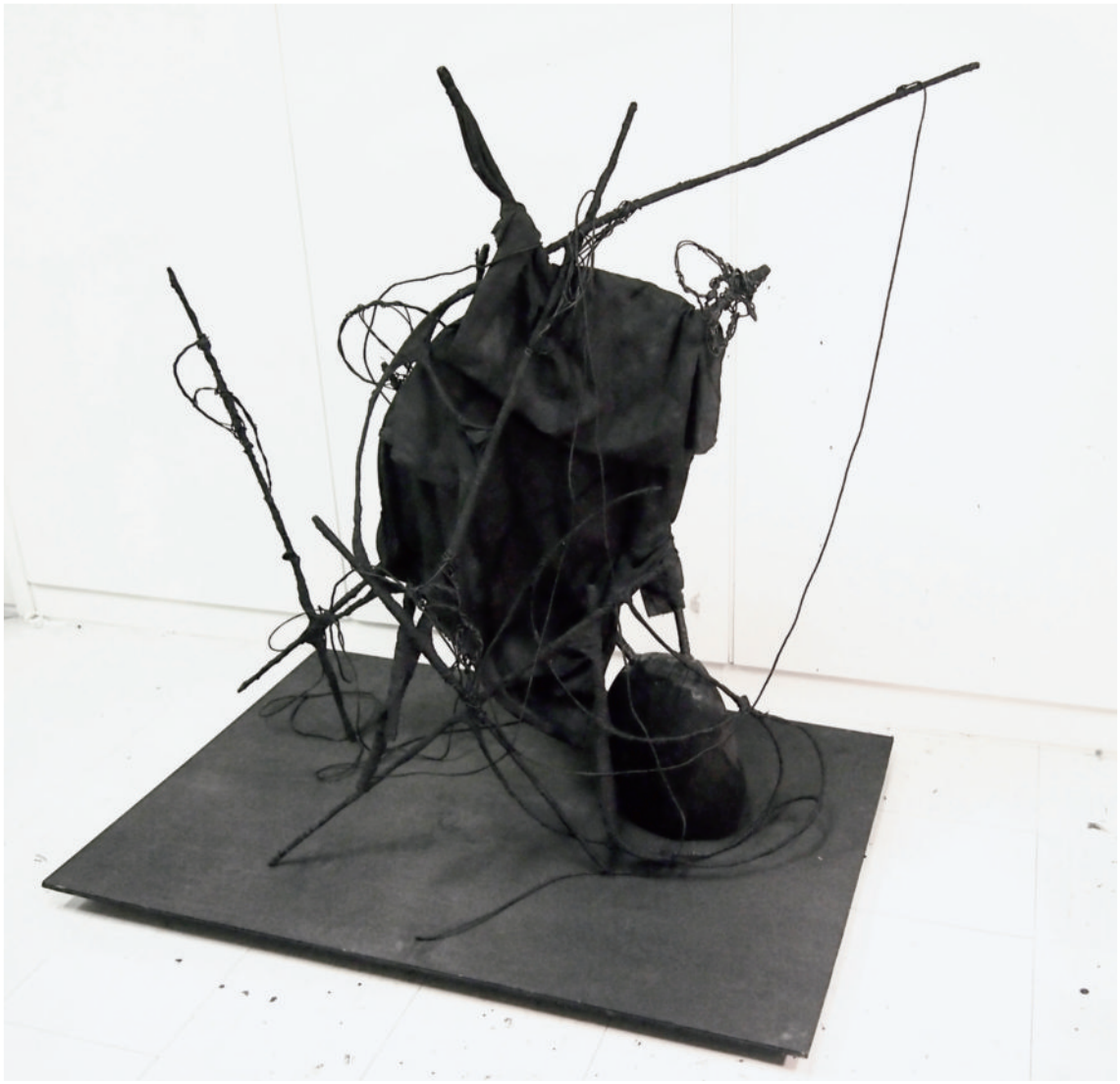
「刻」 第 74 回全道展北海道新聞社賞受賞

梅田　力　Umeda Isao



「無題」 組彫刻

梅田　力　Umeda Isao



「無題」 組彫刻　全道展受賞者「新鋭展」出品作

梅田　力　Umeda Isao



「無題」

梅田　力　Umeda Isao

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 145－147, 2020



「サルナシのとき」 100 cm×180 cm　型絵染　木綿　シリアス染料

ある深い山奥の湧き水の近くに幻の酒といわれる猿梨ノ誉の酒蔵がある

三上いずみ　Mikami Izumi



「夜鳴き鳥の夜」 90 cm×180 cm　型絵染　木綿　シリアス染料

夜鳴き鳥が鳴くと魂の入れ換えが起こるという

三上いずみ　Mikami Izumi

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 149－153, 2020

On the Subject of Cutting a Regular Hexahedron in the Class of Descriptive Geometry (3)

MATSUOKA Ryusuke

Abstract

The aims of this essay are that: i) to introduce the subject of cutting a regular hexahedron in the class of "Descriptive Geometry" for the students of Department of design. ii) to think of the meanings of this subject.

The contents of this subject are the practice of basic drawing of figures and training of imaging forms. And the regular hexahedron has a relation with creation because of the many existences of artworks and design products.

As a result, this subject has the meanings for bringing up the cognition and knowledge about the plane figure in space.

1. Introduction

This subject of cutting regular hexahedron is the one of Descriptive Geometry for the freshmen of Department of design in Faculty of Fine Art (Fig.1).

I made the subject by the way of thinking true-size shape of section of space figure as plane figure.

This essay are to introduce the contents and think of meaning of the subject.

2. On the drawing(s) of the subject of cutting a regular hexahedron

I show the process of the drawing(s).

2.1. Rotating regular hexahedron viewing top to the angles freely. Deciding the positions and angles of line(s) of cutting plane (Fig.2).

2.2. Making two developments of four lateral faces and base from Fig.2 (Fig.3).

2.3. Deciding e_0, f_0, g_0, h_0, i_0 are decided from horizontal projection plane, and e'_0, f'_0, g'_0, h'_0, i'_0 are decided from vertical projection plane (Fig.4).

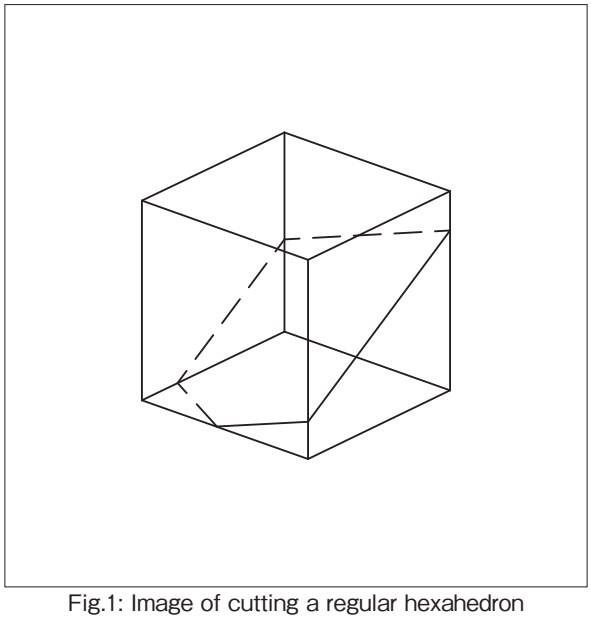


Fig.1: Image of cutting a regular hexahedron

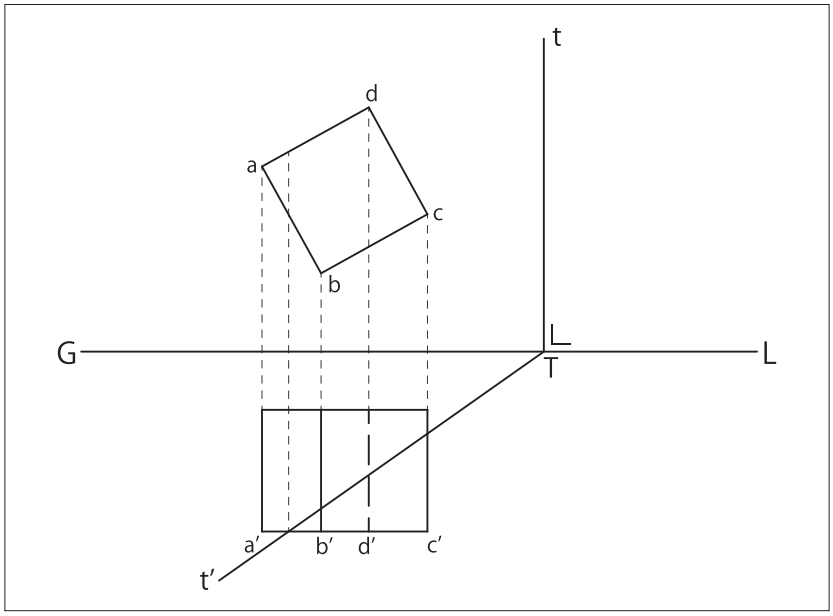


Fig.2: Regular hexahedron and cutting plane

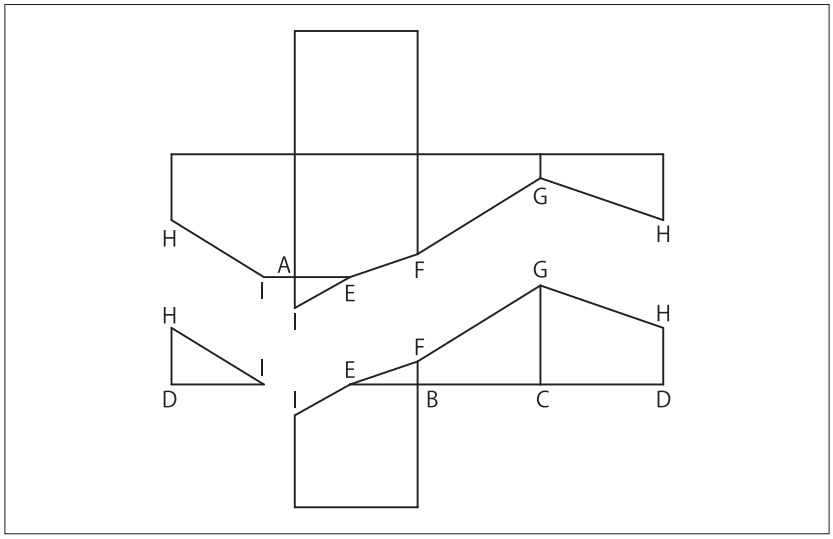


Fig.3: Developments of lateral faces and base

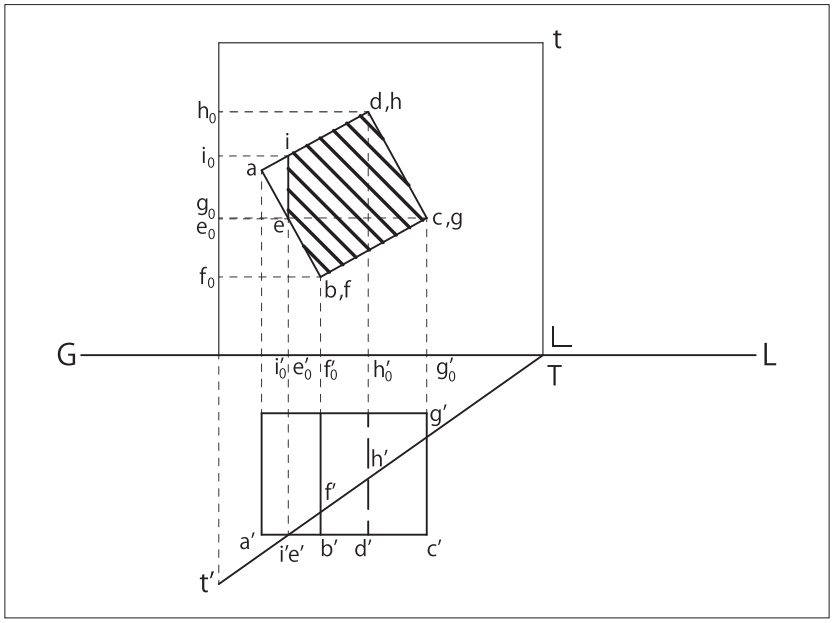


Fig.4: Cutting plane and section

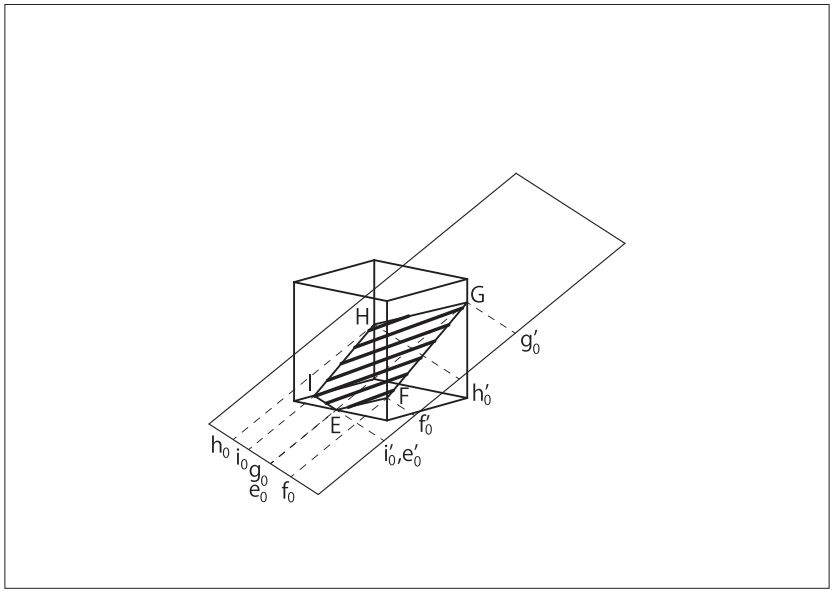


Fig.5: Image of cutting plane and section

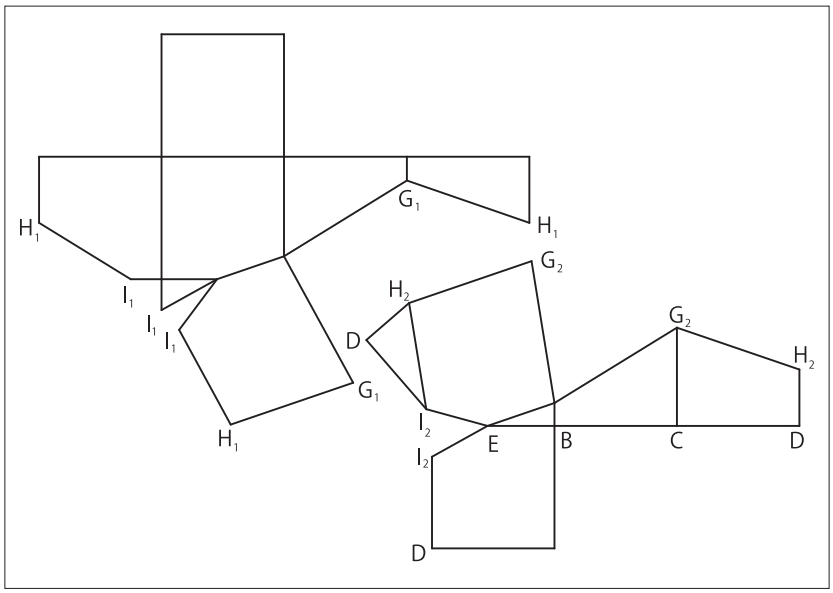


Fig.6: Developments

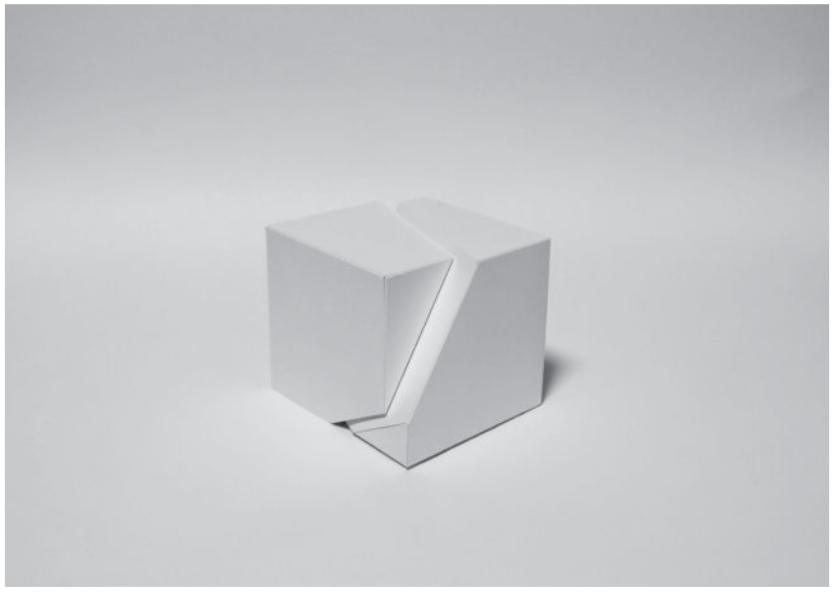


Fig.7: Paper model

2.4. True-size shape of section is on cutting plane. True-size shape of section is made from e_0, f_0, g_0, h_0, i_0 and e'_0, f'_0, g'_0, h'_0, i'_0 (Fig.5).

2.5. Making completed two developments from Fig.4, Fig.5 (Fig.6).

2.6. Making paper model from Fig.6 (Fig.7).

3. The meaning the subject of cutting a regular hexahedron

Regular hexahedron is form which is easy to recognize. And the subject of cutting regular hexahedron is suitable for the freshmen of Department of design as a training of understanding forms with image.

The feature of this subject is to think of true-size shape of section of space figure as plane figure and draw it. I drew the true-size shape of section using the fact which true-size shape of section in the cutting plane. I showed the above content in Sec. 2 and it is a basic training for accurate expression of shape.

And this subject is related to creations because many forms based on regular hexahedron exist in artistic works and design products. Then we can expect that each student will bring up the cognition and knowledge about the plane figure in space with this subject.

4. Conclusion

Regular hexahedron is form which is easy to recognize. This subject of cutting regular hexahedron is suitable for the freshmen of Department of design as a subject of basic expression of shapes with simple drawing figures.

The feature of this subject is to draw it using the fact which true-size shape of section is on the cutting plane.

This subject has the meanings for bringing up the cognition and knowledge about the plane figure in space.

図学における正六面体を切断する課題について(3)

松　岡　龍　介

要　約

本稿は，デザイン学科の学生を対象とした「図学」の授業における正六面体を切断する課題を紹介することと，この課題の意義について考察することを目的としている。

この課題の内容は，基本的な作図の練習と，形態をイメージするトレーニングである。また，正六面体は，芸術作品やデザイン製品に非常の多く存在していることから創作との関連があると言える。

結果として，この課題は，空間における平面図形の認識と知識をより深めることに意義があると考えられる。

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 155－164, 2020

形態の変形に関する研究

その８）変形する四角形のパターンから作る六面体について

松　岡　龍　介

要約

本稿は，正四角形から菱形に変形する四角形のパターンから，紙を素材として展開図を作り六面体を制作してその形態の特徴について考察した。

結果として，展開図の四角形が，正四角形に近い形状であるほど六面体の形の歪みが少ない。そして，展開図の形状が六面体の形態に反映される。

また，六面体の面は，凹または凸の曲面，あるいは，対角線を含む２枚の三角形で構成された凹面または凸面の何れかになることがわかった。

１．はじめに

本稿は，正四角形から菱形に変形する四角形のパターンから展開図を作り，紙を素材として六面体を制作してその形態の特徴ついて考察した。

２．正四角形から菱形に変形する四角形のパターンから作る六面体について

正四角形から菱形に変形する四角形のパターン（図１）から展開図（図２）を作り六面体を制作した。

六面体１は，正四角形から作られた正６面体である（図３）。六面体２，六面体４，六面体５は，１枚の正四角形と５枚の菱形で構成された歪（ゆが）んだ正六面体といえる（図４，図６，図７）。六面体３，六面体６，六面体８，六面体９は，６枚の菱形で構成され，その構成要素である菱形の形状が六面体の形態に反映されている（図５，図８，図 13，図 14）。

また，六面体７も６枚の菱形で構成されているが，その面は，凹状の曲面，凸状の曲面，および，対角線で折られることで出来た２枚の三角形による凹状の面か凸状の面の形状の何れかに変形する（図９，図 10，図 11，図 12）。

３．考察

六面体２，六面体４，六面体５は，展開図の菱形の形状が，六面体の歪（ゆが）みの度合に対応している。つまり，正四角形に近い形状ほど六面体の歪みが少ないと言える。そして，六面体３，六面体６，六面体７，六面体８，六面体９のように，展開図の菱形の形状が六面体の形態に反映されることとも関連づけられる。六面体７のように４種類に変形する面を，六面体２，六面体３，六面体４，六面体５，六面体６，六面体８，六面体９も持っていることが分かった。

４．まとめ

正四角形から菱形に変形する四角形のパターンから作った展開図を構成する菱形が，正方形に近い形状であるほど六面体の歪みが少ない。そして，展開図の形状が六面体の形態に反映される。また，正六面体以外の六面体の面は，凹状か凸状の曲面，および，対角線で折られることで出来た２枚の三角形で構成された凹状か凸状の面の形状の何れかに変形することが分かった。

５．おわりに

本稿をまとめるにあたり，道都大学美術学部 故 佐藤修名誉教授に，ご助言，ご指導を頂いた。記して感謝の意を表します。

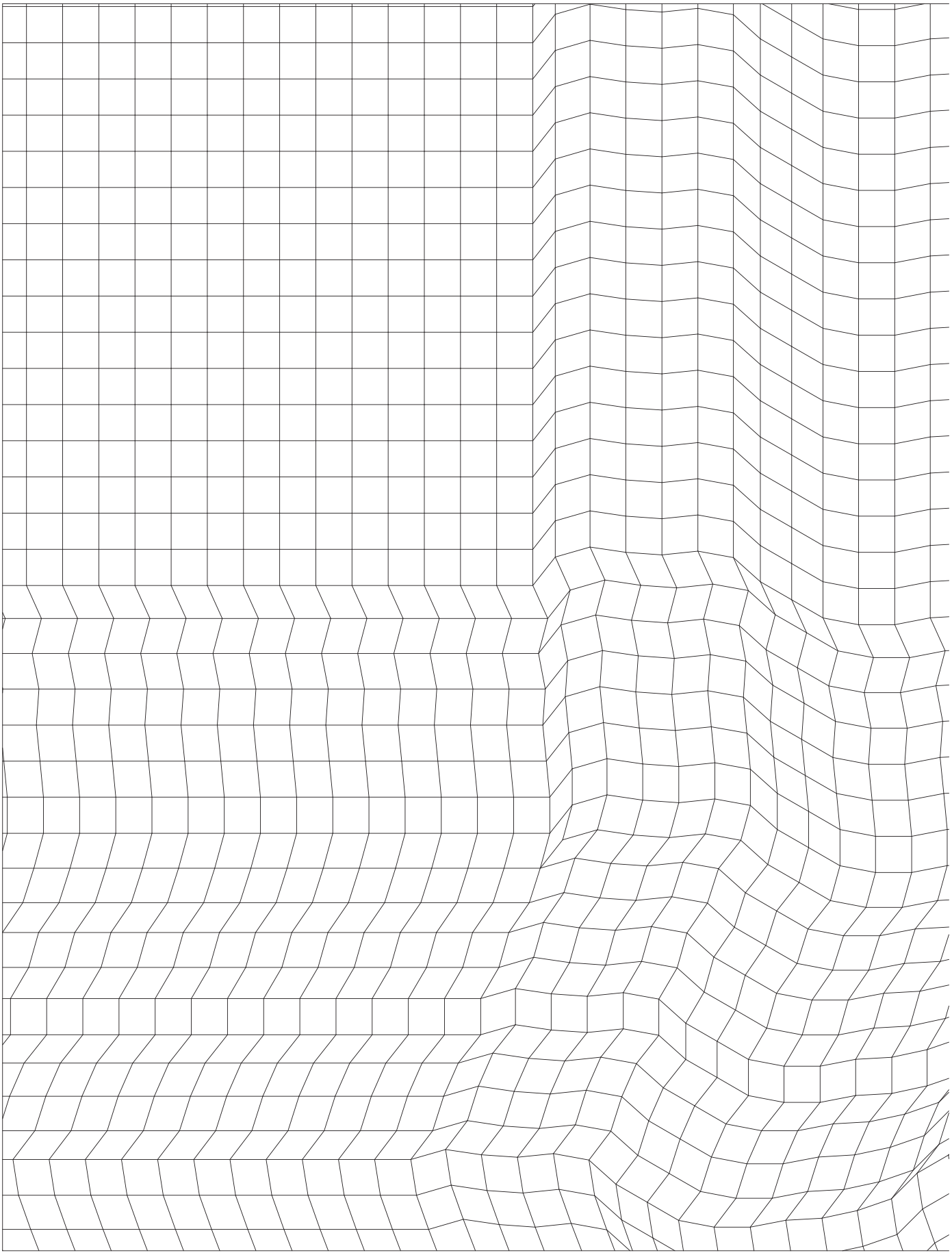
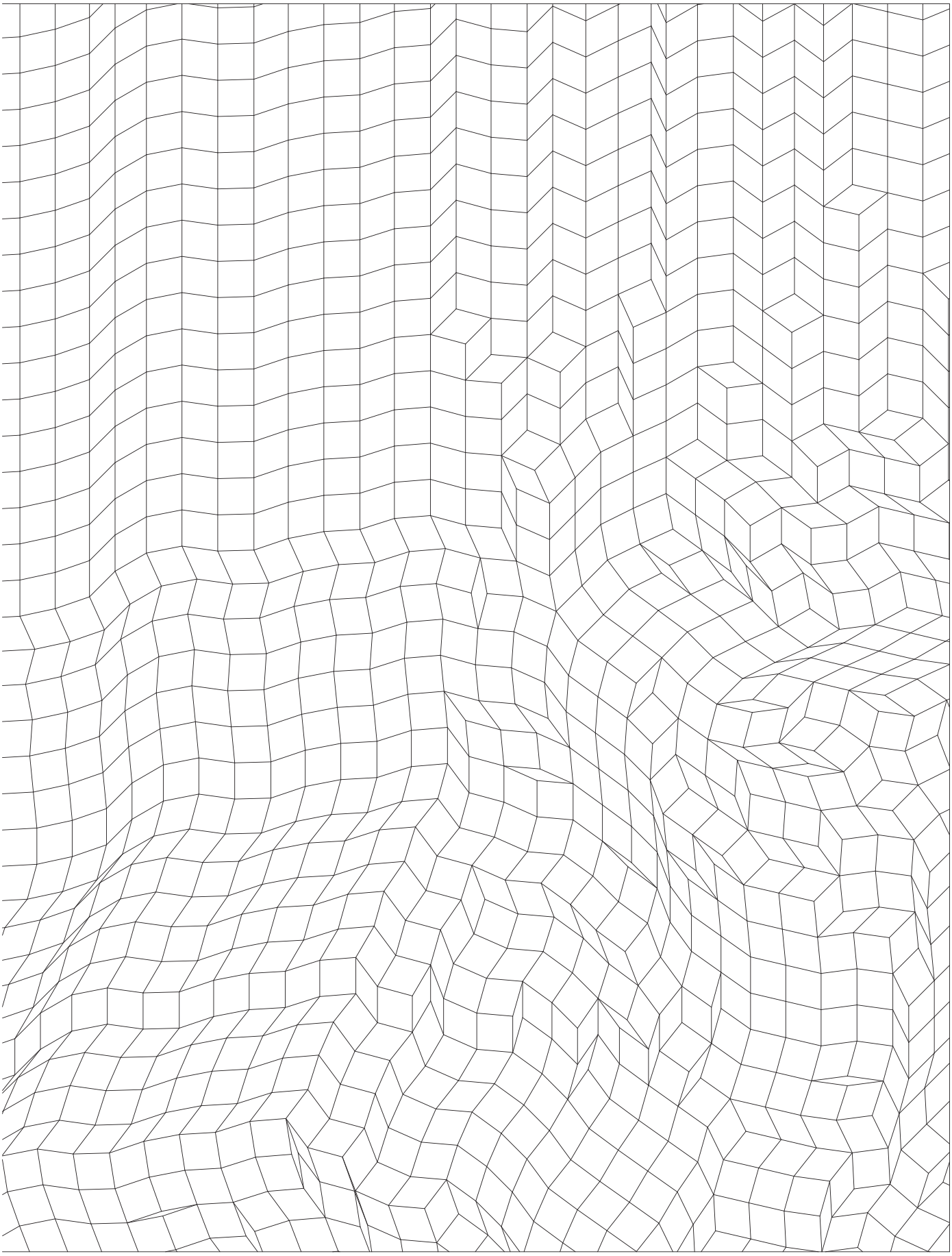


図１　正四角形から菱形に



変形する四角形のパターン

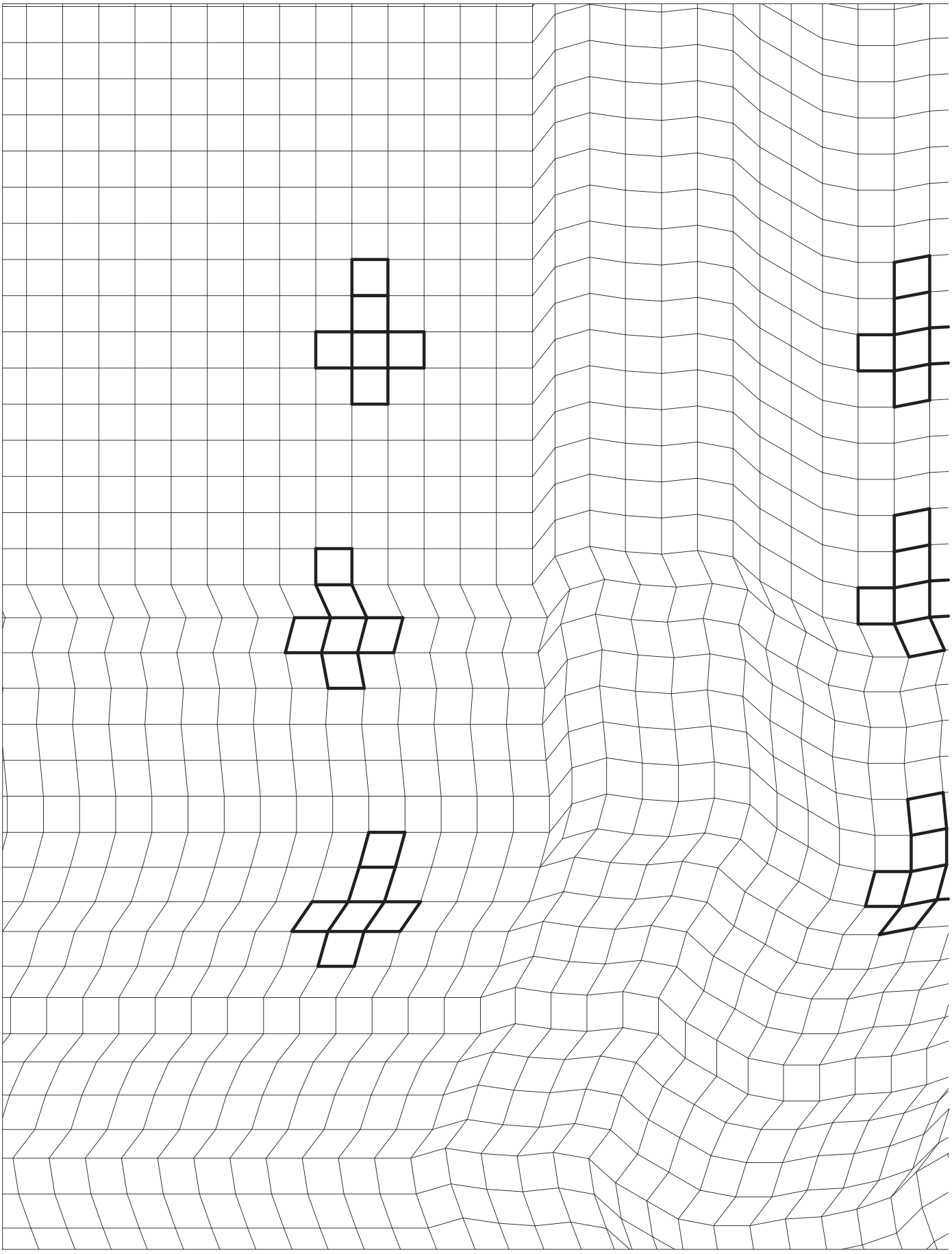
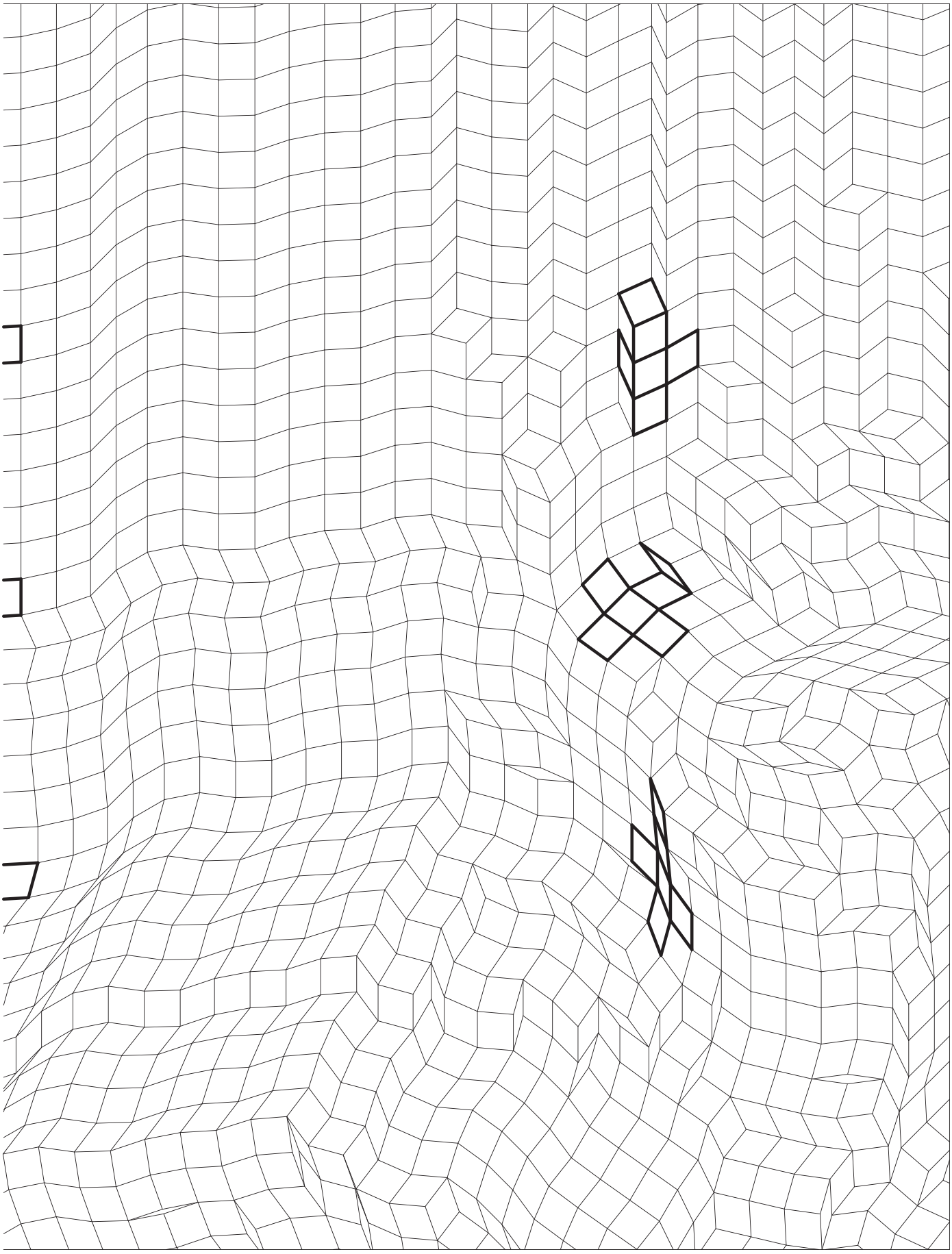


図２　正四角形から菱形に変形する



四角形のパターンから作る展開図

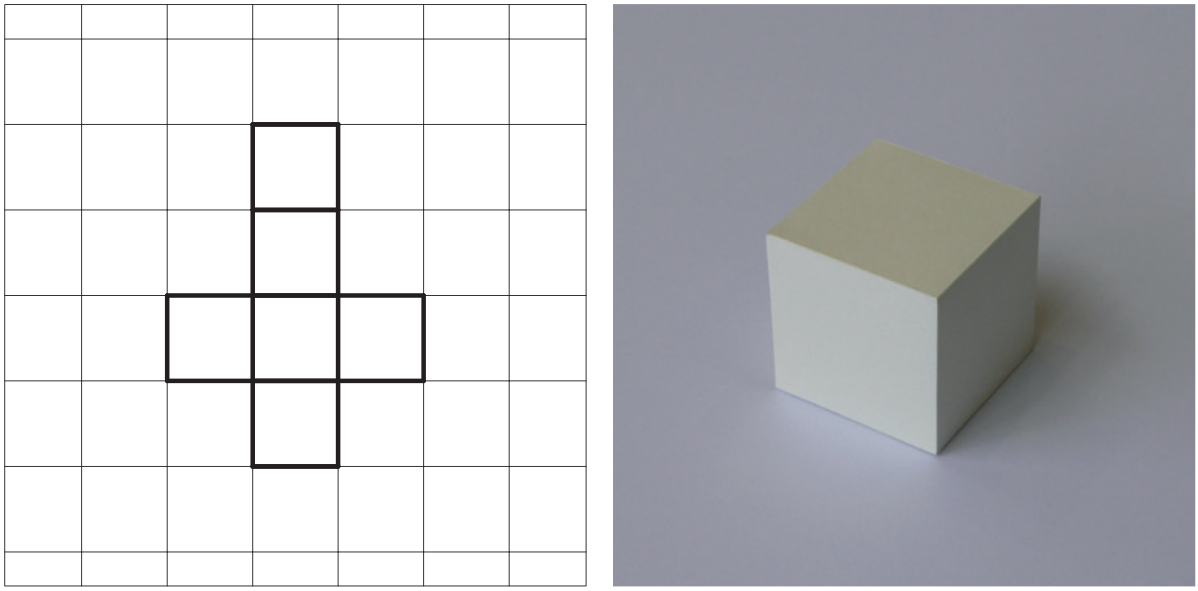


図３　六面体１　展開図（左）紙模型（右）

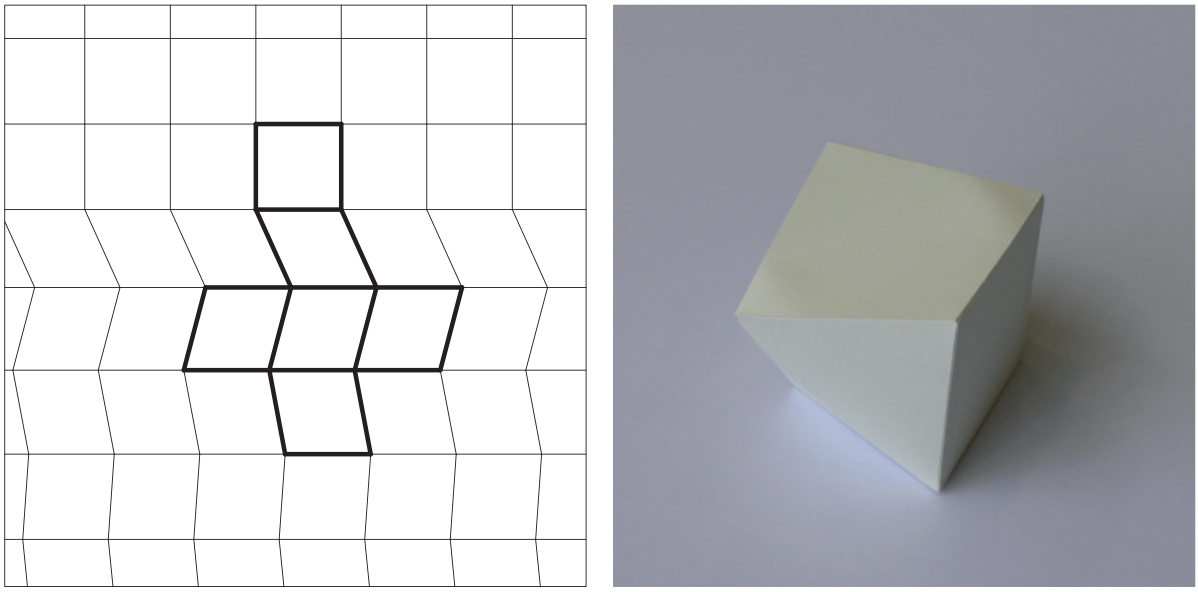


図４　六面体２　展開図（左）紙模型（右）

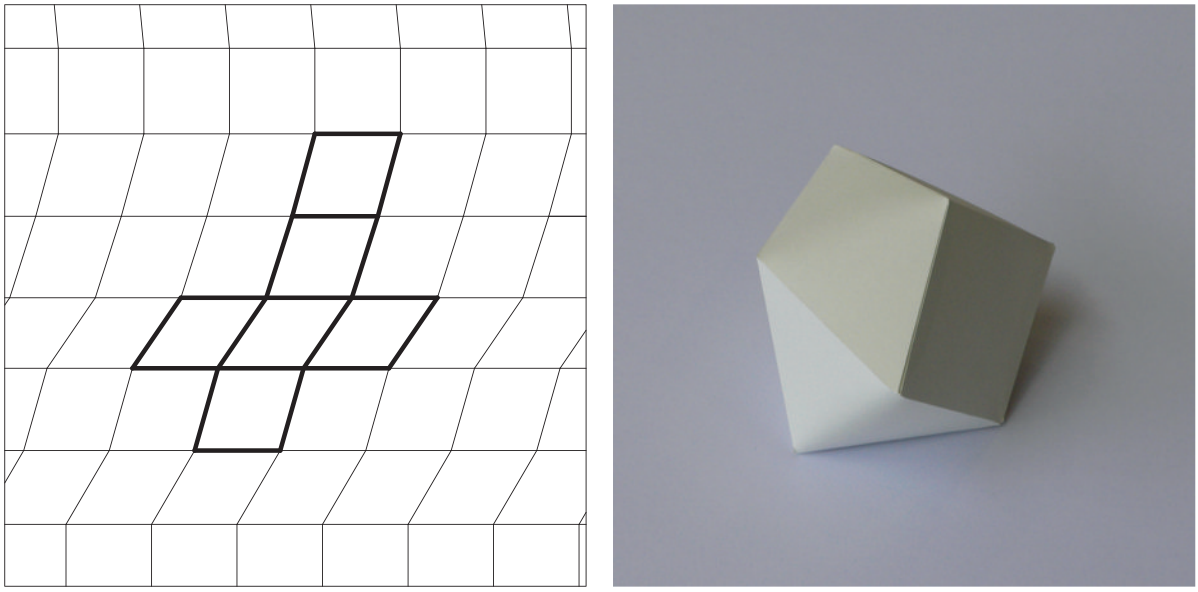


図５　六面体３　展開図（左）紙模型（右）

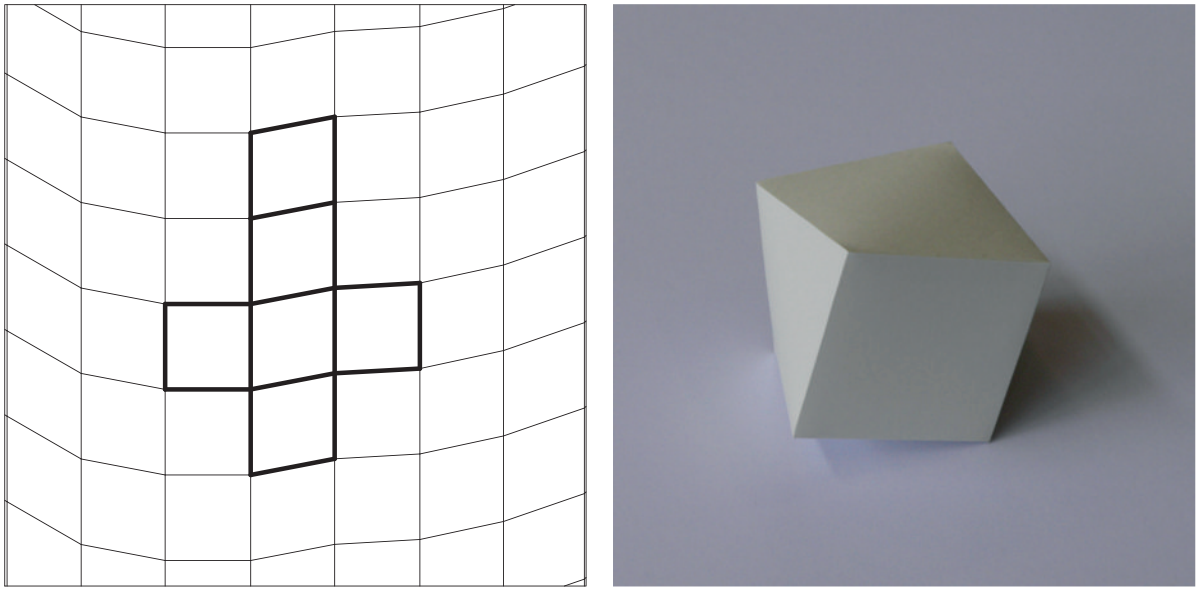


図 6　六面体 4　展開図（左）紙模型（右）

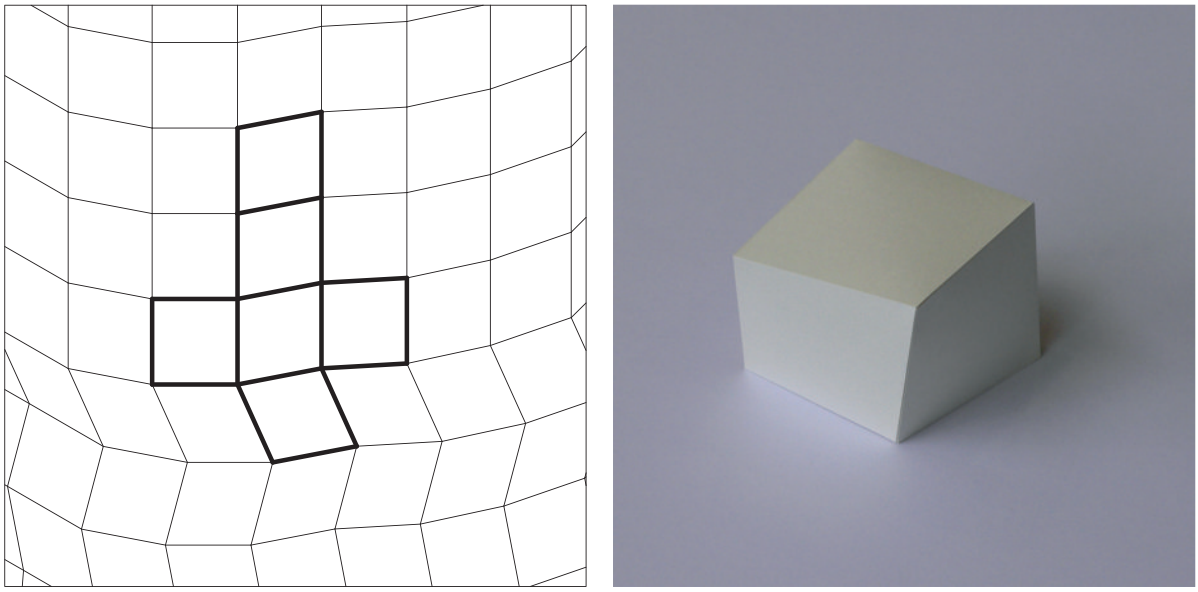


図 7　六面体 5　展開図（左）紙模型（右）

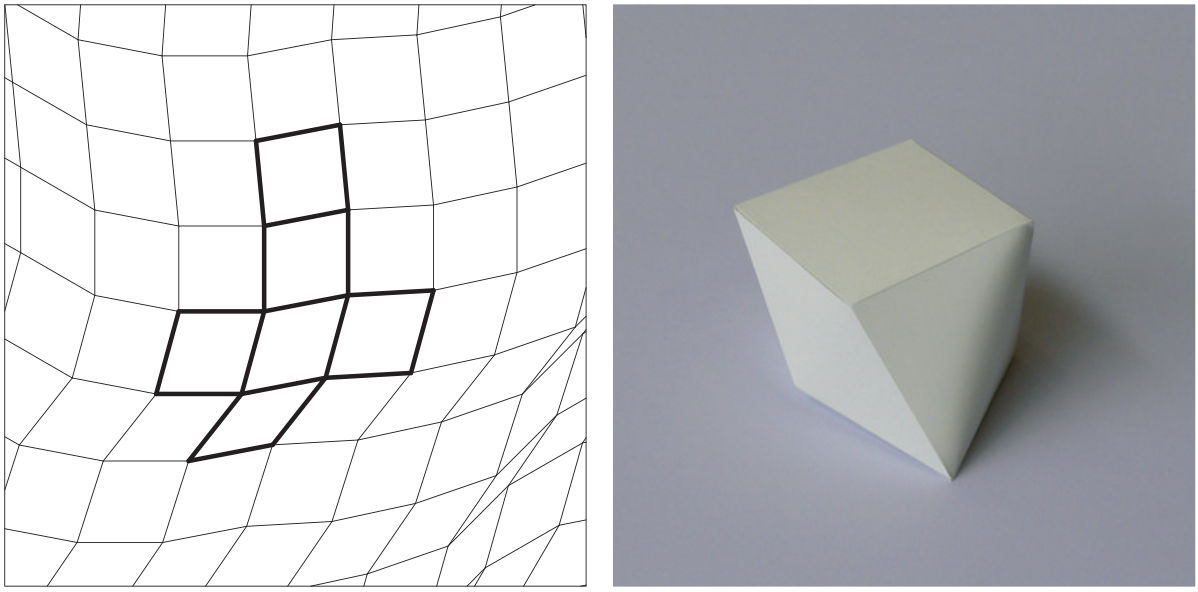


図 8　六面体 6　展開図（左）紙模型（右）

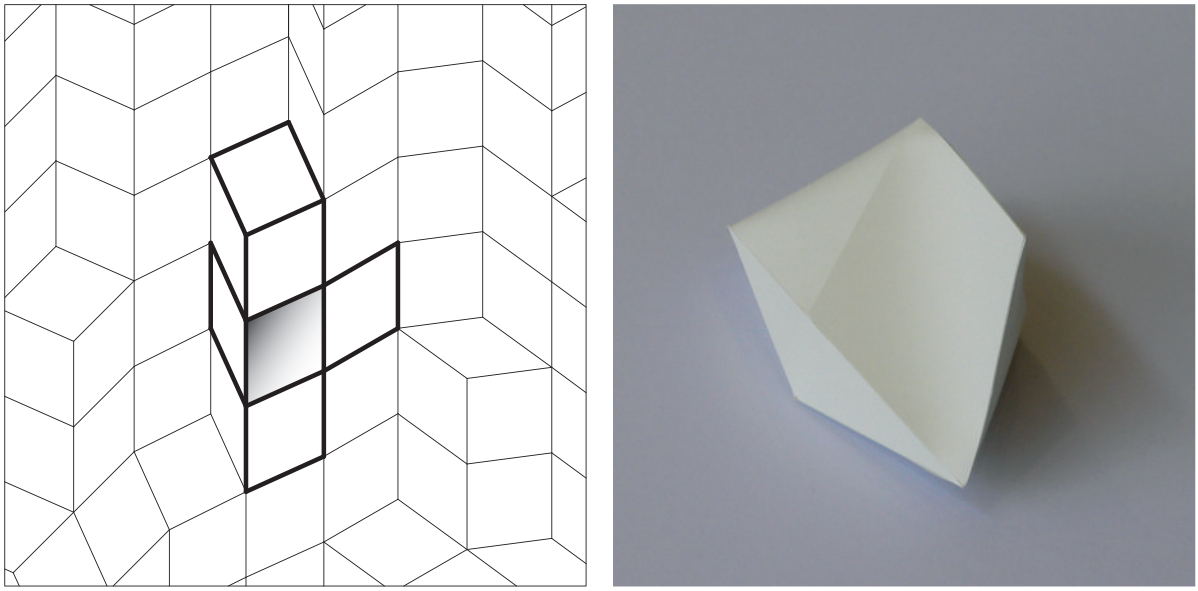


図９　六面体７　凹状の曲面の形状

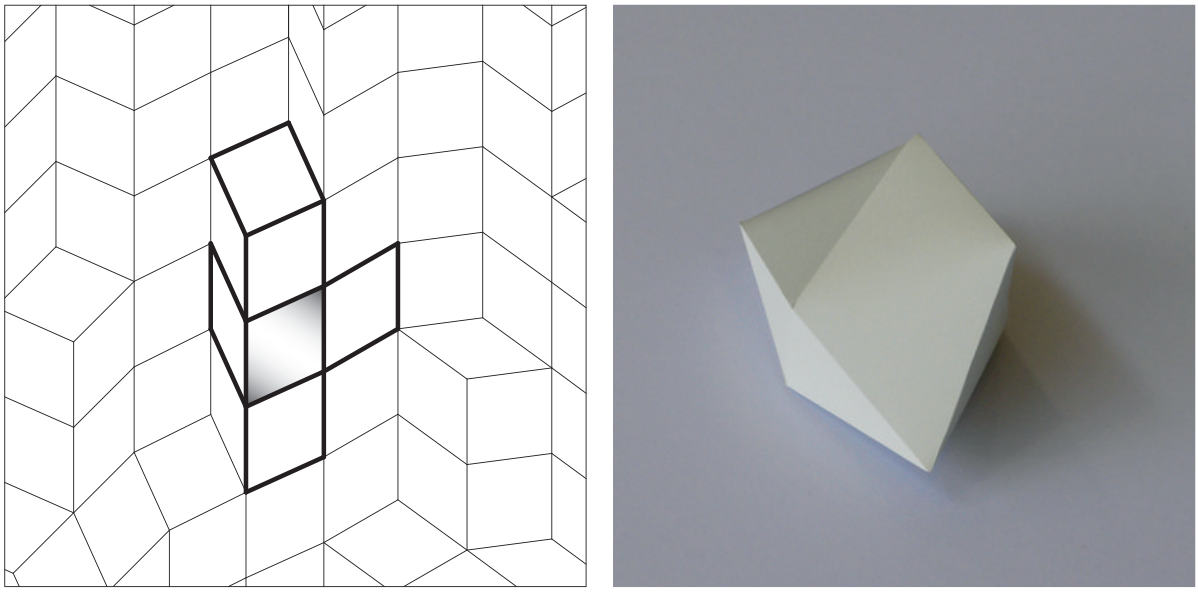


図 10　六面体７　凸状の曲面の形状

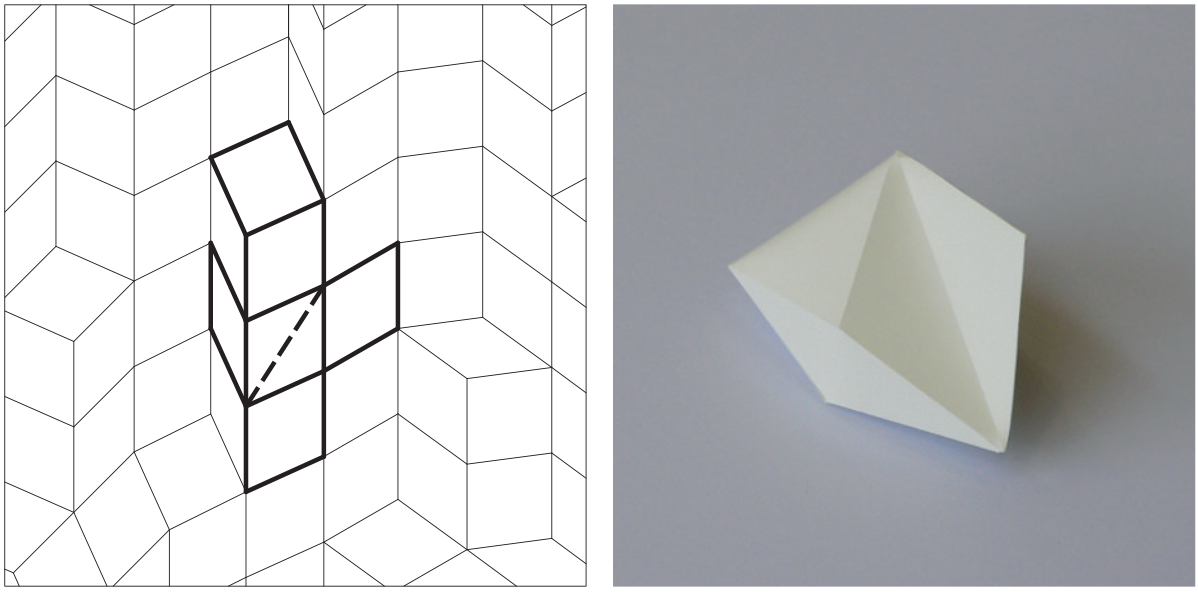


図 11　六面体７　２枚の三角形による凹状の面の形状

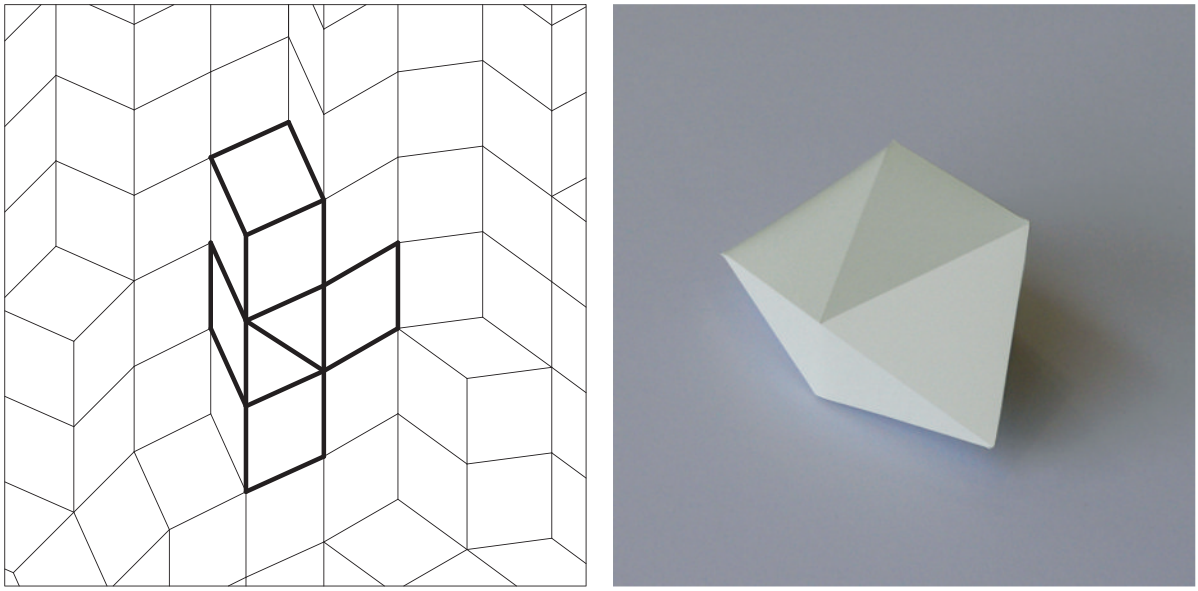


図 12　六面体 7　2 枚の三角形による凸状の面の形状

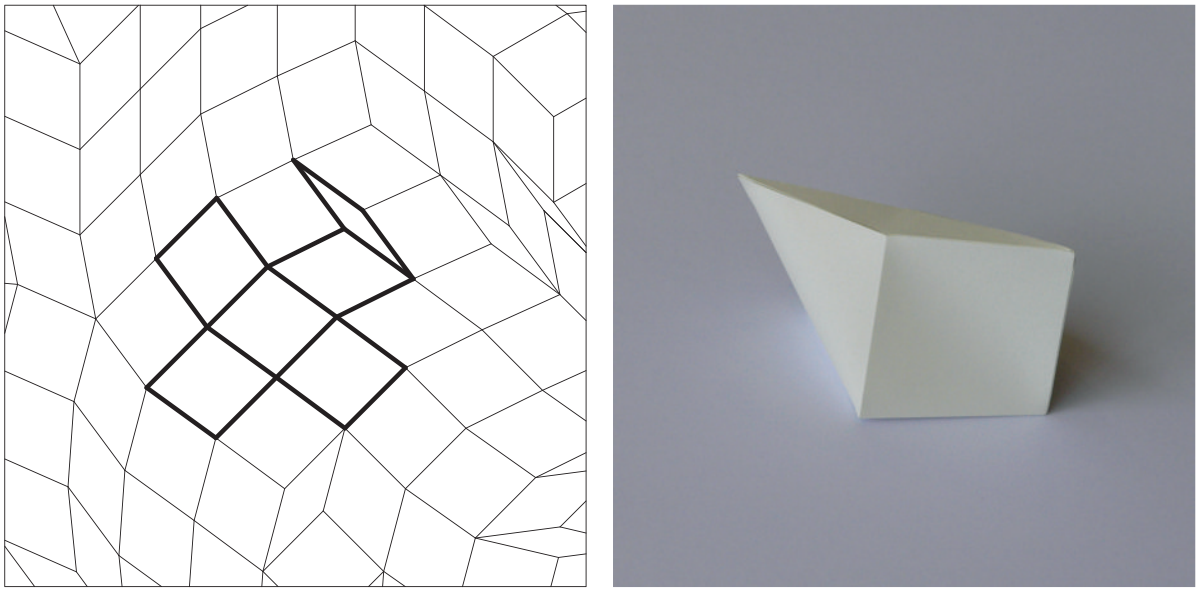


図 13　六面体 8　展開図（左）紙模型（右）

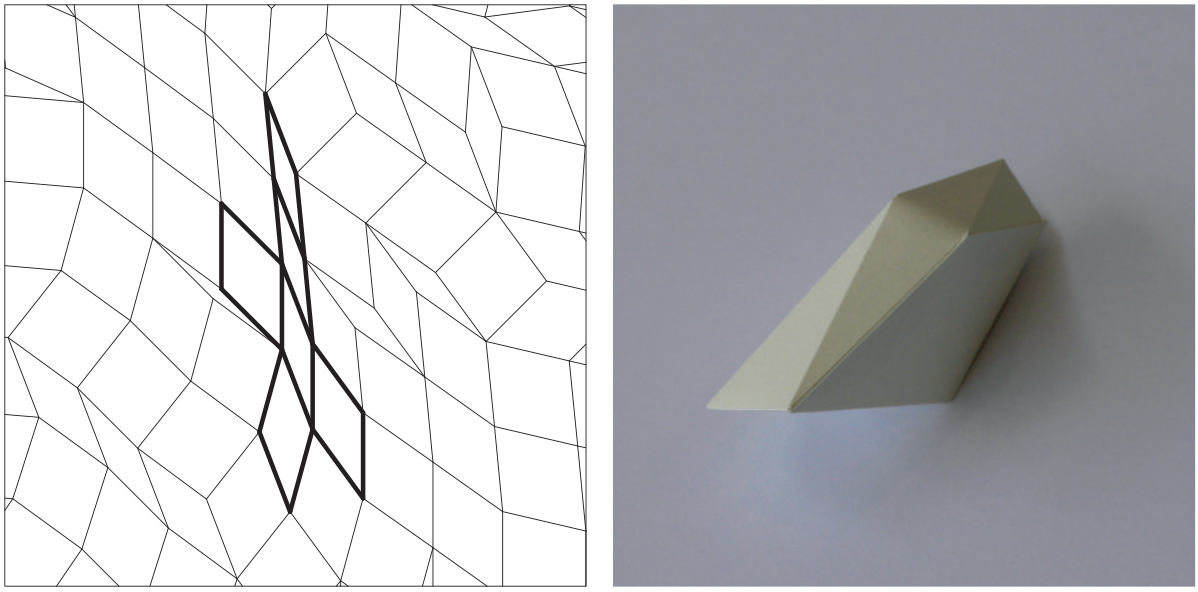


図 14　六面体 9　展開図（左）紙模型（右）

星槎道都大学研究紀要　美術学部
第 1 号　2020

A Study on transformation in Plastic Art

— Part 8: A consideration on the hexahedrons which are made of transforming quadrangles patterns —

MATSUOKA Ryusuke

Abstract

The aim of this essay is the feature the hexahedrons which are made of transforming quadrangles patterns.

As the result is that: i) when quadrangles of development is the forms of approximation of regular quadrangle, the distortion of forms of the hexahedrons is small. ii) the forms of developments are reflected in the forms of the hexahedrons. iii) the surfaces of the hexahedrons turn to convex curved surface or concave curved surface, or convex surface and concave surface which are made of two triangles including diagonal line.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 165－182, 2020

地域活動における学生の自己評価と課題

―アートプロジェクトを事例として―

宮　嶋　達　也

要旨

昨今，高等教育機関での地域活動は，学生が主体となり，どのように活動に関わるかが重要である。積極的に関心を示す学生を指導していくことで，地方にある大学は，地域に根差し，地域とともに生きていかなければ，その存在価値を見出すことはできなくなってきている。学生による地域活動を展開することで，大学としての教育機関の基本的な使命を忘れることなく地域に貢献できる活動を果たすことが重要であると考える。

アートやデザインとしての学生の地域活動と考えたときに，どのような形態で地域貢献できるのか，そしてどのような形で学生主体の活動を推進できるのかを含めながら考えると，地域交流を通してのデザインやアートの実践教育としてワークショップの取り組みを具体的な活動として行うこととした。

１．はじめに

地域活動において，昨今大学の果たすべき役割が重要視されている。

少子化・人口減少の時代を迎え，地域における大学の存在意義が変わってきている。政策的な後押しもあり，多くの大学が地域貢献への開放に取組むことになった。

2005 年の中央教育審議会の答申で新時代における高等教育の全体像の高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化の中で大学の機能別分化は高等教育機関相互の連携協力による各機能の補完や充実強化も，必ずしも設置形態の枠組みにはとらわれずに促進されるものと考えられる。

特に大学は，全体として①世界的研究・教育拠点，②高度専門職業人養成，③幅広い職業人養成，④総合的教養教育，⑤特定の専門的分野（芸術，体育等）の教育・研究，⑥地域の生涯学習機会の拠点，⑦社会貢献機能（地域貢献，産学官連携，国際交流等）等の各種の機能を併有するが，各大学ごとの選択により，保有する機能や比重の置き方は異なる。その比重の置き方が各機関の個性・特色の表れとなり，各大学は緩やかに機能別に分化していくものと考えられると社会貢献機能の一部に地域貢献という言葉が列挙されているにすぎなかったが，答申後の状況として私立大学は，建学の精神に基づき自らの強み・特色を活かした教育・研究を実践するとあり，加えて，私学助成により「地域連携」「産学・他大学連携」「グローバル化」等の改革に全学的・組織的に取り組む大学を重点支援し，更なる個性・特色を伸ばす施策を実施とした。

現在は教育・研究の次に並ぶ重要課題として地域貢献が位置づけられている。

本学では 2017 年度から全学的に地域志向のカリキュラムとして地域共生プログラムを卒業要件の単位として組み込んだ。我が国の高等教育の将来像（答申）はじめにの中で他者の文化（歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。）を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することが，今後の教育には強く求められている。また，高等教育においては，先見性・創造性・独創性に富み卓越した人材を輩出することも大きな責務である。本学生の地域活動により，彼らのも持つ専門領域の創造性や表現力をデザイン活動に活かし，グループワークでの共同での制作作業に積極的に関与することで課題対応能力・問題解決能力など，通常の授業では学べないことを学習し，2019 年度「北広島市地域活動支援事業」活動を通して，デザイン教育としてのアートプロジェクト型のワークショップでの地域活動の有効性を考察する。

２．地域活動（ワークショップ活動）の目的と内容

学生の地域活動にはさまざまな貢献が考えられるがアートやデザインとしての地域学生活動と考えたときにどのような形態で地域貢献できるのか，そしてどのような形で学生主体の活動ができるのかも含めながら考えると，地域交流を通してのデザイン・アートの実践教育としてワークショップの取り組みを具体的な活動として行うこととなった。

幼児達と共に一つの造形を彩り表現することをテーマ

とし，学生が大きな型で作り上げた様々な形のダンボールの立体造形を，幼児達がペーパーフラワーで色彩豊かに飾り付けてもらい，一つのアートを生み出します。また，みんなで協力して一つの作品に取り組むことで，子ども達の創造力・創作意欲・表現力の向上の手助けをし，学生と地域の共生を深めていきます。本ワークショップでは学ぶことだけなく，説明したこと（課題）を理解して対処する力や多人数での作業を協力しながらこなしていく力なども重要な課題である。

また，活動を通じてあまり接することのない幼児とコミュニケーションを取り合い，彼らが想像するアートを考えながら共同作業していくことで幼児側の表現を感じ取りながら感性も養っていくのである。

2-1　期待される効果として

アートに触れることにより感動や新しい発見など，心を動かすことの喜びを感じることができます。学生たちが楽しいことをやっている姿を見せることにより，その姿を見て幼児も一緒に真似たり，学んだり，遊んだりし始めます。自分の目で見て，触れて，感じ，自分を表現することにより自由な発想や創造力・自発性など，心を育む効果が期待できる。

幼児達が，アートワークショップを通じて感動や新しい発見をし，表現することの楽しさや完成することの喜びを感じることで，アートの世界観がより広がり，子ども達の創造力やデザイン能力を育むことができる。

「ワークショップは，ある体験をするものと体験を設定する者との関係が生じるが，それは「教える」「教えられる」という固定した関係ではなく，「体験する」と「体験させることを体験する」という生きた関係である。」[1]と述べている。ここでは，「体験する」幼児と「体験させることを体験する」学生とがこのような生きた関係の中で活動していくことで専門性を生かした地域交流を通して，その作品が人に喜びを与えその活動が社会に受け入れられることが更なる専門性へと意識が高まることを目的をする。

3．地域活動（ワークショップ）事前準備として

財源の確保

本地域のワークショップ活動に辺り，学生のみによる活動にとどまる場合，活動にかかる財源をどのように確保するのかなどの問題が生じる可能性がある。まずは財源確保のために北広島市の「学生地域活動支援事業補助金」への申請を行った。

この事業は地域活動事業等を行う学生団体に対して補助金を交付することにより，学生を中心とした自主的な活動を支援し，学生と市との協働及び人的資源の活用による地域の活性化を図ることを目的とするものであり，定義の中には，地域活動事業等，市におけるまちづくり及び地域の活性化を図る目的で実施する事業をいうとある。

補助対象団体は大学等（大学・大学院・短期大学）にある学生団体のうち，以下の団体とし，①教員等が指導するゼミナール　②教員等が指導するサークル活動団体等がある。

補助対象事業は　①環境活動に関する事業　②地域福祉に関する事業　③教育・文化に関する事業　④環境・産業に関する事業　⑤その他まちづくりに関する事業であり，当活動内容では③教育・文化に関する事業が我々の活動に当てはまるものであった。

4．補助金申請の重要性

行政機関は通常規則を設けており，申請書はその内容を審査される前に，まず「規定を順守しているかどうか」を基準に選別されます。このため申請書を準備する際は全ての事項のチェックリストを作成した。また，指導教員は学生リーダーへの補助金申請プロセスを指導し，その重要性について教育する必要があった。

申請書の準備には多くの時間と労力が費やされるため，却下されたら容易には受け入れがたいものである。補助金の申請が却下されることは珍しくありません。また，申請書を準備した本人のみならず，準備を補助し，活動を支持した教員など周囲の学生たちも落胆させることになり，今後の地活動に支障をきたすことも考えられる。活動する当事者の学生たちだけで，どのように財源の獲得や申請書の正しい書き方などを学生主体で考えていくのかは，大きな課題のひとつである。

5．地域活動（ワークショップ）についての考察

5-1　活動準備

地域活動は準備を含め８月～11 月の約３か月の期間で行われた。参加学生は全 45 名で６つのグループに編成された。今回はその中で２年生の３つのグループを調査対象とした。まず各グループでリーダーを決め，それぞれのグループが話し合いのもとで，どのような作品を制作するのかを話し合った。こちらからはワークショップの制作を一緒にする対象者の年齢と場所，活動時期などを告知した。制作する造形の大きさは最大で 1.5ｍ×1.5ｍ×1.0ｍ 以内とし，制作数は自由とした。

5-2　地域活動（ワークショップ）の様子

グループA制作物：アナコンダ（巨大ヘビ）の親子




制作活動中の様子



園児たちとふれあう学生



アナコンダ（巨大ヘビ）の親子

グループB制作物：恐竜（ステゴサウルス）



ワークショップの説明①



ワークショップの説明②




制作活動中の様子

―グループC制作物：ひつじの親子―



ワークショップの説明



制作活動中の様子



園児たちとふれあう学生



ひつじの親子

5-3　地域活動のふりかえり

ふりかえりの前段階として活動準備の際に制作活動の内容及び意見や反省点などを毎回時間の管理を含めて記載させていたものを一部参考させながらワークショップ後 KPT メソッドを使用し，ふりかえりを行った。KPT というのはふりかえりによって仕事やプロジェクトの改善をするフレームワークである。Keep：良かったので，継続すること。Problem：悪かったので，改善すること。Try：次に挑戦することである。「Reflection Workshop」の中で Alistair Cockburn 氏が提唱した「The Keep/Try Reflection」がベースとなっており，日本独自の形で進化することで，非常に使いやすいフレームワークとなっている。ふりかえりは下記の３要素に分けて行う。

・What we should **keep**.（続けるべきこと）
・Where we are having ongoing **problems**.（抱えている問題）
・What we want to **try** in the next time period.（次にトライしたいこと）

このメソッドを活用するにあたり，気をつけなければならない点として，学生たちにふりかえりは反省ではないという認識を持たせることも重要である。ふりかえりでは悪かった点だけでなく，今後も続けたい良かった点も共有する。良かった点などを共有しても，プラスにもならないという考えもあるかもしれない。しかし「過去の出来事と行動すべてをふりかえる」ことで，客観的にグループ全体の活動が見えてくるはずである。

ふりかえりのルールの中で個人的な攻撃を行わずに問題 vs グループといった構図を考え，個人で発生した問題もグループ全体の問題として解決に向かうこととした。個人的な問題としてしまうと非難を恐れて問題点が見えたとしても書くことを拒む可能性が出てきてしまいグループ全体の活動が骨抜き化してしまい，実質的な意味合いを失い，形だけが残って先行してしまう可能性もあり，そういう意味ではふりかえりがうまくグループ間内で機能すれば信頼性やグループ間の士気も高まってくる可能性は多いにあると考えた。

メンバーが出す問題点を個々人が真剣に受け止め，グループ全体で解決できるような場を作り上げて行くことが重要であると言える。

この３つの観点から自分やグループで考えを出し，プロジェクトごとにふりかえりを進めていった。

表1　ふりかえりのフレームワーク（KPT）

Keep these やってみてよかったこと 継続したいこと	Try these 次回新たにやってみたいこと
Problems 課題だったこと 改善したいこと	

5-4　活動のふりかえりによる結果（KEEP）

表2　A グループ

Keep
・班員と協力，分担して製作できたこと。 ・アイデアをみんなで出し合い，個性豊かでどんどんより良い作品になりました ・作業工程では，早め早めの姿勢で取り組んだため，予定より早く完成できたこと。 ・余った時間で当初の予定にはなかった，本体以外にミニの蛇を 2 体作成することができました。 ・幼稚園では園児にやさしく接して教えてあげることができました。 ・子供たちが積極的に参加してくれてスムーズに運べた。 ・作業がスムーズだった。 ・園児たちに（主に男の子）からは大人気だった。 ・腹部あたりに付けた鈴も，みんな鳴らして遊んでいた。 ・小さいヘビが人気でよかった。 ・腹の鈴のアイデアもよかった。 ・大きいヘビはちびっこに遊ばれても壊れたりすることがなく，強く作れてよかったと思う。 ・おなかにつけていた鈴も取れずに遊ばれていたのでそこがとても良かったと思う。 ・準備は役割を分担して，効率よく勧められた。 ・早く進んだため，小さいヘビや大きいヘビのおなかに鈴をつけたり等，楽しめる要素を増やせた。 ・幼稚園でもちゃんと手順を踏んで進められた。 ・思っていたよりも，小さいヘビや，鈴で遊んでもらえた。

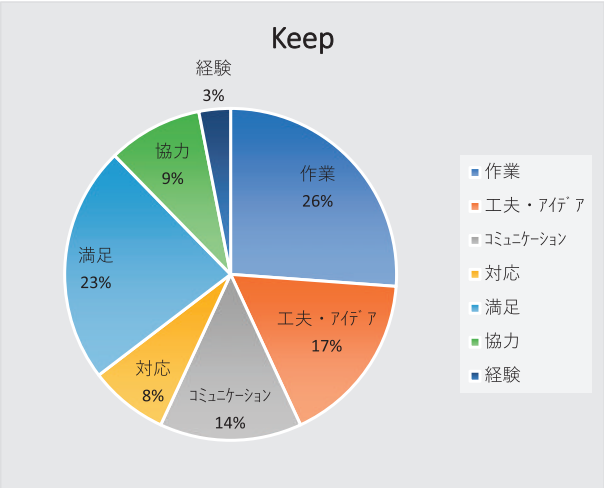
表3　B グループ

Keep
・各自しっかりと仕事ができていた。 ・アイデアの段階でかなりレベルが高く，恐竜の子供うけも良かった。 ・班内の話し合いがスムーズにできた。 ・一日の作業スピードが速かった。 ・問題が起きた時の対応が早かった。 ・ちゃんと子供向けの想定をし，子供たちはしっかりと受けた。 ・子供たちのうまく交流できた。 ・普段しゃべらないゼミの人と話せた。 ・共同作業で作品を制作する機会がなかなかないので貴重な体験ができた。 ・私自身が発達心理学の授業を受けていたことで子供たち同士のけんかに上手く対応することができた。 ・園児が喜んでいたことがなによりも成功でよかったと思う。 ・班のメンバーが，普段関わっていない人たちだったが，それなりにコミュニケーションをとれたのでよかった。 ・制作物，制作工程などについて班みんなで考え，制作できた。 ・完成後に補強をして，強度を上げてから幼稚園（保育園）に持って行けた。 ・子供たちと楽しくお話ししながら，教えてあげながら飾り付けができた。 ・子供たちに恐竜がうけてて，とてもグッドアイデアだった。 ・完成するまでもあまり時間がかからなかった。 ・作業が順調に進み，作業日内にダンボールアート（背びれの装飾を除く）を完成することができた。 ・かなり完成度が高い作品になったと思う。

表４　Ｃグループ

Keep
・時間に余裕をもって早めに取り組むことができた。 ・２匹目の羊も作ることができた。 ・羊のデザインがかわいい。園児のウケも良かった。 ・園児たちと楽しくコミュニケーションがとれた。 ・全員で協力して作業を進めることができた。 ・しっかりと時間内で作業を終えられた。 ・班員のスケジュールを鑑みて，みんなが参加できるように工夫できた。 ・子供たちに喜んでもらえた。 ・楽しく活動できた。 ・全員が楽しく終われた。 ・作業がスムーズに進められた。 ・先生にも喜んでもらえた。 ・羊が土台だったりで，もふもふなのがとてもよかった。 ・チームワークが取れてた。 ・仕事が早かった。 ・ダンボールと花紙を活かして羊を考えたのは面白い。 ・小さい子たちと触れ合う機会がないので一緒になってお花を作ることで関わりを持てたし，子供たちから話しかけてくれたり，引っ込み思案になってもいろいろ対応してくれたことはうれしかったです。 ・あっという間にお花をつけてくれて心から楽しんでくれたようでこちらもすごく良い経験をさせてもらえました。 ・メンバーも迅速に動いてくれていて素晴らしかった。 ・大好評だった。 ・ダンボールがメインの材料だったため，環境にやさしい。 ・園児と交流できる内容だったため，園児にとっても学生にとっても刺激になった。 ・美術学部らしく，園児たちと創作したことが良い。 ・花紙自体が柔らかい素材だったため，園児たちから喜ばれた。 ・準備期間から班のメンバーで協力してスムーズに作業を行うことができた。 ・本番も事前に役割を決めていたため慌てることなく協力できた。 ・園児たちが楽しそうに花紙を作ったりはったりしていてよかった。 ・子供たちが楽しんでくれた。 ・大きい羊と小さい羊の２つ作ったのは良かった。 ・全員笑顔で，やさしい感じで対応できた。

表５



5-4-1　Keep の活動のふりかえりによる結果からの考察

Keep の項目では作業全般についての記述が最も多く，続いて満足感やコミュニケーション，そして工夫・アイデアなどが多かった。作業内容についてはこれらの記述が上位にあることからも推測できるようにお互いにコミュニケーションがグループ内で円滑に取れていた様子がうかがえる。さらに作品に対する創意工夫やアイデアなどがグループ内で大いに議論されていたことなどもわかる。学生たちは受身の姿勢だけでなく，作業を進めていく中で様々な提案を行なうというところは大変熱がはいっていた。学生たちが作品の問題点を理解しながら一生懸命作業しているところはグループ内の信頼関係が気づけており，大変意義がある活動だと感じた。

各グループがひとつのテーマ内容に沿って制作する活動は個人間でも良い交流の機会になっていた。グループ全員がひとつの目標を抱くことで仲間意識が強まり，積極的に意見を出しやすかったと考えられる。

5–5　活動のふりかえりによる結果（problems）

表６　A グループ

problems
・作品のスケールが大きかったこともあり，細部の装飾やデザインが雑になってしまったところもありました。 ・作品意欲に溢れるあまり，本体以外の関係のないものを数点製作してしまったこと。 ・作品に付ける花の作りが雑だったこと。また数が足りなかったこと。 ・園児を甘やかしすぎて危険行為（特に，ガムテープな口や目に付けるなど）を見過ごしてしまっていたこと。 ・子供たちがはしゃぎすぎていたこと。 ・遊べるものを作るのは良いが大切に扱ってほしいということを伝えていなかった点。 ・ダンボールでは強度に限界があった。 ・ガムテープを床に置いてしまったため，園児が遊びに使ってしまい，危険だった。 ・使い終えたガムテを子供の手の届くところに置いていたので，子供たちが顔に張ったりして遊んでいたのはとても危険だった。 ・小さいヘビたちの強度が弱く，ちびっこに引っ張られたりしたらすぐはがれたり舌がとれたりしてしまったので，もっとしっかりつけるべきだった。 ・大きいヘビにつけるお花も少し少なくて所々ハゲてしまったのでもっとたくさん作っていればよかったと思う。 ・小さいヘビの強度が低かったこと。扱いをもう少し説明するべきだった。 ・舌も取れやすかった。 ・お花が少し少なかった ・お花が足りなくなってしまったので，みんなで確認をすればよかったと感じました。 ・ガムテープを顔に貼って遊ぶ子供がいたので，注意して一緒に制作すればよかったと思いました。 ・お花が足りなくなってしまったので，みんなで確認をすればよかったと感じました。 ・ガムテープを顔に貼って遊ぶ子供がいたので，注意して一緒に制作すればよかったと思いました。

表７　B グループ

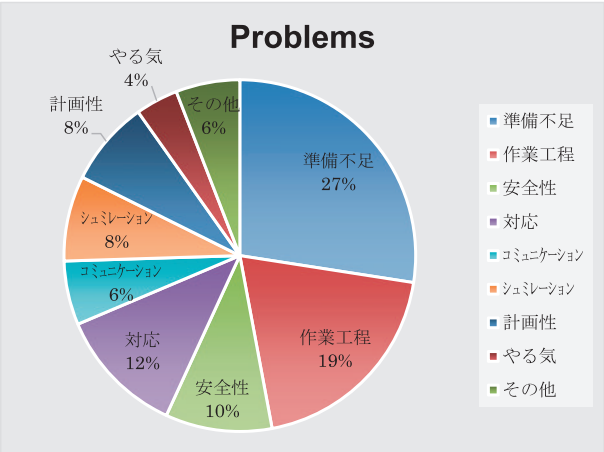
Problems
・一人の人にかなり頼りきりになってしまったかなと思う。 ・背びれのところをどうするかを作業日内に考えておくべきだった。花も作っておくべきだった。 ・何度か集まりの悪い日があった。 ・メンバーによって作業の量に偏りがあった。 ・周りの作品に比べて色合いや小物のような物が足りなかった。 ・全体的に効率が悪かった。 ・幼稚園についてから役割を決めたこと。 ・幼稚園でダンボール作品に花をつけ始めてしばらくしたあと，手持ち無沙汰になった園児が多くいたこと。 ・全体的に園児とのコミュニケーションがぎこちなく，上手くコミュニケーションがとれていなかった。 ・仕切る人がこの班にはいなく，いざというときに人に任せたりしていたのでよくないと思った。 ・バスに乗せられる許容サイズを考えられなかった。 ・遅刻したりしたことかな（個人的） ・園についてからの役割分担があまりうまくいかなかった。 ・制作時間が時間内に収まらなかった。 ・園で，行き当たりばったりの対応になった。 ・園児と触れ合う時間が長く，少々手間取った

表８　C グループ

Problems
・羊が大きすぎて，園児のなかには上まで届かない子もいた。 ・羊のサイズが思いのほかバスぎりぎりだった。 ・用意していた花紙が若干不足気味だった。 ・花が少し足りなくなった。（しかし足りていたので大丈夫だとは思う） ・羊の足がおられてしまった。（直したけど後が心配。） ・花を作るのに小さな子は手こずっていた。 ・教える人の数が足りず，子供１人１人に対応するのは難しかった。 ・報連相が甘い場面があった。 ・先生にあれほどお花の数を心配されたのに少しだけ足りなかったのが心残り。 ・羊を作るときに仕事が早かったか，テーマが単純だったのかがわからないけど時間が結構余った。 ・私の班は偶然問題なかったが，バスに乗せて運ぶことを踏まえて制作すべき。 ・花の数が少し足りなかった。 ・準備不足なところが見られた。

・花紙が足りなかった。
・もっと色とりどりの花紙を作ればよかった。
・ガムテープをはる作業に手間取ってしまった。
・花が少し足りなかった。
・全員での事前打ち合わせをしておいて，もっとスムーズに進められれば良かった。（当日）
・子羊の足が折れてしまった。

表９



5-5-1　Problems の活動のふりかえりによる結果からの考察

Problems の中で最も多い回答は準備不足であった。あとは，個々の問題が多いのでその他が多くなった。毎回のことであるが活動中の多少のトラブルは，つきものである。ミスをすればその都度，反省はするが，しかし有効な対策を講じようとは考えない傾向にある。

その理由としては，活動が頻繁にあるものではないからでもある。活動中に何か不足があったとしてもその場しのぎの対応である。抜本的な対策も特に話し合うこともなく，教員サイドから言われて初めて活動前日に運び出すものの確認くらいするのがやっとである。ほどんどのグループは当日に確認で十分用をなしている考えている。シュミレーション不足とグループの活動であるがゆえに，他人任せなところがあるのは否めない。

このふりかえりによって全員が積極的に意見してふりかえることでグループ活動の内容がより良いものになり，それがすべての活動へ達成感につながっていくこと及びこのようにグループ内でコミュニケーションが活発に行われることでよりより制作活動へと導かれることに期待したい。

意想外な回答としては，幼児への安全性への配慮などの他者への気配りや作品の強度など相手側への目線で活動ができていることであった。想像以上に作品制作以外にも幼児たちへの安全性への配慮を上げている回答があった。

5-6　活動のふりかえりによる結果（TRY）

表 10　A グループ

Try
・作品は更に良い物になるようにクオリティを上げられるように頑張ります。 ・幼稚園では園児たちと一緒に楽しむことは大事ですが，楽しむだけでなく園児たちの安全を常に意識し，より良い学びの場に出来るように頑張りたいと思います。 ・園児など遊ぶ側におよぶ危険を考えて行動する。 ・相手に喜んでもらえるような作品制作に取り組む。 ・ガムテは，子供たちの手の届かない場所に置く。 ・小さいヘビがちびっこのアクティブさに負けてボロボロになってしまったので次からは強度を上げて作りたいと思う。 ・舌が取れやすかったのでもう少し作り方を工夫したいと思う。 ・小さいヘビが人気だったから，遊べる要素のあるものはもう少し強度を上げて，子供たちが十分に遊べるようにしたい。 ・自分たちの思っていないところにお花がはられて少し足りなくなってしまったから多めに作る。 ・子供たちと一緒にすべて制作できるようにしたかったです。 ・お話とか積極的にできるような環境作りが大切かなと思いました。

表 11　B グループ

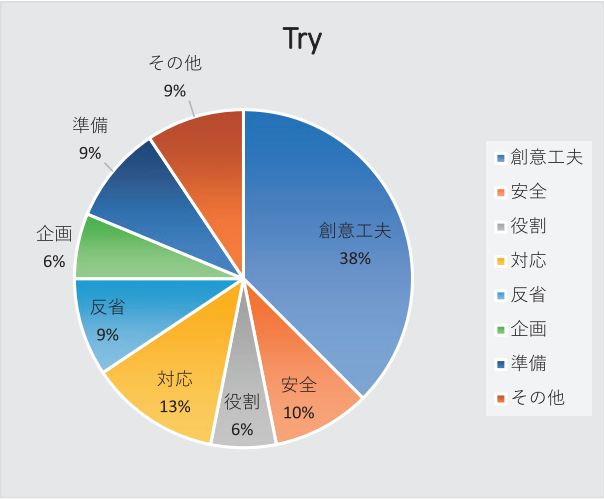
Try
・作っている途中や終わった後で，２つしたほうが良いと気づくこともあるので，余裕をもって作業を終えられるようにし，終わった後の余った時間を改良点や直す時間にあてる。 ・仕上げを自分たち以外の人がやる場合には，それを想定して最終形を細かいところまで想像しながら作れるとよいかなと思う。 ・もっとメンバー１人１人に作業を上手く割りする。

・子供たちと触れ合うとき，花の作り方を教えるときの進行の仕方などを事前に考えたほうがスムーズにできた。
・ダンボール作品を作るときの作業の役割分担。
・手持ち無沙汰になった園児たちをどうするか。
・全体的に計画をたてる。
・もう少し，積極的に行動しようと思った。
・園児と距離を縮めたい。
・バスに乗せられる許容サイズを考えて，分解して，あとから組み立てられるものなどを考える。
・大きいもの１つ，小さいもの１つで作ってみても良かったかも。
・グループで協力することには計画性が大事になる。
・予行演習は必要
・作業予定の明確化
・予行演習

表 12　C グループ

Try
・花紙の切り方をハサミでアレンジできるので，それを園児さんたちにやらせてあげても良いかもしれない。 ・もっと楽に安定して組み立てられるようなつくりを模索できそう。 ・園児たちが自ら創造的な考えを持てるような企画がいい。 ・もっとアクティブに体を動かすような要素があっても良いかもしれない。 ・園児も先生も一緒に楽しめるような要素があっても良いかもしれない。 ・子供でも楽しめそう簡単な工作。 ・子供たちのパワーが強すぎるので，負けないくらいの気持ちでいかないと大変です。 ・子供誰か一人ではなく全体に目を通せるようにした方が良いです。 ・園児たちと一緒に創作するのは続けるべき。 ・目的意識をもってやったほうがよりよい活動になると思う。 ・同じようなことをするときは，子供たちが乗れるように中に強度を高める工夫をしたいと思った。 ・花も，ダンボールで作る土台も，もっとたくさん用意して長い時間楽しめるようにしたい。 ・１人１色ずつくらい，花を作ってもらいたい。（思っていたより上手で，早くて，楽しそうだったから） ・当日の流れを，事前に全員で確認するようにしたい。

表 13



5-6-1　TRY の活動のふりかえりによる結果からの考察

TRY の項目では創意工夫の記述が多くを占めた。

創意工夫など，今後どのようにしたいのか具体的な記述を上げる学生たちの姿勢には，熱意の度合いの大きさがうかがえる。活動自体グループ単位でのやる気にかなり左右されるが，各グループ共に積極的にこの先の工夫を提案している。

その他，現場での幼児対応だったり，安全性など意外な回答があった。ここでは学生たちの活動は，制作して完成だけを目的をしてるのではなく，活動全体の安全性や対応などにも気を配っており，社会に出る前の大学生から教育の入り口と言える幼稚園，保育園児との同じ地域でめったに交じり合うことのない学生や園児同士が年上から年下への世代へとアートの楽しさを伝えるだけではなく，様々な配慮を考えているのが見られる。異世代交流の図式がはっきりと伺える記述であった。

この活動がどうであったかという振り返りだけに終わらず，それをもとに次の活動ではどうするのか　どうしたいのかという，次の探究活動につながることに期待する。

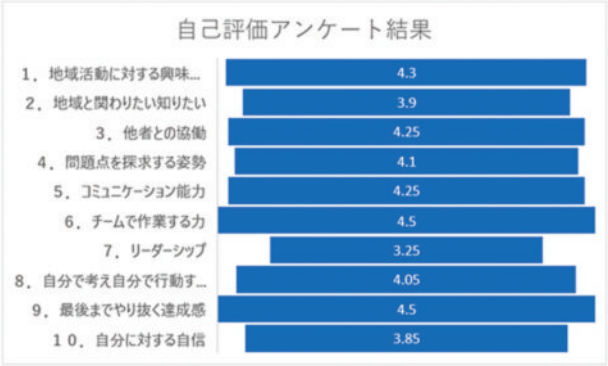
６．ジェネリックスキルアンケートの分析結果

今回アンケートの対象は，２年生の 20 名とした。地域活動に参加することによる学生自身の変化について項目ごとに数値を出し，全体的に自己評価を分析した結果が以下である。

評価方法は５段階とし，高い順の数値「５」から低い順の数値「１」とした。過去の比較対象のデータがないため，今年度の学生に限定しての単年度分析結果である。アンケートの中でもっとも高い数値項目は６．チームで作業する力　９．最後までやり抜く達成感　１．地域活動に対する興味関心などが上位を占めた。

逆に数値が低かった項目として７．リーダーシップ 10．自分に対する自信　２．地域と関わりたい・知りたいという気持ちが低い評価値であった。アンケートはランダムに学生の自由記述から抜粋したため，文章など多少不自然な部分があると思われるが，訂正することなく記載した。

表 14



１．地域活動に対する興味関心（4.3）

地域活動に対する興味関心の評価は高く，地域に直接貢献できていることや，多少なりとも地域に影響を与えているという実感があり，楽しく活動できていたようである。この活動を通してもっとアート楽しさを地域住民に知ってもらいたいという気持ちが活動を通して芽生え，もっと他の施設にも関わっていきたいという回答もあった。地域の人々が何を求めているかを知ることで，クライアントが何を求めているかを理解するという将来的な仕事に対する姿勢が身につくなど地域活動に対する関心の高さが伺えた項目であった。

表 15

１．地域活動に対する興味関心（自由記述からの抜粋）
・以前から地域活動に対して興味関心を強く持っていましたが，今回の経験を通じさらに地域としての活動に興味を持ちました。 ・高校の頃にボランティアなどをしていて，地域の人たちに喜んでもらえるような活動には以前から興味があったので，大学で授業を通して，このような活動があってよかったなと思います。 ・実際に行事に参加したり幼稚園に行くうちに，「楽しい，またやりたい」という気持ちが強まっていった。地域活動として，美術と子供達とを触れ合わせる事が出来ると気付いた。 ・地域活動を経て，特に子供達と触れ合うことで地域の活性化に直接貢献できることで，自分が多少なりとも社会に影響を与えているという実感が湧き，楽しいと思えた。 ・このような地域活動やボランティアの活動を授業の一環で設けてもらったことで自発的に動かなければ体験できないことなので結果的に楽しくできて興味は持てました。 ・自分たちの制作が地域に貢献出来たり，認めてもらえたことが，とても嬉しかったです。また，どんな形でも，喜んでもらえることが，とても勉強になりました。 ・みんなで協力して大きなものを作ったり，それを地域の人に見せた時に評価してもらえたりして，とても楽しかったし，自分の力になったと感じる。 ・前回より本腰を入れて作業に取り組むことが出来たと思います。メンバーと切磋琢磨して一つの作品を作る楽しさを地域活動を通して得ることができました。 ・今回この地域活動を通して，仲間との作業や幼稚園での交流で体験したことのないものを多く学べ，コミュニケーション力や作業計画，効率なども，今までは違い成長できたと思ったから。

２．地域と関わりたい・知りたいという気持ち（3.9）

この活動交流を通じてもっと関わっていきたいという回答は多かったが，地域活動に対する興味関心よりも低い数値であった。興味関心があることによるその先の関わりや知りたいという気持ちが湧いてくるのだと予想していたが，実情は関わりたいという思いだけで今後はそれほど知りたい，関わりたいという気持ちは強くはないという結果であった。

表 16

2．地域と関わりたい・知りたいという気持ち（自由記述からの抜粋）
・地域で行われている様々な活動を通じ（それらに参加したり等）知っていきたいと強く思います。北広島の広報誌を読むようになりました。
・地域の子どもたちと触れ合い，楽しむことができて良かったです。
・地域自体に対する探求心はあまり強まらなかった。地域というより，「地域活動」という活動に関して興味が出た。
・地域ともっと関わっていきたいというよりは，地域の活性化に役立つ“ものづくり”の方に力を入れていたため，さほど地域と深く関わっていきたいという思いは強くない。
・今回は幼稚園にお邪魔されてもらって園児たちと楽しく触れ合えましたが，何か違う形での交流だとどうなるのかと考えるところはあります。
・大学に入学してからも，地域についてあまり関りをもたないほうだったので，今回の活動を通して，より良く地域について知る機会に繋がったと思います。この地域にどんな施設があるのか，どのようなイベントが行われているのかなど，これからも何かしらで関わってみたいです。
・幼稚園に行ったりして，小さな子たちと楽しく交流できて，自分たちが作ったもので，楽しんでもらえることがすごく素敵なことだと感じた。
・子供たちの笑顔はとても華やかで記憶に鮮明に残りました。作ってよかったと感じました。しかし，まだ授業に一環としてやっている感じも否めないため，もう少し地域に対する興味や関心を高めたいと思います。
・子供たちの喜ぶ姿や先生たちからの感謝の言葉など達成感があった。また人の喜んでいる姿がうれしかった。

3．他者との協働（4.25）

他者との協働は，目的意識を共有し共通の目標に向かって達成に力を尽くすことや，お互いが対等の立場でそれぞれの特性を活かすことが重要であり，自分自身，何ができるのかを知らないと行動することさえできません。「自己や他者の能力をある程度把握し仕事を割り振れたと思う。」「みんなにそれぞれ役割を振って，それぞれ自分の仕事をまっとうできたと思う。」「仲間と協力する中で自分の長所・短所だけでなく，仲間ひとり一人の強みなどを理解し，お互いに補うことができた場面が何度かあった。」「今回の活動で，班員と協力しながら制作など進めていく中で，しっかりと役割分担をし，お互いの得手，不得手をすり合わせながら，互いに補い合うことができた。」

このように地域活動で何か作業する時に，同じゴールを持つ仲間同士，自分は何ができるのか，仲間は何が得意なのかを知ることにより，作業がうまく進み，それぞれが相手を意識しながら作業していると言える。

表 17

3．他者との協働（自由記述からの抜粋）
・今回の活動で，班員と協力し合いながら制作などを進めました。しっかりと役割分担をし，お互いの得手不得手をすり合わせながらお互いに補い合うことができたと思っています。
・どんな形や物にすれば，子どもたちが喜んでくれるかをグループの人たちと話し合ったり，ダンボールを組み立てる際に考察しながらみんなで協力し合って組みたてました。
・自分が得意だったり，やるべきだと思った仕事は自ら積極的に取り組めたと思う。自分以外のメンバーはどんな事が向いてるか等，周りの人までには気が回らなかったので，もう少し考えられるようになりたい。
・仲間と協力する中で自分の長所，短所だけでなく仲間一人一人の強みなどを理解しお互いに補い合うことができた場面が何度かあった。
・各々のできる範囲で作業ができたと思います，仕事を割り振りして真面目にできていました。
・主に制作過程で，他の人と協力して目標達成に向かって活動できたと思います。ひとり一人が完成に向けて，アイデアを積極的に出して制作できたところが良かったと思うし，どうしたら喜んだり，驚いたりしてもらえるか考えることが，また理解にも繋がったと思います。
・それぞれが得意なことを活かしながら，何日間にも渡って作業できた。自分の仕事が早く終っても，遅れている人の分を手伝うなどの行動も見られてとても良かったと思う。
・センスのある人や作業が丁寧なメンバーなど，今回あまり役立つスキルがあまりなかったため，活躍することができませんでしたが，自分なりに活動にためがんばりました。
・みんなそれぞれ役割を振ってそれぞれが自分の仕事をまっとうできたと思う。

４．問題点を探求する姿勢（4.1）

探求する姿勢を持つことで，課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することと目的とします。課題解決に向けた知的欲求を高めていくことで，仲間と切磋琢磨しながら協同的に課題を解決することで，必要とされる知識や技能の習得を深めていくと言える。

知識や技能などが相互に関連付けられ，総合的により制作活動が期待できる。ただこの項目は平均を下回った「誰かに任せて受け身になってしまっていた部分があった。」

作業がスムーズだったので問題点を探求することが少なかったなど，こちらからの活動の課題に多少問題があったとも言える。

表 18

４．問題点を探求する姿勢（自由記述からの抜粋）
・ダンボールで立体を作るという点で，自立するものを作るとなったときに，安定するようにバランスを調節したり幅や角度などの点を調べたりなどして，解決するまで試行錯誤しました。
・現場でのアドリブなど，もう少し子どもたちが困らないように，用意周到に試行錯誤をしてもう少し準備をしたり，動けば良かったと反省しております。
・次やる時はこうしよう，とかこのままだと良くないな，等，先の問題や反省点をしっかり考えられたと思う。
・自ら探す力は特に成長は見られなかった。しかし問題が見つかってからの対応はそれなりにできていたと思う。
・作業を始める前と後で問題点がないか話し合い，うまく対処できていたと思います。
・制作している途中に，そこまで大きな問題は起こらなかったですが，見映えについては，多くの指摘をもらってて，そこはグループでも意見が分かれた部分かなと感じました。お花について意見の差異がうまれていたので皆で協力して取り組めたことが良かったです。
・あまり問題点が出ずにスムーズに進められたので強度など細かな部分の対策などを考えて作れたので良かったと思う。
・制作において，細かい部分や構造が当初に設計通りにはいかず欠陥などが発生した際は臨機応変に対応して処理や変更ができた。同時に問題がなぜ起きたのかを明確にし，今後の活動に役立てるように反省できた。
・私たちの班は本体が早めに完成したので，いろいろな要素を加えたり，強度を上げたりなど，それぞれ気づいた点を修正できた。

５．コミュニケーション能力（4.25）

自分を表現するためは，とても大切なことであり，相手と面と向かって話すことや自分自身の意見を相手に伝え，相手の意見をきちんと受け入れることで，相手と話すことの大切さを知る。ここでの項目は平均値を上回った。デザインを専攻する学生たちは比較的コミュニケーションを取ることが苦手な学生が多い。一人で制作作業する時間が長いことも関係しているのかもしれないが，内側にこもりがちな学生が目立つ。

そんな中で地域活動を行う上での大きな目的の一つとしてコミュニケーション能力の向上を掲げている。アンケートでは，全体的なコミュニケーションでは多くの学生から向上がみられる。

一部活動場所での園児との関わり合いについて上手く対応できていないという内容もあったが，全体のアンケート内容の結果から判断すると決して悪い内容のものではないと考えられる上で確かな向上が見られると言える。

表 19

５．コミュニケーション能力（自由記述からの抜粋）
・班員とのコミュニケーションはもちろん，保育園幼稚園の子供達とのコミュニケーションも努力し，よくできたと思っています。
・グループの中では話し合いなど，意見を出したり，コミュニケーションは上々でした。
・チームのメンバーや地域の人と関わり，積極的にコミュニケーションを取れるようになったと思う。
・一人一人の性格や技能に合わせたコミュニケーションがてきるよう努力はできた。自分のコミュニケーション力を見直すにはいい機会になった。
・作業中に必要だと考えたことを伝えたり，園児との交流でも苦なく触れ合えました。
・地域活動に参加して，様々な世代の人たちと一緒に活動することが以前よりも増えて，他の人とコミュニケーションを図ることで自分考えを深く見つめ直すことができたと感じました。
・仲間同士コミュニケーションはもちろん，幼稚園の先生，園児たちとも仲良く話せることができてコミュニケーション能力が上がったと感じた。
・グループ内での意思疎通はもちろん，活動場所の園児や先生たちとの挨拶や雑談を通してコミュニケーション能力の向上を実感できることができました。
・子供たちと話すのは年が同じくらいや年上の人と話すのとは違うから言葉選びなど，そのような点でも向上したといえる。

6．グループで作業する（4.5）

個人でどれだけ優れた能力を持っていようと，一人の人間の発揮できる力には限界がありますが，グループでお互いの意見を出し合うことにより，新たな気付きや発見が生まれる。メンバー同士での情報共有・コミュニケーション促進が欠かせません。

作業での役割分担が明確であったことや普段は個人での活動が多い中で仲間と共同作業が楽しかったり，１つの目的意識に向かっていい雰囲気で活動ができたのが項目での最も良い数値の要因であったに違いない。

表 20

6．チームで作業する力（自由記述からの抜粋）
・少人数で時間をかけてひとつの物を作ったのは初めてだったが，時間に余裕を持って，最終的に良い雰囲気で作業を終わらせる事が出来た。
・能力に合わせた作業分担や適度に仕事を与えたり，自ら仕事を見つけたりと効率的な動きを心がけることができた。
・初めてダンボールアートをしてみてわからないなりにもみんなで協力しあえたし，創意工夫しあい，自分もできることができたと思います。
・私たちのグループは仲が良く，短期間で完成できたことも大きかったです。また早く終えたことで，デザインについても，改めて考えることができたので良かったです。
・期間内でどこまで終わらせるか等，計画を立ててその通りに進めることができたし，時間が余った時制作物も工夫ができた。みんなで作業していて，作業していない人がいない状況だったのも良かった。
・活動全体を通して，今自分には何ができるのかということを常に考え行動することを心掛けていました。その結果，他の人たちと連携もとることができて，上手く作業分担し効率よく進めることができた。
・与えられた仕事はきちんとこなせていたと思う。
・３．で述べた通りですが，お互いに補い合い，支えあいながら作業することができました。
・とても楽しかったです。これをこうしたら良いんじゃないか。と作業しながら，見映えなどを考えたり，作業中は楽しかったです。

7．リーダーシップ（3.25）

最も数値の低かった項目がこのリーダーシップであった。リーダー以外は特に積極的に動いてはおらず，受け身になっていて，自分の作業以外は指示されるのを待っている場面もみかけた。

リーダーシップについては，決してリーダーだけがリーダーシップを発揮するのではないと説明し，グループのメンバー各自が各々の役割に責任を持ってやるべきことをやる，リーダーシップはグループ全員に求められる力と説明したが，学生たちにはリーダーシップ＝統率力などの意識が強いようである。

表 21

7．リーダーシップ（自由記述からの抜粋）
・仕事の割り当てや進捗確認など，班員の状況把握を主にリーダーシップを発揮できたと思います。
・自分にはリーダーシップ性はありませんが，みんな協力的でゆるく会話を楽しめるように，グループのリーダーはしていたと思います。
・成り行きでリーダーをやった場面もあったが，司会や，役割分担を考えて伝えたり等をしただけなので，特に目立ってリーダーシップは取っていなかったと思う。
・全体的な視野は広がり，状況の把握などはある程度できたが，具体的に誰にどのような仕事を割り振るかは受け身になっていた。
・私の班のメンバーが統率力に長けた人が多かったので，自分はサポート側に徹して役割を果たしました。
・私はリーダーではなかったので，皆をまとめることは少なかったですが，園児のこどもたちをまとめたり，コミュニケーションの取り方がまた異なってくるのでそのような能力が必要になることを感じました。
・自分はあまりリーダーシップを取れなかったと感じる。他の人が考えてくれたものにそって作ったりしていたので。もう少しリーダーらしい行動が取れたら良かったと思う。
・私は今回リーダーではないことに甘え，リーダーシップを取り，メンバーを導くことはすくなかった。それが反省点でもありますが，その代わり，メンバーの一員として自覚ときちんと持ち頑張ることが出来たと思う。
・基本的に指示する役割だった，また他の人も問題なく動いてくれていたのできちんとできていたと思う。

８．自分で考え自分で行動する力（4.05）

役割分担がはっきりとしているグループが多かったため，自分の考えを交えながらの行動ができていた。デザイン専攻の学生たちは比較的，創作しての制作が多いためこの項目の行動は得意としている。自ら課題を見つけて作業に取り組んでいた。

自ら考え動ける学生は，受け身や指示待ちの姿勢をとることはなく，活動そのものを楽しみながら，やりがいを感じていた。将来的にもこのような「主体性」や「自分で考え行動できる人」が求められるに違いない。

表 22

８．自分で考え自分で行動する力（自由記述からの抜粋）
・自分に割り当てられた，割り当てた仕事に関して，どうしたら解決できるか，何が良いのかをしっかり考え，行動に移すことができました。
・わからないならまず聞く。自分にできることを探し，やるという基本的なことはできていたと思います。
・自分でやれることを探し，積極的に取り組めたと思う。チーム活動でも，必要だと思った事を皆に伝えたり，自らの考えをまとめ，行動した。
・多少は考えや行動力がついたと思うが，やはりどこか受け身になってしまう癖が抜けずにいる。
・作業内容は難しいものではなく，メンバーの行動が迅速だったので，こうすればいいのではないかと提案することが多かったかなと思います。
・段ボールで制作動物を決めるところから，自分たちでデザインを考えたので，どのようにしたら効率的で実用性がアイデアを考えたり，積極的に行動することが出来たと思います。
・自分の作業が終わったときも，終わってない人の分を手伝ったり，最初に予定になかったことできて，良かったと思う。
・作業時，周りを見ることにより，自分のできる仕事を自ら見つけ行動することが度々ありました。一度手を付けた作業は最後まで責任をもって終わらせた。
・私は指示を出していたけれど，すべて割り振らず，きちんと自分の仕事もこなせていた。

９．最後までやり抜く達成感（4.5）

作業全体の工程での達成感は少なく，ワークショップで人が楽しんでいる姿や，人の喜んでいる光景を見ての達成感が多くを占めた。項目では２番目に高い数値であった。

課題に取り組んで，結果を出した経験は，大きな自信へと繋がり，成功によって得られた自信は，どんな難しい事態に直面しても，「必ず出来る」という確信を伴い，成功の達成感は，諦めない心を育てるのである。

最後までやり抜いた経験は，次の目標に向かう情熱に繋がるのである。ほとんどの学生が大きな達成感を味わうことができたと感じている。

表 23

９．最後までやり抜く達成感（自由記述からの抜粋）
・ダンボールの素体を完成させた時はもちろん，子供達と飾り付けをし，それを完成させた時はとても達成感を得ることができました。
・完成した時には「どうせやるならは完璧に」という思いでやっていたので，とても良いものになったなと感じました。
・ダンボールアート活動も，しっかり取り組んだ分達成感を得られた。置かれた状況の中で，自分の出来る限りの力を出してやり抜けたと思う。
・仲間と協力して努力したものが形になることの達成感をとても味わえた。
・自分が主体で動いていたわけではないし，あくまでサポートという立場でしたが，子どもたちも楽しそうにしているのが見受けられたのでたせ見受けられたので達成感はありました。
・どのグループよりも大きな制作物が作れたのは，グループ皆と協力して制作できたことが大きいと思うし，こだわりや工夫も，子供たちに喜んでもらえたりしたのは，とても達成感ややりがいを感じました。
・大きい作品を作るということは大変だったけど，作品を見たときに子供たちや園の先生たちの反応を見てとても達成感があった。楽しんで遊んでくれたし良かった。
・今回私たちが制作した作品を子供たちが見たときにとてもキラキラとして目をしており，それを見たときは，とても大きな達成感味わうことができた。
・子供たちの楽しんでいる姿を見て，後にいろいろ考えて付け足し，工夫して良かった。

10. 自分対する自信（3.85）

ネガティブな評価をしている学生はこの活動で自信ついたとは感じていないという回答多かった。自発性や自己肯定感が低いことや，活動前と比べて特に自信がついたとは言えないという内容である。

反対にこの制作活動で新たな可能性を抱けることができたり，苦手だった人との関りやコミュニケーションなどが克服できた。子供たちが喜んでいる姿を見て自分の活動に意味があったんだと強く感じたなど回答が大きく分かれた項目であった。

この活動がこの先良い経験だったという自信に繋がることに期待したい。

表 24

10. 自分に対する自信（自由記述からの抜粋）
・一つのプロジェクトをしっかりと達成することができ，自信がついたように思います。 ・とりあえず，やってみるというのは本当に大事だなと感じました。 ・特に自信が持てたとは思わないが，逆に，自信が無くなるような失敗も無かったと思う。 ・多少の受け身癖はまだ抜けてはいないが，自分の能力，仲間の能力を理解した行動を考える力がついた。 ・作業中はもっと自発的に動けばよかったと思うところはありますが，幼稚園でやれることはできたのではないかと思いました。もっと自発性をもって行動できたらと反省です。 ・私は今ままで平面的な作品構想しか練ったことがなかったので素材が決まっている状態で，立体的な作品を作ることができて，新しい可能性を抱けることができたのではないかと感じました。 ・子供たちが喜んでくれたから自分がやったことに意味があったんだと強く感た。リーダーシップをとったり，設計するところにも，もう少し積極的にならたらと思う。 ・問題を解決したり，自分のやるべき仕事を見つけて取り組んだりと，地域活動の自己評価は良かったと思う。しかし，いざ終わってみるともっと自分にできたことはなかったのだろうかという懸念が湧いてきたので全力を尽くせたとは言えないと思う。今後の活動はもっと力を入れて終ってから，やりきったと思えるくらい頑張りたいと思います。 ・今回リーダー的役割をして不安もあったが他の人が問題なく，動いてくれたので自信がついた。

7．幼稚園・保育園の教員による評価

学生に対して活動現場で実践的な活動を行うことが，教育活動としての効果だけでなく，同時に地域に貢献しているかを検討するため，各施設の教員を対象にアンケート調査を行なった。終始活動には協力的であり，アンケート調査にも丁寧に回答していただいた。

このアンケートでは，

1.「今回の学生の地域活動（ワークショップ）についていかがでしたか。」

2.「学生活動の様子や態度はいかがでしたか。」

の質問について「満足」・「普通」・「良くなかった」の３つの選択肢で回答を求めたところ１施設が「普通」という回答で他はすべて「満足」という回答であった。事前のヒアリング調査では，「園児たちが安全に活動できるのか」などという質問があり，学生の様子や態度の項目を付け加えた。

また，記述式アンケートの項目には

①今回，学生地域活動を受け入れて，貴施設にとって良かったと思われる点を教えてください。

②今後，学生が貴施設で活動をさせていただくとした場合，どのようなものを希望しますか。ご要望などございましたらお書きください。

③今回の学生地域活動について，ご意見・ご指摘などございましたらお書きください。

以上３つの項目に記述でアンケートをいただいた。

表 25

①今回，学生地域活動を受け入れて，貴施設にとって良かったと思われる点を教えてください。
・壮大なダンボールアートに子ども達も参加させて頂き，身近な素材で遊ぶ楽しさを味わうことが出来たことが良かったと思います。 ・年少には少し難しいかと思った活動でしたが，寄り添って教えてくださる学生のみなさんがいてくださったので“できた！”と子どもたちも達成感を感じられたり，楽しい気持ちでいっぱいでした。作ってその場で遊べることができたのが，とても良かったです。 ・年中，年長組にとって，少し難しい点がやりがいがあって楽しく，達成感があったように思います。劇の練習期間であり，ヒツジとリンクして，とても喜んでいました。 ・大学生と交流できたことで活動にとても期待感が持てたと思う。あまりこのような機会もないため，こども達も楽しめていました。

表 26

②今後，学生が貴施設で活動をさせていただくとした場合，どのようなものを希望しますか。ご要望などございましたらお書きください。
・子ども達が一緒に参加できる活動が嬉しいです。 ・こども達は何でも新鮮な気持ちで楽しむので，どんな活動でも良いです。 ・今回のワークショップのようなものがいいと思います。遊べるおもちゃやゲームなど見るものではなく体と使って行えるものが良いかと思います。 ・作って遊べる制作，鑑賞会など

表 27

③今回の学生地域活動について，ご意見・ご指摘などございましたらお書きください。
・楽しい活動を企画して頂き，ありがとうございました。ダンボールがお城とヘビに変身し，更に色とりどりの花が装飾されたことで，子ども達は驚きと喜びで終始笑顔で活動に参加させて頂くことができました。準備なども大変だったかと思います。ありがとうございました。 ・今回当園で活動していただきありがとうございました。子供たちもワクワクして待っていたので，活動ができて喜んでいました。小さい子供たちと関わる機会は多くないとは思うのですが，“やりたい！”という気持ちが大きいのでテンポよく次から次へとやることを提案していくと活動がスムーズに進むと感じました。子供たちに楽しい時間，新鮮な活動を体験させていただきありがとうございました。 ・学生の皆さんが笑顔で明るく教えて下さったので，少し緊張気味だった，こども達もすぐに打ち解けることができました。事前に何名の学生さんが来園されるのか教えていただけると助かります。また，ぜひよろしくお願いいたします。貴重な体験をさせていただきまして，ありがとうございました‼ ・今回は子ども達のために素敵な活動をして頂きありがとうございました。たくさんの花でライオンの飾りつけをしたり，自分の咲いた花が一部分になることを楽しんでいたと思います。活動後，子ども達は「男の子なのか女の子なのか」「名前は何なのか」「エサは何にしようか」考えて話していました。最初にそういった設定を聞かせていると，より意識的になったり，興味を持てると思いました。

上記の回答からは，学生が地域活動の現場に出て学ぶことが，子どもの幼児教育に対して良い影響を与えていることがうかがえる。つまり，学生の地域活動での実践的ワークショップは，地域の子どもたちの育ちについて貢献できていると考えられる。

このアンケート結果を学生にフィードバックすることで学生たちはこのアンケート結果を受け入れ，次回の活動へさらなる高いモチベーションをもって臨むことを期待する。

このようなアンケートのフィードバックは学生の自信や，やりがい，達成感に繋がりさらなるスキルの向上や改善へ寄与していると言える。このようなアンケートからのフィードバックは活動をする施設側への理解に役立ったと考えられる。

８．課題

はじめは，自分たちの活動を共有できていないことや，他の活動に追われて時間がないなどを理由に，この制作活動に集中していないなどグループ活動であるが故に他人任せなどの問題も生じていた。行政や施設との調整，活動の進め方，教員のサポートやフォローに対する期待などがあり，受け身の活動になっていた。班員はリーダーに依存し，リーダーは教員に依存するなど主体性の形成に大いに課題があった。まずは自らの主体的に動くというような概念を一人一人の学生に根付かせなければ，いつまでも活動自体がやらされている感覚から抜け出せず主体的な活動にならない。

ただ，そのような概念を全員の学生に持たせるのはかなり困難である。せめてグループに一人か二人でもリーダーシップを自ら取り，主体的に活動を率先できるような学生が出てくれれば，それに続いていく学生も決して少なくはないはずである。そのためにはグループにどの学生を配置するかなど学生の資質や能力などを知ることも重要になってくる。

理想である「学生主体の地域活動」を目指すには大きな課題であることは間違いない。活動において，アートをどのように活用して活動したら良いかと学生に尋ねると，アートを使った表現活動を実現したという思いは強いがそれを実際に自ら主体的に活動したいという声は少ない。アートでの表現活動で学生たちは十分に楽しさを感じているのにも関わらず，それを地域の活動で表現することにあまり興味を感じていないのが残念であるのと同時にやはり活動に関わる自主性が大きな課題となる。

その他には，活動のための安定した資金の調達，新たな活動の場所の新規開拓などがあげられる。冒頭で活動資金について話したが活動場所の設定について資金調達という補助金が確実でなければ，前もって行動を起こすことが難しいのである。毎年，定まった額の活動資金を獲得できるとは限らないからである。その影響もあり，

活動はタイトなスケジュールの中で余儀なくされるのが現状である。

9．まとめ

学生による地域活動はそれぞれの施設活動において，幼児たちの教育に良い影響を与えており，アートのワークショップ活動でのアートの楽しさを知る効果があらわれていることを，まず評価すべきであろう。主体である学生について見ると，自ら考え，行動を起こし，その結果を感じるという一連の過程を通じて，企画・制作・実践・アンケート結果からのフィードバックの検証などの一連の流れをこの活動を通して身につけることで極めて効果的な学びを自ら行っていることは，社会に出てから必ず役に立つものであると考えられる。加えて，地域に対して何らかの貢献をしているという満足感を抱く学生も多く，これらの経験は今後大きな影響を占めるものと思われる。

活動のグループによって活動意欲に温度差はあったものの，全体としては良い活動として認識されていることが確認された。今後もワークショップ型の地域活動の学びで表現教育の改善を重ね，このようなスタイルの教育の可能性を広げるには，今後も活動内容の質を向上させることを目指し学生活動として続けていくことが大切である。

地域活動のアンケート結果では常に良好であった。もちろん，活動内容としては，さらなる改善する余地がある部分が多々あると思われるが，これらの結果からは，活動に対する学生と施設側の双方にとって継続していくべきものだと読み取れる。

今回の学生地域活動においては，学生たちが活動後のフィードバック結果から今後の活動において地域社会にどのような貢献が考えられるのか，地域と関わる中で学生たちが地域の中で学び，そしてその学びを地域にどのような形で活動していけるのかを模索し，いつも良い活動をしてくれてるという結果を常に地域の方々に認識していただけることが本当にの意味で地域と大学が相補的関係であり，地域共生が成り立つのでないだろうか。

この取り組みによる本研究は「北広島市地域活動支援事業」の補助金を受けて実施された。

引用文献

前田ちま子（2002）「なぜ“ワークショップ”だったのか」高橋陽一監修　杉山貴洋編集「ワークショップ実践研究」武蔵野美術大学出版局　pp50-65

参考文献

加藤幸次（編）教職研修総合特集「『生きる力』を育てる評価活動」教育開発研究所　1998

木村佐枝子　大学と社会貢献 学生ボランティア活動の教育的意義　創元者　2014

堀公俊「ワークショップ入門」日経文庫　2008

新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ～　中央教育審議会答申（2012.8.24）https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.　2019.8

「域学連携」地域づくり活動とは　総務省 https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/ikigakurenkei.html　2019.9

山田浩久　地域連携活動の実践―大学から発信する地方創生　海青社　2019

吉田健太郎　地域再生と文系産学連携―ソーシャル・キャピタル形成に向けた実態と検証　同友館　2014

The self-evaluation and problems for Students through Community Activities

― Case Study on the Art Project ―

MIYAJIMA Tatsuya

Abstract

The current community activities in university education, it is important that students take the initiative and how to get involved.

By teaching positive students, regional universities can no longer find their value unless rooted in the community and living with the community.

I think that it is important for students to carry out activities in the community that contribute to the community without forgetting the basic mission of the educational institution as a university.

When I thought about the community activities for students with art and the design, I thought while including “How can we do local contribution?” and “How can we take the initiative by students activity” and as a practical education on design and art through regional exchange, the workshop was to be implemented as a specific activity.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 183－215, 2020

「映像制作に於ける演出」
先人たちの作品をテキストとして学ぶこと

北　嶋　洋　一

○要約

19 世紀後半に産声をあげてから僅か 130 年で急速な進化を遂げ，独自の立ち位置を確立した映像メディア。視覚と聴覚へ同時に訴える情報伝達が可能な“総合芸術（composite art）”であり，それ以前のメディアでは不可能だった「時間の経過を記録することができる」という特性を持っていた。

映像メディアは特に応用芸術（applied art）である映画に於いて，数多くのクリエイターが表現と技術の両面で試行錯誤を繰り返し，多くの傑作を生み出し，世界中の大衆支持を得ながら現在に至っている。

そんな先人たちが開拓し，残してくれた遺産を基にして，現代のクリエイターは新たな映画を作り上げていかなければならない。そのためにも，様々な場面や用途に応じて鑑賞者の感情を巧みに操るべく先人たちが用いた演出法を学び，効果的に応用することは必須であり，本稿は，それを達成するためのテキストの一つとすべく執筆している。

○“総合芸術”としての映像メディア。その誕生と発展の背景について

19 世紀末，映像メディアは“視覚芸術”の一分野として誕生した。つまり，従来の絵画・彫刻・写真などと同様，視覚という単一の感覚器官をもって情報を取得するメディアという形でスタートを切ったのである。

但し，従来型の視覚芸術メディアと映像メディアの間には決定的な差異が存在した。それは映像メディアが従来型メディアでは不可能とされていた“時間の経過が記述可能”だったという点である。

そもそも，時間の経過を記述すること自体がまさしく映像メディアの本質と言うべきであり，映像メディアが誕生する切っ掛けになる社会の需要，さらには映像メディアが開発される動機にもなっていた。

現実に起こる出来事を情報としてリアルに記録し再生したいという欲求は，有史始まって以来，人間社会の中で受け継がれてきた文化的，技術的願望であったと思われる。しかし，映像メディアが存在しなかった時代，それができるのは人間の記憶力だけであり，人工的なメディアでは代替えが不可能だった。

既存の“視覚”，“言語”，“音響”などのメディアでは疑似的な展開しか望めず，例えば映像以前の“視覚芸術”における主流，絵画・彫刻・写真にはストーリー性はあってもストーリーそのものを描写する能力は無い。本来は一本の長い線である時間の中から場面という一つの点を選んで情報化し，その前後に続くストーリーの解釈については鑑賞者に任せるというのが当り前の表現方法として確立されており，それ以上の展開については物理的に不可能であった。

絵本や紙芝居のように，“視覚”と“言語”を駆使して時間の経過を疑似的に記録再生するメディアは存在したが，これも結局は点を複数選び出し，それを順に並べただけのものでしかない。しかも，読み手によって時間の経過速度に違いが生じるわけで，ストーリーを辛うじて描写することができても，肝心のリアルな時間描写はできていない。

情報の伝達方法に於いて映像との類似点が多く見られる“舞台芸術”でも，疑似的な記録再生の域を超えてはおらず，演者の能力と個性が情報の質や内容に影響を与えることがある時点で，絵本や紙芝居よりもリアルさについては劣っているとすべきである。

時間の経過を記述できるということは，映像メディアが提供する情報にはストーリーが生じているということになる。しかも，このストーリーは制作者が意図して創造し，それを記述，描写することが可能でもある。

既に映像メディアの存在が日常になっている現代人にとって，それは当然のことであるが，それ以前に類を見ない新たなテクノロジーとして初めて接した 19 世紀末の人々にとって，ストーリーの創造は時間を操る行為のようであり，魔法使いや錬金術師の技を見るような思いだったに違いない。

この画期的な本質によって，映像メディアは誕生した時点で既に“視覚芸術”の枠を超えて，“総合芸術”へと

進化する可能性を内在させていたのである。

“総合芸術”とは，“異なる感覚器官に向けられた複数の情報を同時に発信することができる単一の作品を提供するメディア”であるが，そのように定義し分類すれば映像はまさしく“総合芸術”である。

その根拠についてだが，まずは当然のことながら映像制作に当たっての設計作業は言語によって為されるという点に着目してみる。

無作為に撮影作業を行ったのでないならば，創作された映像のストーリーは基本的に言語（文章）を用いての置き換えが可能とされる。つまり，設計段階においては“言語芸術”と映像メディアは同一の工程によって成り立っているのである。

よって，小説や随筆の作者が，執筆に際しては文法や構成を練りながら著作を仕上げていくように，映像の撮影や編集作業に於いても，設計上は言語として記述された工程を映像に変換すべく文法を読み解き，そこに描かれた情報の目的や性質に配慮しつつ内容を構成するわけで，このことから映像メディアは“視覚芸術”として誕生しながらも“言語芸術”の要素を併せ持っていたということが言える。

さらに，映像メディアが技術革新によって取り込んだ後天的な要素もある。レコード盤に始まった音声の録音再生技術がそれである。

19世紀半ば，映像よりも一足早く誕生した“音響芸術”における記録再生技術は，映像メディアが誕生すると直ぐに融合が試みられ，当初はレコード盤と併用する形で，後にフィルムに音声を記録する方式（サウンド・オン・フィルム）によって，映像との完全なリンクを果たすことに成功した。

“視覚芸術”＋“言語芸術”＋“音響芸術”＝“総合芸術”

これで，映像メディアは，同時に3種類の感覚器官へ同時に情報を訴求可能な“総合芸術”として確立したわけだが，加えて映像メディアは運用に関する利点も備えていた。フィルムなどに記録され，何度でも再生が可能であり，複製もできるという点については，同じく3種類の感覚器官へ働きかける“舞台芸術”との決定的な差異になった。

“情報の永久的保存”

“舞台芸術”には情報の保存という概念は無い。よって，一度上演された作品を再度楽しむことは不可能である。同じシナリオ，同じ役者，同じ演出家を配し，同じ劇場で再演された作品であっても，それは以前に上演された作品の複製とはならず，新たに作られた別個の作品となる。

“総合芸術”であり“情報の永久的保存が可能”という，既存のメディアには無い，非常に汎用性の高い特性を持つ映像メディアは，19世紀末の誕生から急速に発展し，現在に至る。

その間，“総合芸術”としての可能性を広げていったのはもちろんのこと，情報の描写や記述方法である撮影や編集の技法も世界中で様々な試行錯誤が繰り返されたことにより，映像メディアが提供し得る情報の質も向上していった。

表現できる情報内容の多様化も進み，20世紀初頭までに映像はメディアとして一応の安定した完成形を見せることになった。

ここまでに要した期間は僅か30年から40年ほど。

新たに誕生した芸術の一分野が表現や技術，材料などの研究を幾重にも繰り返しながら完成に近づいていく速度としては非常に速い。

映像は純粋芸術という方向性は残しつつも，主流は映画という応用芸術，商業芸術として発展していくことになったが，その分岐の段階が訪れたのもこの間であり，これも他の芸術分野と比較してあまりにも速かった。

ちなみに絵画や彫刻など，従来の視覚芸術は政治や宗教による柵から解放され，経済的に富める者たちの独占から庶民文化へと移行していくまでには1000年単位の時間が必要だった。

純粋芸術と応用芸術の違いについては明確な分岐を持つことなく，混在したまま緩やかな発展を続け，現代に至って漸く“アート（純粋芸術）”と“デザイン（応用芸術）”などと言う呼び名の基に2つの志向が明確になりつつある。

こうした事例と比較すれば，僅か30年から40年という速度で完成形に到達し，純粋芸術と応用芸術の分岐も終えてしまった映像メディアは，極めて異例ということが分かる。

但し，これは決して異常な速度ではない。

映像メディアの急速な発展は，誕生当時の社会情勢を認識し，分析可能な後世の私たちから見れば想定できる範囲内の出来事と言える。

その第一の根拠は，映像メディアが誕生した19世紀末という時代にある。

産業革命により現代型の社会構造が確立しつつあった時代。一部に例外があったとしても，映像作品に触れる機会を持つ都市部に暮らす中産階級以下の平均的な民度は，産業革命以前とは比較にならない程に向上していたはずである。“働く”と“生きる”しかなかった庶民の日

常生活の中に，“学ぶ”とか“遊ぶ”という要素が自然発生し，総合的な文化レベルも急速に高まっていた時代である。

産業革命以前。例えば中世のルネサンス期。絵画や彫刻などの芸術分野において，誰もが名前を知るほどの巨匠たちによって生み出された数多くの名作がある。しかし，後世に生きる我々からすれば貴重な名作と認識されるルネサンスの作品群が，当時の一般庶民たちにとっては果たしてどうだっただろうか？

現代，特に先進国に於いて，芸術の専門家でも何でもない一般庶民でさえルネサンス期の名作を名作として捉えて感動することができるわけだが，それが可能なのは芸術鑑賞に必要な知識を教育により授かれる，余裕を持った社会構造の中で生きているからである。

ところが，中世の封建社会における庶民の文化レベルは総じて低かったと言われている。これは支配階級が被支配階級の教育を制限したことによる結果でもあるわけだが，そもそも当時の人口の大部分を占める労働者階級にとって，芸術作品を鑑賞するための基礎知識を得るどころか教育を受ける余裕など日常で求めようが無かったに違いない。

著しく効率が悪く貧弱な生産力しか持ち得ない諸々の産業に従事する当時の労働者にとって，日常生活とは生きるために働いて糧を得ることが全てである。そんな彼らに絵画や彫刻を鑑賞するだけの時間的な余裕などあるはずも無く，当然のこと“芸術を理解できる教育”など受けようもなかった。

そのような状況を脱し，現代に繋がる社会構造が見え始めたのは，中世が終わりを告げた産業革命以降のことである。

技術革新による生産効率の進歩に伴って，徐々に，尚且つ限定的ではあるが，労働者階級にとって，働き，食し，祈り，寝るだけだった日常生活の中に，ある程度の余暇を持つことが可能となった。そして，余暇には一定のレベルの教育を受ける機会を持ち，娯楽を楽しみ，中には様々な芸術を愛好し，創造する者も現れたのである。

そうした庶民が暮らす生活環境も激変していた。

技術革新が大規模工業を発達させ，都市人口を増加させたのである。

> 18 世紀から 19 世紀はじめにかけて，農業人口の比率が急速に減少した。イギリスの場合，1760 年には約 70 パーセントであったのが，1800 年には 36 パーセント，1830 年 25 パーセント，1850 年には 22 パーセントへと急激に低下した。
>
> 『生活の世界歴史〈10〉産業革命と民衆』（河出文庫）より

農業人口自体が減ったわけではない。食糧生産力などが向上したことで人口爆発が起こり，増えた分の人口が農村から離れて都市に流れ，工業やサービス業に従事する者の比率が増えたということである。

後世の視点を以て産業革命について否定的な見解を述べる者は，“都市生活者を増大させたことにより貧富の差が広がり，都市内部にスラムが形成された”という負の側面ばかりを語る。

だが，産業革命が都市という規模の大きな市場を形成し，消費者層を拡大したのは事実である。

余暇を持つ人口が都市に流入すれば当然のこと，都市における教育や娯楽の需要は一段と高まり，様々な文化が急激に発達，市場は只管拡大していくことになる。よって，あらゆるメディア文化に携わる者たちにとって，産業革命は歓迎すべき出来事であった。

産業革命が始まってから 1 世紀以上を経過した頃，新たな消費対象となる娯楽を追い求める庶民たちの前に，“映像メディア”が登場した。

時代は，先進国に於いて新たな社会秩序と経済基盤が築かれ，それが機能し始めていた 19 世紀末。既に芸術が上流階級やその周辺だけのモノではなくなって久しく，絵画の世界では庶民階層が中心になって活動していた印象派が突出しており，文学の世界でも市民思想や生活に共感し表現する作品が次々に生まれている時代であった。

そんな時代に生まれた，当時最新のメディア“映像”は，労働者階級を始めとする庶民を含む幅広い階層に受け入れられ，評価され，積極的な消費対象になることで，彼らの需要へ常に応える責任を負いながら完成に近付いていった。

映像メディアが，既存の視覚芸術メディアよりも急速に発展した理由は，その特性もさることながら，時代による後押しが大きかった点は明らかである。

○“映像メディア＝映画”によって提供される情報と，その質的向上について

トーマス・アルバ・エジソン（Thomas Alva Edison 1847–1931）や，オーギュスト（Auguste Marie Louis Lumière 1862–1954）とルイ（Louis Jean Lumière 1864–1948）のリュミエール兄弟によって誕生した映画は，当初“記録→再生”と二つの工程によって成り立っていたが，その僅か数年後に“モンタージュ”という技法による工程が加わった。

モンタージュは，異なるカメラで撮影された複数のショットを繋げてシナリオを表現する技法であり，所謂，編集の基本作業である。この技法を実用し，当時では珍

しい長尺（14 分）の作品『月世界旅行（Le Voyage dans la Lune 1902)』を制作し発表したのが，フランスの映画監督ジョルジュ・メリエス（Marie Georges Jean Méliès 1861–1938）である。メリエスは複数のショットを繋げてストーリーを構成しただけではなく，“中止め（置き換えとも言い，撮影途中でカメラを止め，被写体を置き換えてから撮影を再開する手法)”や多重露光（同じフィルムに複数の映像を映す手法）など，様々なトリック撮影を駆使することでも高い評価を受けており，これ以降の映像制作工程を一気に複雑化させた人物と言える。

さらには，アメリカの映画監督エドウィン・スタントン・ポーター（Edwin Stanton Porter 1870–1941）は，『大列車強盗（The Great Train Robbery 1903)』に於いて“クロスカッティング（別々の場所で同時進行する複数のシーンを表現する際，其々撮影したショットを交互に繋ぎながらシーンを合体させ表現する手法)”を用いて物語の展開を表現する。この手法により映画と同様の“総合芸術”として存在する“舞台芸術”では，物理的に制作不可能な作品を公開することになり，『大列車強盗』は，映画の独自性を人々に知らしめる作品となった。

進化はさらに続き，デヴィッド・ウォーク・グリフィス（David Wark Griffith 1875–1948）は，『國民の創生（The Birth of a Nation 1915)』に於いて，多彩なモンタージュを駆使し，映画ならではの演出効果を披露している。

例えば，追う者と追われる者を“クロスカッティング”で描く手法は，昨今の犯罪モノやアクション系のドラマではお馴染みであり，緊迫感を表現するための演出として定番だが，本作はその元祖と言える。

さらに，過去の記憶を思い出す際の表現として多く用いられる“カットバック（２種類以上の異なるショットを交互に転換し繋ぐ技法)”や“フラッシュバック（現在進行中のシーン内に，過去をイメージするようなショットを瞬間的に連続して挿入する技法，又は短いショットを連続させて視覚的効果を与える技法)”も初めて用いられており，これらも現代に通じるモンタージュの手法となっている。

グリフィスの作品には，他にも“クローズアップ（撮影対象をフレームに大きく映す技法)”や“パン（撮影しながらカメラの位置を変えず左右に振る技法)”，“ドリー（台車などにカメラを載せ，水平に移動させる技法)”などが使われ，視覚的効果を盛り上げているが，これらの手法は現代の映像作品にも同じ用途で存在している。

前記した“クロスカッティング”や“カットバック”，“フラッシュバック”などはもちろん，グリフィスは 20 世紀初頭に於いて，既に演出や撮影の定型を生み出しており，彼が後世「映画の父」と称えられるのは，こうしたパイオニアとしての功績を評価されたからである。

ところで，一度進化を成し遂げた事柄は，余程のことが無い限り退化はしない。特に娯楽に関しては顕著であり，観客が退化を許しはしない。一度質の高い作品を見せられた者は，次の作品には更に高い品質を求めるものである。映画は誕生と同時に，観客に常に突き上げられ続ける需要の流れに乗せられてしまった。

そうした流れの中で，初期のクリエイターたちは観客の需要はもちろんのこと，自身の創作意欲や研究意欲も掻き立てられていたに違いない。彼らは極めて短期間で映像メディアの質を向上させていったが，グリフィスもそうしたクリエイターの一人である。

モンタージュはメリエスやポーターを始めとする多くのクリエイターによって既に実用されていたが，グリフィスはそれを表面的な効果としてだけではなく，文学的な表現として用いたことが画期的とされる。

もしかしたらグリフィスは，シナリオを言語で記述された映画の設計書や指示書として受け取らず，シナリオの文章を映像に変換する作業をするのではなく，シナリオを“言語芸術”つまりは小説や随筆のような文学作品として捉えていたのかも知れない。

よって，本文のみならず行間まで読み解き，それを如何にフィルムに描き込むかについては絵画や彫刻などの“視覚芸術”に見られるアカデミックな表現まで用い，そこに映像ならではの数々の手法を合体させ，“映画を執筆する”ための文法を纏め上げたのであろう。

グリフィスの映画文法は，おそらく彼が纏め上げなくとも，いずれは他のクリエイターによって同様の映画文法が編み出されたに違いないと思えるほどオーソドックスなスタイルばかりである。これは，決して後世の視点から見た偏見ではなく，常にカメラを覗いているクリエイターならば，誰しもが頷けることだと思う。

だが，グリフィスはパイオニアであり，そこに価値がある。グリフィス以降のクリエイターたちは，好むと好まざるとに関わらず，「映画の父」グリフィスが編み出した映画文法の影響下にあると言われる。

もちろん，次項において論じるクリエイターたちも同様で，彼らはグリフィスの編み出した映画文法の延長線上で活躍したクリエイターということになる。

但し，彼らは，グリフィス作品に見られる手法を定型であり基本としながらも，それだけに留まらず，様々に応用し独自の世界を築いていった名クリエイターたちであることは間違いない。

○レニ・リーフェンシュタール「ドキュメンタリーと創造の融合」
『オリンピア（原題：Olympia 1938)』

レニ・リーフェンシュタール（Leni Riefenstahl 1902-2003）が，伝記番組などで取り上げられる際，映画監督としての評価よりも，第２次世界大戦以前にナチスの協力者だったという経歴と戦後の不遇な人生に重きを置いて語られることが多い。

本稿としては，そのような経歴についてとやかく言うことはしない。世界史上「ナチスは稀に見る悪だった」という定説は誰もが認めるところであり，常にナチスの影が付き纏うリーフェンシュタールを報道メディアが冷たく扱い，戦後の映画活動さえも拒絶するような社会の姿勢が終生続いていたことについても，特に感情論で語るつもりはない。

一人の天才が世に出した映画『オリンピア』という作品についてと，優れた手法によって描き出された映像世界を分析評価するだけである。

芸術家の中には，政治や経済など社会の情勢に全く無頓着な者がいる。所謂世間知らず，“芸術馬鹿”と言うべき者たちである。

これは時には賛辞として贈られる言葉ではあるのだが，リーフェンシュタールについては非難の言葉として投げつけられる。リーフェンシュタールが 2003 年に亡くなってから，彼女を振り返って評価する書籍を見掛けることが多くなったような気がするが，大方の論では彼女はそういう類の芸術家であったとされている。

しかし，ナチスが絶頂期であったドイツに於いて，党員でこそなかったものの思想には賛同し，さらには自らのキャリアのためにナチスを利用し，そのプロパガンダ映画を制作したことについては罪とされており，至極当然のことと思う。

但し，リーフェンシュタールが類いまれな映画人であったということについては疑いの余地無く，『オリンピア』で披露された数々の手法と表現のセンスについては，まさに天才の業と言うべきである。

『オリンピア』は 1936 年に開催されたオリンピック“ベルリン大会”を，『民族の祭典』と『美の祭典』の２部構成によって記録した映画である。

監督は，元女優でありナチスの党大会を記録した映画『意志の勝利（Triumph des Willens 1934)』を監督したレニ・リーフェンシュタール。ナチスの全面的な出資と協力のもとに制作され，ドキュメンタリーでありながら，その芸術性が高く評価され，ヴェネツィア国際映画祭では最高賞を受賞し，戦前の日本でも大ヒットを記録した。

ちなみにオリンピックを記録し，IOC（国際オリンピック委員会）に公認された映画の制作は 1912 年のストックホルム大会からである。現在は動画配信サイトなどで古いオリンピックの記録映像作品を断片的ながらも観ることができるので，本論を書くに当たって，私もベルリン大会以前の３大会の記録映像を一通り鑑賞してみた。

その感想を述べるならば，一言“退屈”である。おそらくは３大会とも，芸術的な感性を持つ者ではなく，カメラを扱う技術者が撮影を担当し，競技の進行に沿って固定カメラで撮影されたフィルムを繋げただけの作品だっただろうと思う。

その鑑賞には，他家に招かれて大して知りもしない子供の学芸会や運動会の記録映像を観せられるのと同種の苦痛が伴い，いずれも画面からは観客を楽しませようとか，スポーツの感動を与えようとする意図は感じられなかった。

単にオリンピックの記録だけを目的とした映像が，人々に感動を与え芸術的に評価されるよう高度に変質・変容したのがベルリン大会である。

皮肉にも，この大会が一人の悪名高い独裁者によるプロパガンダであり，政治の延長線上にあったこと。決して選手たちと開催者の心が通い合った純粋なスポーツの大会ではなかったが故に起こった変革だった。

そもそも応用芸術には，政治はもちろん，商業的な意味合いや，思想的な背景が付き纏う。それは純粋芸術とは異なり，制作意図や用途が欠かせないからである。

「オリンピックと言うモチーフを使って，ナチスの宣伝としたい」

という発想は，現代に於いて一人のタレントをイメージキャラクターとして商品のコマーシャルを作るのと同じ発想である。商品を魅力的に見せるためにはタレントも魅力的でなければならず，監督は商品に対するのと同じ労力をタレントの演出にも掛けることになる。

つまり，『オリンピア』が，革新的な芸術性を持ち，現代に伝わる名作として仕上がったのは，ナチスの求めに応じて制作された応用芸術だったからなのである。

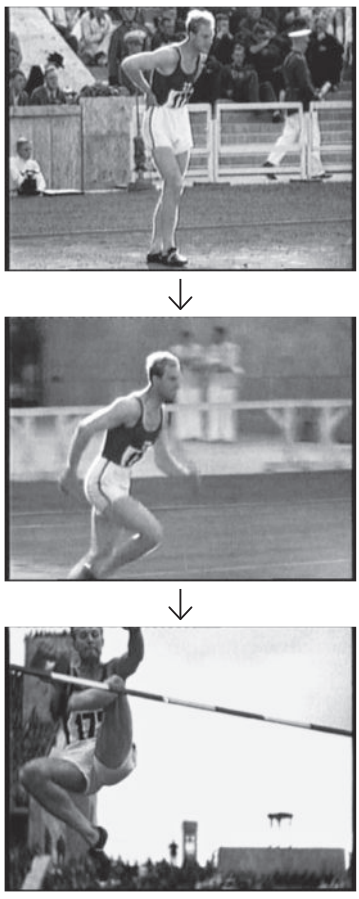
『オリンピア』が名作と成り得た理由の第一が政治であるなら，その第二もある。

リーフェンシュタールが「創造」という禁忌に手を付けていたことである。

オリンピックの記録映像は，本来 IOC に公認されるべきドキュメンタリーにならねばならなかった。ところが本作には明らかに記録映像としては不適切かつ不自然な個所が幾つも存在する。記録映像としては人間の手が入り過ぎているのである。

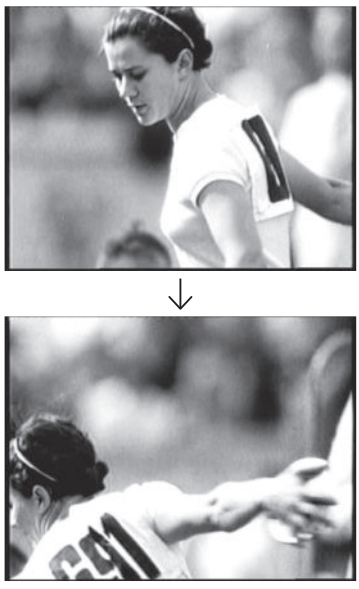
例を幾つか挙げてみよう。

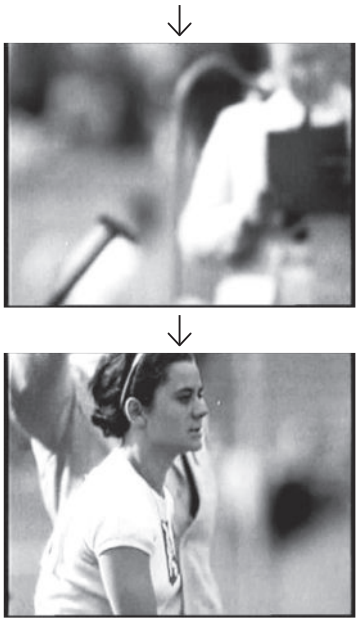
①一人の選手が行う一つの競技の流れを複数のカメラで多角的に撮影。



走り高跳び（コトカス選手）：スタート～助走～ジャンプとカメラが切り変わる。

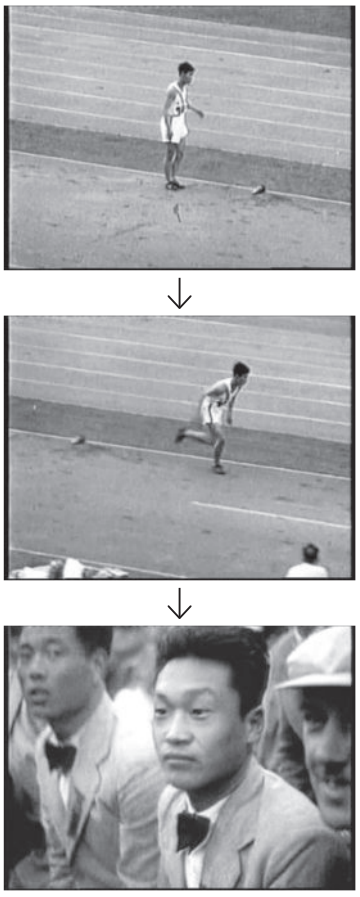
②競技中の選手に対して全身を移さずに顔だけをクローズアップ。





円盤投げ（シェフローバ選手）：フォームを映さず，フレームアウトする個所もある。

③緊迫感を煽りドラマチックなシーンを演出するためスローモーションを多用。





三段跳び（田嶋選手）：観客席を挟んだ後がスローモーション。空中姿勢まで追う。

④選手の視点から見た風景や，選手の影で競技をイメージさせるような表現。



円盤投げ：シュレーダー選手の影



マラソン：孫選手の影として表現されている



マラソンコース沿道の風景

特に注目すべきは，一度で勝敗が決する競技種目の撮影はイチかバチかになるため意図した絵作りは殆ど不可能なはずなのに，観客を含めて綿密なリハーサルや演技指導を加えた上で撮影したかのような映像が見られる点である。

それが明らかで，後に本作を問題視する際には必ず指摘されるのが“棒高跳び”である。

この種目はアメリカのメドウズ選手（金），日本の西田選手（銀），大江選手（銅）の三人により，日没後まで長時間に渡り争われたベルリンオリンピックの名勝負として語られている。後に西田選手と大江選手が互いのメダルを半分に割って合わせた“友情のメダル”のエピソードを生んだこともあり，日本人にも馴染み深い種目である。

ところが，本作で描かれている“棒高跳び”には，明らかに違和感がある。特に日没後のシーンでは，撮影の構図が大胆になり，カメラ位置が棒高跳びを捉えるには絶妙なポジションを取り，映像が一段とドラマチックになっている。



大江選手のクローズアップ



競技中なら有り得ない，ほぼ真下から捉えるカメラ



健闘を称え合うメドウズ選手と西田選手

さらには真っ暗な背景からバーに向かって浮き出すように走ってくる選手を正面から捉えるシーンなど，競技中に許されるレベルのライティングではない。



↓



↓



クレーバー選手へのライティング

そもそも，棒高跳びのシーンは日没後の光量不足で撮影ができなかったため，後日に選手たちを集めて再現フィルムのようにして作られたらしいが，競技だけではなく日米がスタンドで繰り広げる応援合戦の様子（おそらく演技）を挟み込むなどは，明らかに行き過ぎかもしれない。



アメリカの応援団



日本の応援団

それにしても，この“棒高跳び”のシーン。他にも多くある演出過剰な競技シーンと比較してみても，ドキュメンタリーを撮影するという意識を捨ててかかったリーフェンシュタールの開き直りが伝わってくるほどの創作ぶりである。

もちろん，事実を謳い，それを売りにした作品にとっ

て，これらの表現は許されることではない。現代，多くのドキュメンタリーが制作されるテレビ業界などでも，これをやれば必ず抗議の対象となる。だから，『オリンピア』が批判の的となっていることについては当然と思うが，『オリンピア』を一本の映画作品として観る時，その革新的な映像表現には，やはり目を見張るものがある。

そもそも，リーフェンシュタールには記録映画の監督をするつもりなど，初めから無かったのではないだろうか？

『オリンピア』を映画監督である自身が創造する作品の一つとして認識していたのではないだろうか？

そう思わせる根拠は，延々 15 分も続く第一部オープニングのシーンにある。

まずは石材や壁面を背景にしたタイトルデザインと，文字を飾り罫線で囲む基本レイアウトについて。この表現は 1950 年代のハリウッド製歴史スペクタクル映画に多用されているが，『オリンピア』は 20 年も前に用いている。

オリンピックの歴史の重みを感じさせる豪華な演出であり素晴らしい出来栄えである。



続いてオリンピック発祥の地であるアテネのアクロポリスが映り，数々のギリシャ彫刻の映像へと切り替わっていく。フェードが多用され，スモークが効果的に焚かれており，幻想的な雰囲気を醸し出している。



↓



突然，それまで彫刻に見えていた一体がゆっくりと動き出し円盤投げのパフォーマンスを始める。次々にギリシャ彫刻と見紛う肉体美を誇る男性アスリートが登場する。



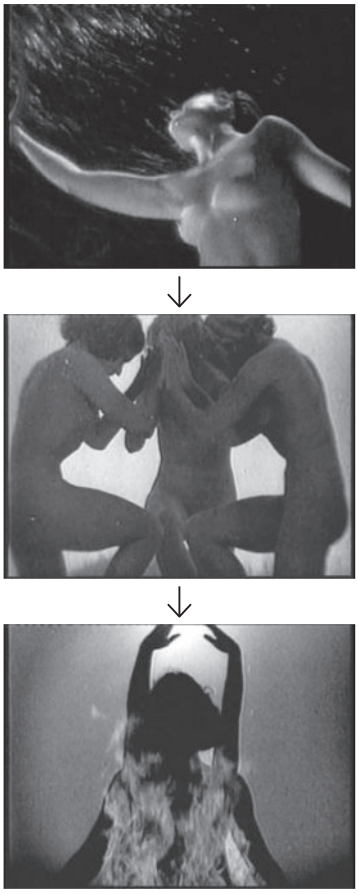
↓



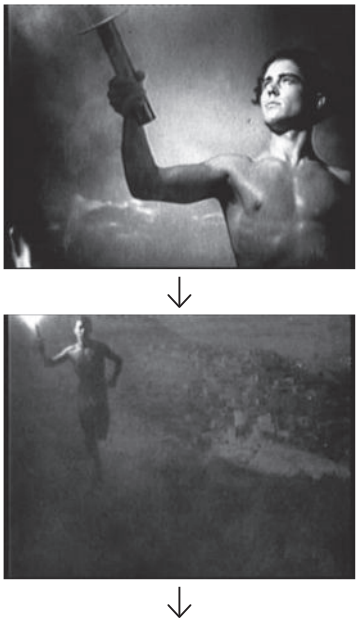
↓

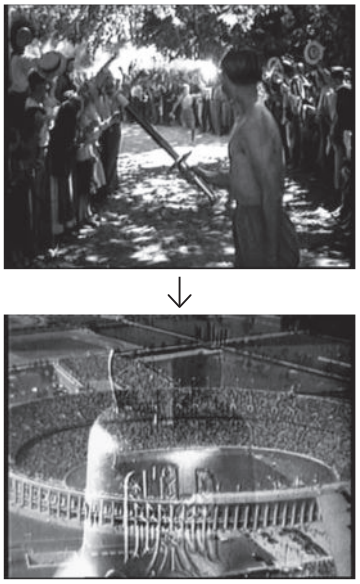


男性たちの力強いパフォーマンスの後には，３名の女性たちによる優雅な舞が始まり，彼女たちの舞は揺れる聖火に重なっていく。



トーチに移された聖火は，何人ものランナーに引き継がれてギリシャから東欧諸国を回りベルリンへと向かう。





1930 年代の技術を以て，よくぞここまでの高度な視覚効果を実現できたものだと感心してしまう。デジタル処理によって直感的に特殊効果を作成できる現代に比べれば，リーフェンシュタールが用いた表現技法は手間も掛かるし，参考にすべき資料や技法書があるわけでもないので，まずは絵作りの発想から始めなければならなかっただろう。つまり，天才リーフェンシュタールの頭の中で上映される映像を現実の技術に置き換えるために，様々な試行錯誤を繰り返したに違いないということである。

それだけの労力を払い完成させた『オリンピア』は，賛否両論有りとはいえ優れた作品に仕上がり，記録映画のひとつの形として影響力を現代にも及ぼしている。

ちなみに，『オリンピア』ほどのスキャンダルでは無いが，「記録か芸術か」の議論を巻き起こした市川崑監督の『東京オリンピック（1965　東宝)』も影響を受けた一つの例とされる。

ドキュメンタリーとしては問題かもしれないが，リーフェンシュタールが「オリンピア」で数々の競技を芸術的に描いた手法については，スポーツを題材とした創作作品にとっては最良のテキストと成り得るということである。

○フレッド・ジンネマン「徹底して単一のモチーフを追い続けるカメラ」
『真昼の決闘（原題：High Noon 1952)』

２度のアカデミー監督賞を受賞した巨匠フレッド・ジンネマン（Fred Zinnemann 1907–1997）だが，演出を学ぶテキストとして取り上げられる作品は殆ど無い。

自身が好むシナリオ以外は撮ることを拒否し，それが

理由で失職までしたほどの職人気質の持ち主ながら，同世代の巨匠たちと比較して抜きん出て見える特徴が無い。

確かにアカデミー監督賞を受賞した『地上より永遠に(From Here to Eternity 1953)』などは名作と呼ぶに相応しい重厚な作品だが，ミリオンセラーだったジェームズ・ジョーンズの原作が持つ魅力に引き上げられているところが大きい。ジンネマンの演出はいたって平坦であり，シナリオ時点で多少の脚色はあったとしても，彼の表現は基本的に原作の雰囲気に対して素直であり，独創的と言えるほどの手法を見せていない。

但し，こうした作風故，ジンネマンの監督作品は好悪の対象にはなり難く，万人受けするように仕上がっているものが多い。

『地上より永遠に』や『わが命つきるとも（A Man for All Seasons 1966)』などの監督作品が，公開後半世紀以上過ぎた現在も“映画ファンが選ぶオールタイムベスト”などでランキング入りするほど息の長い支持を受けているのは，そのおかげではないだろうか。

そんなジンネマンの監督作品の中では異色であり，西部劇の名作として高い評価を受けながらも強い好悪の対象として様々に論じられ続けている作品が『真昼の決闘(High Noon 1952)』である。

本作は，アメリカ史における“国家が謳う自由と民主主義を礼賛する時代”が陰りを見せ，“赤狩り”，“マッカーシズム”など，体制の扇動による思想弾圧を経験し，人々が国家や政治に対して疑問を持ち始めた時代に制作され公開された。よって，その内容は，それまでの西部劇が持っていたナショナリズムやミリタリズムを背景にしたロマンティシズムは完全に否定され，“無気力な大衆の中で孤立する善意”と“強者にも英雄にもなれない平凡な男の物語”が描かれている。

『真昼の決闘』に対する好悪の論点はそこに起因することが大きい。所謂，伝統的な西部劇のファンたちが，本作によって彼らの支持していたヒーロー像が否定されてしまったことを論点とし，肯定する者と否定する者に分かれたのである。

ジンネマンが意図したかどうかは兎も角として，『真昼の決闘』は西部劇のロケーションを用いながら権力やそれに従う大衆に対する不信を描き出す“社会派”の問題作として評価されることになった。

そして，本作のシナリオが持つプロットを映像化する際，最も重要となるのはゲーリー・クーパー（Gary Cooper 1901–1961）が演じる主人公，初老の保安官“ケイン”の描写である。

それを論ずる前に，まずは粗筋を簡単に述べさせてもらう。

> かつて保安官ケインによって逮捕，投獄された凶悪犯“ミラー”が，政府の発布した恩赦によって減刑，さらには釈放され，仲間を集めてケインに復讐するために正午の列車で町に戻ってくる。
>
> この日，結婚を期に保安官を退職し新妻と共に町を去りかけていたケインだったが，住人たちに対する長年の情と職務に対する義務感を捨て切れず，さらには自身の柵を断ち切るためにも思い直し，新妻の反対を押し切って町に引き返す。
>
> しかし，そんなケインに対する町の住人たちの態度は冷ややかで，仲間を集めてミラーに対抗しようと訴える彼の呼び掛けに誰も応えず，争い事に巻き込まれたくない一心で“この一件はケインの私闘である”と断じて全く耳を貸そうとしない。
>
> そんな絶望的な状況の下，遂に正午の時を迎え，ミラーを乗せた列車が到着した。

『真昼の決闘』は，本来ならば前後に存在するであろうケインの生き様や人間関係を描くべきドラマを容赦無く切り捨て，とある西部の町に於ける 1 日のうち，僅か 85 分間だけを細密描写し，本編とした作品である。

作中でケインと何らかの関わりを持つ登場人物は複数登場するが，その詳細は一切描かれず，匂わす程度で置き去りにされる。唯一の協力者となったグレース・ケリー（Grace Patricia Kelly 1929–1982）演じる新妻“エミィ”も，ケインとの馴初めや彼女の抱えるであろう過去の悲劇と苦悩について詳しく語られることは無く，台詞の中でそれらの断片が窺えるだけである。

そうした人間ドラマを構成するべき要素の殆どを削ぎ落し，『真昼の決闘』が論じられる際には必ず取り上げられる“上映時間と劇中の時間経過を合わせた 85 分間”に成される細密描写は，追い詰められていくケインの心理に費やされる。

正直に言って，“上映時間と劇中の時間経過を合わせた 85 分間”に，私は宣伝用のコピーライティング以上の意味を感じていない。85 分の上映時間の中に描かれる劇中時間が 120 分でも 180 分でも構わないし，日を跨いでの話になっても構わない。いずれにせよ，本編の大半はケインの心理状態と行動を描写することになるだろうし，上映時間と劇中の時間経過が異なっていても緊迫感が損なわれることは無いと思う。

そんなことよりも『真昼の決闘』に於いて最も重要で，演出法のテキストとすべきは，ジンネマンが他の作品で

は見せなかった執拗なまでの人間描写である。

本項では主人公ケインの心の動きを只管捉え続け，ともすれば大げさになりがちな演技を小さく控えめにして観せることで，逆に衝撃的に仕上げることに成功したラストシーンに繋げていく流れを検証してみることとする。

〈失望～孤独と焦り～絶望～広過ぎる町〉

『真昼の決闘』を名作たらしめるジンネマンの演出に，ケイン役のクーパーは最大の演技力で応えている。

劇中におけるケインの心理はクーパーの表情によって語られる。彼の演技は非常に細やかで，大きな身振りや手振りなどは全く用いずに，ほんの僅かな目や口の動き，顔の角度などによって，ストーリーが進むにつれて変化していくケインの心理状態や複雑な心境を見事に表現している。そうした点にも留意しながらシーンを追うことにする。



↓



↓



新妻エミィは町に戻ったケインに対し，「妻か，未亡人なのか，決まるまで待っていられない」と言い残して去っていく。たとえ正義のためであっても戦いを肯定できないエミィの信仰（クエーカー教徒）もあり，決別せざるを得なかったのである。悲し気に見送るケインだが，この時点では未だ表情に戦いを決断した者の覇気が見える。

付け加えるが，『真昼の決闘』に於いて，効果的な使われ方をしている美術に“扉”と“窓”がある。題名の「真昼　Highnoon」を象徴するような西部の熱い太陽を表現するために，暗い屋内から外を覗くショットが多用されている。これは状況描写だが，頑固なまでの正義に従って突き進むケインと，それに反発する者，利害を第一に考えて利口者であろうとする町の住民たちとの対比を暗示する演出にも役立っている。つまり，ケインを見放した者は太陽に照らされた屋外へ去り，常にケインは暗い屋内から見送るのである。



↓



↓



ケインとは逆に，凶悪犯ミラーを刑務所に送る判決を下した判事は町を去る。彼は去り際に「君は強者になびく大衆の心理を知らない」と言い残し，町の住民たちのために命を懸けようとするケインの行動を否定した。何の躊躇いも無く町を捨てた“正義の執行者”の姿に呆然とするケインの表情に微かな迷いが生じている。

判事を皮切りに，冒頭では，次々に去っていく友人や知人たちの姿を見送るケインの姿が繰り返される。そし

て，時間と共に表情のみならず行動も荒れていくが，その様子を描き続けるジンネマンの演出が冴えている。



↓



↓



ケインが右腕として頼りにしていた，ロイド・ブリッジス（Lloyd Bridges 1913–1998）演じる副保安官のハーヴェイは，女性絡みの嫉妬が原因で去っていく。想定外の事態に呆然としながら見上げた時計は，間もなく 11 時 20 分になろうとしている。

ここまでに協力を申し出たのは僅か 1 名。ハーヴェイ以外の部下たちは現れず，ケインもいよいよ焦りを感じ始める。そして次のシーンにより，彼の不利はほぼ確定する。



↓



↓



↓



劇中では“Tin star”と人々に揶揄される保安官バッジ。この時点でケインは“Tin star”に宿る権威と価値を信じており，臨時の副保安官を任命し，その場で手渡せるよう，“Tin star”を一掴みポケットに捻じ込む。但し，既に町に住む者たちからは“Tin star”の権威も価値も失われていることを彼は知らない。



↓



↓



↓



毅然とした態度で歩むケインは，町の腕自慢たちが集うであろう酒場に向かうのだが，酒場から出てきたミラーの弟“ベン（シェブ・ウッディー　Sheb Wooley 1921-2003)”に鉢合わせする。思わずハッとして身構えるケインだったが，それを見たベンは鼻で笑いながら去っていく。

ミラーの到着を待たずして手下が町をうろついている。つまり，この時点で町の一部にはミラーの帰りを歓迎，又は許容する雰囲気が起こっているということである。そもそもミラーと親しかった者たちが多くいる酒場での副保安官探しは当然の如く失敗する。



↓



↓



↓



↓



追い出されるようにして酒場を出たケインの顔に疲れが見え始める。その表情からは余裕が失われつつある。

そして，これ以降は頼みの綱である友人たちに助力を求め回るのだが…



↓



↓



祈るように友人宅の扉をノックするケイン。だが，開いた扉から現れた夫人に友の不在を告げられる。明らかに言い淀む夫人の様子から居留守を使われたと察したケインは挨拶をして大人しく去る。長年の友を見捨てようとする夫の冷たい態度に驚き悲しみながらも，決して命を懸けて欲しいとは思わないジレンマの中で居留守を告げなければならなかった夫人と，それを察したケインの静かなやり取りが胸に刺さる名シーンである。

友人宅を後にしたケインは，名優トーマス・ミッチェル（Thomas Mitchell 1892–1962）演じる町長をはじめ，大勢の友人と知人が集まるであろう教会へと向かう。



↓



ローアングルで捉えた教会に向かって歩くケイン。繋がれた馬車の数で，相当数の住民がミサに訪れていることがわかる。構図的には教会とケインの大きさが対比されているが，教会の大きさは町全体の意識を象徴している。



↓



↓



教会の扉が開きケインが現れる。既に幾人かの住民の拒絶を受けていたケインは，本来は親しい仲間であるはずの人々を前にして，一歩踏み出すのを躊躇ってしまう。



↓



↓



牧師の許可を取りミラーと戦うための助力を求めるケイン。ケインの訴えに幾人かの男子が立ち上がるのだが，彼らに待ったを掛けたのは親友であるはずの町長だった。



↓



町長が出した結論は，「ケインが町にいるから殺し合いになる」ということ。町の中で撃ち合いをされるのは迷惑なので，今すぐ出て行けと言う。そんな親友の言葉に驚き，憤りの表情を見せるケイン。



↓



ふと住民たちに目を移すと皆が俯いており，先ほど立ち上がりかけていた男たちも目をそらし，再び席を立とうとはしない。その様子を見て，これ以上の説得は無駄とケインは諦めて教会を出る。

誰しも我が身が大切であり，荒事には関わりたくない。その理由を正当化してくれる者がいたならば速やかに迎合する。そんな大衆心理のマイナス面を，教会に集まる人々をモチーフにして描いたシーンである。

もちろん，これは観客に投げ掛けられたメッセージでもあり，演壇に立つケインに対して向けられる住民たちの声，その構図の作り方は，観客もまた住民側にいる存在なのだと気付かせてくれる。

上映開始から 50 分が経過し，それまでケインに同情し応援していた観客たちだが，

「自分が同じ状況だったならどうするか？」

を，考えざるを得なくなる頃である。

「結局は君たちも町の住民たちと同じなのでしょう？」

そう，ジンネマンの問い掛けが聴こえてくるシーンである。



↓



↓



失意を抱えて教会を後にしたケイン。その表情に，当初は間違いなくあったはずの正義感や闘志というモノが薄れている。もはや焦りと苦悩だけが見える。



↓



↓



↓



↓



突然，玩具の拳銃でケインとミラーの決闘ごっこ遊びをしながら飛び出してきた子供たちがケインの負けを叫ぶ。そして，ケインにぶつかったケイン役の男の子が向ける怯えた表情。アップになったケインは泣き顔のようである。

子供は大人の言葉を聴いている。子供がケインの死を叫ぶなら，それは親たちの話を聞いていたからに違いない。

ここまでを描くに当たり，ジンネマンはケインの昔の恋人“ヘレン・ラミレス（ケティ・フラド　Katy Jurado 1924–2002）”の台詞を借りて，本作に込められた怒りのメッセージを口にする。



「誰にも助けてもらえずにケインは死ぬわ。ケインが死ねば，この町も死ぬのよ。」

これは，おそらく赤狩りなどの思想弾圧下にあった当時のアメリカとそれに甘んじて迎合する大衆の愚に対する批判だったのだろう。



↓



↓



↓



力づくで町を追い出そうとしたハーヴェイとの殴り合いで，傷つき，汚れ，疲労したケインから精彩は完全に失われている。ふと気付いたように空を見上げ，既に真上に近い太陽の位置を確認し，辛そうな表情を見せる。

この後，唯一協力を申し出ていた者からも逃げられてしまい，遂にケインは完全に孤立し，正午の列車到着を待たねばならなくなる。



↓



↓



↓



↓



散々言い訳をし，この場から逃げようとする相手に向かって，ケインは「帰れ」と言い捨てる。その一言を待っていたように去っていく唯一の協力者だった男。机上に置かれた“Tin star”を乱暴に払い落し，耐えきれずに突っ伏すケイン。西部劇の主人公がここまで追いつめられ，情けない姿を見せるシーンは，本作以前には無かっただろう。それを西部劇の象徴ゲーリー・クーパーが演じたことで，本作は衝撃の問題作となった。



心が折れかけていたケインを隠れて見ていた少年。彼は終始一貫してケインに好意的であり，ケインに憧れている。



↓



↓



少年の存在により，慌てて姿勢を戻し，残されていた僅かな勇気とプライドを取り戻すケイン。そして，助力を申し出る少年に，これは子供が関わる話ではないと断る。

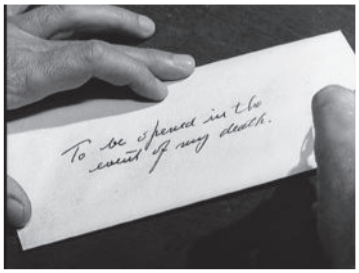


この少年は，本作のストーリーに於ける殆ど唯一の良心であると共に正義である。いずれは成長し，ケインのような男になるかもしれないが，今は未熟な存在である。彼を見送るケインの表情には，非情な町にある彼の存在を惜しみ，嘆く心が滲み出ている。

時計の針が正午を指し，ミラーを乗せた列車が駅に到着した。ケインに味方する者は一人も無く，町は静まり返り，事の成り行きを隠れて見守る嘗ての友人たちの気配だけが漂っている。そんなケインの完全なる孤独を表現した本作に於ける最高のシーンである。



↓



↓



遠くに列車の汽笛が聴きながら，遺書をしたためたケインは，覚悟を決めて保安官事務所を出ていく。



↓



↓



↓



↓



通りの向こうから聞こえた馬車の音。ケインをおいて町を去ろうとする新妻エミィと昔の恋人ヘレンが同乗する馬車だった。すれ違う際，僅かに視線を交わす二人。



↓



↓



遠ざかる馬車からの視点でケインを見るショット。引いていくカメラの中に映る町には，ケインの他に誰も見えない。



↓



↓



↓



↓



↓



エレンたちの馬車が見えなくなった後，町の中に人影は無い。但し，大勢の住民がケインとミラーの戦いの成り行きを注視している気配はする。又は，ケインの死を目撃しようとしている。クレーンショットを用いて，カメラが引いていき，俯瞰で捉えた“広過ぎる町”の中にポツンと立つケイン。この構図が本作に込められたコンセプトの全てを表わしている。

〈訣別～小さな演技だが衝撃は大きい〉

1対4という圧倒的不利な状況を覆し，奇しくもケインは勝利する。但し，銃声を聞き引き返してきた新妻エミィの助力が無ければ間違いなく殺されていただろう。そんなケインの際どい勝利の後，間を置かずして彼の下に集まって来た住民たちは，いったい何をしようとしていたのか？　おそらく，彼らは何もしようとしていなかったに違いない。ただ，自分たちがケインを見捨てた罪悪感に掻き立てられて，その罪悪感を有耶無耶にするために，勝利者であるケインに言い訳をする場を探していただけだろう。

そんな住民たちとの訣別を描いた僅か2ショットの小さな演出が，観客の心を抉る。



エミィを盾にしようとしたミラーを射殺したケイン。広い町の通りには戦いの当事者たち3名の姿のみ。



↓



傷つき泥だらけになりながらも戦いは終わり生き延びたケインは，信仰に逆らってまで彼のために銃を取った新妻エミィを抱きしめる。その時，ふと顔を挙げたケインの目に映ったものは…



↓



それまで屋内に引き籠り，戦いの様子を窺っていたであろう住民たちが，一斉にケインとエミィに駆け寄ってくる。そんな彼らを，憤りを含んだ厳しい表情で見つめるケイン。



↓



少年が一台の馬車を駆ってケインとエミィの傍に着ける。馬車を降りてきた少年の肩を叩き，無言で別れを告げるケイン。少年に対する感謝，期待，激励などが入り混じった，本作に於いて最も優しく見えるケインの眼差しである。



↓



ケインは顔を上げ，周囲の住民たちに目をやる。そして胸に刺した“Tin star”を外し，足元へ捨てた。この僅か２ショットが観客に与える衝撃は大きい。

かつては信じていた正義の象徴であり，自身の誇りであったはずの保安官バッジを足元に投げ捨てるケインのシーンは後に『ダーティハリー　Dirty Harry 1971』のラストで“クリント・イーストウッド（Clint Eastwood 1930–）”により再現されている。

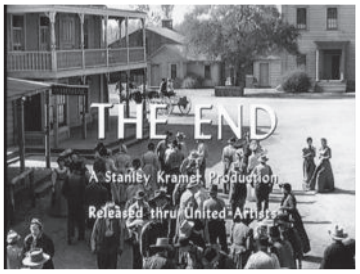
しかし，派手なフォームでバッジを池に向かって投げ捨てたイーストウッドよりも，小さな演技でクーパーが見せた僅か２ショットの方が，こめられた内容の深さでは遥かに勝っている。警察という組織の限界に愛想を尽かしたハリーよりも，決して悪ではないはずの平凡な人々が見せた残酷な本質と訣別したケインの方が，観客に与える衝撃は大きいに決まっていると思う。



↓



↓



近年，『真昼の決闘』がリメイクされるという話題が囁かれている。果たしてジンネマンとクーパーが見せた“ケインのストーリー”を上回る作品ができるかどうかについて注目し，その際には是非とも比較検証していきたい。

○アルフレッド・ヒッチコック「共感状態を作り出す演出」
『バルカン超特急（The Lady Vanishes 1938）』

サスペンス＆スリラー映画の神様として，映画に詳しくない者や，滅多に映画を観ない者でさえも人気監督アルフレッド･ヒッチコック（Alfred Hitchcock 1899–1980）の名前を一度は耳にしたことがあるに違いない。ジャン＝リュック・ゴダール（Jean-Luc Godard，1930–）やブライアン・デ・パルマ（Brian De Palma，1940–）など，後世のクリエイターに多大な影響を与え，リメイクされた作品，オマージュとして制作された作品やシーンなどは数知れず。既に山のような伝記本や評論本が出版されている中で，改めて私などが論じるのが恥ずかしくなるほどの大監督である。

ヒッチコック作品には驚くほどハズレが少ない。彼の

作品は文句無しに面白い。全盛期の作品はもちろん，晩年は凡作と評価される作品の発表が続いてはいたものの，ヒッチコックの作品は凡作であっても決して面白くないわけではなく，十分に観客を満足させられる作品に仕上がっているのである。

ヒッチコック作品が面白いのは，魅力的な題材を選び出す抜群のセンス，巧妙に組み立てられたシナリオ，高度に練り込まれた演出と編集の手法による。これらによって，ヒッチコックの作品は「いつ・どこで・だれが・なんのために・どうやって」を一つ一つ解き明かしていくのが“毎度お決まりのパターン”にも関わらず，決して飽きられることなく，観客が客観的にスクリーンを観ることを許さず，畳みかけるような展開で劇中の登場人物との間に共感状態を作り出し，物語の当事者と同化させてしまう凄さが生まれるのである。

『バルカン超特急（The Lady Vanishes 1938）』は，ヒッチコックが制作活動の場をイギリスからアメリカのハリウッドに移す間際に制作された作品である。

ヒッチコックがイギリスで活動していた 1927 年から，本作が公開される 1938 年までは“第二次世界大戦（1939–1945）”の暗い予感が徐々に世界を覆い始め，ナチスの脅威が語られる時代であった。

ヒッチコック作品の題材も『三十九夜（The 39 Steps 1935）』，『間諜最後の日（The Secret Agent 1936）』，『サボタージュ（Sabotage 1936）』など，ナチス・ドイツや，それを模した架空の国家による陰謀が用いられるようになっていた。

だからといって，ヒッチコックの作品は政治色や思想色があまり強くないので，当時の世相を反映した作品という認識だけで，現在でも身構えずに鑑賞できる作品ばかりである。

そして，本項で取り上げる『バルカン超特急』も，そんな作品の中の一本であり，最も成功した（面白い）一本と言える。

欧州にある架空の国バンドリカで独身最後の旅行を友人と三人で過ごしたアメリカ人女性のアイリス（マーガレット・ロックウッド　Margaret Lockwood 1916–1990）は，宿泊していた雪山のホテルで老婦人フロイ（メイ・ウィッティ　May Whitty 1865–1948）と知り合い親しく話すようになる。二人は同じ列車に乗りイギリスへ向かうことになったのだが，その車中でフロイは忽然と姿を消してしまう。アイリスはフロイの行方を他の乗客や乗務員に尋ねるのだが，皆が初めからそんな女性は乗車していないと語る。さらに，列車が出発する直前，落ちてきた植木鉢で頭を打っていたアイリスは怪我のため記憶が混乱しているのだと医者に断定されてしまう。孤立無援の状況に混乱する中，アイリスはフロイが実在した証拠を発見。フロイが車内にいると確信する。そして，協力を申し出た民族舞踏の研究家ギルバード（マイケル・レッドグレイヴ　Michael Redgrave 1908–1985）と共に捜索を始めた。

『バルカン超特急』は起承転結が分かりやすく，勧善懲悪のストーリーが実に単純明快に進行する作品である。そのシナリオは，映画の基本を学ぶためには理想的なお手本と言える。

ヒッチコック作品で名作とされるものの殆どは起承転結が明確で，ストーリーは非常に単純である。しかも，哲学や思想は極力持ち込まず，難解な疑問を投げ掛けず，複雑な解釈を要求せず，つまり観客に思考させるような仕掛けを用いない。これでは，まるで貶しているようにも聞こえる言い様だが，実はこれがヒッチコック作品の持ち味なのである。

奇妙なことに，名作とされる『めまい　Vertigo 1958』や『北北西に進路を取れ　North by Northwest 1959』よりも，凡作と評される『マーニー　Marnie 1964』や『引き裂かれたカーテン　Torn Curtain 1966』の方が，プロットが凝っていてシナリオも複雑である。ところが映画の評価は，圧倒的に前者が高いのだが，その理由はハッキリしている。

従来のヒッチコック作品を鑑賞する際に用いる楽しみ方を後者は出来ないからである。

前記したヒッチコック作品の持ち味は，そのまま彼の作品の鑑賞スタイルに繋がる。観客はスクリーンを注視するうちに主人公と意識が一体化していき，主人公の体験を自らの体験として感じられる共感状態に至る。しかも，共感状態に至るまでに殆ど抵抗が無く，映画が終了し劇場を離れれば元に戻る。鑑賞後の後味はさっぱりしていて，好悪の印象を引きずったり悩まされたりするような問題作は少ない。（『サイコ　Psycho 1960』や『鳥 The Birds 1963』のような例外もあることはある）

ヒッチコック作品は前記した通り，観客に思考させる仕掛けを殆ど持たない。だから，観客はスクリーンから意識が遠ざかることが無い。遠ざかるどころか，スクリーンの中に意識が入り込んでしまい，そこに展開する物語の中で主人公と重なることができる。

映画の上映中，観客はストーリーを追いながら登場人物の心理や行動に対して何らかの感想や意見を持つ。前

項で取り上げた『真昼の決闘』など，正しくそうせざるを得ない作品だが，観客はケインの置かれた状況を観て同情し，町の住民たちに憤りを覚える。

そして，

「ケインと町のどちらにも受け入れられる良い手段はなかったのか？」

などと考えながら映画を見続ける。

そうした場合，観客の視点は明らかに第三者の立場に立っている。

例えば，『真昼の決闘』クライマックスに於けるカメラワークで，町の通りに一人立つケインを俯瞰で捉えるシーンがあるが，観客は自分ではないケインという男を，離れた場所から眺めて，彼の置かれている状況を認識する。そして，ケインに対して同情をするが，決して共感状態には成り得ないのである。

対するヒッチコックの作品だが，登場人物の性格付けや役どころは初期の段階で殆どが明らかになり，不明なのは犯人が誰なのかぐらい。そして，“映画が完結するまでに達成すべき事柄が何なのか？”も中盤までにはハッキリする。

これはカメラが常に主人公側に立っていて，主人公側から見えるものを中心に撮っているので自然とそうなるのである。主人公が彼方此方動き回って得た情報を積み重ねて視界を晴らしていけば，観客の視界も同時に晴れていく。主人公側から隠れて見えないものは画面に映らず，観客には不安材料になる。その何れでもない第三者の視点や客観的に主人公を捉える視点について皆無ではないが，状況説明やユーモアを語るために要する最低限であり，それらのシーンがストーリー進行に関わる需要な鍵になることは殆ど無い。こういう演出は非常に単純だが，観客をスクリーンから離さないためには実に効率が良い。

『バルカン超特急』を観ると，そんなヒッチコック作品の典型であることが分かる。

老婦人フロイが忽然と消えたのは主人公アイリスの前からだけではなく観客の前からもであり，アイリスにとっての謎は観客にとっても謎となる。そして，物語が進むにつれて生じるアイリスの迷いや焦り，不安や憤りなど，殆ど同時に観客も覚えていく。それらは劇中のアイリスの状況を客観的に観て理解するのではなく，アイリスと同じきっかけ，同じタイミングで生じるのである。

『バルカン超特急』及び，ヒッチコック作品の多くは共感する映画，体験型の映画と言える。これを実現するためには，入念に構成されたシナリオが必須だが，シナリオを映像化する際の演出と撮影，編集に携わる者の手法は巧みでなければならない。

この項では，その巧みさを紹介しながら，演出法を学ぶ基礎的なテキストとして有効と思われる幾つかのシーンを抜粋して分析していくこととする

〈お手本のように素直な起承転結の“起”
～一転する演出〉

シナリオの執筆を志す者なら一度は“起承転結”について学ぶことになるが，『バルカン超特急』のストーリーは，以下４つのパートに綺麗に分類できるので，参考資料としては最適な作品である。

起～ストーリーの開始前に予め伝えておくべき
　基本情報
承～ストーリーの導入・始まり
転～ストーリーの展開・発展・クライマックス
結～ストーリーの解決・決着・エンディング

特にグランドホテル形式で次々に登場する主要人物の紹介と現状説明が絶妙なテンポで進行しつつ後の伏線を張り巡らせる“起”が素晴らしい。



架空の国バンドリカの自然を背景にしたOPから，雪崩によって不通となった鉄道を俯瞰で映し，カメラは足止めを食った旅行客たちが集まるホテルの入口へ移動する。映るのはミニチュアセットの街並みだが，現状を簡潔に把握できる秀逸なイントロである。



ホテルのロビーで屯する人々を映した一過性のショット。劇中でキーとなる役どころの者たちが並んでいる。一見では記憶に残らないショットだが，再見した者にとっては既に結末が分かっている作品の新たな楽しみ方ができるサービスショットとなる。ちなみに，重要な登場人物を説明が始まる前にさ

り気無く画面の端に収めておいたり，カメラの前を通過させる演出は『七人の侍（1954）』など，多くの群像劇でも用いられている。



初見では強風で押し返されるドアを使って外の悪天候を表現する説明だが，これも再見した者へのサービスショット。実はドアに押し返されてジタバタしているのは“老婦人フロイ”と，印象的な存在感を示す“クリケットファンのイギリス人二人連れ”である。



“クリケットファン”がクローズアップされ，台詞が与えられたことで彼らがモブキャラではないことが分かる。一見の場合はこのショットが初登場と認識される。短いショットだが，後にヒロインを追い詰める彼らの個性や趣味趣向が丁寧に描かれている。



ヒロインの“アイリス”と友人の初登場ショットだが，それよりも混み合っているカウンターの客たちを放置して，上客であるアイリスたちに愛想を振りまく支配人をコミカルに描いている。“クリケットファン”をはじめ，他の客たちの苛立ちが良くわかる。



相変わらず支配人がアイリスたちに受けた食事のオーダーを厨房に伝えることを最優先している。後回しにされた客たちの苛々と憤りが観客に伝わるよう描いている。



この男女も冒頭のロビーで屯する客のショットに映っていたが，台詞は初めて。シングルルームを二つ予約する“わけありの夫婦”という設定が描かれる。後に，彼らの私的事情がヒロインを不利な立場に追い込むことになる。



これは“クリケットファン”が部屋を予約できず，若いメイドが出入りする使用人部屋を割り当てられるというコミカルなシーンの一部。しかも二人は恋人同士だとメイドに勘違いされ，返って気を使われる。彼らの三枚目的な役付けが明確になる。



友人たちとバカ騒ぎをしながら，アイリスが夢も希望も無い結婚を強いられる自らの悲劇を語るシーン。説明的な描き方をしながらも，カメラはヒロインを最も魅力的に，そして可愛らしく

見せることを目的としているのが分かる。立体的に移動する構図の中心には常にアイリスを捉え，ライティングは他のシーンと比較して明るく仕上げている。



“クリケットファン”と老婦人フロイが，ホテルの食堂で合席になる。フロイが自己紹介をしながら舞台となっているバンドリカ国についても語るシーンである。後にフロイが失踪した後，行方を捜しまわるヒロインに対して非協力的な二人に対する観客の憤りを煽るための仕掛けでもある。



↓



窓を開けて，“流し”の歌に聴き入るフロイ。既に音楽の家庭教師をしていたという過去は“クリケットファン”を相手に紹介済みだが，熱心に曲を覚えようとする様子が思わせぶりに見える。実は劇中の謎解きに於いて最も重要なシーンである。



アイリスとフロイが知り合うシーン。階上の宿泊客の煩さに耐えかねた二人が廊下に出た所で出会う。その原因を作ったのが，後にヒロインの唯一の協力者として活躍する“ギルバート”。少々出来過ぎにも感じられるが洒落た出会いの設定を描いている。



↓



苦情に耳を貸さないギルバートに痺れを切らしたアイリスは，支配人を買収してギルバートを階上の部屋から追い出す。しかし予想外の反撃を受けて渋々ギルバートを元の部屋に戻さざるを得なくなった。このシーンでは互いに罵り合って別れる。ヒッチコック作品の多くに於いて，後に恋仲になる男女が初めは最悪の出会い方をする。

ここまでが“起”に当たる。雪崩により欧州の片田舎で足止めを食った不運な登場人物たちを，彼らの置かれた状況や性格描写を行いつつ順に紹介するグランドホテル形式の基本に忠実だが，一貫してコミカルでユーモラスな流れに仕上がっている。観客が“ヒッチコック・サスペンス”を観に劇場へ足を運んだことを，つい忘れてしまいそうになる 23 分 40 秒の演出である。

そして，観客の油断を突くように狙った次の一手で“承”へと繋ぐのだが，このダイナミックな手法は，後に多くのサスペンスやホラー映画で踏襲される演出の基本形となった。



時間の経過を表すショット。“起”で騒々しく登場した者たちも，既に寝静

まった時刻。



夜遅くになっても，未だフロイは窓の外で歌い続けている“流し”に耳を傾けている。



↓



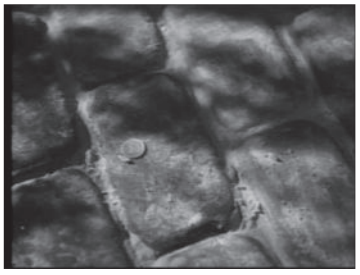
歌う“流し”に背後から忍び寄る影。正体不明の“暴漢”によって首を絞められて背後に崩れ落ちる“流し”。近頃はアナクロな表現とされた感もあるが，未だに Cartoon や日本のアニメでは現役の表現である。



壁に映る影によって“暴漢”による“流し”の殺人が観客に伝わる。近年は本シーンのような文学的な表現は鳴りを潜め，直接的な残酷描写が当り前のようだが，間接的な状況描写こそ演出家の腕の見せ所と言える。



歌が終わったと思ったフロイは財布からコインを取り出して投げ，窓を閉じる。



石畳の上にはフロイの投げたコインが拾う者無く残されている。既に確認されている“流し”の死と同時に，彼の死の事実が何者かによって闇に隠されてしまったことを暗示するショットである。

軽妙なテンポで笑いを交えた 23 分 40 秒を過ごした観客が，予兆も前触れも無いまま突然目撃した殺人事件に動転し，唖然としたまま“承”へと向かう。

この手のサスペンスシーンの演出には，予め登場人物たちに怪しさや動機らしきモノをチラつかせたり，“流し”に“暴漢”が忍び寄る過程を長々と見せて緊迫感を煽ったり，“流し”が殺されるかも知れないという予感を匂わせたりなど，ドラマを盛り上げるための手法は様々あるが，ヒッチコックは唐突に殺人事件を起こしてしまうという“ビックリ箱と同じ効果”により観客の度肝を抜いた。こうした場合，前提材料が全く無いので，観客は目の前で起きた出来事を分析することもできず，勝手に進行していくストーリーに置き去りにされないよう慌ててついて行くしかない。これこそ，正に体験型の演出と言えよう。

〈観客の記憶までも不確かにしてしまう“フラッシュバック”の用い方〉

“フラッシュバック”は，登場人物の記憶の断片が蘇るようなシーンの表現に於いて用いられることが多いが，本作では逆にヒロインの記憶を不確かなものにしてしまい，劇中で起きていることが現実なのか？　ヒロインの妄想なのか？　観客が確信を持てなくなるようにするため，二段階で用いられている。

まずは最初のフラッシュバックだが，ストーリーの流れ的にはアイリスが気を失ってから目を覚ますまでの時間経過を表すシーンであり，既に意識の無い彼女が見ている夢の視覚化でもある。しかし，走り出した列車の車輪に重なっては消えていく記憶映像は，アイリスの意識が徐々に現実から遠ざかろうとする様子を描いているような印象を受ける。



落下してきた植木鉢で頭を強打したアイリスは，フロイに付き添われて列車に乗り込むが，間もなく意識を失ってしまう。



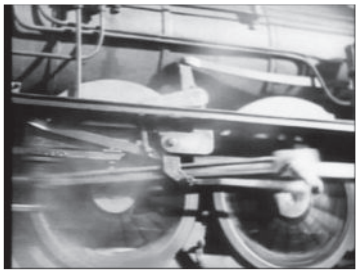
↓



↓



走行する車輪に，見送りに来ていた友人たちや駅員の姿が重なる。出発直前に見た駅の記憶がフラッシュバックしているのだが，まるで眩暈か夢の入口を見ているようで，ボンヤリとした不安定感を感じさせるような仕上がりとなっている。



記憶のフラッシュバックは消え，走行する車輪だけが映し出されている。もうすぐアイリスが目を覚ます予感がする。



この後，アイリスは目を覚まし，“承”に当たる事件が発生する。

次のフラッシュバックは，フロイが社内から忽然と姿を消す事件発生の直前に当たるシーンである。最初のフラッシュバック以上に長い時間経過を表現しながら，ここで用いられる映像は記憶の断片ではなく，走行する列車と通り過ぎる空や交差する線路である。



昨夜の“流し”の歌をハミングするフロイの向かいで，うたた寝を始めるアイリス。



↓



↓



↓



映像は走行する機関車の映像。過ぎてゆく空と送電線, 交差を繰り返す線路。リアルタイムの具象映像ながら，意味合いが抽象的で漠然としており，現実感を希薄にしている。



そして，目覚めたアイリスの前から，フロイが消えていた。

この二つのフラッシュバックに挟まれた間にあるのは，アイリスとフロイが食堂車でお茶を飲むくだり。その間に乗務員や乗客など複数の人物と接触するのだが，後にその誰もがアイリスと一緒にいたフロイの存在を否定する。さらには同乗していた医者に，頭を打ったアイリスは記憶が混乱しているのだと決めつけられてしまう。

こうした混乱状況に拍車を掛けるのが，前後に配置されたフラッシュバックである。それぞれが間に挟まれた現実をぼかす役割を果たしており，観客の認識を曖昧にするための効果を発揮している。つまり，現実と認識していたはずのシーンが非現実であるかもしれないという可能性をよぎらせるのである。

「フラッシュバックの間，アイリスは意識を失ったままであり，ホテルで知り合ったフロイが登場する夢を見ていただけなのかもしれない。」

という考えに陥りそうになる観客の心境は，劇中のアイリスと一致している。

アイリスも現実と非現実の区別がつかなくなり，一時はフロイの存在を諦めようとするまでに追いつめられる。“ギルバート”の協力と幾つかの手掛かり発見により何とか踏み止まるが，その間に揺れ動く観客の心境は正にアイリスと共にあるように仕組まれているのである。

〈思わず顔がほころんでしまうラストシーン〉

『バルカン超特急』には，他にも印象的な演出やそれを生かすためのエレメントがそこかしこに見られ，その殆どが後のクリエイターたちに踏襲され現代に受け継がれている。

例えば，アイリスが置かれている危機的状況を理解しようともせず，「早くイギリスに帰ってクリケットの試合が見たいから，面倒を起こして列車を止められたくない」などと間の抜けた理由で観客を苛立たせつつも，クライマックスではキチンと仕事をする“クリケットファン”。一方，アイリスの苦境を理解した妻が協力を申し出ようとするのに，身勝手な事情を振りかざして妻に嘘を強要。しかも，クライマックスに至っても周囲の反対を押し切って自儘に行動し続け，その結果自滅する“わけあり夫婦”の夫。

この善玉と悪玉の間で行ったり来たりする二種類の脇役は，サスペンス，パニック，ホラーなどのストーリーには欠かせないキャラクターとして，多数の類型が存在する。

さらに，緊迫したストーリーと並行して，親密度を上げていく男女が描かれるのもヒッチコック作品の魅力的な演出の一つであり，これも類型を挙げるとキリが無い。

しかし，前記したように“最悪の出会い”から始まって“熱愛カップルの誕生”まで，一気に駆け抜ける流れをスマートに描く小洒落たセンスはヒッチコック独特のものである。

現代でも同様のストーリーは度々見掛けるが，ヒッチコック作品に比べると，洒落てもおらず，泥臭く思えるような演出が多く，ストーリーが慌ただしく過ぎていく賑やかしい作品ばかりな気がする。

さて，本項の最後には，映画『バルカン超特急』に於いて，私が最も印象的と考えるシーンであり，「サスペンス映画のハッピーエンドとはこういうものである！」と，ヒッチコックが言い切ったように思えてならないラストシーンを挙げておく。

まずは，『バルカン超特急』のストーリーは三段階で締めくくられていることを理解しなければならないが，その第一段階は「危機的状況からの脱出成功」。続く第二段階は「アイリスとギルバードが結ばれる」ことである。

そして，第三段階へと進む。



フロイから託されたメロディ（暗号）を届けるために訪れた英国外務省の待合室。但し，結ばれたばかりの二人は新婚旅行のプランなどを話しながら楽し気な様子。



入室許可の合図をもらって二人は立ち上がるのだが，メロディを暗記していたはずのギルバートが「メロディを忘れた！」



↓



↓



唐突に室内からピアノの音が聴こえる。それはギルバートが忘れていたメロディだった。その音に誘われるようにドアを抜ける二人。そこには…



アイリスとギルバートの助けを借り，単身バンドリカからの脱出を図ったフロイの姿！



The End

ギルバートが「メロディを忘れた！」と言った瞬間，アイリスも観客も一斉に「なにやってんだよ！　このバカ！」と叫びたい心境に陥ったに違いない。素直にハッピーエンドに向かわないようにするため，短い寄り道であるが，ここまでアイリスと観客の共感状態が続いていれば，それを一層強める絶妙な仕掛けになる。

そして，殆ど間を置かず流れるピアノのメロディ。これによってアイリスも観客も一時その存在を忘れかけていたフロイを同時に思い出す。誘われるように室内へと進んだ二人の前にはピアノを奏でるフロイの姿。三人は

手を取り合って互いの無事を喜ぶ。

ここで余計な台詞を入れず，速やかに画面をフェードアウトさせ“THE END”を出すのだが，これは近年では珍しくなってしまったシンプルなエンディングの演出である。

クリエイターとしては，登場人物の口を借りて何か締めくくりのメッセージや挨拶になるような台詞を語りたいと思うのだろうが，それをやらないところに意味がある。

映画作品に於ける締めくくりの台詞は，劇中から観客に発せられるメッセージであることが多い。だが，それを観客が受け取った瞬間，共感状態にあった互いの間に距離が生じてしまう。観客は劇の鑑賞者，つまり当事者ではなく目撃者に戻るのである。

速やかな“THE END”は，それを避けて共感状態を継続させ，劇中の登場人物たちの喜びが，そのまま観客のモノとなるような役割を果たし，成功している。

『バルカン超特急』を初めて観た時，このラストシーンを観ながら微笑んでいる自分に気づいたと複数の知人が語っていた。もちろん私もそうなのだが，このシーンには観客を微笑ませる演出の力が漲っている。

そもそも，視覚芸術とは，見る者の感情を操り，喜怒哀楽を生じさせる役割を果たすべきモノと定義したいのだが，三段階目で訪れる“映画『バルカン超特急』のストーリー全体に架かるハッピーエンド”を描いた本シーンは，まさしく視覚芸術の傑作シーンとすべきと考える。

○演出に於けるテキストの重要性

『映像メディア＝映画』が誕生して，130 年ほどが経つ。

前述したように，メディアとしての進化の速度が非常に速いので，この 130 年の間に重ねた表現及び技術的な革新は，他のメディアと比較すれば，とてつもなく濃い密度を持っている。

そして，今後も技術的な革新は続くに違いない。

誕生当初は想像もできなかったであろう“デジタル技術”の実用化によって，既に記録媒体が全く異なるモノになってしまっており，視聴環境も劇場や放送メディアから情報通信端末へと大半が移行してしまった。さらには VR やホログラフィーによる新たな視覚効果が求められる時代となっている。

しかし，表現に関わる部分はどうだろう？

特に演出面に関して言えば，既に先人に開拓されつくしてしまったようであり，後進のクリエイターたちは，先人が築いた表現技法を踏襲するしか無いようである。

そんな現状において，先人の作品をテキスト化する作業は非常に重要である。

クリエイターをめざす者は，単に映画を観て，それを感覚的に身につけるのではなく，細部に分割したシーンに於いて果たされている演出の役割りを学び，それを自らの作品で効果的に応用できなければならない。

それができなければ，先人たちの名作の劣化版を生み出すだけである。

そんな破目に陥らないよう，先人に学び，踏襲すべきはしつつ，自らの個性や思想を加味し，オリジナルとしていくため，テキストの作成は有意義なのである。

よって，次稿に於いても，演出のためのテキストとすべき作品やクリエイターを取り上げての分析作業を続けていくことにしたい。

[出典（映画）]：※製作年順に記載

『月世界旅行（原題：Le Voyage dans la Lune）』
1902 年製作　スター・フィルム（フランス）
監督：ジョルジュ・メリエス

『大列車強盗（原題：The Great Train Robbery）』
1903 年製作　エジソン社（アメリカ）
監督：エドウィン・スタントン・ポーター

『國民の創生（原題：The Birth of a Nation）』
1915 年製作　ユナイテッド・アーチスト（アメリカ）
監督：デヴィッド・ウォーク・グリフィス

『意志の勝利（原題：Triumph des Willens）』
1934 年製作（ドイツ）
監督：レニ・リーフェンシュタール

『三十九夜（原題：The 39 Steps）』
1935 年製作　ゴーモン・ブリティッシュ（イギリス）
監督：アルフレッド・ヒッチコック

『間諜最後の日（原題：The Secret Agent）』
1936 年製作　ゴーモン・ブリティッシュ（イギリス）
監督：アルフレッド・ヒッチコック

『サボタージュ（原題：Sabotage）』
1936 年製作　ゴーモン・ブリティッシュ（イギリス）
監督：アルフレッド・ヒッチコック

『バルカン超特急（原題：The Lady Vanishes）』
1938 年製作　ゴーモン・ブリティッシュ（イギリス）
監督：アルフレッド・ヒッチコック

『オリンピア（原題：Olympia）』
1938 年製作（ドイツ）
監督：レニ・リーフェンシュタール

『真昼の決闘（原題：High Noon）』
1952 年製作　スタンリー・クレイマー・プロダクションズ（アメリカ）
監督：フレッド・ジンネマン

『地上より永遠に（原題：From Here to Eternity）』

1953年製作　コロンビア（アメリカ）
監督：フレッド・ジンネマン
『七人の侍』
1954年製作　東宝（日本）
監督：黒澤　明
『めまい（原題：Vertigo）』
1958年製作　パラマウント（アメリカ）
監督：アルフレッド・ヒッチコック
『北北西に進路を取れ（原題：North by Northwest）』
1959年製作　MGM（アメリカ）
監督：アルフレッド・ヒッチコック
『サイコ（原題：Psycho）』
1960年製作（パラマウント）アメリカ
監督：アルフレッド・ヒッチコック
『鳥（原題：The Birds）』
1963年製作　ユニバーサル（アメリカ）
監督：アルフレッド・ヒッチコック
『マーニー（原題：Marnie）』
1964年製作　ユニバーサル（アメリカ）
監督：アルフレッド・ヒッチコック
『東京オリンピック』
1964年製作　東宝（日本）
監督：市川　崑
『わが命つきるとも（原題：A Man for All Seasons）』
1966年製作　コロンビア（イギリス）
監督：フレッド・ジンネマン
『引き裂かれたカーテン（原題：Torn Curtain）』
1966年製作　ユニバーサル（アメリカ）
監督：アルフレッド・ヒッチコック
『ダーティハリー（原題：Dirty Harry）』
1971年製作　ワーナー（アメリカ）
監督：ドン・シーゲル

［参考文献］：※引用順に記載

『生活の世界歴史〈10〉産業革命と民衆』
著者：角山榮・川北稔・村岡健次　1992年　河出書房新社
『映画の理論』
著者：ベラ・バラージュ　1970年　学芸書林
『ドキュメント　アドルフ・ヒットラー狂気の野望』
※DVD　2016年　コスミック出版
『真昼の決闘　デジタルリマスター版』
※DVD　2005年　東北新社
『バルカン超特急』
※DVD　2011年　ファーストトレーディング

“Direction techniques in films” Learn from pioneers’ work

KITAJIMA Youichi

Abstract

From its birth in the latter half of the 19th century, visual media has shown rapid growth over just 130 years, establishing itself in modern media. It is a form of “composite art”, which can express information through auditory and visual means, and is able to “record the passing of time,” which was impossible with previous forms of media.

In visual media, especially film, which is an applied art, many creators have produced countless masterpieces, enduring trial and error of skills and expression, and have received massive international support, even in the present day.

Modern creators must produce new films based on the gifts their predecessors have developed and left behind, and in order for that to happen, they must learn the directing skills their predecessors used to manipulate the emotions of the viewer in all kinds of situations, and to use those skills effectively. This paper is written to be one form of a guide to achieve those skills.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 217－224, 2020

芸術実践者のための研究方法論Ⅰ

―E・W・サイード，オリエンタリズム（ポストコロニアル理論）―

梅　田　　力

キーワード：ポストコロニアル理論，E・サイード，オリエンタリズム，研究方法論，実践主導型研究，抽象芸術

概要

本稿は，芸術実践者のための研究方法論集シリーズの第１回目。今回取り上げるのは，エドワード・W・サイードの著書「オリエンタリズム」を参考に，方法論「ポストコロニアル理論」を取り上げる。ポストコロニアル理論は，現在では様々な点が批判されながら大きく展開されているが，その嚆矢となったサイードの著書と主張は，ポストコロニアル理論の基礎として現在でも注目すべきものであろう。そこで，サイードの主張を考察し，芸術実践者である筆者自身の実践を例に，ポストコロニアル理論の方法論を考察する。芸術実践例として挙げるのは，西洋による抽象芸術の独占への批判である。

サイードは精緻なテクストの読解によって「オリエント（東洋）」という概念が，西洋によって作り出された人工物であったこと。また，オリエントは「語られる存在」であり続け，言葉を持たなかったことを暴き出した。さらに，この人工物の底流には非人間的，人種差別主義があり，それが数百年に渡り語られる中で，次第に組織化され，学問化され，やがて信頼すべき「知」となったことを暴きだした。

サイードの示した方法論から（西洋）美術史を眺めると，抽象芸術が西洋で起こり―発展し―衰退したと語られることに対し，なぜ西洋だけが抽象を発見する事ができ，それを批評し，そして終焉を言い渡せるのかといった問いが生まれる。この問いに関わる違和感を著者は芸術実践を通じて感じてきた。これは抽象芸術が西洋によって独占されており，そこには西洋だけが抽象を見つける事ができると言うディスクールが存在しているのではないかと考えた。ここで示す例を参考に，芸術実践者が今後自身の制作や研究にポストコロニアル理論を方法論として使える手引きとなることを念頭に置いた。

１．はじめに

2019 年 5 月に発足した東京大学芸術創造連携研究機構（ACUT）を例に見るように，現在さまざまな分野の研究者が，芸術実践に注目し，研究や教育活動の中に積極的に取り入れることで，知を拡張しようとする取り組みが行われている。果たして，この取り組みは今後さらに発展し，芸術実践は伝統的な学問研究の位置を獲得し得るのか。また，獲得し得るとすれば，どのように位置付けられるのだろうか。

芸術を通じて「知の在り方」を問うことは，芸術分野だけでなく，既存の学問の在り方に揺さぶりをかけ，また様々に登場している新領域にヒントを与え，新たな社会を切り開いていくきっかけとなるのではないかと筆者は考えている。

その一方で，伝統的学問から手を差し伸べられ，芸術実践は利用されているにとどまっていることも，考えていかねばならない。芸術実践者は，活躍の場を与えられるのを待つばかりではなく，芸術実践の側からも伝統的学問に歩み寄り，時には主導権を持って芸術実践者だからこそ獲得し得る知を模索し，学術界に切り込んでいく挑戦的な姿勢が必要だと考える。

学問と芸術実践が交差している点で，多く議論があるのが，芸術実践者による博士号の学位取得問題である。*Share hand book for artistic research* で James Elkins の示した調査によると，日本はイギリスと共に世界的に見ても多くの大学機関が芸術実践者へ Studio Art PhD として，博士号の学位を出せる組織をもっており，2010 年の段階では 26 の大学機関が博士号を出していることに驚きをもって報告している[1]。日本で芸術分野の博士

課程に関する調査は，東京芸術大学（以下芸大）が2008年にリサーチセンターを立ち上げ５年間にわたって行ったものが挙げられる。そこで芸大はこれまでに行ってきた研究が，近年欧米が注目している「Practice-based Research（芸術に基づく研究）」と多く共通していると述べており，それが芸大方式だとしている。この方式では，芸術実践（作品）が，研究の成果物であること。そして，論文の形式は例えばポエム的なものや，学術論文の書き方に縛られない，自由な形式のものも認めている。こうした取り組みは非常に興味深く，期待できる部分もあるが，この点には多く疑問も残る。この問題は，現在国際的にも多く議論されているものであるが，国際化が急速に進む中，果たしてどこまで「芸大方式」が世界で受け入れられていくか注目される。

筆者がこのような点に注目するきっかけとなったのは，英国留学がきっかけであった。英国では研究修士号（Master of Research in Creative Practices）という学位を取得したが，明らかに英国で学んだ事と，芸大方式の「研究」は大きく異なっている。英国の研究修士課程では，学術的な方法論や研究倫理を主に学んだ。研究修士号の学位取得者はPhDの１年目の免除対象とされる事があるため，ここから英国の博士課程のおおよその流れは見て取れる。伝統的な学術研究を理解し，使いこなすには膨大な時間と労力がかかるが，今後様々な学術分野と対話し，利用されるだけでなく，主導権を持って芸術の可能性を広げていくためには，このような知識は必要であると考えている。

このように，学術的な研究の知識を深め，それを芸術実践の中に取り入れていくことで，新たな分野との積極的な交流の可能性が拓けてくると筆者は考えており，そのための第一歩としては方法論の研究が必要不可欠であると考えた事が，このシリーズを書く動機となった。

２．オリエンタリズムについて

参考図書について

芸術実践者のための研究方法論，第１回目となる本稿で取り上げるのは，エドワード・W・サイードの著書「オリエンタリズム」で示された方法論「ポストコロニアリル理論」である。この著作が後のポストコロニアリズム理論の嚆矢となった事は一般に知られている。サイードのオリエンタリズムは1978年に出版されると，大きな議論を巻き起こし，多くの国でも翻訳された。本稿執筆に際して使用したのは，1986年平凡社出版，今沢紀子翻訳（監修板垣雄三・杉田英明）の第９版（1994年）で，上記「オリエンタリズム」の原文翻訳に加え，サイードがその執筆後に受けた批判に対して返答した「オリエンタリズム再考」，杉田英明による「オリエンタリズムと私たち」，訳者あとがきがあり，これらも参考とした。

１）オリエンタリズムの概要

方法論を考えていく上で，まず本書全体を貫くサイードの主張を簡単に取り上げる。サイードの最も重要な主張は，オリエント（東洋）とは，西洋が作り出した「構築物」（サイード的に言えば仕立て上げられたもの）であること。そして，そのオリエント観には，西洋による帝国主義の支配，非人間的な不平等，人種差別が底流している。そして，政治性が文化や学術，一見政治とは無関係に見える，あるいはそう思われている様々な所に，実は大きな影響を与えているどころか，学術的な論拠（真実）として成り立ってしまっているという主張である。

さらに，西洋が東洋について語りえる一方で，東洋は語られるのみで，言葉を持たず，観察される対象でしかなかったと言う指摘も注目すべきだと考える。そしてこれら西洋によって書かれた様々なテクストが，いつしか文化となり，学問となり，権威が生まれ，やがて真実となったと言うことである。サイードはこうして学問となり知識となったものを「オリエンタリズム」と名付けた[2]。

オリエンタリズムとは，オリエントを扱うための―オリエントについて何かを述べたり，オリエントに関する見解を権威づけたり，オリエントを描写したり，教授したり，またそこに植民したり，統治するための―同業組合的制度とみなす事ができる[3]

もう１つ注目すべき点は，西洋がオリエント（東洋）と言う「他者」を作ることで，かえって自分自身のアイデンティティーを作り出したと言う点である。オリエントは西洋で作り出された人工の構築物であると同時に，その他者の構築物を作ることによって自分自身のイメージも作り出したという点も方法論的に注目される点である。

---

[1] ELKINS James, (ed) WILSON, Mick and RUITEN van Shelte, Share hand book for artistic research 2013, http://www.sharenetwork.eu/resources/share-handbook

[2] 監修者の杉田の見解も参考にしている。

[3] エドワード・W・サイード，オリエンタリズム，４p

2）フーコーのディスクール概念の援用

サイードの理論的支柱になったのが，フランスの哲学者，ミシェル・フーコーの「ディスクール（言説）」という概念である。この概念は難解であり，単純に本稿では説明しきれるものではないが[4]，サイードの言葉を借りれば全体像は見えてくる。少し長いが引用する。

私はミッシェル・フーコーの「知の考古学」および「監獄の誕生―監視と処罰」の中で説明されているディスクール概念の援用が，オリエンタリズムの本質を見極めるうえで有効だと言うことに思い至った。つまり言説（ディスクール）としてのオリエンタリズムを検討しない限り，啓蒙主義時代以降のヨーロッパ文化が，政治的・社会学的・軍事的・イデオロギー的・科学的に，また想像力によって，オリエントを管理したり，むしろオリエントを生産することさえした場合の，その巨大な組織的規律＝訓練というものを理解することは不可能なのである。私の見るところでは，オリエンタリズムがそれほどまで権威ある地位を獲得した結果，人は誰でも，オリエントについてものを書いたり考えたり行動したりするさいに，オリエンタリズムが思考と行動に加える制限を受け入れざるをえなかった[5]。

ミッシェル・フーコーは権力に注目し様々な考察を行った哲学者である。サイードが西洋の作り上げられた権力の解体を目指す上で，フーコーの理論と相性がよかったのは間違いない。サイードはいくつかの点で，フーコーとの相違点を主張しているが[6]，多くをフーコーのディスクールの概念に立脚している。

3）サイードの視点

ではなぜサイードがこのような鋭い視点を持ち得たのか。それは彼の出自と無関係ではない（また，これはオリエンタリズムで主張されている事とも同じである）。サイードは1935年にイギリスの委任統治化にあったパレスチナのエルサレムで生まれ，後にエジプト・カイロへ移りビクトリアカレッジで教育を受けた。その後，アメリカに渡りプリンストン大学・ハーバード両大学で学位を取得後，同国コロンビア大学で英文学・比較文学教授となり学究活動に入った[7]。本書でサイード自身も指摘している通り，政治性が思考に影響を与えており，それらは不可分のものであるという主張は，つまりサイードの出自が彼にポストコロニアルな視点を与えたと言うことと無関係ではないのである。

4）批判の方法

次に，サイードは具体的にどのような方法を用いて批判をしていったのかを見る。サイードの肩書きは人文社会学者であると共に，文芸批評家とも称される。この肩書きからもわかる通り，サイードは様々なテキストを読解して，西洋によって数世紀に渡り築き上げられたオリエントを批評・解体した。学術書に限らず，文学作品，政治関係のパンフレット，新聞雑誌の記述，旅行記，さらに宗教学や文献学の研究論文も含まれる[8]と本人は述べている。

この対象には実に多くの作家・政治家・学者が出てきており，ダンテやカール・マルクスといった，歴史的にも著名な作家たちも登場する。サイード曰く，「（鋭い眼差しで，資本主義の問題点を唱えた）マルクスでさ，このオリエンタリズムからは逃れられなかった」と述べている。

また，サイードはこれらのテクストの外在性に注目していることも重要な点である。これをサイードは「私が採用した方法論上の主要な概念装置は，戦略的位置選定と戦略的編成とでも呼ぶべきものである。」[9]と述べ，テクストだけでなく，そのテクストがどういった場所で，どのような意味合いを持ち，あるいはどのように引用されたのか，に特に注目している。また著作同士がお互いに引用をしあっているという指摘も重要だ。

---

[4] 橋下は，テクスト・現実・個別性：E. サイードとポストコロニアリズムにおける文化研究の両義性においてで，―ポストコロニアリズムにおけるこうしたアプローチは，近年さまざまな批判にさらされている。というのも，言説分析は「さまざまな言説に先んじて独立して存在すると考えられた『実体』が，現実には言説によって構築されたものである」ことの暴露によってこそインパクトを生み出すことができたのだが，こうした前提はひるがえって「いかなる社会関係も，それゆえ抑圧や排除も言説と無縁ではなく，したがって言説の中で展開されるがゆえに言説の中で分析可能である」という含意を生じることとなるからである。―と述べている　橋下直人　唯物論研究ジャーナル http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90003919.pdf

[5] 4 p

[6] 23 p フーコーによれば，一般に個々のテクストやさしたる重要性はないという。しかし私は，これまでの経験からオリエンタリズムの場合には（おそらくこの場合に限って）そうではないと考えている。したがって，私はテクストを綿密に解読するという分析方法を用いて，個々のテクストまたは著者とその著者の属する複合的・集合的な編成とのあいだの弁証法的関係を明らかにしようとしている。とサイードは述べている。

[7] 373 p

[8] 23 p

[9] 20 p

5）批判の対象設定とその理由

サイードが批判の対象として扱ったのは，主に 18 世紀以降のイギリス・フランス，そして戦後のアメリカのオリエンタリストであり，多少その他の国や時代，例えばダンテなどが登場するが，それは主張に必要な場合にのみで最小限にとどめられている。地域的限定の理由は，イギリス・フランスが帝国主義を主導で進め，世界の多くの場所を植民地としたという事実からである。そして戦後その役割を担ったアメリカが批判の対象となる。ここにドイツを入れるべきだったという批判があるようで，それに対しては，本書の冒頭でその理由が述べられている。

また，オリエント（東洋）は西洋以外の広大な地域を本来的には指すし，それについて調べることの重要性は語っているが，西洋に最も近く，歴史的にも関わり続けてきている中東・イスラム・アラブの文化に対する西洋のオリエンタリズムについて批判した。これはサイードの出自も関係しているだろうが，地理的に隣接し，歴史の中で常に西洋の最も身近な他者を演じさせられてきたイスラム・アラブあるいは中東に注目したためである。

以上，サイードは，東洋は西洋によって「作り出されたもの」であること事を主張し，その人工物は帝国主義的支配による政治性と深く結びついていること。そしてその根底には，非人間的な不平等と偏見があること。また西洋のみが東洋について語ることができる一方で，東洋は「語られる存在」であり続けたこと。そして，それらは西洋世界の中で連綿と受け継がれ，今では権威ある学問となり，真実と見紛うほどに組織化され，現在でも政治的・経済的・文化的に深い影響を及ぼしていることを主張した。サイードはこのような知識の成り立ちや，大前提となるものが歪んでいる可能性を，様々なテクストを調査対象として読み解いていった。サイードの方法論は，まず社会・政治と言ったものと思考が切り離せないこと，そして批判の特徴としてはその解体をしたことと言える。そして，彼が用いた方法論は，構造主義的であり，我々が大前提として疑わないもの，あるいは無意識に前提としていることに，疑いをかける場合，強烈な効力を発揮すると言えるだろう。

３．実践例：西洋による抽象表現の独占とその批判

最後に自身の芸術実践を例に，どのようにサイードの方法論を使い，どのような研究アプローチの可能性があるか考察した。考察したのは，西洋による抽象表現の独占に関する批判である。

筆者の大きなテーマとして「抽象表現とは何であるか」という存在論的な問いがある。そして，制作を中心としながら，学術研究の面からもこの問いについて迫っていこうと考えている。この理由は，芸術実践者も意識的・無意識的，どちらにせよそれぞれの方法で研究を行なっており，それを制作に取り入れているし，より学術的な方法で説明が出来れば，より多くの人に，制作活動について理解してもらえる可能性があるからである。

筆者の研究を例に挙げると，おおよそ造形の研究と，意味や理論的な研究の２つを行なっている。造形の研究は，自然の形を観察すること。また過去の芸術家の作品，伝統的模様，デザインをはじめ，華道，盆栽，庭園，ジュエリー，ファッション，建築等多岐にわたり，そういったもので使われている構成を研究する事で，造形力の向上に役立てている。

一方で，制作の中で気が付いたことや，沸き起こった疑問が，理論的にはどのように説明されているか，いくつかの著作にあたり学術的に確かめていくことで，より疑問が明瞭になったり，理論的に理解できたりする。そういった作業を重ねていく事で，新たな疑問が生まれ制作が深まっていくということがよくおこる。また，そうした成果を学術的な方法でまとめ発表していくことで，芸術実践者の思考を整理する機会となる。さらに，より多くの人に芸術実践の内容を説明出来ると言う利点もある。その点から考えていけば，学術研究も大きな芸術実践のプロセスとしての側面があると捉える事ができる。実際，今回のサイードのポストコロニアル理論について考察する中で，自分自身の違和感についても理解が進んだ。

では，次に筆者の芸術実践を使って，どのようにポストコロニアル理論の方法論から研究していく可能性があるかを見ていく。著者は芸術実践者としてこれまで 20 年近く，一貫していわゆる抽象彫刻・抽象絵画（非対象的表現）を制作し発表を続けてきた。これまで，英国への大学院留学を含め，様々な現代美術に触れる機会は少なくなかったように思うが，抽象表現への可能性を感じ続け，基本的にはそのスタイルを変更することなく，これまで一貫した制作を続けてきた。マンネリズムに陥ってしまったと感じたことは今のところ感じたことはない。

その一方で，制作を重ねるうちに，抽象という表現が，これまでの括りだけでは，言い切れるものではないと感じるところが出てきた。そのため，次第に抽象表現という言葉が，自身の制作を言い表す心地よい呼称ではなくなってきており，今ではどこか違和感さえ残るように

なった。ここでは実際に研究するわけではなく，方法論にとどまっているが，それでも十分その可能性を示すことができると思う。

今回のサイードの著作を読み進めるにつれ，西洋で生まれ，発展したとされる抽象表現について再考し，自身の持っている抽象への違和感について考え，改めて発展的可能性を感じ，制作を深化させていく可能性を見出すことが出来た。サイードの方法論，特にフーコーのディスクール概念からの援用したものから考えると，文化・知識と言った一見，純粋に学術的な揺るぎない知が実は社会，そして権力と深く結びつき，その意味が生成に大きく影響されていくという主張は参考になった。以下，この点を踏まえてまず抽象芸術の歴史を見ていく。

1）抽象芸術の定説

抽象表現は1910代に突如ヨーロッパで同時多発的に発生し，その後，戦時中にアメリカに渡ったヨーロッパの作家達が影響を与え，戦後アメリカで発達した。そして特にポロックらを筆頭に，アメリカ・オリジナルな絵画として「抽象表現主義」が登場した。抽象表現主義は，モダンアートを代表し，「世界中」で大きな影響力を持った。その後，抽象表現主義は，ポップアート等の登場により次第に衰退した，というのが「定説」であろう。

この定説を，サイードの示したポストコロニアル理論に則って見れば，その歴史を批判し，解体出来る可能性があることは明らかだろう。まず，サイードの批判した帝国支配とオリエンタリズムの歴史と，これまで定説として語られてきた抽象芸術の美術史は見事に一致する。そこにはオリエント（東洋）美術の流れが全くと言っていいほど登場しない。果たして，抽象表現は，西洋においてのみ生み出すことが出来る芸術で，また西洋のみがそれについて語ることが可能であり，さらにそれらは終焉の宣言をされるということが本当に可能であるのか。可能であれば，その根拠はどこにあるのか。サイードの批判を考えれば，これらを語るために西洋が施してきた，想像力から学術となり，やがて確固たる知の権威になり，真実の歴史となった経緯を，批判的に考察することが出来る。

さて，自身の制作の歴史を振り返ってみると，抽象表現を始めた頃は，ジョアン・ミロやデ・クーニングといったまさしく西洋（ヨーロッパからアメリカ）の抽象的な表現をした作家に影響を受けた。また，アメリカで育ち，教育を受けた私の学部時代の恩師も，抽象の流れを汲んだ人物であった。そう考えれば，抽象表現主義の真似事から，私の制作がスタートしていることは否定できない。しかしながら，制作を続けるにつれ，次第にこれまでの語られてきた抽象が全てではないと考えるようになったことが挙げられる。

その大きな理由の1つに，日本の茶道に抽象的概念が多く含まれているという事実を実感したことが挙げられる。千利休と秀吉の間で繰り広げられた朝顔の物語。茶匠たちが愛した短歌。聚楽第にあったとされる利休好みの茶室「待庵」には，ミニマリズム的要素があるし，茶道具には様々な抽象的な美が見られる。そして，これらの美的感覚からの影響は，制作を始めた頃の西洋の作家と同じように大きな影響を受けてきた。

ここで言いたいことは，日本の抽象芸術の方が，西洋のそれよりも伝統があると言った愛国主義的な主張ではない（それはサイードがしなかったことであり，そうすることを否定している立場をとっている[10]）。それでも，少なくとも抽象表現が西洋で始まり，終わったとされる定説に関しては，解体の可能性があるという批判の目を向ける理由とはなるだろう。

批判の対象として，まず挙げられるのは，抽象表現主義の作家，そしてその表現を語り擁護した批評家クレメント・グリーンバーグをはじめとする彼らをスターへのし上げた批評家やギャラリーの政治的・社会的・さらには学術的な立場と発言，それらが力を持ち得たシステム全体であろう。アメリカという国の世界的な状況も批判の対象となり得る。グリーンバーグはカール・マルクスのスーパー・ストラクチャー理論を用いていくつかの論文を書いているが，マルクス自体，サイードの批判の対象となっていることも注目すべき点である。またグリーンバーグが論文[11]で取り上げている詩人のフローベールは，オリエンタリストとして，サイードによって痛烈な批判を受けた小説家である。この点を考えても，グリーンバーグの構築した理論に，オリエンタリズム的な要素が含まれているかどうかを検討することは有意義であろうと考えられる。

次に，挙げられるのは，いわゆる抽象芸術の第一世代，

[10] オリエンタリズム再考　342p

[11] グリーンバーグの書いたいくつかの論文，例えば「モダニズムの起源」を見れば，グリーンバーグがフローベールに影響を受けている事が見て取れる。

抽象を生み出したとされるヨーロッパの作家たちについての批判である。モダンアートの特徴として，新しさは重要な意味を持つ。つまり，それらを創造し生み出した人々には大きな価値が生まれる。これらが生み出される背景にはどのような仕組みがあったのか，批判的に考察することは可能であろう。

例えば，抽象芸術を生み出した要因の１つされるキュビズム。その代表的な作家の一人であるパブロ・ピカソは，「アヴィニョンの娘たち」でコンゴに住む部族の仮面彫刻を取り入れた。これらは「プリミティブアート（原始美術）」と呼ばれ，そこからインスピレーションを受けていると言われている。ピカソはこのアフリカの芸術をどのように目にし，語ったのだろうか。なぜ西洋にそう言った芸術を持ち込むことが出来たのか。またそうした芸術を取り入れて，アレンジしえたのは，西洋人で白人であったピカソである。なぜそれらはプリミティブと呼ばれ，取り入れられるべき立場となったのか。そして，ピカソはプリミティブアートをどう捉え，どのように語ったのか。批判の対象として考える事ができるだろう。

抽象芸術が歴史的に不動の定説を獲得した問題の根深さは，日本の美術シーンにも見て取ることが出来る。例えば，上で述べた「定説」は日本の中・高の教科書の美術の時間に使う教科書中では定説のものとして語られているし，日本国の芸術と比較しながら，あるいはそれよりも重要な伝統，あるいは揺るぎない美の基準として教えられる（教員の立場からは教える）。それらがまさに美術の歴史として，公共的に教えられている。さらに，「もの派」や「具体美術協会」等，日本のアバンギャルドな芸術動向は西洋によって語られることで「世界的」な評価を得た活動として今までの日本に伝えられ，日本が世界に誇る芸術活動の１つとして語られている。

サイードはこの点に関しては，大きく扱っていないが，オリエンタリズムは西洋にだけでなく，オリエントの中にも非常に強い生命力を持って，真実となって語られている。これらは西洋の想像力によって描かれた，西洋にとって都合のいい人工物であるが，その人工物は「世界」のスタンダードであり，そこに認めてもらえなければ，世界的ではないというような学術的抑圧は，西洋から見れば極東オリエントの日本人の至る所まで浸透しており，しかもその点について，疑問を持たずに現在も教育に取り入れられ，再生産され続けている。サイードの鋭い眼差しから生まれたオリエンタリズムの浸透は，このまま無批判にしておくべきではなく，改めて考え直していく必要がる。

2）ポストコロニアル理論による「絶対」の否定

上で示した通り，ポストコロニアル理論によって，西洋の抽象芸術の独占について大いに批判できる可能性を示した。しかし，その一方で，このポストコロニアル理論は諸刃の剣にもなりかねない。なぜなら，ポストコロニアル理論は，抽象表現が拠り所にしてきた「絶対性」あるいは「純粋性」を否定するためである。いくら純粋な構成をしていても，それらは必ず何らかの社会的，政治的な影響があると言う事。絶対的に抽象的な作品は存在しないということになる。著者が日本の茶道やその他の構成に影響を受けていることからも，この姿勢は明らかである。筆者は以前，別のアプローチで芸術の絶対性について考察したが，その際も最終的には物理的な要因にぶつかり，完全に絶対的で芸術的なものは存在しないという結論に至った。抽象表現は，その性質的に純粋，あるいは絶対的な芸術を目指すが，それはそうした方向へ「向かう」のみであって，哲学的には，決して辿り着くことはないと言う結論に至ることも踏まえておく必要がある。

3）批評の方法

最後に，サイードが批判のために使ったテクストについても考えたい。サイードはあらゆるものがテクストになり得ると語った。これを美術の歴史の解体を前提に考えれば，文献はもちろんのこと，イメージ（作品），それらが飾られるギャラリーの発信と，そのギャラリー（私営・公営含め）が美術界の中でどのような位置付けをされており，ディスクールが作られているかということ。批評家の言葉，マスメディアの報道も検討すべきテクストとなる。また，実践としては，芸術実践者が前提としている美についても，厳しい批判の眼差しで見つめると，オリエンタリズムが見えてくる可能性は十分にあり，それらも批判すべき「テクスト」として考える事ができるだろう。様々な現象の前提に疑いの目を向けると，至る所にオリエンタリズムは蔓延っており，それらを分析の対象にすれば，それらは意味のあるテキストとなる可能性がある。

以上，オリエンタリズムの概要，ポストコロニアル理論の方法論について，そして著者の芸術実践を例に，どのような研究があるか示し，最後にポストコロニアル理論を用いた場合の抽象表現の限界も示した。ここで著者が示した例はほんの一例であり，また歴史的視点からの研究の可能性のため，新しい研究の方向性ともいえない。当然，この方法論からもっと多様な研究が可能である。また，3-2）で示した通り，ポストコロニアル理論には，抽象芸術において特に重要な概念である，芸術の絶対性

や，純粋性といったものも否定される。それでも，ポストコロニアル理論を制作に取り込むことで，終焉的扱いを受けている抽象表現の発展可能性を示すことは出来たと考えている。今後，本稿で示したポストコロニアル理論を参考に，読者が研究を組み立て，自身の制作に活かしてもらえれば幸いである。

参考文献

エドワード．W. サイード　オリエンタリズム　平凡社

Clement Greenburg，藤枝晃雄　グリーンバーグ批評選集　筑摩書房

ウヴェ・フリック著　小田博志監修　小田博志，山本則子，春日常，宮地尚子訳　新版質的研究入門―〈人間の科学〉のための方法論　春秋社

Lechte John, Fifty Key Contemporary Thinkers

20 世紀の美術　末永昭和監修　美術出版社

Wilson Mick and Ruiten Schelte van (ed), SHARE Handbook for Artistic Research Education http://www.sharenetwork.eu/resources/share-handbook

Candy Linda, Edmonds Ernest, Practice-based Research in the Creative Arts Foundation and future from the front line, Leonard, Vol.51, The MIT Press Journals, https: //www. mitpressjournals. org/doi/pdfplus/10.1162/LEON_a_01471

東京藝術大学リサーチセンター成果報告（2008-2012）https://www.geidai.ac.jp/rc/

星槎道都大学研究紀要　美術学部
第１号　2020

Methodology study for art practitioner 1

― Orientalism by E. W. Said (Postcolonialism) ―

UMEDA Isao

Abstract

This is methodology study series for art practitioner, part 1. This time, we are going to investigate methodology of *Orientalism* written by Edward. W. Said (Postcolonial theory). Nowadays, Although postcolonial theory has been diverged and discussed, Said's assertion through the book *Orientalism* still useful for understanding basic idea of postcolonial theory because of it has been seen as foundation of the theory. Hence, we are going to study his assertion and apply it to the art practice of author, who are art practitioner, for postcolonialism methodology as an example of application. As a sample of practical study is critique for the monopolization of abstract art by the "West"

Said disclosed through detailed reading the text that the concept of "Orient" is the artifact that made by the "West" and "Orient" had never had voices to speak themselves. Furthermore, the imagination of the West underlies inhumane racist ideology and it conveyed and talked repeatedly more than centuries, the artefact had become gradually organized, academicized, and then finally it became knowledge of the truth.

To see history of (Western) art from Said's point of view, it is suspicious that why abstract art created-developed ― decayed in only the "West". It is also the question is generated that why only western can critique, find out, and sentenced the end for abstract art. Through the art practice, the author has felt discomfort that is similar reason to the question. So that we hypnotized the abstract art is monologized by the West and there is discourse that only the West can discuss and decide about what is abstract art. Overall, this study envisage a guide to represent how postcolonialtheory can be used for methodology for art practice.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 225－233, 2020

火山礫軽量コンクリートの直接二面せん断強度に関する基礎的研究

長　森　　正

要約

本研究は北海道に広く分布している火山礫の支笏降下軽石を，軽量コンクリートの粗骨材として有効活用する目的で実施した一連の強度試験である。これまでに軽量コンクリートの粗骨材として利用した火山礫コンクリートに関する圧縮，引張，曲げ，付着及び繊維補強等の様々な基礎的強度性状について実験研究[5)~9)] を実施してきた。本論文ではせん断強度に関する文献[1)~4)]，等を参考にして，曲げ強度試験体を利用した直接二面せん断試験法によりせん断強度試験を実施して圧縮強度，引張強度，曲げ強度との関係を改めて確認した。結果として直接二面せん断強度と圧縮強度との相関関係について検討した結果，一般的に推定されている圧縮強度 f_c の 1/4～1/6 程度の値に近似した結果を示し，圧縮強度からの推定が十分可能であることを確認した。

1．はじめに

コンクリートの分野において単に「強度」といえば「圧縮強度」を示している。一般的にコンクリートの各種強度（引張強度・曲げ強度・せん断強度）等は，圧縮強度から概ね推定することができる。その値は圧縮強度 18～60 N/mm^2 の範囲では下記に示すような値として推定されている。引張強度は圧縮強度の 1/10～1/13，曲げ強度は圧縮強度の 1/5～1/7，せん断強度は圧縮強度の 1/4～1/6 程度とされている。また鉄筋コンクリート構造の設計手法の一つである許容応力度設計法では圧縮，せん断，付着の 3 種類の許容応力度が設計値として設定されているが，いずれも圧縮強度である設計基準強度 F_c に対する算定式となっている。また JIS 試験方法では圧縮強度，引張強度，曲げ強度は確立されているが，せん断強度は JIS 試験方法がなく圧縮強度から推定されている現状であり，決定的な基準化された試験方法は確立されていない。これはコンクリートのせん断強度試験方法は従来から国内，国外をあわせても数多くの方法が提案されてきたが，載荷方法や試験機具，供試体形状の複雑化などに一長一短があり，得られるせん断強度にも大きな差異が生じるとされてきた理由による。

これまでに筆者は火山礫を軽量コンクリートを粗骨材として利用した火山礫コンクリートに関する圧縮，引張，曲げ，付着及び繊維補強等の様々な基礎的強度性状について実験研究[5)~9)] を実施してきたが，上述した理由からこれまでにせん断強度に関して直接試験は実施していない。そこで本論文ではせん断強度に関する研究文献[1)~4)]，等を参考にして，曲げ強度試験体を利用した比較的簡単に試験ができる方法で直接二面せん断強度試験を実施する。この試験は直接二面せん断法として実施されている試験方法で，上述した文献から破壊性状が比較的実せん断破壊の様相に近く，広く行われている試験方法である。

本論文ではコンクリートのせん断強度の基礎データを上述した曲げ強度用試験体を利用した直接二面せん断法によりせん断強度試験を実施してデータを取得し，圧縮強度，引張強度，曲げ強度との関係を改めて確認することを目的とし比較検討するものである。

2．実験概要

2.1　使用材料

本実験で使用した火山礫は北海道中部から東部一帯に広く分布しており，北海道早来町美々地区で採集したものである。分類される名称は支笏降下軽石（Spfa-1）と呼ばれるもので化学組成は人工軽量骨材よりも SiO_2 がやや多い割合となっている（表 1）。支笏降下軽石（Spfa-1）の物性は産地により異なるが，よく発泡した絹糸光沢を持つ白色及び桃色の降下軽石である[15)]。この支笏降下軽石は多孔質で内部に空隙が多数存在しており，粒形は角ばり，実績率は 50%程度と低い値を示す。写真 1 に支笏降下軽石（Spfa-1）を示す。絶乾密度は軽量粗骨材に比べ約 0.6 倍のおよそ 0.78 g/cm^3，表乾密度は約 0.7 倍のおよそ 1.17 g/cm^3 を示す（表 2）。また 24 時間吸水率は 4 倍を超える約 46%，単位容積質量は約 0.5 倍を示し，低密度と高い吸水率の火山礫である。また絶乾

状態から水中に浸水させた場合の吸水速度は，多孔質のため速く浸水後３時間で 24 時間吸水率の 70%，９時間で約 94%を示す。浸水 24 時間以降５日間までの吸水率の変化はおよそ 5~7%程度の増加を示す（図１）。この支笏降下軽石を粗骨材として利用するためふるい分け試験を行い，粒径５mm 未満は除去し５mm から 15mm のものを粗骨材として粒度調整した。また本実験に使用した軽量コンクリートの人工軽量骨材は，膨張頁岩を原料とした非造粒型を使用した。

図１に支笏降下軽石と軽量骨材の浸水経過時間と吸水率の関係を示す。表２に火山礫骨材・人工軽量骨材・普通骨材の物理的性質を示す。

表１　支笏降下軽石及び人工軽量骨材の化学組成

支笏第一降下軽石 [Spfa-1]	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	Fe_2O_3	MnO
	78.32	0.15	12.39	1.40	0.08
	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	分析
	0.17	1.50	3.80	3.50	WDS※
人工軽量骨材	SiO_2	Al_2O_3	Fe_2O_3	CaO	MgO
	67.40	17.20	3.90	1.50	1.00

※WDS：波長分散型スペクトロメーター
1）2004北海道恵庭市詳細分布調査報告書カリンパ3遺跡(3)

表２　骨材の物理的性質

種類	絶乾密度 (g/cm^3)	表乾密度 (g/cm^3)	吸水率※ (%)	単位容積質量 (kg/m^3)	実積率 (%)
火山礫	0.78	1.17	46.2	393	50.4
軽量粗骨材	1.25	1.61	9.7	794	63.5
軽量細骨材	1.68	2.01	9.8	1110	66.1
普通粗骨材	2.66	2.72	2.07	1650	62.0
普通細骨材	2.44	2.57	2.9	1660	68.0

※24時間吸水率

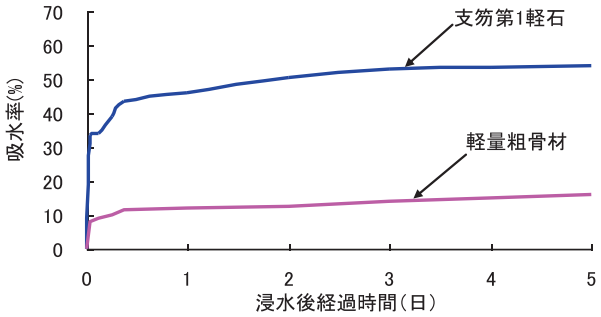


図１　吸水率と経過時間の関係



写真１　支笏降下軽石（Spfa-1）

2.2　調合方法

コンクリートの種類は骨材種別，圧縮強度の大小から検討し，普通コンクリートを NA，人工軽量コンクリート２種を LA，火山礫コンクリートを L50 及び L100 とした４種類とする。これらの圧縮強度は既往の実験[6]から，10 N/mm^2～40 N/mm^2 程度の範囲である。本実験では軽量コンクリート２種を基準とし，粗骨材に対し支笏降下軽石を容積比で 50%と 100%の２種類容積置換したものを火山礫コンクリートとした。

調合は普通コンクリートを NA として，設計基準強度 F_c：24 N/mm^2，スランプ 18 cm，粗骨材最大寸法 G_{max}：20 mm，人工軽量コンクリート２種を LA として，標準調合から，呼び強度 24 N/mm^2，水セメント比 48%，スランプ 18 cm，目標空気量５%の組み合わせを使用した。火山礫コンクリートは容積比で 50%置換した調合を L50，100%置換した調合を L100 とした。使用したセメントは普通ポルトランドセメント（密度 3.15 g/cm^3），混和剤は AE 減水剤を単位セメント量の 0.25%使用した。またコンクリート製造時の骨材含水状態は 24 時間以上十分に吸水させ，表面水を除去し表乾状態として使用した。

普通コンクリートの調合表を表３に，軽量コンクリート２種の調合表を表４に，火山礫コンクリートの調合を含む４種類の調合表を表５に示す。

表３　普通コンクリート調合表

種類	設計基準強度 (N/mm^2)	W/C (%)	s/a (%)	スランプ (cm)	空気量 (%)
普通コンクリート	24	57	41	18	4.5
	単位量(kg/m^3)				
	W	C	S	G	AE減水剤
	180	314	722	1072	0.78

W：水，C：セメント，S：普通細骨材，G：普通粗骨材，s/a：細骨材率

表４　軽量コンクリート２種調合表

種類	呼び強度 (N/mm^2)	W/C (%)	s/a (%)	スランプ (cm)	空気量 (%)
軽量2種	24	48	49	18	5.0
	単位量(kg/m^3)				
	W	C	S	G	AE減水剤
	180	375	641	535	0.94

W：水，C：セメント，S：軽量細骨材，G：軽量粗骨材，s/a：細骨材率

表５　調合表

種類	W/C	単位量(kg/m^3)					
		W	C	S	G	火山礫	備考
NA	57	180	314	722	1072	－	普通
LA	48		375	641	535	－	軽量2種
L50	48				267	194	火山礫50%
L100	48				－	388	火山礫100%

2.3　試験方法

せん断試験に関しては，文献[1)~4)]を参考にして 4 点載荷による二面せん断強度試験を検討する。これは JIS には規定されていないが，関連学協会等では鋼繊維補強コンクリートを対象とした二面せん断試験方法が提案されている。土木学会では「JSCE-G553 鋼繊維補強コンクリートのせん断強度試験方法」[10)]，コンクリート工学会では「JCI-SF6 繊維補強コンクリートのせん断強度試験方法」である。今回のコンクリートは繊維補強ではないが，上記試験に準拠して実施する。

二面せん断強度試験タイプの試験方法は，曲げ試験終了後の二つに切断された試験体を再利用する。これは新たに製作する必要が無く，さらに曲げ強度の確認できた供試体でせん断強度も同時に試験することが出来る利点があるためである。圧縮・引張・曲げ・せん断試験の各試験方法は以下に示す JIS 試験に準拠して実施する。

①JIS A 1108「コンクリート圧縮強度試験」
②JIS A 1113「コンクリート割裂引張試験」
③JIS A 1106「コンクリート曲げ強度試験」
④JSCE-G502「コンクリートの静弾性係数試験」
⑤JCI-SF6「繊維補強コンクリートのせん断強度」
⑥JSCE-G553「鋼繊維補強コンクリートのせん断強度試験方法」

圧縮・引張試験の供試体はΦ100×200 mm の円柱供試体とする。曲げ試験の供試体は断面 100×100 mm，長さ 400 mm の角柱とし，3 等分点載荷法による試験とする。せん断試験体は曲げ試験終了後の切断された破断試験体とする。なお供試体の養生方法は 20℃水中養生とした。

図 2.2 に二面せん断試験の載荷図を示す。

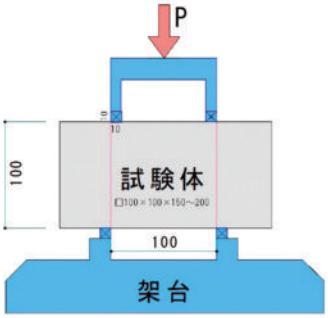


図 2　二面せん断試験載荷図

3．結果及び考察

3.1　硬化コンクリートの性状

硬化コンクリートの試験結果を表 6 に示す。圧縮強度試験，割裂引張強度試験の結果はそれぞれ 3 本の平均で試験材齢は 28 日水中養生（20℃）とした。

(1)　圧縮強度特性

基準の普通コンクリート NA の 2340 kg/m^3 に対して，軽量コンクリート LA が 1700 kg/m^3，火山礫 50%置換タイプ L50 が 1672 kg/m^3，火山礫 100%置換タイプ L100 が 1584 kg/m^3 を記録した。普通コンクリートに対して密度の低減率は，LA が 27%，L50 が 28%，L100 が 32%となった。また軽量コンクリートの粗骨材に火山礫骨材を 50%及び全量 100%置換した場合は，約 7 %の密度の低下を記録した。

普通コンクリート NA は設計基準強度に対して平均値が 26.1 N/mm^2 を記録しほぼ設計値と等しい値を記録した。それに対し，軽量コンクリート 2 種 LA は標準調合表の呼び強度 24 N/mm^2 に対して平均値が 36.2 N/mm^2 を記録し大きく上回る値をしめした。過去の実験結果からも呼び強度よりも上回る傾向を示しているので，調合強度をより安全側に多く取っていると思われる。

火山礫置換コンクリートは 50%置換した L50 タイプで 22.1 N/mm^2 を，L100 タイプで 16.3 N/mm^2 を記録し，基準の軽量コンクリート LA のそれぞれ約 61%と 45%を記録した。この値はこれまでの既往の実験結果をほぼ同じ値であり，圧縮強度発現率は火山礫 50%置換で約 60%，粗骨材を全量置換した 100%では約 40%程度の圧縮強度が見込めることがわかる。図 3 に各調合の圧縮強度の比較図を示す。

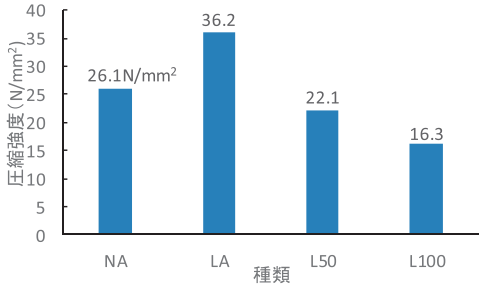


図 3　圧縮強度試験結果

表 6　試験結果

記号	スランプ	見掛け密度	圧縮強度	偏差	引張強度	偏差	曲げ強度	偏差	静弾性係数×10^4	せん断強度	備考
	(cm)	(kg/m^3)	(N/mm^2)		(N/mm^2)		(N/mm^2)		(N/mm^2)	(N/mm^2)	
NA	15.5	2340	26.1	1.1	2.3	0.6	3.0	0.7	2.43	5.82	普通
LA	18.7	1699	36.2	0.9	2.5	0.8	2.2	0.6	1.55	5.33	軽量2種
L50	17.6	1672	22.1	5.1	2.1	0.7	2.3	0.3	1.46	4.18	火山礫50%
L100	17.0	1584	16.3	1.6	1.6	0.2	1.9	0.1	1.09	3.81	火山礫100%

(2)　圧縮強度と静弾性係数

圧縮強度と静弾性係数の関係を図４に示す。なお図中には日本建築学会の「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説許容応力度設計法 1999」[11] によるコンクリートの静弾性係数に関する規準式（旧来式）の参考曲線を記入した。（１式）

$$E = 21000 \times (\gamma/23)^{1.5} \times (F_c/20)^{1/2} (N/mm^2) \quad (1)$$

γ：コンクリートの気乾単位体積重量（kN/m^3）

F_c：コンクリート圧縮強度（N/mm^2）

但し，実験値の見掛け密度は表６に示すように差があるため，コンクリートの気乾単位体積重量は γ ＝19，20 kN/m^3 の２種類の規準式を記載した。

見掛け密度の平均値は NA が 23.4 kN/m^3，LA が 17.0 kN/m^3，L50 が 16.7 kN/m^3，L100 が 15.8 kN/m^3 ある。静弾性係数の値は NA で 1.77～2.46×10^4 N/mm^2，LA で 1.51～1.57×10^4 N/mm^2，L50 で 1.29～1.78×10^4 N/mm^2，L100 で 1.05～1.13 の範囲を示した。ややバラツキがあるが LA と火山礫タイプは規準式曲線付近の γ ＝18～20 kN/m^3 付近に各データはプロットされている。したがって本実験の圧縮強度と静弾性係数の関係では，概ね単位容積質量に対応した RC 規準式の近くに分布しており，比較的良い相関が認められた。

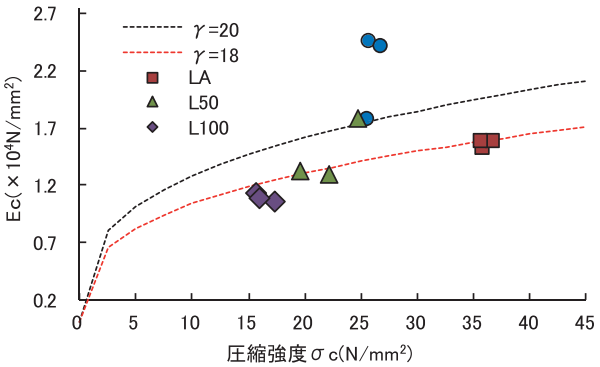


図４　圧縮強度と静弾性係数の関係

(3)　引張強度特性

引張強度は基礎的データ収集の目的と簡便な試験方法であることから割裂引張強度試験により実施した。普通コンクリート NA が 2.3 N/mm^2，軽量コンクリート２種 LA が 2.5 N/mm^2，火山礫 50% タイプ L50 が 2.1 N/mm^2，火山礫 100% タイプ L100 が 1.6 N/mm^2 を記録した。

圧縮強度と割裂引張強度の関係で σ_t/f_c を検討すると，NA が約 1/11，LA が約 1/14，L50 及び L100 が約 1/10 を記録した。LA は圧縮強度が 36.2 N/mm^2 と大きな値を記録したことから，割裂引張強度比は 1/14 と一番低い値を示したが，NA・L50・L100 は一般的に示されている通り圧縮強度に対する値が 1/10 程度を記録しており，概ね妥当な値であった。

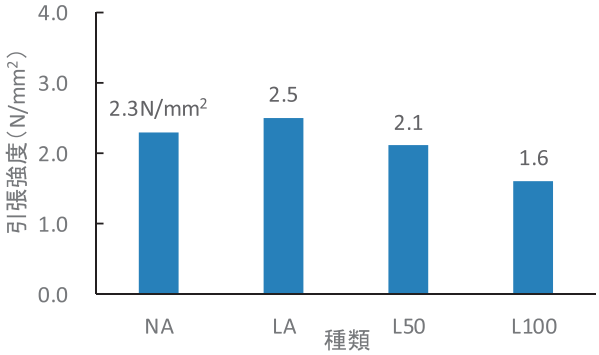


図５　引張強度試験結果

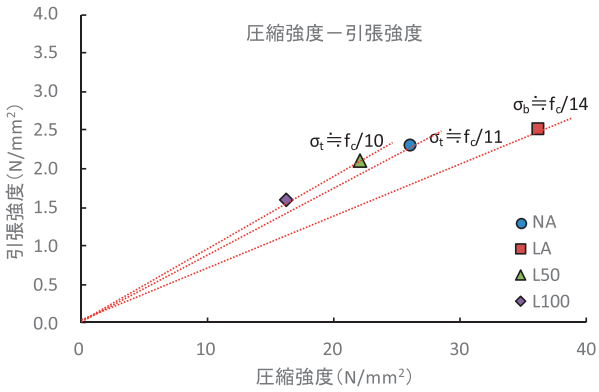


図６　圧縮強度と引張強度の関係

図５に引張強度の比較図を，図６に圧縮強度と引張強度の関係図を示す。

(4)　曲げ強度特性

普通コンクリート NA は 2.68 N/mm^2 から 3.30 N/mm^2 の幅を示し平均で 3.00 N/mm^2 を記録した。軽量コンクリート２種 LA は 1.83 N/mm^2 から 2.45 N/mm^2 の幅を示し平均で 2.19 N/mm^2 を記録した。火山礫 50% タイプ L50 は 2.14 N/mm^2 から 2.41 N/mm^2 の幅を示し平均で 2.31 N/mm^2 を記録した。火山礫 100% タイプ L100 は 1.88 N/mm^2 から 2.01 N/mm^2 の幅を示し平均で 1.94 N/mm^2 を記録した。

以上の結果から曲げ強度は普通コンクリート NA が高い値を示した。軽量コンクリート２種 LA は NA よりも圧縮強度が 1.38 倍と高強度であるが，曲げ強度では NA の 0.73 倍と低い値を記録した。これは人工軽量粗骨材は軽量であるが骨材自体が外力により割れが多数確認されていることから，割裂引張強度と同様に曲げ強度は低い値を記録したと思われる。また火山礫 50% タイプの曲げ強度は LA と５％程度の強度差であり殆ど差異は無い結果であった。ここことから軽量コンクリート２種の調合に低強度の火山礫を 50% 程度置換しても曲げ強度の大きな差は無い結果を示した。また予測通り火山礫 100% タイプ L100 は低い値を記録した。人工軽量粗

骨材を全量火山礫で置換した場合は 12%程度の曲げ強度低下が確認された。図 7 に曲げ強度の比較図を示す。

(5) 直接二面せん断強度特性

従来コンクリート構造物の設計において，コンクリートの純せん断強度が問題にされることは少なく，せん断強度を試験によって直接求める例は少なく稀である。

JIS には規定されていないが，関連学協会等では鋼繊維補強コンクリートを対象とした二面せん断試験方法が提案されている。土木学会では「JSCE-G553 鋼繊維補強コンクリートのせん断強度試験方法」[10]，コンクリート工学会では「JCI-SF6 繊維補強コンクリートのせん断強度試験方法」である。今回のコンクリートは繊維補強ではないが，上記試験に準拠して実施した結果である。

JIS 試験要領に準拠して，3 等分点載荷法による曲げ試験を実施した後，その破壊された両端の試験片を 4 点載荷による二面せん断試験を図 2 に示すように実施した。NA のせん断強度が最大で 5.82 N/mm^2，LA が 5.33 N/mm^2，L50 が 4.18 N/mm^2，L100 が 3.81 N/mm^2 を記録した。普通コンクリート NA と軽量コンクリート 2 種 LA の圧縮強度差は LA が 1.38 倍と大きいが，せん断強度差は LA が 10%程度で低い値を示した。せん断強度も曲げ強度と同様に，軽量コンクリート 2 種の人工軽量粗骨材自体が外力による割裂（割れ）することが関係すると思われる。火山礫 50%タイプ L50 は軽量コンクリート 2 種 LA の約 0.8 倍，火山礫 100%タイプ L100 は LA の約 0.7 倍程度の値を示した。また L50 と L100 とのせん断強度差は約 9 %程度であった。

全般的なせん断破壊状況は二面あるせん断面のうち，どちらかの面に脆性的にせん断破壊が生じる破壊タイプと，中央部に微細な曲げひび割れが発生し，その後最大荷重載荷時にどちらか一方のせん断面に脆性的にせん断破壊が生じるタイプの 2 種類が見受けられた。両側のせん断面が同時にせん断破壊する状況は発生していない。

せん断強度の比較図を図 8 に示す。試験時のせん断破壊状況の一例を写真 2，写真 3 に示す。

(6) 曲げ強度と圧縮強度の相関関係

コンクリートの曲げ試験方法には，中央点載荷法と 3 等分点載荷法がある。3 等分点載荷法が一般的であり，破壊時の曲げモーメントを断面係数で除して求める方法である。中央点載荷法と比較すると見掛けの曲げ強度は小さくなる。これは中央点載荷法の曲げモーメントが最大 1 断面に限定されるのに対し，3 等分点載荷法は載荷点間の中央がすべて同一曲げモーメントとなり，その中央間の最も弱い断面で破壊することに関係している。なお，3 等分点載荷法によって求めた曲げ強度は，一般的

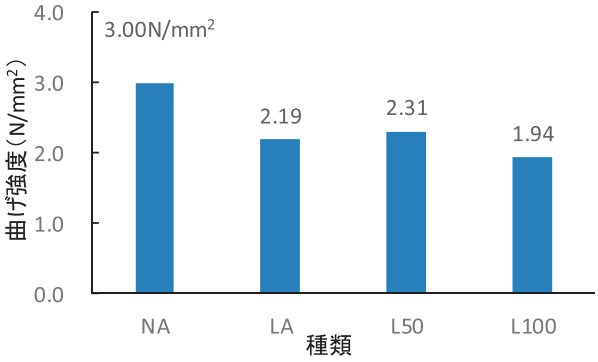


図 7　曲げ強度試験結果

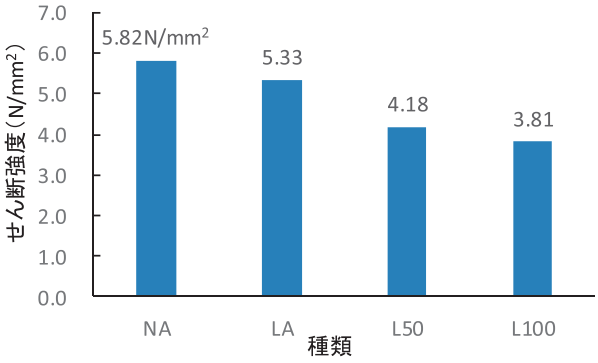


図 8　せん断試験結果

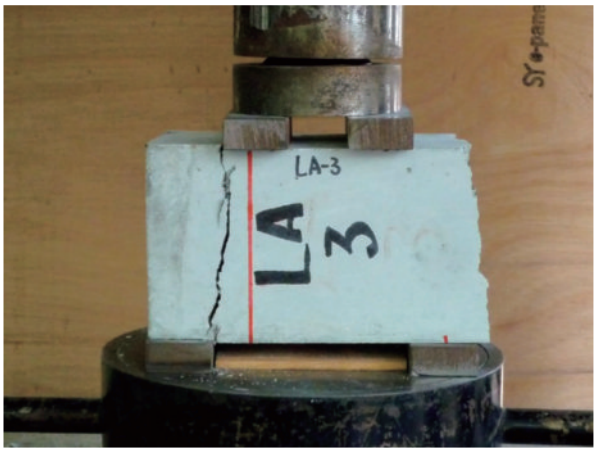


写真 2　せん断破壊状況（左せん断面）

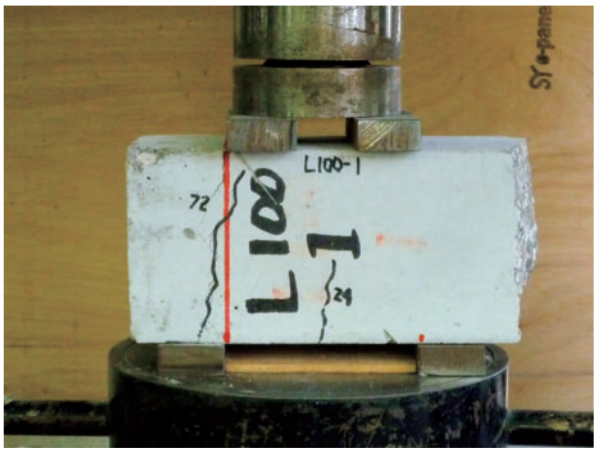


写真 3　せん断破壊状況
（左せん断面及び中央部曲げひび割れ）

な値として圧縮強度の 1/5～1/8 程度である。

このことから実験値の σ_b /f_c を検討してみると，普通コンクリート NA と火山礫タイプ L100 はほぼ同じ値で約 1/8～1/9 であった。火山礫タイプ L50 は約 1/10。軽量コンクリート 2 種 LA は圧縮強度が設計呼び強度よりも著しく大きな試験値のため，約 1/16 を記録した。

図 9 に曲げ強度と圧縮強度の相関関係図を示す。

(7)　曲げ強度と直接二面せん断強度の相関関係

曲げ強度 σ_b と直接二面せん断強度 τ の平均値の相関関係を［τ/σ_b］で検討してみると，次のような結果を得た。

・普通コンクリート NA：　$\tau \fallingdotseq 1.94\,\sigma_b$
・軽量コンクリート 2 種：　$\tau \fallingdotseq 2.43\,\sigma_b$
・火山礫 50%置換タイプ：　$\tau \fallingdotseq 1.82\,\sigma_b$
・火山礫 100%置換タイプ：　$\tau \fallingdotseq 2.00\,\sigma_b$

上記の結果から軽量コンクリート 2 種のタイプの直接二面せん断強度値が大きく，曲げ強度の約 2.4 倍を示している。普通コンクリート NA と火山礫タイプの L50, L100 では比較的近似しており，直接二面せん断強度は曲げ強度の約 1.8 倍から 2.0 倍程度を示している。したがって，各種コンクリートの曲げ強度と直接二面せん断強度の関係は上記関係式により推定できると思われる。

図 10 に曲げ強度と直接二面せん断強度の相関関係図を示す。

(8)　圧縮強度と直接二面せん断強度の相関関係

圧縮強度 f_c と直接二面せん断強度 τ の平均値の相関関係を［f_c/τ］で検討してみると，次のような結果を得た。

・普通コンクリート NA：　$\tau \fallingdotseq f_c/4.5$
・軽量コンクリート 2 種：　$\tau \fallingdotseq f_c/6.8$
・火山礫 50%置換タイプ：　$\tau \fallingdotseq f_c/5.3$
・火山礫 100%置換タイプ：　$\tau \fallingdotseq f_c/4.3$

上記の結果から軽量コンクリート 2 種 LA の直接二面せん断強度値が大きく $\tau \fallingdotseq f_c/6.8$ を示したが，他は一般的な推定式の 1/4～1/6 の範囲に収まっている。これは LA の圧縮強度が予備強度より著しく大きい為であり，調合予備強度値に近い圧縮強度であったならば LA もこの値に収まると思われる。したがって，圧縮強度と直接二面せん断強度の関係は上記関係式により推定できると思われる。

図 11 に圧縮強度と直接二面せん断強度の相関関係図を示す。

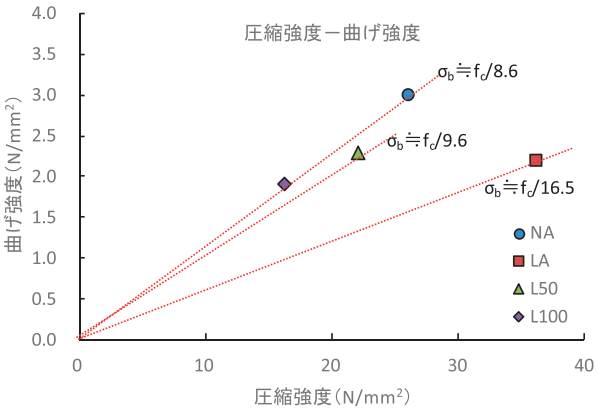


図 9　圧縮強度と曲げ強度の相関関係

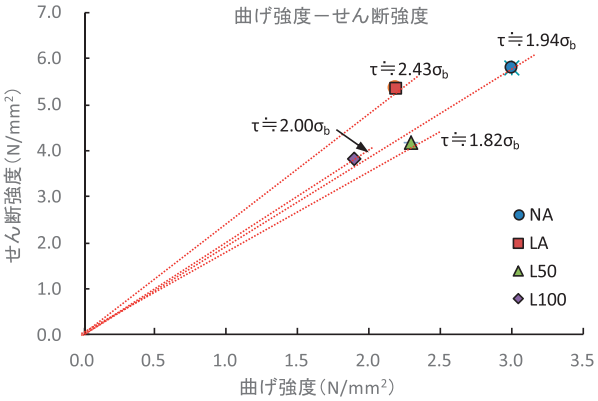


図 10　直接二面曲げ強度とせん断強度の相関関係

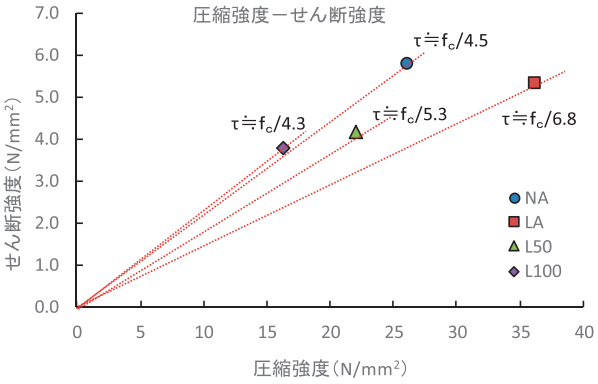


図 11　圧縮強度と直接二面せん断強度の相関関係

4．まとめ

本研究はせん断強度に関する文献[1)]，等を参考にして，曲げ強度試験体を利用した比較的簡単に試験ができる方法で実せん断強度試験を実施した。この試験は直接二面せん断法として実施されている試験方法で，上述した文献から破壊性状が比較的実せん断破壊の様相に近く，広く行われている試験方法である。この試験方法を用いて

実せん断強度のデータを取得し，圧縮強度，引張強度，曲げ強度との関係を改めて確認することを目的とし比較検討した。その結果実験範囲内で次のような知見が得られた。

1）火山礫コンクリートの圧縮強度は 50% 置換した L50 タイプで 22.1 N/mm^2 を，L100 タイプで 16.3 N/mm^2 を記録し，基準の軽量コンクリート LA のそれぞれ約 61% と 45% を記録した。この値はこれまでの既往論文結果と同程度であり，圧縮強度発現率は火山礫 50% 置換で約 60%，粗骨材を全量置換した 100% では約 40% 程度の圧縮強度が見込めることがわかる。

2）圧縮強度に対する引張強度の割合は，NA が約 1/11，LA が約 1/14，L50 及び L100 が約 1/10 を記録した。LA は圧縮強度が 36.2 N/mm^2 と大きな値を記録したことから，割裂引張強度比は 1/14 と一番低い値を示したが，NA・L50・L100 は一般的に示されている通り圧縮強度に対する値が 1/10 程度を記録しており，概ね妥当な値であった。

3）圧縮強度と割裂引張強度の相関関係は，普通コンクリート NA は約 1/11，軽量コンクリート 2 種 LA は約 1/14，火山礫タイプ L50 は約 1/11，火山礫タイプ L100 は約 1/10 の関係をそれぞれ示した。一般的な普通コンクリートの場合の相関関係 1/10 程度であることを考えると普通コンクリート NA と火山礫タイプ L50 及び L100 は概ね妥当な相関関係であった。軽量コンクリート 2 種 LA は圧縮強度が予備強度の 24 N/mm^2 を大きく上回る 36.2 N/mm^2 を記録したため相関関係が 1/14 という低い結果になった。

4）静弾性係数の値は NA で 1.77～2.46×10^4 N/mm^2，LA で 1.51～1.57×10^4 N/mm^2，L50 で 1.29～1.78×10^4 N/mm^2，L100 で 1.05～1.13 N/mm^2 の範囲を示した。ややバラツキがあるが LA と火山礫タイプは規準式曲線付近の γ =18～20 kN/m^3 付近に各データはプロットされている。したがって本実験の圧縮強度と静弾性係数の関係では，概ね単位容積質量に対応した RC 規準式の近くに分布しており，比較的良い相関を示した。

5）曲げ強度は火山礫 50% タイプ L50 では LA と 5 % 程度の強度差であり殆ど差異は無い結果であった。こととことから軽量コンクリート 2 種の調合に低強度の火山礫を 50% 程度置換しても曲げ強度の大きな差異は無い結果を示した。また火山礫 100% タイプ L100 は更に低い値を記録した。人工軽量粗骨材を全量火山礫で置換した場合は 12% 程度の曲げ強度低下を確認した。

6）直接二面せん断強度も曲げ強度と同様に，軽量コンクリート 2 種の人工軽量粗骨材自体が外力による割裂（割れ）することが関係すると思われる。火山礫 50% タイプ L50 は軽量コンクリート 2 種 LA の約 0.8 倍，火山礫 100% タイプ L100 は LA の約 0.7 倍程度の値を示した。また L50 と L100 とのせん断強度差は約 9 %程度であった。全般的なせん断破壊状況は二面あるせん断面のうち，どちらかの面に脆性的にせん断破壊が生じる破壊タイプと，中央部に微細な曲げひび割れが発生し，その後最大荷重載荷時にどちらか一方のせん断面に脆性的にせん断破壊が生じるタイプの 2 種類が見受けられた。両側のせん断面が同時にせん断破壊する状況は発生していない。

7）曲げ強度 σ_b と直接二面せん断強度 τ の平均値の相関関係［τ/σ_b］は 3.1⑺で示す結果を得た。この結果から軽量コンクリート 2 種のタイプの直接二面せん断強度値が大きく，曲げ強度の約 2.4 倍を示している。普通コンクリート NA と火山礫タイプの L50，L100 では比較的近似しており，直接二面せん断強度は曲げ強度の約 1.8 倍から 2.0 倍程度を示した。各種コンクリートの曲げ強度と直接二面せん断強度の関係は上記関係式により推定できると思われる。

8）圧縮強度 f_c と直接二面せん断強度 τ の平均値の相関関係［f_c/τ］は 3.1⑻で示す結果を得た。この結果から軽量コンクリート 2 種 LA の直接二面せん断強度値が大きく $\tau \fallingdotseq f_c/6.8$ を示したが，他は一般的な推定式の 1/4～1/6 の範囲に収まっている。これは LA の圧縮強度が呼び強度より著しく大きい為であり，呼び強度値に近い圧縮強度であったならば LA もこの値に収まると思われる。圧縮強度と直接二面せん断強度の関係は上記関係式により推定できると思われる。

9）実験結果から得られた直接二面せん断強度と圧縮強度との相関関係について，曲げ強度，引張強度とともに比較検討した結果，一般的に推定されている圧縮強度 f_c の 1/4～1/6 程度の値に近似した結果を示し，圧縮強度からの推定が十分可能であることを確認できた。

参考文献

1）魚本健人・峰松敏和：コンクリートのせん断強度試験方法の関する基礎的研究，コンクリート工学論文 No.81.4-2
2）佐藤立美：コンクリートせん断強度に関する研究，コンクリート工学年次論文集，Vol.30，No.1，2008
3）高野真希子他：コンクリートの実用せん断強度の定式化と RC はりのせん断圧縮破壊強度算定への適用性，日本大学生産工学部研究報告 A，2003 年 6 月第 36 巻第 1 号
4）高野真希子他：圧縮載荷によるコンクリートの実用せん断強度決定法に関する研究，土木学会第 56 回年次学術講演会，平成 13 年 10 月
5）長森正：ビニロン繊維（PVA fiver）を混入した火山礫軽量コンクリートの力学的特性（その 1），道都大学紀要，美術学部第 43 号，pp. 63-70，2017
6）長森正：火山礫を置換した軽量コンクリートの強度特性に関する基礎的研究，コンクリート工学論文集，第 17 巻 1 号，pp. 17，2006
7）長森正：火山礫を置換した軽量コンクリート床版の押抜きせん断耐力に関する基礎的研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，材料施工，pp. 327-328，2007.9
8）長森正：火山礫を置換した軽量コンクリートの付着性状に関する基礎的研究，道都大学紀要，美術学部第 33 号，pp. 75-81，2007
9）長森正，越前谷智：火山礫を利用した軽量コンクリートの強度・乾燥収縮性状に関する実験的研究，資源・素材学会誌 Journal of MMIJ Vol.127　pp. 46-51，2011.1
10）土木学会コンクリート委員会：コンクリート標準示方書規準編　社団法人土木学会，2000.6　P452～
11）日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説―許容応力度設計法　1999　社団法人日本建築学会　平成 12 年 4 月　P38～
12）建築実験技術研究会：建築実験法　彰国社　1996 年 4 月　P157～
13）建材試験センター：コンクリートの基礎講座Ⅱ基礎編「硬化コンクリート（強度性状）」
14）太平洋マテリアル㈱：技術資料構造用人工軽量骨材アサノライト
15）日本第四紀学会編集委員会編：第四紀露頭集日本のテフラ，pp. 2627，1996
16）北海道恵庭市教育委員会編：2004 北海道恵庭市詳細分布調査報告書カリンバ 3 遺跡(3)，pp. 212，2004

Fundamental Study on Direct Double Shear Strength of Laplli Lightweight Concrete

NAGAMORI Tadashi

Abstract

This study is a series of strength tests conducted for the purpose of effectively utilizing the shikotsu pumice fall of lapilli debris widely distributed in Hokkaido as coarse aggregate of lightweight concrete. Until now, we have been conducting experimental research on various basic strength properties such as compression, tension, bending, adhesion and fiber reinforcement of lapilli concrete used as coarse aggregate of lightweight concrete.

In this paper, the actual shear strength test was conducted by the direct double shear test method using a bending strength specimen with reference to the literature on the shear strength. The relationship between the compressive strength, tensile strength and bending strength was confirmed again.

As a result, the correlation between actual shear strength and compressive strength was discussed. The result showed that the value approximated to a value of about 1/4 to 1/6 of the generally estimated compressive strength. It was confirmed that the estimation from the compressive strength was sufficiently possible.

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Fine Arts
No.1, 235－248, 2020

建築家：Josep Maria Jujol y Gibert（1879-1949）に関する建築調査研究 ⑾

―ジュジョール・ブルー（紺青）建築の表現考察：スペイン・カタロニアの一建築潮流―

木　下　泰　男

要約

ジュジョールは，「紺青」を用いた内外装のペインティング表現を多用する。独立初期の民家（：マシア）改修作品「Casa Bofarull, Els Pallaresos, 1914」の一部の外壁「紺青」色に着目し探った。ジュジョールの「紺青」は，彼の生まれ育ったタラゴナ近郊のバレンシア地域でスペインのタイル生産の歴史の一端を担った釉青絵付けタイル「アズレホス」の色彩にあると考えている。ジュジョールが平易な生活の日常を象徴する小さなタイルの中の「紺青」に秘められた集合体の象徴として，タイル柄の「紺青」を建築の壁面一色の純化表現にまで昇華させた。その他の多様なジュジョールの建築作品が見せる微妙に異なる「紺青」色のバリエーション表現を“ジュジョール・ブルー”と呼べるのかも知れない…。A. ガウディからの脱却に苦闘するジュジョールが導き出した表現手法の一つに他ならないのではないだろうか。それらの表現手法を考察した。

1．はじめに

ジュジョールの多用するブルー（紺青）のペインティングについて初期作品の〈Casa Bofarull〉（Els Pallaresos, 1914）を手掛かりとして着目しようと考えた。それは，歴史性の引用と地域性，と同時にその背壁一面に「紺青」色を塗るという大胆かつ，単一化された色彩に込められた意義などスーパーグラフィック的なモダニズム芸術に波及するかのような建築表現の魅力と発想に結び付く概念からジュジョールを理解するための手掛かりが導き出せるのではないだろうかとの考えに基づいている。ジュジョール研究者の Guillem Carabí 氏は，〈Universitat Internacional de Catalunya〉の論文（2013）の中で地域の色としての“青と黄”と述べている。興味深いのは，唐突な「色彩のカラフルさ」が表徴する建築との統合性の考えが都市からではなく農村地域（地域住民）に受け入れられているという多様性の事実である。

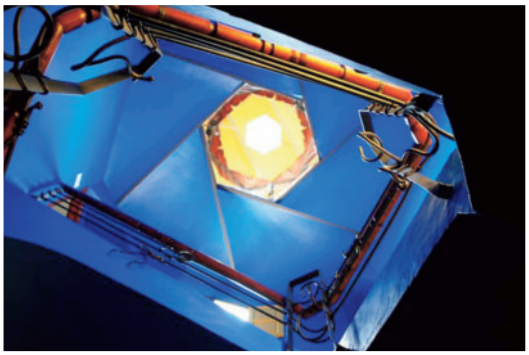


Fig.1）＊註1)“Casa Bofarull”階段吹抜青黄補色塗装，1914.

この建物では塔屋への吹き抜け階段を「紺青」と「黄」の RGB「補色」関係の「マンセル色相環」（1905）の互いに引き立て合う相乗効果を生み出す複合化の関係性を内装ペインティングで表現されている。



Fig.2）“Talleres Manyach”採光窓枠（再建）塗装，1987.

遺構の痕跡から 1987 年に再建された〈Talleres Manyach, 1916〉にも黄色と淡い青色（水色）の部分に改修された補色表現がみてとれる。

因みに，P. ピカソは補色による効果をキュビズム後の新古典主義期（1918-1925）[註2)] の絵画の中で青と黄を対比的に用いている。

ジュジョールのカサ・ボファーユ作品の中で補色表現と同時に，外壁を「紺青」で表現したバルコニーの後壁一面の「紺青」モノクロームの唐突なる表現している点の意義について着目した。



Fig.3）＊“眠る農夫達”新古典主義；青黄補色, P. ピカソ, 1919.



Fig.4）＊“Casa Bofarull”，バルコニーと外壁一面（青）塗装

２．目的；

ジュジョールは，〈Teatro Metropol（1908)〉〈Casa Bofarull（1914)〉など以降，多くの作品にブルー（紺青）のペインティングを随所に施している。その簡易さの中に潜む概念とモダニズムへの意識を内包する建築の在り方を標榜しようとしたかのような初期作品を手掛かりに，使用の変遷を明らかにし，ほかの作品にみる紺青色を整理する。そして，ジュジョールの象徴として表現するその「青」の色彩について「ジュジョール・ブルー」の呼称を検討することなどを目的とする。但し，具体的な紺青の劣化での特定には現地での〈擦り出し調査〉などによる今後の研究に委ねたい。

３．背景；

ジュジョールは，この頃，独立に向けて活動の場を A. ガウディとカサ・バトリョ（-1906)，グエル公園（-1914)，マジョルカ聖堂修復（-1914)，カサ・ミラ/ペドレラ（-1910)，サグラダ・ファミリア聖堂〈誕生の門〉モデル（1910）を協働しながら，バルセロナ市街からカタルーニャの地方に活路を移し創作を試みている。

興味深いのは，この時期の作品は，ほとんど民家の改修等に力が注がれている。この事はジュジョールの新たな視点と自身を鍛える機会となったと考えられる。ジュジョールのフレキシブルな意識の醸成が見て取れる。というのも，A. ガウディの時代とは違い，決してクライアントやバルセロナの経済に恵まれてはいなかったジュジョールには，自身の置かれた現状を逆手に A. ガウディから脱却するかのように新たな建築概念を模索していく。その一つの要素が「統合の象徴としての“青と黄”にみる補色の性質からモノクローム化の「紺青」への強い意識の意向に始まった背景にあると考えられる。

４．「青」色・概念・分析

4-1. 概要；

古代，「青」色は，日常と異なる別世界の色とされ，死体＝青による連想から忌避の色でもあった。

旧石器時代を通じ西欧では洞窟の壁画に青は見られない。中東やエジプトでは，「青」・「緑」は，神秘さや異世界の色を表し，神の目を表す魔除けの色であり，死者を守る葬儀や死と結び付く。ラピスラズリの青はツタンカーメン王のマスクの眉に用いられ，ブルーの染料は，ミイラを包む布を着彩する（エジプシャンブルー)。メソポタミアでは，装飾品や船に使用し，バビロン王朝（紀元前六世紀）の「イシュタル門」には，青い彩釉煉瓦にライオンなどの背景として彩られたという。

古代ギリシャは「青」を表すために「キュアノス」はシアンの語源でラピスラズリの「青」色の明度を表し，「グラウコス」は瞳や海の「青」を形容する彩度として表す語彙が用いられ，「クノッサス」，「クレタ」では青が壁画に使われている。

古代ローマの「青」は，ラテン語のカエルレスに由来し，蝋（ロウ）の色であり，ポンペイのフレスコ画には青の顔料（スマルト）で描かれる。また，喪服の色で野蛮さを象徴する回避すべき色でもあった。

ビザンチン様式では，キリスト教世界の聖母マリアは濃紫紺色を纏い，教会堂は壮大なモザイク・タイル[註3)]で飾られ，イスラム教世界での「青」は預言者：モハメッドの色とされ，濃紺の「アラベスク文様タイル」と「ファイアンス・モザイク」でモスクや宮殿装飾として表現された。アケメネス朝・ペルシャを経て，モスク（礼拝堂）に釉薬を施し，焼かれた煉瓦に色付けたモザイク・タイルは十五世紀のティムール朝時代にその到達度を見る。

イベリア半島では，イスラムの侵攻による様式に加え北部のモザラベ様式の影響とレコンキスタによるムデハル様式の融合がもたらされ，プレ・ロマネスク様式にもキリスト教壁画に「紺青」の影響が伺える。『旧約聖書』

にみる色彩表現の玉座には青いサファイアの記述もみられる。ヨーロッパでは十二世紀ころまで「青」色は象徴的意味の弱い存在だったが，大聖堂のステンドグラスにコバルトブルーが用いられ始め，絵画の中の聖母マリアの衣は喪に服す暗い色から明るい「青」へと変化し，マリア崇敬と識別と共に「青」の地位も向上し，「青」の最も美しい色とされるまでになる変化を遂げ，神聖さ・謙虚さ・美徳をあらわしている。紺青顔料としてウルトラマリン（紫青瑠璃），ラピスラズリ（半貴石），アズライト（花紺青）があり，十七世紀スペイン宮廷画家のエル・グレコなど高価で入手困難な人気のある画材としてのウルトラマリンを用いている。

4-2. 色相環/分類・「青」；

「青」の特性としては，可視光スペクトル上の紫と緑の間に位置し，約 450～495 ナノメートルの波長が「青」色を示す。「青」の明度が高く彩度の低い淡い色には水色があり，明度の低い濃い色には紺・藍・群青など挙げられる。因みに，マンセル色相指標は物体色を定量的に体系化した色の三属性（色相・明度・彩度）による表色系の一つで，その他には「オストワルト表色系」「CIE 表色系」などある。アルバート・マンセル（画家・美術教育，1858-1918），著書「A Color Notation」1905 年発表。

色材三原色（Y：イエロー・M：マゼンダ・C：シアン）を基本に，色を 5 つに分け（R・Y・G・B・P），中間に YR・GY・BG・PB・RP を設け，色相を 10 分割する計 100 色相で表すことができる。

＊表記として青；10 B 4/14，ブルー；2.5 PB 4.5/10，紺色；6 PB 2.5/4，群青；7.5 PB 3.5/11 など「マンセル色相標」では，色相（Hue）・明度（Value）/彩度（Chroma）の要素順で立体・色票で表示される。

5．色彩素材とスペインの歴史；

遡って歴史を眺めると生活に立脚した半島のカタルーニャ生活文化圏にみる歴史・信仰・生活に「青・紺青」の色彩が見え隠れする。

5-1. イベリア半島でのカトリシズム世界とイスラム文化の複合とロマネスク美術色彩：

5-1-1. ローマ文化の侵攻；

イベリア半島のローマ化は，紀元前 218 年のギリシャの植民地であったエンポリオンへの上陸の第二次ポエニ戦争に始まり 409 年の東ゲルマン民族の侵入に終了している。その目的はカルタゴからローマを守るためであったが，ガディールを手中に収めてからも，ヌマンティアに象徴されるレジスタンスにあい，全半島支配には二世紀程を費やしている。スペイン人の統治者トラヤヌス（98～117），アドリアヌス（117～138）の頃，ローマ人は，精力的に道路を開くが，J. シーザー（紀元前 100-前 44 年頃）はバルセロナから内陸のレリダなどへの道を開き，橋を架け，街をつくり教会を建て，円形劇場や浴場を設けて半島を開発し，現在に通じる半島の大まかな交通網の姿を描いたといえる。円形劇場など備えた都市のタラコネシス州の首都のタラゴナ（ローマ名：Tarraco）は，重要性を帯びていたといえる。このほかローマはスペイン半島内に 35 の植民地都市を築いたといわれる。三世紀後半に始まるローマ帝国の没落は市壁建設の強要が都市生活の不自由に加え不衛生さを引き起こし，疫病に脅かされることからの都市脱出し，郊外居住者の田園生活が増えた。都市は荒廃し，ローマは国境を守りきれず，409 年ゲルマン民族の侵入を許すのであった。

5-1-2. 初期キリスト教；

415 年には西ゴード族が半島に入り，彼らの貢献はビザンチンとローマの東西文明に土着的な幾何学と東方的オーナメントが加わって西ゴード建築に小規模教会建築の色彩が生まれることとなる。バルセロナ県タラサ（Tarrasa）のサン・ミゲル教会などにはアプス（後陣）の平面に馬蹄形が表れている。半島の初期キリスト教建築の一つである。

5-1-3. イスラム文化の侵攻；

711 年，北アフリカのイスラム教化されたベルベル人とアラブ人がジブラルタル海峡を渡り夢であったイベリア半島上陸を果たすイスラム支配の始まりであった。ウマイヤ朝のアブ・ダ・ラーマンⅠ世が半島南部，コルドバに首都を置き西イスラム帝国の基礎を築いた。その後，Ⅱ世・Ⅲ世によって全盛期を迎え，コルドバのイスラム教社会を立て直した。その象徴的礼拝堂がコルドバのモスクである。ミヒラーブの前の三ベイのマスクーラ（貴賓席）にはコンスタンチノープルのレオ帝から贈られたモザイクで飾られている。ウマイヤ朝の没落は，北アフリカの二族によってセヴィージャを首都として再びイスラム文化を開花させる。半島南部，セヴィージャのカテドラルのヒラルダの鐘塔（Giralda, 1196）など煉瓦とプラスターという簡易な素材を用いる特徴をもって後期コルドバ様式の豊かな装飾と彫塑性を継承する。

5-1-4. モザラベ様式；

半島のイスラム教徒は先住者に寛大で，異教の信仰を短期間に認めているという。彼らの侵攻（征服）自体が水平的性格を帯びていたことにある。キリスト教徒にとって被支配関係にありながら異教文化であるアラブ化を臆することなく受け入れるのである。そうしたキリスト教徒を〈モザラベ〉（Mozárabe）と呼ぶ。半島の北部の教会堂にはイスラムの礼拝堂（モスク）スタイルをキリスト教義解釈に翻訳し，サン・ミゲル・デ・エスカラーダ（913）など教会堂の奉納を行っていった。サン・バウ

デル･デ･ベルランガ教会堂などはモスク空間のミニチュアを回想させ，天井に描かれた宗教的象徴の異国的フレスコ画に特異な礼拝堂を演出している。

5-1-5. 国土回復運動（レコンキスタ）；

半島の南部，グラナダのアルハンブラ宮（Alhambra）はグラナダのイスラム教王国の城宮殿である。半島における八世紀に及ぶイスラム教徒支配の最後の砦となった。セヴィージャは 1248 年キリスト教徒の手に戻った（レコンキスタ完了）。宮殿内の〈アベランセラーヘスの間〉の腰壁には多彩色のアラベスクのセラミックとファインアンス・モザイクで覆われ木組みのアラベスク細工の窓からの採光と簡略化され限定された空間は筆舌に尽くし難いといわれる。

5-1-6. ムデハル様式；

モザラベとは逆に，キリスト教社会に存続のイスラム教徒を〈ムデハル〉（Mudéjar）と呼ぶ。彼らは，キリスト教社会に存命したので十一世紀から十六世紀の間，或は今日でもなお，受け継がれているであろう。いわばスペインの血と肉になって，キリスト教様式と融合して複合様式を生む〈ムデハル様式〉である。それらは煉瓦や石膏を構造体に使い，彩色された化粧小屋組天井，ファイアンス・モザイク，アラベスク文様，等を用い特異な空間を築き，半島の伝統工芸としても生き続けている。

1389 年スペイン一華麗な修道院と言われていたムデハル様式のグアダルーペ修道院（エストレマドゥーラ州）に装飾された緑と白のセラミックはバレンシア地方の影響と考えられる。

5-1-7. プレ・ロマネスク美術；

こうしたレコンキスタ以前，カタルーニャではフランク王国のシャルルマーニュの下にレコンキスタを遂げ，九世紀中頃には独立したスペイン辺境伯爵の下にピレネー山脈を越えて地中海運商業の大国となっていた。また，バルセローナ伯の子オリバー司教はリポールの教会堂を 1032 年当時の国際様式化するロンバルディア装飾モチーフを擁して修復し，その一世紀後，カトリシズムの彫刻が施された凱旋門がファサードを飾っている。そして，タウルのサン・クレメント（1123）教会堂は古い空間構成を保守しアプス（後陣）にロマネスクのフレスコ壁画には青緑や赤など多彩に彩られた「全能のキリスト」が描かれ完成されたカタルーニャ・ロマネスクの色彩の美を伝えている。

ヴィックの祭壇装飾板「聖マルティヌス」（Iglesia de Puigbó）はキリストを中心に鮮やかな原色の青・緑色のコントラストの強い配色は特有の強烈な感覚に満ち溢れ荘厳な宗教感情が描かれている。そして，ジローナのタペストリー「天地創造」は麻に青緑色彩鮮やかな毛糸の



Fig.5）＊“Sant Clement”Taull，フレスコ画：全能のキリスト

刺繍で創世記を表現し，ロマネスクの一極点を示している。さらに，セウ・ド・ウルヘルのモザベラ様式時代の黙示録注解書「ペアトゥス写本」は九〇を超える挿絵の色彩の豊かさに驚かされる。教会堂内壁画を含めてカタルーニャ・ロマネスク美術は原色のカラフルさと青系と赤系の対比の強烈さにカタルーニャ人の敬虔なる意識感覚の表現に真髄が見てとれることが興味深い。

5-2.「スパニッシュ・マジョルカ」=「アズレホス」（水彩絵付タイル）；

イベリア半島での歴史が示すように，タイルの起源は，ローマ時代後期と西ゴード族やエジプト＝メソポタミアの伝統を引き継ぎ，さらにキリスト教圏からの侵入により，中世イベリア半島は，文化の合流地としてさらにイスラムの支配を迎える。八世紀イスラム教徒のムーア人によって透明・緑・淡褐色の鉛釉がもたらされ，白地に緑･黒色を帯びた器に加え，金属的な光沢のあるラスター彩（：食器やタイルに用いられアラベスク文様にみられる繰り返しと色彩には青＋白，黒，白，トルコ・ブルー，茶，緑，オレンジ，黄，紫色などが使われる）。

その起源は，メソポタミア或はエジプトとされ，イスラム世界には九世紀頃伝播し半島に伝わった。

このラスター彩の焼成地域は十二世紀頃からマラガから十四世紀以降マニセス（アンダルシア地方）に移った。

このイスラム・タイルの普及はモンゴルのイラン侵攻から逃れた陶工たちによって製作される。一般に〈マジョルカ・タイル〉に至る変遷のタイル製作には大きく四種類に分類できるという。

5-2-1. ファイアンス・モザイク；技法は非常に手間をかけ，ユニットをつくりイスラムの建築装飾とした。色付きタイルを細かく分割し，いわゆるクレペック（錐形小片）状をつくり組み合わせパターン化する。ここでは大理石に代わって色彩のファイアンス・タイルを切り合わせ，イスラム美術としての幾何学文様の芸術性が高められている。



Fig.6）＊“ファイアンス・モザイク”タイル

5-2-2. クエルダ・セカ；技法は後出のファイアンス・モザイク技法より簡易でのラスター彩には淡い黄金色・茶色味を呈し，装飾のモチーフにはコバルト・ブルーと交互に描かれる。そしてアルハンブラ宮で用いられる。



Fig.7）＊ラスターによる“クエルダ・セカ”タイル

5-2-3. クエンカ；という改良の技法がある。より簡易な技法として粘土に型を押し付ける古くはイランのイスラム世界で用いられる手法の他に掻き落としなど考案されている。クエンカの手法は，アンダルシア地域のセヴィーリアなどでの量産化にクエルダ・セカ技法のタイルを凌駕するほどであった（Fig. 無し）。

5-2-4. タイル彩色絵付け；手書き手法による割合簡単である新たなジャンルを拓くものであった。それはセヴィーリャのアルカサールの教会の祭壇画モニュメントで確立された。新たに粉体成型によった乾式の「マジョルカ・タイル」ができてくる。特に，素焼きしただけのタイルに釉薬をかけ焼く前に顔料（色）を乗せ，青，藍，（コバルト，マンガン）緑（銅，ニッケル）茶（鉄）などを本焼きした上から描いたものとは異なり，釉と顔料が馴染み素朴な色合いを生むものを「アズレホス（水彩タイル）」と呼ばれ，隣国ポルトガルに伝播して「アズレージョ」タイルとして広く知られる。



Fig.8）＊Azulejos（彩色絵付け）：マジョリカタイル



Fig.9）＊ポルトガル伝統的な建築化された“Azulejo”

実は，半島東部地中海沿岸に位置するバレンシア地域（マニセス・パテルナなど）はイスラム侵攻時代から既に重要な陶磁器生産の中心地となってバレンシアはヨーロッパ陶芸の発祥地ともいわれ港から地中海のバレアス諸島のマジョルカ島を経てイタリアなどに出荷され，スペイン同様にイタリアで作られた絵付け陶器や歴史的表現技法の変遷を含めたタイルを「マジョルカ焼き」「マジョルカ・タイル」等と総称される。今日，スペイン各地で多く生産される手描きの絵付けタイプが十四世紀に青一色，黒と緑の二色の絵付けに始まる「アズレホス（水彩タイル）」である。興味深いのは，第四のこの技法〈アズレホス（水彩タイル）〉；スパニッシュ・マジョルカ・タイルの簡易手法は，古来，文字通り手で一枚一枚製作されていたものが製作の進化と共に発展してきたユニットパターンなどの大量生産化の変遷を経ていながら，なんと技術の進歩に逆行するかのように再び一枚一枚手で描くというタイル製作に逆戻りしたかのような着想がスペイン人の新しい一歩を踏み出し新しいジャンルを拓くこととなって，連綿とこの技法がスペイン各地で今日もなおこの技法を用いて多くを生産している。このことが，どこか，ジュジョールの創作姿勢に通ずる意識とブルー（紺青）への関心は，ジュジョールが生まれたタラゴナが陶器・タイルの生産地積み出港：バレンシアに近接していたことも結びついたのではないかと考えている。

６．ジュジョールの「紺青」表現の作品事例；

ジュジョール建築にみる様々な「紺青」表現手法の洗い出しを試みた。

6-1. Teatro Metropol, Tarragona（1908）：



Fig.10）“Metlopol”通路床メダル，Tarragona, 1908.

ローマのイベリア半島侵入の拠点となったタラゴナ中心街にある劇場を改修した。内装は，海面・海中・深海の要素をモチーフに造形化し，中庭の外観には，船のデッキをバルコニーや開口部などによる海の「紺碧」をイメージしたアナロジー（類推）させる手法で表現していると考えられる。

ジュジョールの用いた群青の痕跡は，舗装された床のメダルに塗り込まれ，出版された書籍には劇場に用いられている手摺のエレメントを中表紙に「紺青」色としている[註4)]。

6-2. Casa Bofarull, Els Pallaresos（1914）：

カタルーニャ地域民家「マシア」改修における内部は塔屋階段室吹き抜け部を「青と黄」の補色塗装に塗分けし，天使昇天の表徴を塔屋の屋根に「天使の像」が掲げられていることから上昇するカトリシズムの敬虔な信仰と農業を生活の糧とする情景を誠実に建築にイメージ投影させた表現したと考えられる。



Fig.11）＊“Casa Bofarull”，バルコニーと紺青壁，1914.

一方，二階外部のアーケード・テラスの列柱連続アーチ「ムデハル様式」をモチーフとしたテラスデザインと連動する「紺青」塗装の背景壁面の意味としてイスラムの侵攻を受けた「青」を含むダブルイ・メージに歴史を冷静に享受し，ジュジョールらしいその技巧的演出は，タラゴナ丘陵の畑の中の農家屋は，手前に畑一面と地平線上部を快晴の大空に挟まれた情景によって，テラスの連続アーチを透過する壁面は大空と一体化する。このような建築の手法は，おそらく隣国ポルトガルの「アズレージョ」表現手法の一つ，あるいは「シュールレアリズム」に通じる「トロンプイユ（錯覚）」を意識した現代的な軽やかな建築を標榜した表現の一つの試みではないかと考えられる。

興味深いのは，現代美術作家のイヴ・クラインのモノクローム製作（1948）よりも十七年も早い表現をしていることにある。

6-3. Tore de la Creu, Sant Joan Despí（1913）：

別荘新築の叔母による数少ない新築事例といえる。外観から別称を「卵の家」とも呼ばれ，住まいの構成はシンプルな複数のシリンダーで組み合わせの構成による。

その外観のスーパー・グラフィックの「紺青」二重ライン化は，カタルーニャ・ロマネスク教会堂の軒蛇腹「ロンバルディア帯」のメタファー（隠喩）化と考えら，カタルーニャのロマネスク伝統にイスラム侵攻美術/建築でもたらされた青色の顔料が共存の寛容さの「ムデハル様式」の「紺青」色に歴史性を表徴させ敬意を表しつつ，軽妙な現代化への試み表現と考えられる。

6-4. Casa Negre, Sant Joan Despí（1915）：

カタルーニャ地域伝統民家「マシア」改修における集会場内部の礼拝室は，圧巻の金色の煌びやかなバロック様式の引用と，ここでは「紺青」に彩られた壁一面及び天井には，ジュジョールらしいカトリック信仰の「天使昇天」の情景の演出が「カサ・ボファーユ」を相似形としながら立体的空間が得られない内部空間に限定された工夫の演出が試みられた内部完結の表現が「紺青」一色に雲と奥行き感に天使を天空中心に配される表現と考えられる。アンジェリコの絵画にみる色彩を象徴していると考えられる。

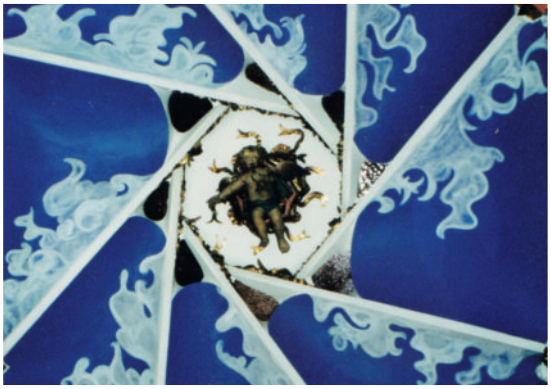


Fig.12）“Casa Negre”：礼拝室天井・昇天する天使

6-5. Iglesia de Vistabella, Tarragona（1918）：



Fig.13）“Iglesia de Vistabella”ペイントのロゴ/葡萄蔓

タラゴナの内陸に位置する集落に建設された教会堂は，内陣をカタルーニャ・ヴォールト・アーチドーム構造を駆使したジュジョールには珍しい構造主義とでもいえる主体構造を呈している。

その身廊内壁にはブルーのペインティングが施され，白いペインティングで一気に葡萄の房や蔓やアナグラム・サインなどが焼き討ちから逃れるために英語表記で即興的に随所に描かれている。その塗装は簡易的で，内陣に日射による経年劣化はほとんどなく当時のままの〈擦れ（カスレ）〉が味わいを醸し出している。石材とレンガを互い違いによるイスラム調との複合を彷彿とさせる化粧積のゼブラ模様の配列の柱を演出している。一部ステンドグラスがはめ込まれ，内陣祭壇にはご子息の描いたキリストの誕生を構造の特徴的狭小部分を利用し，新たに描き加えられている。外壁は，周辺の畑に埋もれる厄介者の石ころを外壁の骨材としての組積造としたサスティナブルを意識し，ムデハル様式の歴史とカトリック信仰の真摯な地域教会堂を呈し，アンジェリコの『受胎告知』にみられる象徴的な青を用いているのではないか。

6-6. Casa Jujol, Sant Joan Despí（1932）：



Fig.14）＊“Casa Jujol”のブルー・スグラフィット（二層）

S. ジョアン・デスピの専属建築家をしていた時期のジュジョールの二階建ての自邸には青色のスグラフィットで開口部周りや軒蛇腹にラインと柄・文字が描かれている。入口の上部に「神と共に」と刻まれている。このスグラフィット外装表現は決して目新しいものでない。

むしろ伝統的でさえあるのである。なぜという疑問が湧いてくるが以前の論考では明確には言及できなかった。

この論考を進めるなかでスグラフィット技法の性質上，二層の左官塗りのジュジョールにとっての意味が見えてきた。「青」に彩られた表現とは別にその他の部分は上塗りの左官の下（隠れて）いる「青」が存在しているという概念が見えてくるのである。

7．「青」の思考；

ジュジョールの生まれる前と後に登場する幾つかの特徴的創作を行う建築家・芸術家達の「青」に対する思考性に着目し，探ってみようと考えた。

7-1. イヴ・クライン（フランス，美術家）：概念性

Yves Klein；1928-1962，フランス人画家。単色の作品制作するモノクローニズムを代表するアーティスト。クラインは，1948 年よりモノクローム（単色）のみによる絵画作品制作に取り組む。青・金・ピンクなどの色を用いて創作されるそれらのモノクローム絵画は，作品ごとに画面が平滑か凹凸や明度によるグラデーションを持ったものから全くグラデーションの無い斉一な〈一色のみ〉を画面全体に塗るという方針を貫き，単色にこだわるクラインの創作姿勢は後に〈インターナショナル・クライン・ブルー〉によってのモノクローム絵画制作が展開される。特に，「青」を宇宙の神秘的エネルギーの最も非物質的で抽象的な色＝“**「青」は次元を持たない**（概念）”として重用し，自ら理想とする独自の顔料を規定する（：IKB82）。1957 年，黄金よりも高貴な「青」＝“インターナ

ショナル・クライン・ブルー”と呼ばれる深い青色の特許取得。個展；『international Klein Blue, IKB, Milan』が行われ，この顔料をキャンバス一面に塗布した青色の絵画作品を発表。*『空虚』展，Paris, 1958.；IKB（青色）を手掛かりとし，展示会場なにも展示しない個展。

7-2. ルイス・バラガン（メキシコ，建築家）：モダニズム性

Luis R. Barragan M.；1902-1988，メキシコ人建築家。水面や光を大胆に取り入れ，明るい色彩の壁面が特徴的庭園・住宅を設計する。建築は，白を基調とし，簡素で幾何学的なモダニズム建築で，メキシコ特有の民家にみられるピンクや黄・紫・赤などカラフルな色彩（地域街並みを象徴）で壁を一面に塗る手法の要素を国際主義のモダニズム性と地方主義との調和がとられた建築実験が試みられている。バラガンは，チューチョの「メキシコで暮らした人が共感する，色彩への感覚」を重視していた。そして，カラフルでありながらも，「自然で力強さがあり，さらに躍動感があって，自意識過剰でない」色を求めていました。なんども繰り返しおこなった丁寧な分析を通して，バラガンが最後に至ったのが「メキシコの風土から抽出された色」だった。バラガンは，「緑」だけは絶対に建築に使わなかったという。



Fig.15）*“自邸中庭”Luis Barragan, Mexico City, 1984.

7-3. アンジェリコ（イタリア，画家）：宗教性

Fra’Angelico；1390-1455，初期ルネサンスのフィレンツェ人画家。修道士アンジェリコを意味し，「天使のような人物」を意味する。

フラ・アンジェリコは宗教モチーフを題材とした絵画を描く才能に優れ，教皇ヨハネ・パウロ二世が福者に認定に由来し「ベアート（福者）・アンジェリコ」となった。

サン・マルコ修道院の祭壇画『マエスタ』で，それまでは宙に浮いた形で描かれていた聖人たちが地上に立っている聖母の栄光を分かち合う喜びを自然な姿で聖人を〈聖会話形式〉で描き，後世の画家に影響を与えた。祭壇



Fig.16）*“聖母戴冠”祭壇画；フラ・アンジェリコ，1430.

画『聖母戴冠』・フレスコ画『受胎告知』等にはゴシックとルネサンスが混在し，金箔・ラピスラズリ（青）・バーミリオン（赤桃）など十四世紀最高の貴重で高価な顔料が使用された祭壇画で，青とピンクが対比的に用いられ，青色は聖母マリアの象徴で純粋と処女性を表し，衣が垂れ下がるゆったりした描写表現で，アンジェリコの知見と愛を表現する青とピンク色平行世界への心理的効果は心神深さと敬虔さを物語っている。

8．考察；青の点と線と面が織りなす概念建築

ブルー〈紺青〉の理由をこう考えた。

8-1. 多彩色・トレンカディス（破砕）ガラス・タイルに象徴される色柄の組み合わせ複合化表現へ「点」；コラージュ（無意識化）の「海面の光」と「星座の輝き」の２面性を象徴

＊トレンカディス：Trencadis（カタルーニャ語）

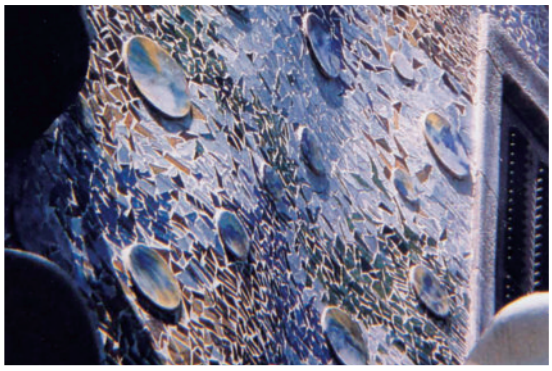


Fig.17）*“Casa Batlló”コラージュ/破砕ガラス

ジュジョールの円盤タイルにはステンドグラスに用いる「エマーユ」の青と黄による表現手法を A. ガウディは採用する。

8-2. 多彩色・破砕タイル食器等に象徴される色柄の組み合わせ複合化表現へ「点」；コラージュ（無意識化）の「日常生活」から生まれる普遍性の意識の象徴

イスラム侵攻で，イスラム化（ムデハル様式とモザラベ様式）によりブルー・タイル技術がもたらされた歴史は，近代になって自由なタイル張りを見出す。ジュジョールはガウディとの協働作業でたゆまぬスペインの歴史と日々の生活に着目し，自由に楽しく表現できる破砕タイルやガラス表現に部分と全体構成する点としての「青」が無意識の散りばめられ，表現の可能性に普遍性を内包させた。



Fig.18）“Parque Güell”劇場天井ブリ･コラージュ破砕タイル



Fig.19）*“Parque Güell”蛇行ベンチコラージュ破砕タイル



Fig.20）“Parque Güell”詳細；ブリ・コラージュ破砕タイル

8-3. 破砕タイルからペイントの単色・紺青ライン化「線」；ロンバルディア様式（ロマネスク）の歴史装飾のモダニズム性への置換を象徴



Fig.21）*“Tore de la Creu”の外壁軒蛇腹青ライン

別荘建築には歴史歴なロマネスク様式の半円形の後陣をモチーフとした円筒型を組み合わせて空間の構成をし，外壁の軒蛇腹柄にロンバルディア柄を単純化させたラインをブルーで二重化表現し，ロマネスク美術にみる貴重なラピズラスリの「青色」顔料をも象徴していると考えられる。

8-4.「紺青」単色・ペイント塗装の壁一面化表現へ「面」；“Azlejos（青水彩描き）”スペイン・タイル象徴

破砕タイル表現を残しながら，試みる歴史的モチーフの“ムデハル様式”を引用しながらカタルーニャ伝統民家「マシア」の改修で試みられた見上げる丘陵の畑たつバルコニーにモノクローム青の壁面がアーケードを通して青空に透過した一体感を〈トロンプイユ〉として内包させたシュールレアリズムの手法をみせる「紺青」の選択はスペイン人の身近に壁材としてのありふれたタイルの“アズレホス”の「青」を象徴していると考えられる。



Fig.22）*“Casa Bofarull”詳細バルコニー・紺青壁面



Fig.23）*“Casa Bofarull”バルコニー・紺青壁面全景

8-5.「紺青」単色・ペイント塗装の隠れた壁一面
浮き彫りされた紺青絵柄化スグラフィット表現「隠れ面」；見えない青壁面象徴

ジュジョールの二階建ての自邸は，開口部や軒蛇腹などブルー・スグラフィットにて装飾を施している。ベース（表層・白）のスグラフィットを掻き落とし，下層の絵柄（青）の有彩色を浮き上がらせるのだが，ジュジョールは，浮き上がらせるブルーが実はこの住宅全体の外壁を包んでおり，その一部が絵図柄化され浮き出していると考えたのではないだろうか。つまり，ベースの白色の下に隠れている「紺青」色彩にジュジョールの意識下に置かれたという概念ではないだろうか。



Fig.24）*“Casa Jujol”開口部掻画：青浮彫柄+隠青壁

9．まとめ；

ジュジョールが「青」に着目するのは半島のタイル伝播がイスラム侵攻の歴史の経緯からマジョルカ・タイルの生産地の一つが奇しくもバレンシア（マニセス）で，ジュジョールが産まれたタラゴナとは身近でもあり，タイルや焼物がより身近にあったことが考えられる。そして，カサ・ボファーユの壁一面の青には，生活に溶け込んでいる身近なマジョルカ・タイル「アズレホス」があるように考えられる。素朴な何気ないシンプルな「紺青」色彩として印象付けられていることは否めない。モノクロームでいうと現代芸術家のイヴ・クラインの「IKB82」表現や彩（いろど）りの壁でいうと現代建築家のルイ・バラガンよりより 10 年程以上も早い表現である。ところで，この〈ヒスパノ・モレスク〉としての「アズレホス」は 1503 年スペイン・セヴィーリャからポルトガルにもたらされ，新たな展開をみせている。タイルがパネル化され，建築のファサード壁面を覆う文化が展開しているのである。

1840 年に産業化され様式化された手法は，手描きタイルのトロンプイユ（騙し絵）の絵画タイル・パネルの折衷主義ロマン文化として展開しているのである。ジュジョールは決してポルトガルのように伝統に組みしない別の方法で試みようとしたに違いない。新たな建築を苦闘するジュジョールにとって，カサ・ボファーユの改修壁面への意識の伏線にはカサ・バトリョ（1906）やグエル公園（1911）での経験が否めないと考えられる。トレンカディス（破砕）タイル・ガラス，生活用品破砕が用いられたブリコラージュ表現に対比するより単純化への可能性にジュジョールの思考が起因しているように考えられる。破砕タイル表現は，複合化させるなかに普遍性が内包されるのに対し，「青」の塗装には，スペインの身近な生活の中にある「アズレホス」タイルを象徴した「青」をモノクロームの単純化に凝縮した新たな概念の思考展開を表現したのではないだろうか。ジュジョールの「青」には作品ごとに色彩にバリエーションに幅があり，ジュジョールの「青」は，次元を複数共有する可能性を内包させているのだ。

参考に添付した別表-１で整理したように「カサ・ボファーユ」の壁の表現以降は，既存の手法を用いながら単純な技術で試みられ，信仰の世界としての「青」を礼拝室や教会の内陣の壁に塗り尽くし，ジュジョール自邸外壁でのスグラフィットの構造上，上下二層の下地色柄の一部が見えているだけで他の分部は，壁全体に隠れて覆われている。この両者には建築の概念の関係性が見えてくる。モノクロームの見える壁と見えている壁の下に隠れて見えない壁（スグラフィットの青い壁）との対極にある概念の関係だ。大胆に言うなら，スグラフィットの下地の色が実は仕上げ全体をジュジョールは覆いたかった思いを秘めたのかも知れない。ジョジュールがなぜ使い古されたスグラフィット手法を S.J. デスピの街で多く試みたのかの一端が見えてくる。といった概念の試みも読み解ける。それほどジュジョールという建築家は，前衛的であり，当時には思いもよらない時代を先取りしたかのような発想を持った興味深い建築家だったといえよう。これらの特徴を秘めたバリエーションの多い「紺青」もって「ジュジョール・ブルー」と呼びたい。

謝辞：

現在，カタルーニャでは大々的な『ジュジョール生誕140年』を記念して秋から一年間の予定で様々な企画が開催（2019-2020年）されている。以前，北海道新聞社の大野日出明記者にジュジョールの論考を北海道新聞（2012/8/21・22）に上・下に渡って取り挙げて戴いてもう七年にもなるが偶然，札幌芸術の森美術館で今年の秋9/14から10/4迄『奇跡の芸術都市バルセロナ展』という企画が催されるということを知った。学芸員：平井菊花さんには開催事前にジュジョールの「万博記念噴水塔広場」模型（1928）と「マニヤック店舗」（1911）の取手の実物の二作品が含まれていることを伺っていた。思わぬ時流に一入の感慨が湧いてきた。約三十年も前になるが，初めてスペインに渡航し，二年間のバルセロナ生活を経ながら独自のジュジョール建築の実測調査と各地のフィルドワーク調査を行い，資料を集めてきたことが北海道建設新聞社の佐藤匡聡記者に取材を受け展覧会開催に合わせて掲載（9/13）紹介して戴き，願ってもない事だった。

この展覧会開催の前日の内覧会9/13㈮に招待を受け，セレモニー会場にて展覧会の監修をされた昭和女子大学の木下亮教授（スペイン歴史文化研究）ともお会いできた。ジュジョール建築についての話をお伺いさせて戴き，交流も広がった。まさか，北海道の地元札幌でスペイン・カタルーニャの文化芸術に帯同してジュジョール建築に会えるとは思いもよらない感慨が湧く。

この展覧会が私にとって更なるジュジョール研究の励みになったと共に，カタルーニャ建築含む芸術と歴史が広く札幌の市民への啓蒙に繋がるなる事を願って止まない。

更に，もう一つ思いがけない偶然が重なった。というのも，このジュジョール研究をバルセロナでお世話になったJ.M.ブルージェス氏（ジュジョール研究・元UPC教授）がこの夏の終わり（8/27）に突然，私をスペインから訪ねて来られて千歳で九年振りにお会いしたのである。彼の研究論文に「Yasuoの実測野帳図面を引用掲載させてもらった」というのである。以前から掲載のことは了承していたが論文にまとめられたことは私にとって大変嬉しく名誉なことでもあった。なんと，重たいにもかかわらず論文の縮刷版も持参していて謹呈してくれた。ジュジョールに関して色々な出来事が重なった一年であった。

そして，いつもこの研究の整理に協力をいただいている高島のり女史と末岡紀子女史にも感謝申し上げたい。

注釈：

註1.）「＊」印は出典を示し，その他は筆者撮影による。

註2.）「ピカソの新古典主義」：Pablo Picasso；1881-1973，スペイン・マラガ出身の画家。新古典主義の時代(1917-1925年)：その特徴は，青･黄の補色を用いるなど，どっしりと量感のある身体の比べて大きな手足，彫刻のような肉体，額から続く高い鼻など誇張された表現などである（Fig.3.）。

註3.）「モザイク」とは，小片の陶器・ガラスなどを寄せ合わせ埋め込んで模様を表す装飾手法で，シュメールで文明のウルク期には，コーン・モザイクいわゆるクレペック（錐形小片）釘状の彩色土器や貝殻やラピスラズリ(青)で神殿など装飾される。

註4.）「書籍」“J. Ma. JujolAarquitecto, 1879-1949”

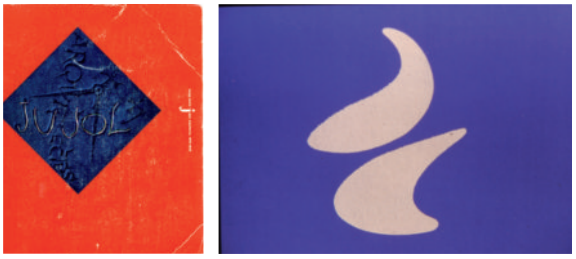


Fig.25）表紙・中表紙：Metropolのモチーフの青マーク

【参考】主な染料と顔料名称：

⑴青色染料系；

・藍/Indigo Blue（植物性青藍染料。）

⑵青色顔料系；

・ウルトラマリン：紫青/Ultramarine Blue
（：古来絵画顔料，深い青色。天然/人工分類。）

・ラピスラズリ：瑠璃/Lapis Lazuli
（：半貴石ラピズラズリ精製，青金石：12～13c.発達。）

・岩群青/Mountain Blue
（：アズライト・藍銅鉱/Azurite：マラカイト。天然鉱青色顔料。）

・紺青/Prussian Blue
（：ドイツ-1704年：暗い青色顔料。）

・コバルト青/Cobalt Blue
（：絵画顔料：19c.中期。セルリアンブルー，

・スマルト/花紺青＊コバルト系最古 etc.）

・焼成顔料/Calcination pigment
（：青色複合酸化物顔料）

出典（図・版）：

Fig.25）p200，表紙・中表紙：“QUADERNS: 179-180”
Josep Maria Jujol, arquitecto. 1879-1949. Collegi d’Arquitectes, Catalunya. Espanya. 1988.

参考文献：

1）『マジョリカ　タイル―イベリアのきらめき』［INAX BOOKLET, Vol.8 No.3］：山本正之，INAXギャラリー企画委員会，株式会社 INAX©，1988.
2）『J. Ma. ジュジョール G.（Architect; Spain/1879–1949）に関する建築調査研究（Ⅵ）』木下泰男：日本建築学会北海道支部研究報告集 No.91，111/2018.
3）『J. Ma. ジュジョール G.（Architect; Spain/1879–1949）に関する建築調査研究（Ⅴ）』木下泰男：日本建築学会北海道支部研究報告集 No.89，085/2016.
4）『J. Ma. ジュジョール G.（Architect; Spain/1879–1949）に関する建築調査研究（Ⅳ）』木下泰男：日本建築学会北海道支部研究報告集 No.88，096/2015.
5）『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究⑽木下泰男：星槎道都大学紀要・美術学部第 45 号，p95–106/2019.
6）『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究⑼木下泰男：星槎道都大学紀要・美術学部第 44 号，p117–126/2018.
7）『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究⑻木下泰男：道都大学紀要・美術学部第 43 号，p71–79/2017.
8）『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究⑺木下泰男：道都大学紀要・美術学部第 42 号，p67–75/2016.
9）『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究⑹木下泰男：道都大学紀要・美術学部第 41 号，p59–65/2015.
10）『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究⑸木下泰男：道都大学紀要・美術学部第 40 号，p97–105/2014.
11）『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究⑷木下泰男：道都大学紀要・美術学部第 39 号，p127–137/2013.
12）『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究⑶木下泰男：道都大学紀要・美術学部第 38 号，p93–104/2012.
13）『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究⑵木下泰男：道都大学紀要・美術学部第 37 号，p107–117/2011.
14）『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究⑴木下泰男：道都大学紀要・美術学部第 36 号，p67–75/2010.

添付：

【参考】別表-1.『ジュジョールの主な作品にみるジュジョール・ブルーの変遷考察の分類』/2020.

ABSTRACT；“Considerateion about expressions of “Jujol blue（ultramarine）architectur”: The architectural trend of Catalonia, Spain

【参考】別表-1. 『ジュジョールの主な作品にみるジュジョール・ブルーの変遷考察の分類』/2020.

星槎道都大学研究紀要　美術学部
第１号　2020

A Research of an Architecture Survey about Architect; Josep Maria Jujol y Gibert/1879–1949, Catalonia (11)

— Consideration about expressions of “Jujol blue (ultramarine) architecture”: The architectural trend of Catalonia, Spain —

KINOSHITA Yasuo

Abstract

Jujol frequently uses a painting expression in his interior and exterior designs with “ultramarine blue.” In his early years after becoming independent, focucing on the “ultramarine blue,” he quested in the renovation work of La Masia of “Casa Bofarull, Els Pallaresos, 1914.”

I consider that Jujol’s “ultramarine” was derived from “Azulejos,” the decorated tiles finished with blue glaze which played a role in the history of tiles in Valencia near Tarragona where he was born and rased. Jujol had sublimated the “ultramarine” of the tile patterns into a purified expression of the single color in architectural mural picture as a cluster concealed inside “ultramarine” of the small pieces of tiles which symbolize the ordinary of simple daily life. Variation expressions of the subtly different “ultramarine” colors which a number of other architectural works of Jujol’s show could be called the “Jujol blue....”

▷＝筆　者　紹　介＝◁

〈経営学部〉

遠藤　　均	教　　授	経営学部経営学科
石井祐治	特任講師	経営学部経営学科
篠原諒介	助　　教	経営学部経営学科

〈社会福祉学部〉

小早川俊哉	教　　授	社会福祉学部社会福祉学科
西崎　　毅	特任教授	社会福祉学部社会福祉学科
上原正希	教　　授	社会福祉学部社会福祉学科
杉本大輔	准教授	社会福祉学部社会福祉学科
大島康雄	准教授	社会福祉学部社会福祉学科
吉江幸子	専任講師	社会福祉学部社会福祉学科
佐々木智城	特任講師	社会福祉学部社会福祉学科

〈美術学部〉

西田陽二	特任教授	美術学部デザイン学科
松岡龍介	准教授	美術学部デザイン学科
宮嶋達也	准教授	美術学部デザイン学科
北嶋洋一	准教授	美術学部デザイン学科
梅田　　力	専任講師	美術学部デザイン学科
三上いずみ	専任講師	美術学部デザイン学科
長森　　正	准教授	美術学部建築学科
木下泰男	非常勤講師	美術学部建築学科

星槎道都大学
図書紀要及び情報委員会

委員長	櫻井政経
副委員長	由水　伸
経営学科委員	石山玄幸
社会福祉学科委員	杉本大輔
デザイン学科委員	松岡龍介
建築学科委員	（櫻井政経）
学長	山本一彦
図書情報館長	（櫻井政経）
経営学部長	信濃吉彦
社会福祉学部長	小早川俊哉
美術学部長	安藤淳一
事務局長	酒井純一
図書情報センター長	佐藤善太郎
主幹	（佐藤善太郎）
副主幹	櫻岡秀樹

ISSN 2435-3469

星槎道都大学研究紀要　創刊号

令和２年３月25日印刷
令和２年３月31日発行

編集兼発行者
星槎道都大学　研究紀要編集委員会
〒061-1196　北海道北広島市中の沢149番地
電話（011）372-8139
印刷会社　株式会社アイワード
〒060-0033　札幌市中央区北３条東５丁目５番地91
電話（011）241-9341